

京都美術工芸大学 シラバス [2025 年度版]

芸術学部／建築学部

学部・研究科のディプロマ・ポリシー番号表…	1	英語演習 I (Aクラス)	… 63
芸術学部 ディプロマ・ポリシー番号表 …	2	英語演習 I (Bクラス)	… 65
建築学部 ディプロマ・ポリシー番号表 …	4	英語演習 I (Cクラス)	… 67
		英語演習 I (Dクラス)	… 69
教養教育科目<学部共通>		英語演習 I (Eクラス)	… 71
		英語演習 I (Fクラス)	… 73
1. 教養科目		英語演習 II (TOEIC 支援A)	… 75
初年次セミナー …	7	英語演習 II (TOEIC 支援B)	… 76
美学 …	9	英語演習 II (基礎)	… 78
生活と法律 …	11	英語演習 II (建築分野)	… 80
地域社会論 …	13	英語演習 II (世界遺産)	… 82
人間関係の科学 …	14	情報基礎演習 (Aクラス)	… 84
生涯学習論 …	15	情報基礎演習 (Bクラス)	… 86
博物館概論 …	17	英語コミュニケーション	… 88
森林学概論 …	18	総合コミュニケーション	… 90
栄養学入門 …	20	英会話 I (Aクラス)	… 92
歴史学 …	21	英会話 I (Bクラス)	… 94
現代社会と政治 …	22	英会話 I (Cクラス)	… 96
工芸と経済 …	24	英会話 I (Dクラス)	… 98
世界文化遺産論 …	26	英会話 I (Eクラス)	… 100
表現技術論 …	29	英会話 I (Fクラス)	… 102
技芸と文学 …	31	美術工芸英語 (TOEIC 支援A)	… 104
伝統と学び …	33	美術工芸英語 (TOEIC 支援B)	… 105
哲学 …	34	美術工芸英語 (基礎)	… 107
教育学 …	36	美術工芸英語 (建築分野)	… 108
人間関係の心理臨床 …	38	美術工芸英語 (世界遺産)	… 110
		英会話 II (Aクラス)	… 112
		英会話 II (Bクラス)	… 113
		英会話 II (Cクラス)	… 114
		英会話 II (Dクラス)	… 116
		英会話 II (Eクラス)	… 118
		英会話 II (Fクラス)	… 119
		日本語表現法	… 121
2. 伝統文化科目			
日本工芸美術史 …	41		
京都学 …	42		
京都学演習 I (デザイン) …	44		
京都学演習 I (工芸) …	46		
京都学演習 I (建築) …	48		
伝統芸術入門 I (華道) …	50		
伝統芸術入門 I (書道) …	51		
伝統芸術入門 I (茶道) …	53		
伝統芸術入門 II (華道) …	54		
伝統芸術入門 II (書道) …	55		
伝統芸術入門 II (茶道) …	57		
日本文化史 …	58		
京都学演習 II …	59		
		4. キャリア形成科目	
		しごと論 I …	124
		社会活動 I …	126
		メディアリテラシー …	128
		社会活動 II …	130
		しごと論 II …	132
		インターンシップ …	134
		現代社会論 …	136
3. コミュニケーション科目			
コミュニケーション論 …	61		

芸術学部 専門教育科目

	古文書解読演習Ⅰ	…	200
	古文書解読演習Ⅱ	…	202
	室内意匠論	…	203
	公共デザイン論	…	205
	造形芸術論	…	207
	現代芸術論	…	209
D5. 美術工芸科目・基本科目			
工芸概論	…	138	
伝統工芸概論	…	140	
構成基礎演習（デザイン・工芸）	…	142	
日本住居史	…	144	
色彩学	…	145	
日本美術史	…	146	
素描	…	147	
デザイン概論	…	149	
文化財概論	…	151	
日本建築史	…	153	
西洋美術史	…	154	
伝統絵画技法Ⅰ	…	155	
建築構造力学Ⅰ	…	156	
東洋美術史	…	157	
D6. 美術工芸科目・基幹科目			
コンピューターデザイン演習	…	159	
構法計画Ⅰ	…	161	
色彩理論演習	…	163	
デザイン作図演習（Aクラス）	…	165	
デザインと法規	…	167	
伝統絵画技法Ⅱ	…	168	
文献・絵画資料概論	…	169	
IT活用応用演習（Aクラス）	…	170	
建築材料	…	173	
建築法規	…	174	
建築構造力学Ⅱ	…	176	
建築環境工学	…	177	
近代建築史	…	179	
文化財情報デザイン論Ⅰ	…	181	
文化財情報デザイン論Ⅱ	…	183	
インテリア設計	…	185	
都市空間論	…	186	
伝統構造学	…	187	
D7. 美術工芸科目・展開科目			
構法計画Ⅱ	…	190	
建築設備	…	191	
造形材料論	…	193	
立体造形（デザイン）	…	195	
立体造形（工芸）	…	197	
近代デザイン史	…	199	
D8. 専門演習・実習			
芸術導入演習（デザイン）	…	212	
芸術導入演習（工芸）	…	214	
芸術導入実習（デザイン）	…	216	
芸術導入実習（漆芸）	…	218	
芸術導入実習（陶芸）	…	220	
芸術導入実習（木工・彫刻）	…	222	
造形基礎演習Ⅰ（デザイン）	…	224	
造形基礎演習Ⅰ（工芸）	…	225	
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（デザイン）	…	227	
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）	…	229	
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（陶芸）	…	231	
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）	…	233	
造形基礎演習Ⅱ（デザイン）	…	235	
造形基礎演習Ⅱ（工芸）	…	236	
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（デザイン）	…	238	
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸）	…	240	
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸）	…	242	
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）	…	244	
専門実習Ⅰ（デザイン）	…	246	
専門実習Ⅰ（漆芸）	…	248	
専門実習Ⅰ（陶芸）	…	250	
専門実習Ⅰ（木工・彫刻）	…	252	
専門実習Ⅱ（デザイン）	…	254	
専門実習Ⅱ（漆芸）	…	256	
専門実習Ⅱ（陶芸）	…	258	
専門実習Ⅱ（木工・彫刻）	…	260	
専門実習Ⅲ（デザイン）	…	262	
専門実習Ⅲ（漆芸）	…	264	
専門実習Ⅲ（陶芸）	…	266	
専門実習Ⅲ（木工・彫刻）	…	268	
プロジェクト演習Ⅰ	…	270	
プロジェクト演習Ⅱ	…	272	
プロジェクト演習Ⅲ	…	274	
卒業制作研究（デザイン）	…	276	
卒業制作研究（陶芸）	…	278	
卒業制作研究（木工・彫刻）	…	280	
卒業制作研究（漆芸）	…	282	

卒業制作・論文（デザイン）	…	284
卒業制作・論文（漆芸）	…	286
卒業制作・論文（陶芸）	…	288
卒業制作・論文（木工・彫刻）	…	290

建築学部 専門教育科目

K5. 美術工芸科目・基本科目

建築概論	…	293
文化財概論	…	295
伝統工芸概論	…	297
構成基礎演習	…	299
日本住居史	…	301
色彩学	…	302
日本美術史	…	303
デザイン概論	…	304
建築計画Ⅰ	…	306
構法計画Ⅰ	…	308
建築CAD演習Ⅰ	…	310
建築構造力学Ⅰ	…	312
日本建築史	…	313
西洋美術史	…	314
東洋美術史	…	315

K6. 美術工芸科目・基幹科目

構法計画Ⅱ	…	317
デザイン作図演習（Bクラス）	…	319
デザインと法規	…	321
文献・絵画史料概論	…	322
建築CAD演習Ⅱ	…	323
建築計画Ⅱ	…	325
建築材料	…	327
建築法規	…	328
建築構造力学Ⅱ	…	330
建築環境工学	…	331
世界建築史	…	333
都市空間論	…	335
景観デザイン論	…	336
伝統構造学	…	338
コンピュータデザイン演習（建築）	…	340
IT活用応用演習（Bクラス）	…	342

K7. 美術工芸科目・展開科目

近代建築史	…	345
建築計画Ⅲ	…	347
都市計画	…	348
建築設備	…	350
古文書読解演習Ⅰ	…	352
古文書読解演習Ⅱ	…	353
伝統建築図	…	354
京町家再生論	…	356
室内意匠論	…	358
建築計画Ⅳ	…	360
建築構造力学Ⅲ	…	362
建築生産論	…	363
公共デザイン論	…	365
社寺建築論	…	367

K8. 専門演習・実習

建築設計導入実習	…	369
建築設計基礎演習Ⅰ	…	371
建築設計基礎演習Ⅱ	…	373
建築設計演習Ⅰ	…	375
建築設計演習ⅡA	…	377
建築設計演習ⅡB	…	379
建築設計演習Ⅲ	…	381
卒業研究	…	383

博物館学芸員養成科目

生涯学習論	…	386
博物館概論	…	388
博物館経営論	…	389
博物館資料論	…	390
博物館資料保存論	…	391
博物館展示論	…	393
博物館情報・メディア論	…	394
博物館教育論	…	395
博物館実習	…	396

学部・研究科のディプロマ・ポリシー番号表

京都美術工芸大学

区分	DP番号	ディプロマ・ポリシーの項目
学部 共通		京都美術工芸大学は、本学の教育目標を達成するために以下の素養を身につけるように編成された教育課程を履修し、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士の学位を授与する。
	DP0-1	1) 建築や芸術に関する 幅広い知識、技能
	DP0-2	2) 社会の発展に貢献するための 課題解決力 、伝統から革新を生み出す 構想力
	DP0-3	3) 多様な人々と協働するための 協調性 、 コミュニケーション力
芸術学部		芸術学部デザイン・工芸学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP1-1	1) 芸術分野に関する 幅広い知識、技能 。
	DP1-2	2) 芸術分野を通して社会の発展に貢献するための 課題解決力 、伝統から革新を生み出す 独創的な構想力、発想力 。
	DP1-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる 感性・価値観 。
	DP1-4	4) 芸術分野を通して多様な人々と協働するための 協調性 、 コミュニケーション力 、 表現力 。
建築学部		建築学部建築学科では、京都美術工芸大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。
	DP2-1	1) デザイン領域だけでなく施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する 幅広い知識、技能 。
	DP2-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための 課題解決力 、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる 独創的な構想力、発想力 。
	DP2-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる 感性・価値観 。
	DP2-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための 協調性 、 コミュニケーション力 、 表現力 。
大学院 建築学 研究科		建築学研究科は、以下の素養を身につけた学生に対して修士の学位を授与する。
	DPM-1	1) 建築デザインに加え、施工や歴史文化、あるいは建築関連法規など建築に関する 高度で幅広い知識、技能 。
	DPM-2	2) 建築行為を通じて社会の発展に貢献するための 実現可能性の高い課題解決力 、伝統の継承およびそれらを基にした新しい文化や作品作りにつながる 高度で独創的な構想力、発想力 。
	DPM-3	3) 日本の歴史文化を修得理解するとともに、グローバルな視点も視野に入れた新しい文化づくりへ発展させる 鋭い感性・安定した価値観 。
	DPM-4	4) 建築は単体の作品ではなく文化そのものであり、また多くの人々の協力の中から作品が生まれるという観点から、多様な人々と協働するための 協調性 、 コミュニケーション力 、 表現力 。

(備考)この表は、カリキュラム・ポリシー(CP)により編成されている授業科目とディプロマ・ポリシー(DP)の一貫性を示すため、シラバスの「到達目標」欄に「DP番号」で示すためのものです。

芸術学部開設授業科目ディプロマ・ポリシー番号表

科目区分		第1年次科目	第2年次科目	第3年次科目	第4年次科目		
教養教育科目	教養科目	初年次セミナー(DP0-2,3)					
		美学(DP0-1,2)					
		生活と法律(DP0-1,2)					
		地域社会論(DP0-1,2,3)					
		人間関係の科学(DP0-1,2,3)					
		生涯学習論(DP0-1,2,3)					
		博物館概論(DP0-1,2)					
		森林学概論(DP0-1,2)					
		栄養学入門(DP0-1,2)					
			歴史学(DP0-1,2)				
			科学と芸術(DP0-1,2)				
			工芸と経済(DP0-1,2,3)				
			世界文化遺産論(DP0-1,2)				
			表現技術論(DP0-1,2)				
					技芸と文学(DP0-1,2,3)		
					伝統と学び(DP0-1,2)		
					哲学(DP0-1,2)		
				教育学(DP0-1,2)			
				人間関係の心理臨床(DP0-1,2,3)			
		9	5	5	0		
	伝統文化科目	日本工芸美術史(DP0-1,2)					
		京都学(DP0-1,2)					
			京都学演習Ⅰ(DP0-1,2)				
			伝統芸術入門(DP0-1,2)				
					日本文化史(DP0-1,2)		
					京都学演習Ⅱ(DP0-2,3)		
		2	2	1	1		
	コミュニケーション科目	コミュニケーション論(DP0-1,2)					
		英語演習Ⅰ(DP0-1,2)					
		英語演習Ⅱ(DP0-1,2)					
		情報基礎演習(DP0-2,3)					
			英語演習Ⅲ(DP0-1,2)				
		英語コミュニケーション(DP0-1,2)					
			総合コミュニケーション(DP0-1,2)				
	4	2	1	0			
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ(DP0-1,2)						
	社会活動Ⅰ(DP0-3)						
	メディアリテラシー(DP0-2,3)						
		社会活動Ⅱ(DP0-2,3)					
				しごと論Ⅱ(DP0-1,2)			
				インターンシップ(DP0-3)			
			現代社会論(DP0-1,2)				
	3	1	3	0			
専門教育科目	美術工芸科目	工芸概論(DP1-1,2)					
		伝統工芸概論(DP1-1,2)					
		構成基礎演習(DP1-1,2,4)					
		日本住居史(DP1-1,2)					
		色彩学(DP1-1,2)					
		日本美術史(DP1-1,2)					
		素描(DP1-1,2)					
		デザイン概論(DP1-1,2)					
		文化財概論(DP1-1,2)					
			日本建築史(DP1-1,2)				
			西洋美術史(DP1-1,2)				
			伝統絵画技法Ⅰ(DP1-1,2)				
			建築構造力学Ⅰ(DP1-1,2)				
					東洋美術史(DP1-1,2)		
			9	4	1	0	
		基幹科目	コンピュータデザイン演習(DP1-1,2,4)				
			構法計画Ⅰ(DP1-1,2)				
			色彩理論演習(DP1-1,2,4)				
			近代建築史(DP1-1,3)				
			デザイン作図演習(DP1-1,2,4)				
			デザインと法規(DP1-1,2)				
			伝統絵画技法Ⅱ(DP1-1,3)				
			文献・絵画史料概論(DP1-1,2)				
			IT活用応用演習(DP1-1,2,4)				
			建築材料(DP1-1,2)				
			建築法規(DP1-1,2)				
			建築構造力学Ⅱ(DP1-1,2)				
			建築環境工学(DP1-1,2)				
			文化財情報デザイン論Ⅰ(DP1-1,3)				
			文化財情報デザイン論Ⅱ(DP1-2,3)				
		インテリア設計(DP1-1,2)					
				都市空間論(DP1-1,2)			
			伝統構造学(DP1-1,2)				
	2	14	2	0			

専門教育科目	美術工芸科目	展開科目	構法計画Ⅱ (DP1-1, 2)			
			建築設備 (DP1-1, 2)			
				造形材料論 (DP1-1, 3)		
				立体造形 (DP1-1, 2, 4)		
				近代デザイン史 (DP1-1, 3)		
				古文書解読演習Ⅰ (DP1-1, 2, 3)		
				古文書解読演習Ⅱ (DP1-1, 2)		
				室内意匠論 (DP1-1, 2)		
				公共デザイン論 (DP1-1, 2, 3)		
				造形芸術論 (DP1-1, 3)		
		現代芸術論 (DP1-1, 2, 3)				
		1	1	9	0	
専門演習・実習科目	芸術導入演習 (DP1-1, 2, 3, 4)					
	芸術導入実習 (DP1-1, 2, 3, 4)					
	造形基礎演習Ⅰ (DP1-1, 2, 4)					
	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ (DP1-1, 2, 3, 4)					
	造形基礎演習Ⅱ (DP1-1, 2, 4)					
	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ (DP1-1, 3, 4)					
	専門実習Ⅰ (DP1-1, 2, 3, 4)					
			専門実習Ⅱ (DP1-1, 2, 3, 4)			
			専門実習Ⅲ (DP1-1, 2, 3, 4)			
			プロジェクト演習Ⅰ (DP1-2, 4)			
			プロジェクト演習Ⅱ (DP1-1, 2, 3, 4)			
			プロジェクト演習Ⅲ (DP1-1, 2, 3, 4)			
				卒業制作研究 (DP1-1, 2, 3, 4)		
				卒業制作・論文 (DP1-1, 2, 3, 4)		
		4	3	5	2	
計		34	32	27	3	
合計				96		

博物館学芸員の資格を取得するための授業科目ディプロマ・ポリシー番号表

科目区分	第1年次科目	第2年次科目	第3年次科目	第4年次科目
博 養 成 館 学 科 目 芸 員	生涯学習論 (DP0-1, 2, 3)			
	博物館概論 (DP0-1, 2)			
		博物館経営論 (DP0-1, 2)		
		博物館資料論 (DP0-1, 2)		
			博物館資料保存論 (DP0-1, 2)	
			博物館展示論 (DP0-1, 2)	
				博物館情報・メディア論 (DP0-1, 2)
				博物館教育論 (DP0-1, 2)
			博物館実習 (DP0-1, 2, 3)	
計	2	2	2	3
合計			9	

建築学部開設授業科目ディプロマ・ポリシー番号表

科目区分		第1年次科目	第2年次科目	第3年次科目	第4年次科目	
教養教育科目	教養科目	初年次セミナー(DP0-2,3)				
		美学(DP0-1,2)				
		生活と法律(DP0-1,2)				
		地域社会論(DP0-1,2,3)				
		人間関係の科学(DP0-1,2,3)				
		生涯学習論(DP0-1,2,3)				
		博物館概論(DP0-1,2)				
		森林学概論(DP0-1,2)				
		栄養学入門(DP0-1,2)				
			歴史学(DP0-1,2)			
			科学と芸術(DP0-1,2)			
			工芸と経済(DP0-1,2,3)			
			世界文化遺産論(DP0-1,2)			
			表現技術論(DP0-1,2)			
				技芸と文学(DP0-1,2,3)		
				伝統と学び(DP0-1,2)		
				哲学(DP0-1,2)		
			教育学(DP0-1,2)			
			人間関係の心理臨床(DP0-1,2,3)			
		9	5	5	0	
	伝統文化科目	日本工芸美術史(DP0-1,2)				
		京都学(DP0-1,2)				
			京都学演習Ⅰ(DP0-2,3)			
			伝統芸術入門(DP0-1,2)			
				日本文化史(DP0-1,2)		
					京都学演習Ⅱ(DP0-2,3)	
		2	2	1	1	
	コミュニケーション科目	コミュニケーション論(DP0-1,2)				
		英語演習Ⅰ(DP0-1,2)				
		英語演習Ⅱ(DP0-1,2)				
情報基礎演習(DP0-2,3)						
		英語演習Ⅲ(DP0-1,2)				
		英語コミュニケーション(DP0-1,2)				
			総合コミュニケーション(DP0-1,2)			
	4	2	1	0		
キャリア形成科目	しごと論Ⅰ(DP0-1,2)					
	社会活動Ⅰ(DP0-3)					
	メディアリテラシー(DP0-2,3)					
		社会活動Ⅱ(DP0-2,3)				
			しごと論Ⅱ(DP0-1,2)			
			インターンシップ(DP0-3)			
		現代社会論(DP0-1,2)				
	3	1	3	0		
専門教育科目	美術工芸科目	建築概論(DP2-1,2,3,4)				
		文化財概論(DP2-1,2)				
		伝統工芸概論(DP2-1,2)				
		構成基礎演習(DP2-1,2,4)				
		日本住居史(DP2-1,2)				
		色彩学(DP2-1,2)				
		日本美術史(DP2-1,2)				
		デザイン概論(DP2-1,2)				
		建築計画Ⅰ(DP2-1,2,3,4)				
		構法計画Ⅰ(DP2-1,2)				
		建築CAD演習Ⅰ(DP2-1,2,4)				
			建築構造力学Ⅰ(DP2-1,2)			
			日本建築史(DP2-1,2)			
			西洋美術史(DP2-1,2)			
			東洋美術史(DP2-1,2)			
		11	3	1	0	
	基幹科目	構法計画Ⅱ(DP2-1,2)				
			デザイン作図演習(DP2-1,2,4)			
			デザインと法規(DP2-1,2)			
			文献・絵画史料概論(DP2-1,2)			
			建築CAD演習Ⅱ(DP2-1,2)			
			建築計画Ⅱ(DP2-1,2,3)			
			建築材料(DP2-1,2)			
			建築法規(DP2-1,2)			
			建築構造力学Ⅱ(DP2-1,2)			
			建築環境工学(DP2-1,2)			
			世界建築史(DP2-1,2,3)			
			都市空間論(DP2-1,2)			
			景観デザイン論(DP2-1,2)			
		伝統構造学(DP2-1,2)				
	1	10	3	0		

専門教育科目	美術工芸科目	展開科目		近代建築史 (DP2-1, 2, 3)		
				建築計画Ⅲ (DP2-1, 2)		
				都市計画 (DP2-1, 2)		
				建築設備 (DP2-1, 2)		
					古文書解読演習Ⅰ (DP2-1, 2, 3)	
					古文書解読演習Ⅱ (DP2-1, 2, 3)	
					伝統建築図 (DP2-1, 2, 3)	
					京町家再生論 (DP2-1, 2, 4)	
					室内意匠論 (DP2-1, 2)	
					建築計画Ⅳ (DP2-1, 2, 3, 4)	
			建築構造力学Ⅲ (DP2-1, 2)			
			建築生産論 (DP2-1, 2)			
			公共デザイン論 (DP2-1, 2, 3)			
			社寺建築論 (DP2-1, 2)			
		0	4	10	0	
	専門演習・実習科目		建築設計導入実習 (DP2-1, 4)			
			建築設計基礎演習Ⅰ (DP2-1, 2, 3, 4)			
			建築設計基礎演習Ⅱ (DP2-1, 2, 3, 4)			
			建築設計演習Ⅰ (DP2-1, 2, 3, 4)			
				建築設計演習Ⅱ A (DP2-1, 2, 3, 4)		
			建築設計演習Ⅱ B (DP2-1, 2, 3, 4)			
				建築設計演習Ⅲ (DP2-1, 2, 3, 4)		
				卒業研究 (DP2-1, 2, 3, 4)		
	2	2	2	2		
計	32	29	26	3		
合計	90					

教養教育科目<学部共通> 1. 教養科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

講義名	初年次セミナー		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養教育科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOBI 芸術学部
教授	竹脇 出	KYOBI 建築学部
教授	新谷 裕久	KYOBI 芸術学部

到達目標	①本学の建学の精神、理念及び3つのポリシーについて理解する ②本学での学びの基礎を身に付ける ③大学生生活への適応力を高める ④自己理解を深め、将来の学習・キャリア設計を考える 本科目は、DPO-2、DPO-3に該当する
授業概要	本授業では、本学新生のスムーズな大学での学びをサポートする為に必要な事前学習を提供することを目的としている。授業は、複数の教員や専門の職員が交代で担当するオムニバス形式で行われる。授業の前半の回では、大学生生活をスタートするにあたって大切な履修計画を立てるために必要な知識について学ぶ。後半の回では、情報を適切に探し、活用する情報リテラシー能力や、自己理解を深め将来設計を考えるキャリア設計、レポートの書き方などについて学習する。社会貢献活動の回では、受講生でグループを作り活動を行うことを通して社会に貢献するとともに、友人関係も深めてもらう。専門教育科目の全体像についても言及する。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 建学の精神と理念、大学での教育について学ぶ 第2回 大学教育の特徴について学ぶ シラバスや単位制の基礎知識、履修登録と単位認定 第3回 社会貢献をしよう グループを作り鴨川トレッキングへ 第4回 学内規則を理解しよう Web掲示板の活用、成績評価基準の理解 第5回 情報リテラシーについて学ぼう 図書館の利用方法、情報倫理の理解 第6回 大学生生活の困りごとを解決しよう 学生相談体制の活用、障がい者差別解消法の基礎知識の理解 第7回 将来のキャリアについて考えよう 就活スケジュールの理解、インターンシップについて 第8回 自己理解を深めよう PROGテストの受験 第9回 レポート作成の基礎知識を学ぼう レポートと感想文の違い 第10回 レポートを書いてみよう 第11回 自己理解を深めよう PROGテストの結果の解説 第12回 専門教育科目を理解しよう①(学部別) 第13回 専門教育科目を理解しよう②(学部別) 第14回 充実した大学生生活を送ろう 社会のルール・夏休みの活用法・留学についての情報 第15回 初年次セミナー振り返り 初年次セミナーで学んだ知識を振り返りレポートにまとめる
成績評価	平常点(30%)と2つのレポートの提出(70%)をもって認定する。平常点は、授業内に着席し教職員の指示に従って授業を聴いている学生に対し与える。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『大学1年生の歩き方』トミヤマユキコ 清田孝之 集英社 『大学生 学びのハンドブック』世界思想社編集部編 世界思想社
履修上の注意	スムーズな大学生活をスタートさせる為にも、1回生全員の履修が望ましいです。授業内でグループワークなどの活動がある場合には、特段の事情がない限り必ず参加して下さい。

予習・復習指導	授業内で配布するレジюмеや資料、紹介する参考書などを利用し、1コマに対して4時間の予習復習が望まれます。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	受講生からの質問やコメントについては、授業内で全体にフィードバックします。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	美学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 知紘	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>西洋における美学の歴史を概観しつつ、美しさとは何か、芸術作品を研究することは何を意味するのかを哲学的に問い、考える方法を学ぶ。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	<p>「桜の花が美しい」と言うとき、その「美しさ」とは何でしょうか。「花のピンク色が美しい」と答える場合、桜のピンク色は美しくても、ミミズのピンク色は美しくないということがあるのはなぜでしょうか。また美しいとされる対象は、桜の花などの自然物から、絵画、建築物、音楽といった芸術作品など多種多様です。これら異なったものがすべて同じ「美しい」という言葉で呼ばれるのはなぜでしょうか。このように「美学」とは美しさや芸術作品について哲学的に考える学問です。この授業では西洋における美学の歴史を概観しながら、美学で問題となっているテーマについて考えます。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 イントロダクション：「美しさとは何か」に答えることの難しさと考えるヒントを学ぶ。</p> <p>第2回 アイデア論と芸術の関係：古代ギリシャ(プラトン)において芸術がどのような位置づけにあったかを学ぶ。</p> <p>第3回 詩学とストーリーの優劣：物語や悲劇のストーリーの優劣を決める基準がどのようなものかを考える。</p> <p>第4回 近代美学の展開：花などの自然が「美しい」という判断がどのようなものかを考察し、他のさまざまな判断との違いを学ぶ。</p> <p>第5回 近代美学と美の理想(1)：自然の美しさ、人工的な芸術作品の美しさの違いを考える。</p> <p>第6回 近代美学と美の理想(2)：時代ごとに美の考え方が異なり、芸術作品も異なるのはなぜなのか、また美の考え方が歴史の中でどのように発展したのかを学ぶ。</p> <p>第7回 芸術と体験：絵画や彫刻などの芸術作品を見て美しいと感じることはどのような体験なのかを考える。</p> <p>第8回 悲劇と芸術(1)：悲劇が人間のどのような本性と結びついているかを考える。</p> <p>第9回 悲劇と芸術(2)：近代の悲劇解釈を参考に悲劇が人間にもたらす効果を考える。</p> <p>第10回 芸術作品と真理(1)：芸術作品が表すことのできる真理とはどのようなものかを考える。</p> <p>第11回 芸術作品と真理(2)：芸術作品が人間の存在にどのように関わっているかを考える。</p> <p>第12回 芸術と哲学の歴史(1)：18世紀後半から19世紀前半にかけて美学の基礎となっていた哲学の考え方を学ぶ。</p> <p>第13回 芸術と哲学の歴史(2)：19世紀後半から20世紀前半にかけて美学の基礎となっていた哲学の考え方を学ぶ。</p> <p>第14回 芸術作品と解釈(1)：芸術作品を解釈することはどのような作業であるかを考える。</p> <p>第15回 芸術作品と解釈(2)：まとめ</p>
成績評価	授業中の課題(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>佐々木健一『美学への招待 増補版』中公新書</p> <p>小田部胤久『西洋美学史』東京大学出版会</p>
履修上の注意	美学・哲学に関する事前知識は必要ありません。授業中に提示されるテーマについて自分なりの答えを考え、疑問がある場合は積極的に質問してください。

予習・復習指導	予習では、テーマの導入となる質問をクラスルームに掲示するので、授業日までに回答すること。 復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどうしたことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に関心を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。 毎回の授業後にレジユメを配布するので、授業中に理解できない部分があったらレジユメを読んで復習しておくこと。 1コマに対し、1時間の予習と3時間の復習をすること。
関連科目	哲学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。 毎回の課題については、次の回の授業の最初に解説を行う。 期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

[ウインドウを閉じる](#)

講義名	生活と法律		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 右近 潤一	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に様々な法律が存在することを認識することができる。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。 <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の様々な場面に遭遇する問題を取り上げ、その背後にある法制度やその問題点について講義する。法律に関わるからと、難しく考える必要はない。 ・芸術であろうと建築であろうと、法律と関わらずにはおれない。今後、大学において法令を学ぶ予定の方は、あらかじめ本講義を受講しておかれることが望ましい。 ・まずは、法律に触れながら、身の回りのできごとがどのように法律と関わるのか（自分は何のような法律と関わって生活しているのか）を理解することができるようになることが重要である。 ・毎回講義内容に関して、「考えてみよう」と題して友人と相談して（もちろん一人で考えても構わない）、フォームに解答してもらおう時間を設ける。
授業計画 授業内容	<p>第1回 法学とは？何を何のために学ぶか（教科書Theme1） 法学を学ぶことの目的を理解する。</p> <p>第2回 法律が憲法に違反すると（教科書Theme4） すでに知識のある「違憲立法審査」を取り上げるが、その前提として、憲法とは何か、どのように審査されるか、立法に際して憲法をいかに考慮しているか、という手続きについても言及する。</p> <p>第3回 憲法で守られる人権とは（教科書Theme5） プライバシー概念の変遷、EUにおける「忘れられる権利」に触れる。</p> <p>第4回 憲法は差別問題についてどう考えているか（教科書Theme6） 憲法14条の平等の意義、裁判所の判断はいかに行われるかに触れる。</p> <p>第5回 【小テスト1】テスト1解説；六法とは何か（教科書Theme2） 第1回から第4回までの内容を元に小テスト（約20分）を実施。その後、「六法」概念を用いて、さまざまな法律が存在すること、その分類方法に言及する。</p> <p>第6回 テスト1講評；民法の適用は年齢によって区別されるか（教科書Theme7） 2022年4月から成年年齢が引下げられた。引上げじゃなくて引下げ？ その意図は？ 成年年齢の意味を学ぶ。</p> <p>第7回 契約は守らなければならないか（教科書Theme8） 契約はいつ成立するのか、なぜ守らなければならないのか、そもそも契約と約束の違いとはどこにあるのかを学ぶ。</p> <p>第8回 企業の採用の自由はどこまで認められるか（教科書には掲載していない） 3年生後半から、就職活動が始まる。採用内定という言葉があるが、法的に見て、どのような意味があるのか。内定取り消しはどのような理由で、いつまでできるのか。内定に承諾した後、本命の会社からも内定が出たら？ 内定をテーマに労働契約を考える。</p> <p>第9回 お父さんと呼べるのはなぜ（教科書Theme10） 産んだ人がお母さん。では、お父さんは誰か。法改正があったので、新旧制度を比較して考えてみよう。</p> <p>第10回 【小テスト2】テスト2解説；えん罪を防ぐには（教科書Theme13） 第5回から第9回までの内容で小テストを行う（約20分）。警察は犯人を必死で探す。間違った人を犯人だということもある。検察や裁判所も関わって、犯人かどうかを考えるが、えん罪が後を絶たない。どのような工夫がされているのかを見ていく。</p> <p>第11回 テスト2講評；夫婦は同一姓を名乗らなければならないか（教科書Theme11） 婚姻してもこれまでの氏名を使い続けたい、そんな希望はとおるのか。できる、できない、それはどうして？</p> <p>第12回 相続のルールはなぜ必要な（教科書Theme12） 人は必ず亡くなる。その人が持っていた財産は主人を失うが、それに主人を与えるのが相続。相続は誰もが必ず経験する事柄であるが、相続についてどれだけ知ってる？</p>

	<p>第13回 裁判員になって死刑判決にかかわる（教科書Theme14） 裁判員候補者になる可能性がある。裁判員をどこまで知っているだろうか。死刑がどうかどうやって判断するのか。</p> <p>第14回 外国人の犯罪は誰が訴追・処罰するのか（教科書未掲載） 国家と国家との関係を起立する国際法を扱う。国が作った法律がどこまで通用するのか、外国で日本人が被害に遭ったとき、日本の警察はどこまで捜査できるのか、裁判はできる？</p> <p>第15回 【小テスト3】テスト3解説；AI のある生活（教科書Theme16） 第10回から第14回までの内容で小テストを実施する（約20分）。法律は、未経験の状況に対していかに対応するのかを考えてみる。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> 各講義の最後に、講義内容に関連した「今日の質問」をするので、それに回答してもらう。【40%】 3回の小テストを各回 20 点で行う。【60%】 <p>※いずれもグーグルフォームを用いる予定である。PCまたはタブレット等を毎度持参すること。 ※上記のいずれも講義に出席した者を対象としており、許可なく自宅から解答した（講義に参加したことが証明できない）ときは、成績に加味しない。</p>
教科書	渡邊博己・右近潤一『法学ナビ：16 の物語から考える』（北大路書房）
参考書 参考資料	道垣内 弘人『リーガルベシス民法入門（第5版）』（日本経済新聞出版、2024）
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 毎年必ず学期末になって、「卒業するのに単位がいるから、頑張って単位を出せ」、と申し出てこられますが、卒業がかかっていることは、受講前からわかっていることですので、手を抜かず、しっかりと勉強してください。 就職活動やインターンシップなどと小テストがかぶるときはご相談ください。追試の対象とします。 遅刻や早退のほか、途中退室が散見されます。ジュースを買いに出たり、たばこを吸いに出ることは、他の方の集中力や私のやる気の妨げになりますので、厳禁とします。 スマホゲームは教室外で。 教科書を手に入れずに受講される方がありますが、普段皆さんが学ばれていることとは異なる内容ですので、できる限り教科書を手元に置かれることをおすすめします。講義内でも、教科書の一部を讀上げて、意見を求めることもあります。 <p>○（大学に申請された方への）これまでの合理的配慮の経験 （音質は試行錯誤中だが）講義録画の閲覧；自宅等からのオンラインでの受講；教室外での小テスト受験；体調不良・通院時の追試（自宅受験）。 ※ このほかにもできることがあるかもしれません。相談してください。</p>
予習・復習指導	<p>1回の講義に対して120分の予習と120分の復習が必要である。</p> <p>予習： 授業概要にある教科書のThemeを読み、わかりにくいところや特に関心のあるところにマークをしておこう。</p> <p>復習： 「今日の質問」で尋ねたこと、「考えてみよう」で尋ねたことやそこで言及したことを振り返り、再度、許可書の該当箇所を読み、不明点が明確になったかを確認する。関心のあるところに講義内で踏み込まなかったときは、少し調べてみる。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>「今日の質問」については、原則としてフォームのフィードバック欄を用い、必要に応じ翌週の冒頭にコメントおよび模範解答に言及する。</p> <p>小テストは、実施した翌週の講義で簡単に解説するほか、こちらもフォームのフィードバックを用いる。</p>
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	地域社会論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>①身近な地域社会の実態を調べ、課題を発見し、課題解決案を考えること。 ②地域社会のまちづくり活動への参画を学生時代に体験すること。 ③地域に根ざした仕事を起こし、社会の主体者としての自覚をもつこと。</p> <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>伝統社会における人々の仕事や暮らしは地域社会と共に存在したのであるが、近代化が浸透する過程で地域社会の存在感は薄れてしまった。首都圏への一極集中や大企業主導型の産業構造を構築し、日本の近代化は見事に達成されたのであるが、その陰で地域力が殺がれ、個々人の潜在能力が開花しにくいなどの諸問題が山積している。</p> <p>この授業では、新たな経済学や経営学などの知見から得られる地域社会の変容を学術的に解説し、諸問題を克服する具体的な事例を豊富に紹介する。受講者には、地域社会の未来を展望しながら実践に生かす取組みに参画し、社会の主体者として成長することが期待される。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 講義ガイダンス：受講の心得、講義計画、主体的な学び方 第2回 伝統的な地域社会：伝統社会の構造、コモنز、共同体感覚 第3回 近代の勃興：産業革命、市場メカニズム、私的財、市場の失敗 第4回 市場と政府：政府セクターの原理、公共財、国民主権、政府の失敗 第5回 日本経済の概観：戦後復興、経済成長、バブル経済、日本の経営 第6回 経済政策入門：財政・金融・税制、地域産業政策、公務員の仕事 第7回 地方分権・自治論：地方自治、地方財政、地域政策の立案、地域価値を高める 第8回 社会企業論：コモنزの復活、新しい公共、事業型非営利組織、SDGs 第9回 地域力を育む事業：農林業、商業、金融業、エネルギー、工業と工芸 第10回 組織づくりの基本：経営学の成長概念、個と組織の共生、共生経営論 第11回 地域社会と文化：文化の定義、文化資本の経営、文化的価値の探求 第12回 職人力の復活：ラスキンの芸術経済論、固有価値論、職人仕事の本質 第13回 地域と産業理論：地域特化産業、サード・イタリー、産業クラスター論、産業集積論 第14回 地域社会の未来：大企業から地域社会へ、イノベーションの場、地域共生圏 第15回 総括と到達度テスト</p>
成績評価	<p>毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>毎回の講義用資料を事前にクラスルームに投稿する。</p>
参考書 参考資料	<p>内山節『ローカリズム原論』、その他、講義の中で紹介する。</p>
予習・復習指導	<p>講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立てるように。 1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。</p>
関連科目	<p>工芸と経済</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。</p>
教員の実務経験	<p>京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間、地域社会の振興に関する実務を経験してきた。現在も、非営利組織などで活動している。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	

講義名	人間関係の科学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古澤 文子	KYOBI 芸術学部

到達目標	心理学の基本的知見を活用して、自分自身のところや周囲の人たちとの関わりの中で起きている事象について理解する。また、さまざまな視点から物事を捉える姿勢を身につけ、自分のところも他者のところも尊重し、大切にできるようになることを目標とする。この科目は、DPO-1～3 に該当する。
授業概要	本授業では主に心理学の基本的知見を紹介し、それについて共に考えることとする。第1回～第8回では主に基礎心理学（人間が持つ心のメカニズムを一般法則として理論的に解明する心理学）について講義を行い、さまざまな観点から“人”についての理解を深める。そして第9回以降では応用編として、第1回～第8回の学びを実践に繋げるための理論やその複雑さ・困難について講義を行う。毎回の講義後には、その日の学びを振り返る小レポートを課す。次の講義のはじめに、それについてフィードバックを行いながら、前テーマを復習する。
授業計画 授業内容	<p>第1回 オリエンテーション 講義の進め方・心理学について</p> <p>第2回 知覚・認知 外界や他者との繋がりについて理解する</p> <p>第3回 学習・言語 学習（できなかったことが、できるようになる）について理解する</p> <p>第4回 感情 感情とは何か？モデルや意義、その発達について理解する</p> <p>第5回 人格・心理検査 人格の捉え方について、限界を踏まえながら理解する</p> <p>第6回 社会・集団 人が“集団”になった時に起こる事象について理解する</p> <p>第7回 発達① ピアジェや愛着の理論から、人の発達について理解する</p> <p>第8回 発達② エリクソンの心理社会的発達理論から、人の発達と課題について理解する</p> <p>第9回 非定型発達・発達障がい 専門的な介入と支援について理解する</p> <p>第10回 心理状態の観察・分析① “見立て”について、心理検査とその限界を通して理解する</p> <p>第11回 心理状態の観察・分析② “見立て”のための専門的な話の聞き方について理解する</p> <p>第12回 心理的支援① 精神力動理論、認知行動理論について学び、さまざまな立場を理解する</p> <p>第13回 心理的支援② 人間性アプローチ、日本の心理療法について学び、さまざまな立場を理解する</p> <p>第14回 精神疾患と治療① 診断の方法や“現実検討力”について学ぶ</p> <p>第15回 精神疾患と治療② さまざまな病と現在の治療方法について学ぶ</p>
成績評価	毎回の授業後に提出する小レポート（60%）＋期末レポート（40%）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	授業時に資料配布。 『心理教科書 公認心理師 完全合格テキスト』（公認心理師試験対策研究会 著）翔泳社 『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』（無藤・森・遠藤・玉瀬 著）有斐閣
履修上の注意	人の心のありようについて、自身の日々の体験に関心を向けながら授業に臨むこと。
予習・復習指導	1コマに対し4時間の復習をすること。毎回の授業資料で紹介した事項について、不明点がないよう振り返ること。また、それらに照らして身近な生活や自分自身について考察すること。
関連科目	人間関係の心理臨床
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業後に提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の實務経験	
教員の實務経験の有無	無
科目ナンバリング	

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOBI 芸術学部

到達目標	①人間の発達段階ごとに必要な学習の役割を理解する ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ 本科目は、DP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	生涯学習とは、単なる知識の習得ではなく、各ライフステージにおける発達課題を乗り越えるための重要な手段である。発達心理学の観点からも、学習は人間の成長と密接に関係し、個人のアイデンティティ形成、キャリアの維持、健康寿命の延伸に影響を与えている。よって、本授業では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習についての理解を深めることを目的とする。各年代で多くの人が悩むテーマについて、映像教材を用いながら考えていく。また何回かの講義では、心理テストを用いて自己分析を行い、個人発表の機会を設ける。受講生には、毎回の振り返り用紙の提出と、授業内での積極的な発言を求める。
授業計画 授業内容	第1回 生涯学習論とは？この講義における定義と講義の進め方の説明 第2回 深刻な不妊問題について 第3回 生命誕生に関する教育について 第4回 赤ちゃんのパワーについて 第5回 赤ちゃんの心身の発達について 第6回 幼稚園児の社会性の発達について 第7回 幼児期の心身の発達について 第8回 小学生の様子 第9回 小学生の心身の発達について 第10回 思春期 反抗期について 第11回 青年期の心身の発達について 第12回 アイデンティに関する自己分析、自己の価値観について 第13回 中年期の心身の発達について 第14回 高齢期の心身の発達について 第15回 生涯学習を支える制度、施設について
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、講義内容の振り返り用紙の提出を求める。また、講義中における以下の行為に関しては、出席と認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の授業のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学
履修上の注意	例年と大きく異なり、毎回の授業にてランダムに受講生から意見を求めます。ワークには必ず参加してもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。

予習・復習指導	事前に指示があった場合には、前もって配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙などを利用し、事前学習を行って下さい。その他、予習や復習として、授業で扱ったテーマについて自主的な学びを求めます。1コマにつき4時間の予習復習時間の確保が望ましい。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。 個人的に受けた質問やコメントについても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE105L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>博物館は、自然、歴史、美術などさまざまな「もの」（博物館資料）を調査・研究し、さらに展示・活用することで、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。</p> <p>本講義では、歴史、制度、社会、技術などさまざまな観点から俯瞰することで、体系的に博物館を取り巻く状況について学ぶ。また、博物館法や文化財保護法など、関連する法令に関する知識を深めることで博物館に関する理解を深める。</p> <p>さらに、多岐にわたる学芸員の具体的な業務や展覧会企画などの具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義について理解することを目指す。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事① 第4回 学芸員の仕事② 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史① 第7回 博物館の歴史② 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括</p>
成績評価	授業時のレポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。</p> <p>復習：講義内容を整理しておくこと。適宜博物館などを見学すること。</p>
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
教員の実務経験	京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）を活かし、博物館活動の実際について概説する。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	森林学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森本 幸裕	KYOBUI 芸術学部

到達目標	森林の構造と機能、さらに地球環境危機の時代における課題について、身近な具体例と理論を学習することで理解を深め、その知見を美術、工芸、建築を含む豊かで持続可能な人間活動に資することができるようになる。
授業概要	<p>生物多様性の損失と温暖化など深刻な地球環境危機の中で、森林の持つ多様な素晴らしいポテンシャルを紹介し、その持続可能な活用に向けて、身近な具体例から地球レベルの概念まで取り上げる。まず、樹木の見方からはじめ、森林に親しむフィールドワークを予習・復習として推奨し、課題「my樹木図鑑」を期末までに完成させる。一方、グローバルな見方として、最も発達した陸上生態系である森林は、単に利用すべき木材資源の供給源ではなく、地球生命圏の恒常性を支えており、人類の福利の基盤でもあるという、現代の環境理論を紹介する。加えて、具体的に身近な森を例に挙げて現状と課題、及び課題解決に向けた取組の具体例を紹介・解説しつつ、自ら考える機会を提供する。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 森林と樹木：ウォッチングの基本 第2回 機能する森林：森と人とガイア仮説 第3回 日本の森林と林業：多面的機能と社会的位置づけ 第4回 宝ヶ池の森：身近な里山の危機 第5回 糺の森：攪乱が再生する森林 第6回 京都三山の森：風水と景観生態学 第7回 吉野山：歴史的な自然環境とサクラの森 第8回 にほんの里：アートと多様な林産物 第9回 平安神宮の森：美と生物多様性とフラクタル 第10回 自然公園の森：ウィルダネスの継承 第11回 万博の森：都市に自然林をつくる 第12回 いのちの森：アーバンエコロジーパーク 第13回 癒しの森：次世代統合医療 第14回 世界の森林：グリーンインフラとしての森林生態系 第15回 まとめ：森林の未来</p>
成績評価	原則毎回行う小課題（25%）、期末試験（35%）、課題「my樹木図鑑」（40%）
教科書	樹木図鑑（特に指定しない。my樹木図鑑作成用に各自入手のこと）
参考書 参考資料	「景観の生態史観—攪乱が再生する豊かな大地」森本幸裕編著（京都通信社）
予習・復習指導	最初にウォッチングの方法を指導するので、授業で取り上げる森林等でフィールドワーク（事前学習及び復習）を行い、「my樹木図鑑」を作成していくこと。1コマに対し、3時間のフィールドワークと、1.5時間の「my樹木図鑑」の作成等を想定している。
課題に対するフィードバックの方法	授業毎の小レポートについては原則、次回の授業の最初に特徴的なものを取り上げてフィードバックするとともに、質疑応答等を行う。課題「my樹木図鑑」や期末試験は終了後に解説・講評等をオンラインで行う。

教員の実務経験	京都市都市緑化協会理事長（10年間）、中央環境審議会委員（10年間）、文化審議会第3専門調査会委員（10年間）、他に京都市美観風致審議会、緑化審議会等多数の国と自治体の行政委員として、森林学関連の知見を実務に反映してきたことを取り上げる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	栄養学入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中沢 るみ	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>健康保持・増進のための栄養や食材に関する基本的知識を身につける。 食品や食材の特徴・栄養成分を理解し、テーマに沿ったメニューを考えることができる。</p> <p>この科目はDP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>食べ物が身体に及ぼす影響について、さまざまな角度から学習します。 骨や筋肉を強化する栄養成分、肉体や精神の疲労を回復する食べ方、記憶力や集中力を高める食材、病気予防に役立つ献立作成など実践的な食事へ反映できる知識を習得します。 各種栄養素の働きや伝統的な日本食材（京野菜や出汁）、海外で注目されている新種食材（調味料）、発酵食品、加工食品、ハーブ・スパイスなどの知識を理解して、より豊かな食生活を営むことを目指します。 また食品表示や栄養強化食品、オーガニック食品など食品を選ぶ基準についても学び、食生活と疾病（生活習慣病）予防について理解を深めます。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 人体と栄養 第2回 ビタミン① 第3回 ビタミン② 第4回 ミネラル① 第5回 ミネラル② 第6回 食事と生活習慣病 第7回 テスト① 第8回 機能性成分（色） 第9回 機能性成分（香り） 第10回 腸内環境 第11回 発酵食品 第12回 食物繊維 第13回 栄養バランスの整った献立 第14回 食品表示 第15回 テスト②</p>
成績評価	評価ポイント：課題（60%）、テスト（40%）
教科書	きちんとわかる栄養学 西東社
参考書 参考資料	オールガイド食品成分表 実教出版
予習・復習指導	<p>予習：次回授業に関する教科書のページを読んでおく。 復習：講義内容を整理し、自身の食生活に反映させる。</p> <p>1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。</p>
課題に対するフィードバックの方法	課題、テストのフィードバックを講義内で行う。
教員の実務経験	管理栄養士 栄養学・食品学講師
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	歴史学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中村 みどり	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>教養としての通史的な理解を深めるばかりでなく、歴史を複数の視点から考える多角的な視野と、歴史的事象がどのような情勢と人々の動きによって築かれたのかという「生きた歴史学」を身につけ、理解してもらうことを目標とする。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業では、古代ヤマト王権の成立から近代明治維新までの日本を中心とした歴史と文化を通史的に概説してゆく。特に京都に関わる歴史的な事象（平安京遷都や応仁の乱など）は参考史料などを用い、詳説してゆくこととする。</p> <p>なお、授業は毎時間レジュメを配布し解説する講義形式によって行うが、毎回質疑・感想の提出を行ってもらい、次回授業の冒頭にて適宜質問に回答するフィードバックの時間を設けるものとする。この時間を利用して、通史の概説では触れられなかった歴史的な事象の細かな点や、歴史を学問的に捉えた際の考え方の説明などを適宜加え、より深みのある内容を追求してゆくものとする。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 歴史学概論 / 歴史学とは何か</p> <p>第2回 古代国家の成立</p> <p>第3回 奈良時代と天平文化</p> <p>第4回 平安時代の始まりと安定</p> <p>第5回 摂関時代と国風文化</p> <p>第6回 院政期と武士の台頭</p> <p>第7回 鎌倉時代とその盛衰</p> <p>第8回 室町時代と応仁の乱</p> <p>第9回 室町時代の文化と習俗</p> <p>第10回 戦国時代と天下統一</p> <p>第11回 南蛮文化と桃山文化</p> <p>第12回 江戸時代の政治と改革</p> <p>第13回 江戸文化</p> <p>第14回 明治維新と文明開化</p> <p>第15回 文化財保護の現在</p>
成績評価	評価ポイント：期末レポート（70%）、質疑参加態度（30%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	<p>詳説日本史（山川出版社）、日本史用語集（山川出版社）、岩波日本史辞典（岩波書店）など。</p> <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	<p>1コマあたり4時間の事前事後学習が望ましいが、その配分に関しては各自の判断に任せる。</p> <p>授業進度についていけないようであれば、先じて中学・高校時代の日本史の教科書などで良いので、次回範囲を予習しておくこと（毎時間授業の最後に次回の範囲について知らせる）。</p> <p>あるいは、授業中に理解できなかった言葉・単語は、復習として辞書や参考書を用いて調べておくこと。</p>
関連科目	日本文化史、京都学、日本美術史、日本建築史、文化財概論、文献・絵画史料概論
課題に対するフィードバックの方法	毎時間、質疑に対する応答を次回授業の冒頭に行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	現代社会と政治		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・政治学に関する基礎的な用語を理解することができる。 ・日本政治の基本的仕組みとその運用（現状）を把握できるようになる。 ・様々な考えがあることを理解し、自分自身の政治的価値観や立ち位置を客観視できるようになる。
授業概要	<p>政治は「強制力を伴う社会全体の運営」ともいわれますが、「共通善の実現」と「権力・支配をめぐる闘争」という一見正反対の二つの顔をもつとされます。あまりかわりを持ちたくないでしょうけど、徴税に代表されるように、「政治はどこまでも追いかけてくるもの」であることもまた間違いありません。</p> <p>この講義では、政治に関する基礎的な知識を身につけつつ、日本における制度・現状を概観しますが、学びを深めるなかで自分自身の政治志向についても客観視できるようになることを目指します。</p> <p>なお講義担当者は政治学の中でも政治史専攻であるので、歴史的背景の説明にも力を入れることを留意してください。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回：イントロダクション（自己紹介・「4つの89年」）並びに「政治」とは？</p> <p>第2回：自由民主主義体制の形成・成立：ヨーロッパにおける市民革命、普通選挙などを紹介しします。</p> <p>第3回：戦後日本政治の歴史その1：戦後日本政治の歩みについて占領期・高度経済成長まで。</p> <p>第4回：戦後日本政治の歴史その2：高度成長並びに冷戦終結頃まで。</p> <p>第5回：政治体制・制度：君主制と共和制、議院内閣制と大統領制を紹介。</p> <p>第6回：選挙と政党その1：選挙・政党の意義と歴史、複数政党の形成について。</p> <p>第7回：選挙と政党その2：選挙制度と政党システム、日本の事例について。</p> <p>第8回：議会（立法）：議会の機能と現状、二院制の是非。</p> <p>第9回：行政・官僚制：政治と行政の関係、官僚制の特徴、日本の事例</p> <p>第10回：利益集団・圧力団体：集団の形成・活動、政治への影響</p> <p>第11回：マスメディアと政治：マスメディアの役割並びに政治との関係について。</p> <p>第12回：地方政治：地方政治の意義・枠組み（中央—地方関係）。日本の地方政治の特徴について。</p> <p>第13回：国際政治：国内政治との違い、平和維持の方法について。</p> <p>第14回：「平成の改革」・政治参加：「平成」期に推進された改革並びに政治参加のありようについて</p> <p>第15回：まとめ、日本政治の課題。</p>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価割合：定期試験（70%）、平常点＝リアクションペーパーの内容（30%）。 2. 基本、定期試験で最終評価しますが、普段のコメント（リアクションペーパーの内容）も軽視できません。なお①定期試験はレジュメ、ノート、メモ類は持ち込みOKとします。②任意レポート提出も受け付けます。
教科書	特に指定しませんが、高校時代の教科書（公民、政経）があれば活用してください。
参考書 参考資料	講義中にも適宜紹介しますが、高校時代の教科書のほか、『もういちど読む 山川政治経済』（山川出版社、2018年）、宇野重規『民主主義とは何か』（講談社現代新書、2020年）をあげておきます。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中、自分でノート・メモを作っておくといいでしょう（定期試験で持ち込みできます）。 2. 講義をよりよく理解するために、日ごろから新聞などに目を通しておくことをお勧めします。 3. 講義中の私語は厳禁です（友人との団らんは別の場所で！）。受講態度が成績評価にも大きく影響しますので注意しましょう。
予習・復習指導	準備学修として参考文献の該当箇所や配布資料を読み、専門用語などの予習・復習を行うこと（各120分）
関連科目	関連性は不明ですが、他の教養科目もしっかり受講してください。

課題に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・講義終了後提出してもらいアクションペーパーについては、傾向をまとめたうえで次回の講義でフィードバックを行います。・前回の講義内容について次回の講義でまとめたうえで、受講者の質問を受け付けます。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	工芸と経済		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>①経済学の基本的な考え方を理解し、あるべき社会の構想力を獲得する。 ②工芸・建築・デザインなどと経済との関係性について理解する。 ③研究課題を自ら設定し、課題解決に取り組む力量を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>現代の標準的な経済学には、美術や工芸の価値を正しく評価し社会に位置づける論理が欠けている、などの重大な欠陥がある。そのため、固有価値や文化資本等の概念を取り入れた新たな経済学（文化経済学）を学び、地域社会や人間の潜在的な創造能力が開花する「工芸社会」や「共生社会」を担う基礎力を養う、本学固有の経済学講義が求められる。</p> <p>この科目では、経済学の基幹となる価値・資本・財などの概念を問い直し、近代以降～現代にいたる社会の基本構造を客観視したうえで、理想社会を地域に根ざして自分たちで構想し実現する、というような大きな使命に応えうる講義内容を提供する。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 講義ガイダンス：講義の目標、全体計画、受講の要領、経済学の原理 第2回 経済学の誕生：スミスの経済思想、産業革命の影響 第3回 経済学の展開：マーシャルの地域経済論、ラスキンの芸術経済論 第4回 文化経済学入門：芸術財のジレンマ、ポウモル病、芸術の外部性 第5回 価値を問い直す：労働価値論と効用価値論、ケインズ経済学 第6回 固有価値論：固有価値と享受能力、職人仕事の本質と外部性 第7回 資本を問い直す：経済（貨幣）資本、社会関係資本、文化資本 第8回 文化と経済発展：文化の定義、文化資本の経営、地域と文化、文化と経済 第9回 財（主体）を問い直す：私的財（営利企業）と公共財（政府）、コモンズの復活 第10回 社会企業の21世紀：公を担う市民、CBやSB、営利企業の社会企業化 第11回 地域経済の復活：中央集権と地域分散、地域力を育む事業 第12回 産業構造の大転換：産業クラスター、創造都市、産業集積、地域特産 第13回 企業経営の本質：組織と個人の共成、使命と戦略、組織リーダーの役割 第14回 理想社会の実現：市民社会、工芸社会、共生社会、じねんの思想 第15回 総括と補足、到達度テスト</p>
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書 参考資料	池上 惇 『文化と固有価値の経済学』 岩波書店 中村天風 『運命を拓く』 講談社
履修上の注意	
予習・復習指導	講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立てるように。1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。
関連科目	地域社会論

課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間、地域産業や工芸の振興に関する実務を経験している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	世界文化遺産論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 渡邊 克典	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化遺産・自然遺産の多様な価値を理解し、保存・活用の方法を考察できる。 2. いわゆる「地球遺産」の概念を通じて、遺産を包括的に捉え、その教育的・観光的価値を含めた社会的意義を論じることができる。 3. ミュージアムの機能を通じた、遺産の保存・活用・情報発信の重要性を理解できる。 4. 自然科学標本の研究と地域資源マネジメントの実践事例を学び、遺産の持続的な保護と活用を考える力を養う。 5. 科学リテラシーを身につけ、社会に溢れる情報の中から、遺産に関する正確な情報を主体的に取捨選択できる能力を獲得する。 <p>本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義では、文化遺産・自然遺産・ジオパーク・農業遺産・天然記念物などを包括的に学び、従来の遺産の枠組みを超えた、「地球遺産」ともいべき新たな概念を通じ、人類と自然が共有する遺産を多角的に捉えることを目的とする。</p> <p>特に自然科学的視点から遺産を捉え、資料（標本）研究の成果を社会に還元する方法についても学ぶ。講義第1回目でゲストスピーカーとして登壇する伊藤が、エクスポローラをつとめるナショナルジオグラフィックの事例も取り上げ、国際的な視点から遺産の価値を探求する。博物館など遺産を取り扱う機関に収蔵される資料の活用、地域資源のマネジメント、科学リテラシーについても実践的に学ぶ。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 インTRODクシヨン：地球レベルの遺産を考える 全地球的な価値をもつヘリテージに対し、文化遺産・自然遺産の枠を超えた包括的視点でとらえる姿勢を身につける。また、遺産の保存と活用におけるミュージアムの役割に目を向ける。特に自然科学標本の研究と地域資源活用の意義を考察する。『ナショナルジオグラフィック』を例に遺産研究の国際的視点について考える。「地球遺産」という新たな概念の提案。（以上 ゲストスピーカー：伊藤謙） 講師 渡邊克典の紹介と今後の講義の流れ（渡邊）</p> <p>第2回 科学リテラシーと遺産研究 インターネット社会における科学情報を取捨選択することの重要性について考える。いくつかの例を取り上げる。下記①～③以外の例も考察材料に加えることがある。 ①「4本足のニワトリ」問題 ②いわゆる「ムー大陸」 ③地震発生日時の予言問題 遺産の研究や情報発信における科学的根拠の必要性を考える。</p> <p>第3回 文化遺産と自然遺産の基礎 ユネスコ世界遺産の概要について、分類や理念など基本的な事柄を紹介しながら理解する。特にユネスコ世界遺産条約成立の経緯とその理念について学ぶ。文化遺産、自然遺産、複合遺産の定義、加えて危機遺産、暫定遺産の定義を押さえる。世界と日本の遺産登録事例を概観し、各遺産のもつ価値と登録の意義を考える。</p> <p>第4回 世界的な価値をもつ遺産の多様な分類とそれぞれの価値 前回学んだ世界遺産の分類をふまえ、世界エコパーク・ジオパーク（生態環境や地球科学的価値を中心にした遺産）、世界農業遺産（持続可能な農業システム）、天然記念物や生態系遺産（生物多様性の保全）など、将来的に世界遺産となる可能性があるヘリテージについても概観し、身近にある遺産をも評価できる姿勢を身につける。</p>

	<p>第5回 ミュージアムと遺産保護 ミュージアムの成り立ちと発展について概観。遺産保存の場としてミュージアムをとらえ、そこで展開される遺産の研究・展示・教育の社会的役割を考える。特に遺産をめぐるツーリズムの拠点施設としてのミュージアムのあり方を考える。また、人の手によって収集された「不動産」ではない資料群が、「不動産」である遺産の価値を支えていることを知る。</p> <p>第6回 標本研究と地域資源の活用 標本収集の歴史と意義を考える（歴史的コレクションの実例をいくつか紹介する）。自然科学標本の研究と活用が創出する価値を考察する。ミュージアムにおける資料管理の実際を概観し、遺産の保存と活用に密接にリンクしていることを知る。</p> <p>第7回 復元とビジュアル表現 遺産の復元図を実例をまじえて概観する。復元模型の科学的根拠について考える。恐竜などの古生物や縄文犬の復元技術についても紹介する。また、現代における自然遺産の視覚的表現を、一般向けのジャーナルなどを例にCGやフォトグラメトリーなども交えて紹介する。</p> <p>第8回 標本を用いた展示と学びの実践 自然科学標本を用いた研究と展示の実例紹介（カナダの事例）。自然科学資料の活用（例：チリメンモンスター）による教育普及プログラムの実例紹介。遺産の価値を活かすための、ミュージアムにおける資料展示や教育普及アイテムの工夫について考える。</p> <p>第9回 自然遺産の背景にある地球の歴史と生物進化 地球と生物の歴史を概観し、地球科学的な遺産の真価を知る。進化途上の生物や生きた化石、ヒトへの道のり等を例に、全地球的な価値をもつ自然遺産保存の意義について考える。また、いくつかの世界ジオパークを例に、持続可能な遺産保護を考える。</p> <p>第10回 ユネスコ世界遺産とミュージアムの役割 世界遺産条約とその評価基準について概観する。世界自然遺産と日本における天然記念物との違いを比較考察する。保護と活用（特に近年では観光）の両立を目指す遺産の地域的課題と、その解決に向けてミュージアムが果たす役割について考える。</p> <p>第11回 環境問題と遺産 地球温暖化、気候変化、酸性雨などを例に挙げ、遺産保護に影響を及ぼす産業革命以降の環境変化について考える。また外来種や国内外来種、交雑種問題、生態系の変化など、それぞれの遺産がもつ自然環境の独自性が崩壊の危機にある現状についても考える。</p> <p>第12回 地域遺産と社会の関わり 地域住民の協力による遺産保護の推進事例を紹介する。また、遺産の保護と地域振興の成功例も紹介する。未来へ向けた恒久的な遺産保護について考える。学生の居住地や実家の周辺でも、保存に値するヘリテージが残っていないか見渡してみる。そして地域住民の関心度についても考えてみる。</p> <p>第13回 『ナショナルジオグラフィック』の視点から考える地球の遺産 世界の文化・自然遺産の最前線を紹介する役割をもった媒体の存在意義について考える。国際的な視点で遺産の価値をとらえる重要性を認識する。地球的視野で情報をパブリックに提供する本誌のスタンスに着目し、遺産の価値を全人類的に共有する方法を未来的視野で考案する。</p> <p>第14回 リアクションペーパーを活用した総括講義 前回までに提出された受講生のリアクションペーパーから、全員で共有することが望ましい質問を取り上げ、講師が解説、あるいは受講生を交えてディスカッション。時間があれば、リアクションペーパーで頻出したキーワードを取り上げ、グループごとに分かれて討論し、短時間の発表をおこなうことも想定。</p> <p>第15回 総括：「地球遺産」の未来と持続可能性 持続可能な社会の実現に向けた遺産（ヘリテージ）の役割について考える。これからの遺産保護の方向性について自由討論。遺産の価値創出や保護活動に、これから自分がどのように関わっていくことができるか考える。</p>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> リアクションペーパー（60%）※ 遺産やそれに関連するミュージアムの収蔵資料の活用をテーマにしたレポート（20%） 最終レポート（20%） <p>※第1回目～第13回目の講義で配布し、次回の講義時に提出。 内容の充実度によって概ね3段階で評価 A：キーワードを適切に使って学習した内容が整理され、かつ自らの考えを論理的に記述できている。 B：キーワードを使って学習した内容もしくは自らの考えが記述できている。 C：白紙、または簡単な感想やキーワードのみの記述。特に白紙の場合は出席点のみ。</p>
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書 参考資料	西村幸夫・本中真（編）『世界文化遺産の思想』東京大学出版会 2017年 古田陽久（著）・世界遺産総合研究所（企画編集）『世界遺産データ・ブックー2025年版ー』シンクタンクせとうち総合研究機構 2024年
履修上の注意	講義の中で出てくるキーワードに注意を払い、配布するリアクションペーパーにはそれらの用語を使った文章が書けるよう、常日頃から意識しておくことが望ましい。
予習・復習指導	スライドなどの授業資料を参考にして、1回の講義ごとに必要に応じて適宜復習をすること。
関連科目	生涯学習論、博物館概論、科学と芸術、メディアリテラシー、文化財概論など

課題に対するフィードバックの方法	フィードバックは、提出されたリアクションペーパーに受講者全員で共有すべき内容が含まれる場合には、次回の授業時間内で解説や質問回答の時間を設ける。 また、個別に対応が必要であると判断される場合は、リアクションペーパーを複写し回答を記入のうえ、提出者に返す。
教員の実務経験	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現・自貢ユネスコ世界ジオパーク（中国四川省）より発掘された恐竜化石動物群を日本国内3箇所で展示、企画や解説書執筆などを担当。 2. 白山手取川ユネスコ世界ジオパークエリア内の地質・化石・ジオサイトを調査。調査隊の一員として参加し、貝類化石層等を発見。 3. ユネスコ無形文化遺産「和食」の根冠を支える海洋環境について、ワークショッププログラム「チリメンモンスター」の中で講義。 4. ユネスコ世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」で高校生対象に「ふるさと塚探検隊」のガイドをおこなう。 5. ユネスコ世界文化遺産「石見銀山遺跡」およびその周辺施設において歴史的価値を持つ鉱石標本の調査に参加 6. 大阪大学総合学術博物館が担当する、大阪大学における博物館学芸員資格取得のための博物館学実習の補助を担当。 7. 山陰海岸ユネスコ世界ジオパークのジオサイト保存の必要性を鳥取県教育委員会に申し入れ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	松本 浩作	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	中山 智博	KYOB I 芸術学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。 この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。
授業計画 授業内容	<p>全15回 オムニバス形式</p> <p>第1回 中井川正道 全体ガイダンス 第2回 岡 達也 ポスター表現 1 第3回 岡 達也 ポスター表現 2 第4回 渡邊 俊博 立体の表現 第5回 中山 智博 3Dの表現 1 第6回 中山 智博 3Dの表現 2 第7回 松本 浩作 照明の表現 1 第8回 松本 浩作 照明の表現 2 第9回 松本 浩作 照明の表現 3 第10回 杉山 英知 人にやさしい空間表現 第11回 東 俊一郎 街の色彩の表現 第12回 中井川 正道 美の表現 1 第13回 中井川 正道 美の表現 2 第14回 中井川 正道 美の表現 3 第15回 中井川正道 まとめとレポート</p> <p>* 講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります</p>
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書 参考資料	<p>『グラフィックデザイナーの仕事』祖父江慎 グルーヴィジョンズ 『イサムノグチ』宿命の越境者(上)(下)ドウス昌代 2003 『陰影礼賛』谷崎潤一郎 パイインターナショナル 2018 『色と光の科学 物理と化学で読み解く色彩の起源』小島憲道 講談社 2023 『人体 5億年の記憶: 解剖学者・三木成夫の世界』海明社 2017</p>
履修上の注意	講師の都合により内容、講師の変更、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術 伝統と学び 工芸概論 デザイン概論 しごと論 I、II 発想と表現

課題に対するフィードバックの方法	第15回目の授業で総括する
教員の実務経験	<p>岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験、デザイン史研究の実績をもとに講義する。</p> <p>渡邊俊博：素材メーカーでの実績をもとに、立体系デザインの造形や表現方法について講義する。</p> <p>中山智博：3Dスキャンを使った画像制作の実績をもとに、撮影技術等について講義する。</p> <p>松本浩作：照明メーカーでの実績をもとに、照明の基本的な知識などを講義する。</p> <p>杉山英知：建築家の実績をもとに、体の不自由な人に配慮した空間デザインのあり方について実例を示しながら講義する。</p> <p>東俊一郎：建築・インテリア設計、色彩研究の経験をもとに、空間設計における色彩理論や色彩の心理的効果について講義する。</p> <p>中井川正道：実務経験から得た知見をもとに、講義する。一つは人間の視覚判断能力の不確かさについて写真作品を示しながら説明する。二つ目は人間の生存を保障する要素や行為が美しいという概念につながることに説明する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE213L

講義名	技芸と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 武藤 夕佳里	KYOBI 芸術学部

到達目標	「技芸」と「文学」は、人間の生活と密接に関わってきたことを学ぶ。自分を取り巻く環境、世界への視野を広げ、多角的な視座でものごとを追究する姿勢を育み、論理性ある思考力と自らの感受や感性を表現する創造力を養う。 本科目は本学のDPO-1、DPO-2、DPO-3に該当する。
授業概要	「技芸」とは何かを知り、「文学」をはじめとした文芸の世界からものづくりを読み解き、人間が技を育み営んできた暮らしを通して、日本の歴史と文化について考える。学生それぞれの本学での専門性や探求心を深める機会とできるよう、各回に多彩な史資料を取り上げ、紹介する。「技芸」と「文学」がどのように私たちの生活に寄り添い、彩ってきたのかを知り、自らで考える歴史、文化を確立する機会とする。提出課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの作成を通し、自分の思考を整理し、表現に導く手法を学ぶ。
授業計画 授業内容	多彩な史資料を通じ、自分が学ぶ専門分野の能力や知識をより深め、豊かに育む素養を身に付ける。 (全15回) 第1回 技芸と文学—はじめに 第2回 技芸と文学—古典 第3回 技芸と文学—意匠 第4回 技芸と文学—色彩 第5回 技芸と文学—茶道 * (A調査メモの提出) 第6回 近代と技芸①日本—万博との出会い 第7回 近代と技芸②海外—芸術の時代・ジャポニズム 第8回 近代日本の工芸①外国人著作物にみる日本の旅 第9回 近代日本の工芸②外国人著作物にみる京都 第10回 近代日本の工芸③外国人著作物にみる近代七宝 * (B調査メモの提出) 第11回 現代への道①日本庭園と文芸 第12回 現代への道②民芸と文芸 第13回 現代への道③作家と言葉—個性創作 第14回 現代への道④創造と革新—日本の伝統 * (C研究調査ノートの提出) 第15回 まとめ
成績評価	授業への出席を含む積極的参加 (30%)、期末試験に相当する課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの提出 (70%) ・A調査メモ: 技芸 (工芸や建築、絵画ほかのワザやモノ) を一つ取り上げ、素材や技術など製作に関わる背景を調べる。 ・B調査メモ: A調査メモで取り上げた対象物に関わる文芸的要素や背景を調べる。 ・C研究調査ノート 調査メモAとBを踏まえて対象物の歴史と文化について自分の考えをまとめる。
参考書 参考資料	中西進『美しい日本語の風景』(2008、淡交社)、エリザ・R・シドモア/外崎克久訳『シドモア日本紀行』(2002年、講談社)ほか、講義の時々様々な資料に言及する。
履修上の注意	「技芸と文学」を難しく捉えず、自分が学ぶ技が育まれてきた文化の背景を文学を含む文芸から学ぶ。提出課題は自分の学習や創作を助ける要素となると意識し、意欲的に取り組み必ず提出すること。
予習・復習指導	予習: 各回のテーマに即した本を、図書館などに行き手にして、まず開いてみる。書籍や史資料(本や雑誌、図録、音楽や映像ほか)などで触れる。復習: 各回の授業のレジュメを見直しておく。新たに興味を持ったことなどを、調べる。合わせて自分が取り組むテーマに関する史資料の収集を行う。自分の興味ある本をいろいろ手にし、好きな本を1冊以上みつける。予習(2時間)・復習(2時間)の時間をまとめて取れない場合でも、意識して、技芸や文学に触れて、考える時間を捻出する。

関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	A、B調査メモは、必要に応じて調べ方や史資料の紹介を授業の中で言及し、C研究調査ノートの完成を助ける。
教員の実務経験	経歴：株式会社中里（業務用食器厨房設備商社）営業部卸課・課長補佐、京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）日本庭園歴史遺産研究センター・研究員。 現職：並河靖之七宝記念館・主任学芸員、植彌加藤造園株式会社庭園開発研究室・研究員。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統と学び		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 齋藤 桂	KYOBI 芸術学部

到達目標	日本内外の音楽を中心として、文化における「伝統」のあり方について学ぶ。またその知見を活かして自ら問題を設定し、調べたことや考えたことを適切にアウトプットできるようになる。この科目はDPO-2、DPO-3に該当する。
授業概要	本講義では「伝統」を所与のものとして扱うのではなく、文化活動を行う際に意識的／無意識的を問わず、当該活動に対して何らかの働きかけをする概念として扱う。 その上で、日本だけでなく世界各地の音楽（ポピュラー音楽を多く取り上げる予定）が、いかに「伝統」を用いてきたかを学ぶ。特に音楽の構造や楽器のみでなく、ヴィジュアルその他の演出、市場の反応などについても扱いたい。 また音楽実践だけでなく、それを取り巻く現象、例えば音楽研究や文化研究が「伝統」をどのように扱ってきたのかを紹介する。 さらに、本講義で学んだことを適切に言語を用いてアウトプットするためのアカデミック・ライティングのスキルについても講じる。
授業計画 授業内容	第一回 伝統という概念について：「伝統」という概念がどのように作られてきたのか、どのように用いられてきたのかについて先行研究を紹介しながら概説する。 第二回～第七回：世界の音楽と伝統：日本以外の国の比較的現代的なポピュラー音楽の中で、「伝統的な」音楽がどのように用いられているかを解説する。 第八回～第一〇回：日本の音楽と伝統：明治以降の日本の音楽文化の中での伝統音楽の位置づけや変容、また「伝統」に組み込まれなかった音楽について講じる。 第一一回～第一三回：レポートの書き方について：大学でレポートを書くために必要なスキルについて紹介する。資料の探し方、問題設定の仕方、構成・文体など。 第一四回：再び「伝統」について：これまで学んできたことを踏まえて、もう一度「伝統」という概念についての考察を行う。 第一五回：まとめ。これまでの講義で取り上げた例を再度紹介して、全体を総括する。
成績評価	・ 期末レポート（90%） ・ 小課題（10%） 小課題は期末レポートに向けて予行練習的に実施するものである。
教科書	特になし
参考書 参考資料	伊東信宏【編】『東欧演歌の地政学：ポップフォークが〈国民〉を創る』（アルテス・パブリッシング、2023年）
予習・復習指導	講義で紹介した文献や音楽などについて、適宜読み、聴いておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	小課題についてはコメントを付して返却を行い、期末レポートに活かせるようにする。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	哲学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村 知紘	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>自由・存在・真理などの哲学のテーマについて、各時代の哲学者がどのように問い、どのように答えてきたかを学び、受講者が哲学的な問題について自ら考えることができるようになる。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>「自由」とは何でしょうか。「友情」と「恋愛」は何が違うのでしょうか。心は「存在する」のでしょうか。この授業では誰でも一度は考えたことがあるけれども、よくわからないままにしている疑問について、じっくり考えてみます。哲学で大事なことは正解を見つけることではなく、自分で考えてみることです。授業では哲学者の言葉を紹介し、そこから哲学的なテーマについて考える方法を学び、実際に自分なりの答えを考えてみます。取り上げる哲学者は古代ギリシャから現代まで多岐にわたりますが、問われている問題は現代でも通用するものです。自分の身近な範囲や、現代社会の問題に応用して論理的・批判的に考える方法を学びます。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 インTRODクシヨン：「哲学する」 哲学は古代ギリシャで始まり、「勇気とは何か」「正義とは何か」というように「〇〇とは何か」という形で考えられました。なぜこのような形式で問うことが哲学となるのか、実際に答えを考えながら、哲学してみましょう。</p> <p>第2回 「友情」 「友情」とは何でしょうか。自分では友人だと思っていた人が、相手はそう思っていなかった時、友情は成り立つのでしょうか。友情と恋愛は何が違うのでしょうか。誰もが一度は考えたことがあるこの問題は、すでに古代ギリシャの哲学者たちにとっても重要なテーマでした。彼らの答えを参考にしながら皆さんも一度じっくり考えてみましょう。</p> <p>第3回 「確実性」 フェイクニュースが問題となっている現代では、情報の確実性が求められますが、「確実性」とはいったい何でしょうか。フェイクニュースに限らず、私たちは日ごろから勘違いや見間違いをしますが、どのようなときに間違いを疑い、どのようなときに確実だと言えるのでしょうか。この授業では確実性を認めるための基準について考えます。</p> <p>第4回 「知識」 かつて「神の存在証明」が活発に議論されていた時代がありました。現代ではこの問題に取り組んでいる人は多くありませんが、現代のわたしたちは、「神が存在している(または存在しない)」ことを知っているのでしょうか。神の存在のような問題について、私たちはそもそも何かを「知る」ことができるのでしょうか。この授業では私たちの知識の限界について考えます。</p> <p>第5回 「自由」 「自由」とは何でしょうか。晩御飯のメニューや週末の予定など、普段わたしたちは自由に決めているように見えます。ではそれを決めているのは何でしょうか。脳でしょうか。その場合もし科学が脳の働きを全部解明してしまったら、何を選択するかがわかってしまい、自由はなくなってしまうのではないのでしょうか。あるいは自由は脳の決定とは別の場所にあるのでしょうか。この授業では人間の自由について考えてみます。</p> <p>第6回 「生きる」 わたしが「生きている」とはどういうことなのでしょう。それは単に存在していることと何が違うのでしょうか。「生きることに意味はあるのか」と言うといかにも哲学的に聞こえます。この問いに答えがあるかどうかは別として、皆さんも一度「生きることの意味」について考えてみましょう。</p>

	<p>第7回 「善悪」 「ひとにやさしくすることは善い」とか「嘘をつくことは悪い」などと言いますが、「善い」と「悪い」とはどのように決まっているのでしょうか。しかも悪いことだとわかっているのに、誰でも嘘をついたことがあるでしょう。善い嘘と、悪い嘘があるのでしょうか。この授業では善いと悪いの基準について考えます。</p> <p>第8回 「現実」 現代の科学は客観的で確実な知識を私たちに与えてくれますが、現実には私たちが見ている世界は、科学が示しているそのままではありません。科学的な調査による数値を示して説明されても、そこに「リアリティ(=現実性)」を感じられないと言ったりします。逆に絵画などの創作物の内にリアリティを感じるということがあります。この授業では私たちが見ている、あるいは私たちに与えられているリアリティとはどのようなものなのかを考えます。</p> <p>第9回 「存在」 「京都に多くの大学がある(=存在する)」ということをお私たちは否定しないでしょ。では「心」は「存在する」でしょうか。「心をこめて」とか「心を痛める」とかいう言葉を日常的に使っているのは、「心が存在する」と思っているからではないでしょうか。そうだとすると、目で見ることのできない「心」が存在すると言えるのはなぜでしょうか。私たちが日ごろ当たり前理解している「存在」の意味を考えてみましょう。</p> <p>第10回 「世界」 現代では「世界」という言葉を頻繁に、しかも様々な意味で使っています。例えば「世界記録」というときの世界は、「地球上で」という意味です。一方で「私たちが生きている世界」というときは、ある限られた範囲を指します。異なる範囲が同じように「世界」と呼ばれるのはなぜなのでしょう。私たちが生きている「世界」とはいったいこのことなのか、この授業で考えてみましょう。</p> <p>第11回 「不安」 日常においてふと「不安」な気分が襲われた経験をしたことがあるのではないのでしょうか。「将来への漠然とした不安」というように、何が不安なのかわからないけれど、なんとなく不安だという感情。逃れようとするほど余計に不安になる、この不安の感情はどこからやってくるのでしょうか。19世紀から20世紀の危機の時代を生きた哲学者たちの言葉を参考にこの問題について考えます。</p> <p>第12回 「人間」 「人間」とはどのような存在なのでしょう。かつて西洋では人間は「理性」をもつ動物として、他の動物から明確に区別されていましたが、現代でもこの区分は適切でしょうか。現代ではロボットの性能が上がっています。将来人間と同じ行動をするロボットが作られて、生活を始めた場合、ロボットは人間と見なされるでしょうか。この授業では人間を人間と決めている基準について考えます。</p> <p>第13回 「死」 私たちは自分がいずれ死ぬということは誰でもわかっています。そして人間が死んだ後どうなるかについて誰でも考えたことがあるでしょう。昔から死後の世界については宗教が担ってきました。宗教を信じない人でも、自分の死を恐れたり、他人の死を悲しんだりします。哲学の授業では、死後の世界があるかどうかについて語るのではなく、日ごろ私たちが死にどのように関わっているかについて考えます。</p> <p>第14回 「真理」 「真理」という言葉は何かカッコよく聞こえます。でも「あなたに真理を教えます」と言われると逆にあやしく感じてしまうのはなぜなのでしょう。真理とはそもそも何なのでしょう。「$2+2=4$は真だ」とか「彼は真の戦士だ」というときの「真」とは何を意味しているのでしょうか。真理は古代から現代にいたるまで、哲学の重要なテーマです。授業では哲学者たちの言葉を紹介しつつ、真理とは何かについて考えます。</p> <p>第15回 「歴史」 大河ドラマや世界遺産巡りなど歴史を趣味にする人は多くいますが、なぜ私たちは「歴史」に興味を持つのでしょうか。小説などの物語とは異なり、歴史を学ぶときには、その由来が関心の対象となります。つまり私たちは、一人ひとり固有な人間でありながら、一方ですでに過ぎ去った過去を担っている存在でもあります。この授業では人間の歴史へのかかわりについて考えます。</p>
成績評価	授業中の課題(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	貫茂人『哲学マップ』ちくま新書
履修上の注意	哲学に関する事前知識は必要ありません。授業中に提示されるテーマについて自分なりの答えを考え、疑問がある場合は積極的に質問してください。
予習・復習指導	予習では、テーマの導入となる質問をクラスルームに掲示するので、授業日までに回答すること。復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどういうことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に関心を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。毎回の授業後にレジュメを配布するので、授業中に理解できない部分があったらレジュメを読んで復習しておくこと。1コマに対し、1時間の予習と3時間の復習をすること。
関連科目	美学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。 毎回の課題については、次の回の授業の最初に解説を行う。 期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	教育学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOBI 芸術学部

到達目標	①教育学についての基礎知識を学ぶ ②人間の発達, 成長過程について理解する ③自分自身の教育観を形成する 本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する
授業概要	本授業では、教育心理学や発達心理学にて蓄積された豊富な研究結果を紹介しながら、よりよい教育について考えることを目的としている。前半の授業では、教育の歴史や制度、人間の発達について詳しく学ぶ。後半の授業では、現代の教育現場で問題となっている数々のテーマについて取り上げ、議論する。教育についての多様な価値観を学ぶことを通して、自らの教育観を形成して欲しい。毎回の講義にて、ふり返り用紙の提出と積極的な発言を求める。成績評価は、平常点（個人で選択したテーマによる発表とレポート提出、および毎回の出席）により行う。人間の発達についての知識を前提としているため、「生涯学習論」を受講済みの学生が望ましい。
授業計画 授業内容	第1回 教育学とは？本講義での定義と進め方の説明 第2回 教育学の歴史について 第3回 教育制度と教育資金について 第4回 胎児教育について 第5回 早期教育の是非について 第6回 小学校教育について 第7回 中学校教育について 第8回 いじめについて 第9回 不登校について 第10回 発達障がいと教育について 第11回 貧困と教育について 第12回 学生によるテーマ発表 第13回 学生によるテーマ発表 第14回 学生によるテーマ発表 第15回 総まとめ
成績評価	受講態度100%（個人発表40%+レポート提出30%+平常点30%）で評価する。平常点は、毎講義につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、授業内容の振り返り用紙の提出を求める。また、授業中における以下の行為に関しては、平常点を認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の講義のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく講義開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	木村元・小玉重夫・船越一男『教育学をつかむ』（有斐閣、2009年）
履修上の注意	例年と大きく異なり、毎回の授業でランダムに受講生から意見を求めます。講義内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。

予習・復習指導	前もって配布するレジюме、心理テスト、ワーク用紙などを利用し、指示に従い事前学習を行って下さい。 1コマにつき、4時間の予習復習が望ましい。
関連科目	生涯学習論
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義復習用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE317L

講義名	人間関係の心理臨床		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 古澤 文子	KYOBI 芸術学部

到達目標	人間の発達や、人間関係について理解を深めること。 また、さまざまな視点から物事を捉える姿勢を身につけ、その結果として、自分のこころも他者のこころも尊重し、大切にできるようになることを目標とする。 本科目は本学のディプロマポリシーDPO-1～3に該当する。
授業概要	心理臨床とは目の前の人のこころを共に見つめ、その人が自身の困難を解決し、新しい生き方を見い出す歩みに寄り添う営みである。本授業では、まず第一期で幼児期～老年期にかけての発達課題や人間関係の課題について講義を行う。続いて第二期で、カウンセリングの各理論について講義を行う。最後の第三期では、一期・二期の学びを元に実践的な学習を行う。絵本・物語作品を題材として、心理臨床の観点から考えを深め、他の受講生3～4名と意見交換（ディスカッション）を実施する。なお、特にディスカッションの際には第二期で学ぶ“傾聴”の姿勢を意識し、相手の意見を尊重しながら議論を深めていく態度が求められる。
授業計画 授業内容	<p>第1回 オリエンテーション(授業の進め方、聴講上の倫理・期待・約束等)</p> <p>【第一期】講義：人間の発達とその課題について学ぶ 第2回 幼児期のこころ① 分離一個体化理論、認知発達理論に基づく理解 第3回 幼児期のこころ② 認知発達理論と“あそび”の発達 第4回 児童期・思春期・青年期のこころ 心理社会的発達理論と“疾風怒濤”の内実 第5回 成人期・中年期・老年期のこころ 心理社会的発達理論について“喪失”の観点から</p> <p>【第二期】講義：カウンセリングの歴史や理論、技法について学ぶ 第6回 カウンセリング①こころがまえ ロジャーズ・ピオンから“話を聞く”ことの専門性について 第7回 カウンセリング②非言語 遊戯療法、箱庭療法の働き 第8回 カウンセリング③精神分析 起源と発展、局所論・構造論の理解 第9回 カウンセリング④認知行動療法 第一世代から第三世代までの流れと各理論について 第10回 カウンセリング⑤家族療法 家族システム理論、コミュニケーションの複雑さの理解</p> <p>【第三期】実践：さまざまな視点から物事を捉えようと試みる。 また自身の考えを身近な相手に伝えると共に、身近な相手の考えを丁寧に受け取り、深める。 第11回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床① 同じ物語を、別の視点から読み考える 第12回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床② 目的を正しく捉え、建設的に解決策を考える 第13回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床③ 主人公が曖昧な作品の中で、考えを深める 第14回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床④ 曖昧な物語から、生きることについて考える 第15回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床⑤ 物語の“終わり”から、生きることについて考える</p>
成績評価	毎回の授業後に提出する小レポート（60%）＋期末レポート（40%）。
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	授業時に資料配付。 『絵本がひらく心理臨床の世界 こころをめぐる冒険へ』（前川・田中著）新曜社 『河合隼雄のカウンセリング教室』（河合著）創元社 その他、授業で扱う絵本・物語作品の通読を推奨する。

履修上の注意	身近な人間関係や心のありようについて、自身の日々の体験に関心に向けながら授業に臨むこと。特に第三期で行う講師や他の受講生との意見交換（ディスカッション）には、積極的な参加が求められる。なお、授業に参加しているとは言えない態度が確認できた場合、その回の小レポートの得点を認めないことがある。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。毎回の授業資料で紹介した事項を日常での自身の経験や、物語作品と結び付けて見直すこと。また可能な範囲で、授業でとりあげる絵本・物語作品を読み進めること。あるいは、それ以外の様々なジャンルの作品にも積極的に触れ、毎回の授業で取り上げた事項と絡めて、こころや人間関係の側面から考察すること。
関連科目	人間関係の科学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業後に提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

教養教育科目＜学部共通＞ 2. 伝統文化科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

講義名	日本工芸美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOBI 芸術学部

到達目標	日本工芸美術史の流れを、各分野・各時代ごとに概観し、それぞれの作品をより深く鑑賞する能力を身につける。 この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。
授業概要	この授業では、日本の美術史のうち工芸を対象とした日本工芸美術史を概観する。工芸は日常的に使っている道具や生活雑貨のうち実用性を追求しながらも芸術的な美しさを感じる技術や作品のことをいい、時代が変わってもその技術や美意識を守りながら現代まで進化を遂げている。近年では、工芸を中心とした観光や体験などによるまちづくりが活発であり、地域の歴史や技術を次世代に継承することに貢献している。 工芸の分野は、金工や漆芸、陶磁、染織など多岐にわたり、分野ごとに各時代の代表的な作品を取り上げて画像による作品鑑賞を行い、各時代、各地域ごとにその素材を活かした様式的・技法的特徴を解説する。
授業計画 授業内容	第 1 回 概説 講義の進め方と講義計画 第 2 回 金工史 (古代) 第 3 回 金工史 (中世) 第 4 回 金工史 (近世) 第 5 回 漆芸史 (原始・古代) 第 6 回 漆芸史 (中世) 第 7 回 漆芸史 (近世) 第 8 回 陶磁史 (原始・古代) 第 9 回 陶磁史 (中世) 第 10 回 陶磁史 (近世) 第 11 回 染織史 (原始・古代) 第 12 回 染織史 (中世) 第 13 回 染織史 (近世) 第 14 回 民藝・農民美術 第 15 回 まとめ 近代以降、現代にいたる工芸史
成績評価	期末レポート (70%)、毎回提出する講義内容の要約レポート (30%)
参考書 参考資料	日高薫『日本美術のことは案内』小学館 2003年
予習・復習指導	次回の講義内容に関する用語や事項を調べるなど事前学習をしておくこと (30分程度)。 講義後にノートや配布プリントを見直し、講義中に紹介した参考文献を読むなど復習すること (30分程度)。 また講義中に紹介する博物館や美術館にて積極的に作品を鑑賞することを期待する。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	質問などに対するフィードバックを次回以降の授業内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいており、国内外から年間5千万人を超える観光客が訪れる。京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。京都学というタイトルから京都観光・歴史文化を学ぶことを連想する場合もあるが、本講座では京都の行政を中心とした学びである。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回(オムニバス方式) ※第1回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇</p> <p>第1回 「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第2回 留学生施策の推進／総合企画局 国際都市共創推進室 大学政策担当 第3回 時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第4回 みんなでつくる京都観光／産業観光局観光MICE推進室 第5回 博物館で学んでみませんか？／教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進担当 第6回 都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第7回 京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第8回 わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第9回 京都駅エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室プロジェクト推進第三担当 第10回 美術館とは何か／文化市民局文化芸術都市推進室 美術館 第11回 みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！／保健福祉局障害保健福祉推進室 第12回 家族を守る、地域を守る消防団／消防局消防団・自主防災推進室 第13回 東山区のまちづくり 山紫水明の都 結び合う心 東山の未来／東山区役所地域力推進室 第14回 SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合企画局総合政策室SDGs・レジリエントシティ推進担当 第15回 まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／副学長 新谷裕久</p> <p>※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。</p>
成績評価	<p>受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書 参考資料	京都市ホームページ（ www.city.kyoto.lg.jp ）

履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	実務経験教員（京都市職員）が担当 担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として京都の行政との連携事業に携わっており、京都学について包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	京都学演習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	久保田 康夫	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	藤井 容子	KYOB I 芸術学部

到達目標	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	本授業では、「京都」を対象とし、各専攻の専門性に基づいた歴史的知識や見識を深めることを目的とします。 京都は、日本の歴史・文化の中心地として発展し、多種多様な文化と密接に関わってきました。建築・美術・宗教・芸能・文学・民俗学・史学などの幅広い視点から京都を学び、自身の持つ専門技術と複合させて作品制作を行います。新たな「京都」の価値や魅力を発信していきます。 また、現地調査や文献調査、京都で活躍する様々な分野の専門家からのレクチャーを通じて、実証的なアプローチを身につけます。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 演習全般に関する説明（グループ編成の場合あり） 第2回 調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム1-調査内容の作成 途中回 演習プログラムの内容についての助言 プログラム2-調査および成果品の作成 第15回 演習プログラムの内容確認 成果品書の提出 評価 ※京都市内の調査対象に直接アプローチする。 ※スケジュールや内容は変更がある場合があります。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし

参考書 参考資料	『京都府の歴史散歩上・下』京都府歴史遺産研究会編 山川出版 『アジア古都物語 京都千年の水脈』NHK出版 『景観を歩く京都ガイド』清水泰博 岩波アクティブ新書 『京都まち遺産探偵』円満字洋介 淡交社 『京都学』1巻～7巻 京都学研究会
履修上の注意	・特にフィールドワーク・校外活動の際は、規律のある行動を取るようにつけてください。 ・授業外にも制作時間を確保してください。
予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味（視点）と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財情報デザイン論Ⅰ」「文化財情報デザイン論Ⅱ」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	進捗報告、成果品の講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（28年間）
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	京都学演習 I (工芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「京都」という地域を主な対象として、様々な知識や見識を身につけることを目標にする。同時に調査・観察・研究した内容を的確に発信するために、写真撮影などの技術習得も併せて目標とする</p> <p>この科目はこの科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>長い歴史をもつ京都の街の成り立ちや文化など、多面的な魅力を考察する。また、これによって得た情報などを適切な形で他者へわかりやすく伝えるために、デジタルカメラなどを用いた写真撮影の基礎技術を学習する。これは自身の作品を情報発信する場合にも役立つものである。習得に当たっては屋内での講習と講評が主になるが、フィールドワークの形で実際に京都の町中での撮影も実施する。撮影技術の習得のみではなく表現力・発信力を高めるための表現媒体としての写真である、との考え方のもと作品としての表現・作り込みの方法についても経験を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週1日</p> <p>第1週 概要説明 撮影講習1：まずはオートでその1 第2週 カメラの原理と構造について 撮影時のサイズやメモリーの容量について 前回課題合評 第3週 撮影講習2：まずはオートでその2 おまかせモードのあれこれ 第4週 撮影講習3：レンズの選択 標準・広角・望遠 単眼とズーム 明るさ (f 値) ピント位置・置きピンなど 前回課題合評 第5週 撮影講習4：絞り優先モード 前回課題合評 第6週 撮影講習5：シャッタースピード優先モード 前回課題合評 第7週 撮影講習6：露出補正とは 前回課題合評 第8週 撮影講習7：色温度とホワイトバランス 前回課題合評 第9週 撮影講習8：ライティングと物撮り・偏光フィルター・マクロ撮影 前回課題合評 第10週 フィールドワーク1 第11週 フィールドワーク1合評 第12週 フィールドワーク2 第13週 フィールドワーク2合評 第14週 スライドショー動画の作成について 第15週 前回課題合評 総括</p>
成績評価	<p>基本的には受講態度30%及び撮影技術講習ごとに課される課題写真の提出と内容70%により評価するが、コンクールへの応募など外部発信への試みがある場合は更に高評価を与える可能性がある。</p>
教科書	なし。講習に使用するP.P.のデータを活用する。
参考書 参考資料	<p>「京都の大路小路」「続・京都の大路小路」千宗室 森谷剋久監修 小学館 「京都のトリセツ」昭文社旅行ガイドブック編集部編 昭文社 「京都レトロモダン建物めぐり」片岡れいこ 著 メイツ出版 「大人の京都探訪」リーフパブリケーションズ 編 「商品撮影の基本を学ぶ プロが教える、上達の早道」熊谷晃 著 玄光社</p>
履修上の注意	<p>特に自身の京都における興味(視点・モチーフ・調査対象)を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを事前に学習すること。また日常、街中の様々なものごとをよく観察しておくこと。</p> <p>カメラなど撮影機材についての知識・扱い方についても同様に、予習復習を行い身につけるようにする。</p> <p>成績評価の欄にも記してあるが、授業回ごとに課題が設定されることが多い。課題提出を確認した上ではじめて出席扱いとなり、その回の素点・成績が付与される。よって課題未提出が多い場合は平均の点数が下がり、成績が不可になる可能性が出てくるため注意すること。</p>

予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「日本美術史」「日本工芸美術史」「日本文化史」「日本住居史」「日本建築史」「文化財概論」「博物館概論」「京都学」「歴史学」
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に行う講評の中でフィードバックを行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	京都学演習 I (建築)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOBUI 建築学部
教授	高田 光雄	KYOBUI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBUI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBUI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBUI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都市らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史(由来、建設経緯や設計者など)や特性(意匠的・構造的特徴など)を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像(スケッチあるいは写真)、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション、課題説明 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク② 第4回 フィールドワーク③ 第5回 フィールドワーク④ 第6回 フィールドワーク⑤ 第7回 フィールドワーク⑥ 第8回 エスキスチェック① 第9回 追加調査① 第10回 追加調査② 第11回 エスキスチェック② 第12回 資料作成① 第13回 資料作成② 第14回 プレゼンテーション 第15回 成果物の評価フィールドワーク</p> <p>※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況に応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	提出シート、プレゼンテーション

教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、京町家再生論
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	（公財）京都市景観・まちづくりセンター在籍時に地域のまちづくり活動支援を担当していた経験を 活かし、京都のまちに関する幅広い知識と調査フィールドとのネットワークを提供している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（華道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高林 佑丞	KYOBUI 芸術学部

到達目標	華道の基本的な所作を習得し、いけばなの基礎を理解する。 この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	古来、自然を身近な存在とし多くの恵みを受けていた日本人は、自然に対して畏敬の念をもち、衣食住のみならず、植物性の文化を生み出した。仏教伝来とともに仏前供花からはじまるいけばなは、室町時代に理論が確立し道としての華道となる。 伝統芸術Ⅰ（華道）では、永い歴史の中で受け継がれてきた、和と美の精神をもとに基本的な華道具の扱い方や植物の要素、花器との関係等を学び、いけばなの基礎の形や姿を学ぶ。 さらに、季節の花や自然の変化に対する感受性を養い、作品を通じて自らの感性を表現する力を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義：日本の自然観・いけばなの様式・華道具について 第2回 自由花 自然的表現と意匠的表現・草木の性状を活かす 第3回 自由花 自然的表現 基本形態Ⅰ 第4回 自由花 自然的表現 基本形態Ⅱ 第5回 自由花 いけばなとアレンジメントの違い 第6回 講義：生花概論 自然と出生 第7回 生花 一種生 役枝の規矩性 第8回 自由花 意匠的表現Ⅰ 第9回 自由花 意匠的表現Ⅱ 第10回 遊心 いけばなと情操教育 第11回 生花 一種生 陰陽について 第12回 生花 二種生（根の意義） 第13回 自由花 造形表現 線・面の変化 第14回 講義 いけばなに見る死生観 第15回 前期まとめ
成績評価	授業態度（60%）、技術の習熟度および作品（40%）
教科書	はじめる いけばな 学校華道
参考書 参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版 いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	演習後、持ち帰った花を生け直し、復習すること。 花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。 1コマに対し、1時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（書道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川瀬 みゆき	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>書道の伝統に培われた古典作品を学び、「臨書」の実習を通して技芸向上を目指す。また漢字の時代背景を知ることによって書道の奥深さを知り、線一本の美しさや文字造形の魅力に気づく感性を高める。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	<p>書道の稽古において最も重要とされる「臨書」による練習と添削の反復で、漢字の基本形および各書体の特徴を学びながら毛筆技巧の向上を目指す。前期では中国と日本の王道といわれる有名な古典作品（楷書・行書・草書）を題材とする。また「臨書」の実習経験が後期に行う書の創作につながることを意識づける。さらに講義の時間も設け、紀元前に生まれた漢字の歴史解説、後世に残る名筆の鑑賞も交え、時代とともに変貌を遂げた各書体の個性や魅力を様々な角度から掘り下げることで、「臨書」の実習がより興味深いものになる授業内容とする。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 「古代文字から楷書成立までのストーリー」解説（漢字5書体の変遷から書道の歴史を紐解く）／時代別の古典作品鑑賞／臨書の重要性と練習法の解説／道具の解説</p> <p>第2回 【臨書①：楷書】 唐の四大家の解説および「九成宮醴泉銘」の実習（引き締まった線と形から端正美を学ぶ）</p> <p>第3回 【臨書②：楷書】 「孔子廟堂碑」の実習（力を内に秘めた穏やかな楷書の表現）</p> <p>第4回 【臨書③：楷書】 「雁塔聖教序」の実習（張りのある細身の線で筆先を利かせる練習）</p> <p>第5回 【臨書④：楷書】 「顔氏家廟碑」の実習（力感あるどっしりとした表現）</p> <p>第6回 王羲之の解説／行書・草書の古典作品鑑賞と基本練習（王羲之の作品を例にして）</p> <p>第7回 【臨書⑤：行書】 「蘭亭序」の実習（やわらかさと緊張感のある線を同時に学ぶ）</p> <p>第8回 【臨書⑥：行書】 「蘭亭序」の実習（⑤と文字を変えて）</p> <p>第9回 【臨書⑦：草書】 「十七帖」の実習（ゆったりとした運筆で草書の字形を学ぶ）</p> <p>第10回 【臨書⑧：草書】 「十七帖」の実習（⑦と文字を変えて）</p> <p>第11回 【臨書⑨：行・草書】 「風信帖」の実習（“三筆”より空海を取り上げ日本の書的美を学ぶ）</p> <p>第12回 【臨書⑩：行・草書】 「風信帖」の実習（⑨と文字を変えて）</p> <p>第13回 【臨書⑪：楷・草書】 「真草千字文」の実習（漢字練習の極則“千字文”より楷書と草書の対比を学ぶ）</p> <p>第14回 【臨書⑫：楷・草書】 「真草千字文」の実習（⑪と文字を変えて）</p> <p>第15回 【臨書⑬：楷・草書】 「真草千字文」の実習（⑫と文字を変えて）</p>

成績評価	授業態度（授業への参加度含む）50%、提出作品の採点50%
教科書	書 I [38光村 書I 308] 平成29年度版（光村図書）
参考書 参考資料	図説 中国書道史（芸術新聞社）
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。 ・書道用具の準備と片付けをすみやかに行うこと。特に墨の処理には注意を払う。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の教科書【書I】 8～68ページ「漢字の書」の章、132～155ページ「資料」の章を事前に読み、古典作品をじっくりと鑑賞して字形や線質を理解すること。 ・授業計画に記載の作品名とその作者について事前に調べること。 ・授業で配布する資料を読み理解すること。 ・1コマに対し、1時間の事前事後学修を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削。但し提出作品は採点のみ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室 瑞恵	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	手塚 博子	KYOBI 芸術学部

到達目標	繰り返し稽古をすることによって、所作の道具の扱いに慣れる。
授業概要	<p>日本の総合文化を含む茶道(茶の湯)とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。実践を通して、それぞれの所作の意味、道具の位置づけ、その扱い方を学ぶ。掛け軸、花、抹茶、お菓子等を通して、日本の四季やしきたりに触れる。</p> <p>授業形態として実習を重きに置き、体験として干利休のお墓にお参りをし、本堂を見学をして、書院でお抹茶、お菓子を頂きます。</p> <p>重要指定文化財：半床庵久田家の見学を頂きます。実習と致しましては、基本となる薄茶のたて方をしっかり身につけることが、お茶の授業として初段階です。</p> <p>一日でも早くけいこを積むことが求められる今日ですから生徒が集中して基本をみっちり身につけて頂くように進めていけるようにしたいと思っています。楽しくお茶の授業をしていただきますように指導していきたいと思っています。</p> <p>授業としては席入、茶室への入り方、床の拝見の仕方、掛物を拝見して花入、花の拝見してお菓子の取り方、お菓子の頂き方、薄茶の作法、薄茶の頂き方をしていきます。</p> <p>本科目はDP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 「表千家の一年」 茶道を学ぶに当たって概要を説明、自己紹介</p> <p>第2回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等)</p> <p>第3回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等)</p> <p>第4回 茶室での立ち居振る舞い(座り方 立ち方 お辞儀の仕方等)</p> <p>第5回 席入り 床の拝見の仕方</p> <p>第6回 席入り 床の拝見の仕方</p> <p>第7回 席入り 床の拝見の仕方</p> <p>第8回 茶室の畳の説明、席入 床の拝見</p> <p>第9回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第10回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第11回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第12回 道具(薄茶器 茶杓)の拝見</p> <p>第13回 道具の拝見、点前にむけて割稽古(袱紗の扱い)</p> <p>第14回 点前にむけて点前を始める</p> <p>第15回 点前にむけて点前を始める</p>
成績評価	授業内容理解度 30% 授業態度 70%
教科書	決定版 「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	装飾品(時計 指輪 ブレスレット、長いネックレス) 不着用 白靴下 長髪はまとめる 本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。
予習・復習指導	初めての茶の湯の本を読んでおいてください。 1コマに対し1時間の予習復習をすること。
教員の業務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（華道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 高林 佑丞	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>いけばなにおける 和 の本質を十分に理解し、自身を反映するいけばなを創作する。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>古来、自然を身近な存在とし多くの恵みを受けていた日本人は、自然に対して畏敬の念をもち、衣食住のみならず植物性の文化を生み出した。仏教伝来とともに仏前供花からはじまるいけばなは、室町時代に理論が確立し道としての華道となる。</p> <p>「伝統芸術入門Ⅱ」では、いけばなの歴史をひも解きながら、更なる演習を積み重ね、伝統文化といけばな芸術について思考する機会とする。</p> <p>さらに、歴史をもとにいけばなにおける普遍的な和と美の本質を十分に理解し、草木美を生かした表現力を身に付けることで、作者自身の想いが反映するいけばなを創作する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 講義：いけばなの歴史</p> <p>第2回 生花 一種生</p> <p>第3回 生花 二種生</p> <p>第4回 自由花 自然的表現</p> <p>第5回 自由花 意匠的表現</p> <p>第6回 講義：行事と環境</p> <p>第7回 生花 二種生</p> <p>第8回 生花 三種生</p> <p>第9回 自由花 技術の応用と表現</p> <p>第10回 自由花 自由構成</p> <p>第11回 生花 五ヶ条・七種伝</p> <p>第12回 生花 一種生（洋花の現代空間への活用）</p> <p>第13回 グループ制作Ⅰ</p> <p>第14回 グループ制作Ⅱ</p> <p>第15回 まとめ 大巻伝の考察と草木の生命感</p>
成績評価	授業態度（60%）、技術の習熟度および作品（40%）
教科書	はじめる いけばな 学校華道
参考書 参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版 いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	<p>演習後、持ち帰った花を生け直し、復習すること。</p> <p>花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。</p> <p>1コマに対し、1時間の復習をすること。</p>
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（書道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川瀬 みゆき	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「篆刻」、「漢字仮名交じり書」といった創作性の高い書芸の実習を通し、作品を完成させるまでの一連の工程を体得する。さらに、書と篆刻の作品制作のポイントとなる「余白美」の重要性を学び、空間構成力を養う。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>臨書では紀元前の漢字（隸書・篆書）を題材とし、特徴ある筆遣いや絵姿のような古代文字の面白さに触れることで、漢字への興味を高める。さらに隸書・篆書の臨書経験をもとに、篆書を石に彫る「篆刻」の実習へと進み落款印（名前印）を制作する。「篆刻」は書道と同じ分野でありながらも工芸美術としての要素が強く、ものづくりの楽しさも体得できる。また、「漢字仮名交じり書」という日本独自の「読める書」を取り上げ、自詠（自作の詩を詠む）から書の創作、落款の押印まで行い、オリジナルの書作品を仕上げる。「漢字仮名交じり書」では「余白美」を取り上げ、書の制作を通して芸術における空間構成の重要性を学ぶ。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 古代文字の解説（漢字の起源を知る）／隸書・篆書の古典作品鑑賞と基本練習</p> <p>第2回 【臨書⑭：隸書】 「乙瑛碑」の実習（逆筆・波磔の習得と粘り強い線の表現）</p> <p>第3回 【臨書⑮：篆書】 「石鼓文」の実習（古代文字の字形と線質を学ぶ）</p> <p>第4回 【臨書⑯：篆書】 「石鼓文」の実習（⑮と文字を変えて）</p> <p>第5回 【臨書⑰：篆書】 「甲骨文」の実習（亀の甲羅に刻んだ最古の漢字を体験）</p> <p>第6回 【篆刻①】 解説と作品鑑賞／印稿作成</p> <p>第7回 【篆刻②】 落款印（篆書・一文字） 15mm角制作（運刀→補刀→押印）</p> <p>第8回 【篆刻③】 落款印（篆書・二文字） 21mm角制作（印稿作成）</p> <p>第9回 【篆刻④】 落款印（篆書・二文字） 21mm角制作（運刀→補刀→押印）</p> <p>第10回 【篆刻⑤】 印影の添削→補刀→押印→鑑賞と評論</p> <p>第11回 【漢字仮名交じり書①】 解説と作品鑑賞／試作</p> <p>第12回 【漢字仮名交じり書②】 自詠による書の表現について（詩文や言葉を考える）</p> <p>第13回 【漢字仮名交じり書③】 創作（独創的な表現の試み）</p> <p>第14回 【漢字仮名交じり書④】 創作（③と文字を変えて）</p> <p>第15回 【漢字仮名交じり書⑤】 創作仕上げ→押印／制作意図発表</p>

成績評価	授業態度（授業への参加度含む）50%、提出作品の採点50%
教科書	書 I [38光村 書I 308] 平成29年度版（光村図書）
参考書 参考資料	図説 中国書道史（芸術新聞社）
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。 ・書道用具の準備と片付けをすみやかに行うこと。特に墨の処理には注意を払う。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の教科書【書I】 98～111ページ 「漢字仮名交じり書」の章、115ページ（差し込みの冊子）の「篆刻ブック」を事前に読んでおくこと。 ・「篆刻」「漢字仮名交じり書」について調べ、できるだけ多くの作品を事前に鑑賞しておくこと。 ・授業で配布する資料を読み理解すること。 ・1コマに対し、1時間の事前事後学修を行うこと。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削。但し提出作品は採点のみ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室 瑞恵	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	手塚 博子	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>繰り返し稽古することによって、所作の道具の扱いに慣れる。 お茶会に行ってお道具を拝見する楽しみが出来る。</p> <p>この科目はDPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	<p>日本の総合文化を含む茶道(茶の湯)とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。今回は後期、炉のしつらえにして授業形態として実習を重きに置き、体験として干利休のお墓にお参りをし、本堂閉陰席を見学をして、書院でお抹茶、お菓子を頂きます。</p> <p>前期には重要指定文化財：半床庵久田家の見学をさせて頂く様にしております。</p> <p>実習と致しましては、基本となる薄茶のたて方をしっかり身につけることがお茶の授業として初段階です。一日でも早く稽古を積むことが求められる今日ですから生徒が集中して基本をみっちり身につけて頂くように進めていきたいと思っています。楽しくお茶の授業をしていただきます様に指導していきたいと思っております。1日5コマの授業ですので一日集中して指導が出来ます。</p> <p>授業としては席入、茶室への入り方、お菓子の取り方、お菓子の頂き方、薄茶の作法、薄茶の頂き方をして頂きます。床の拝見の仕方、掛物を拝見して花入、花の拝見を通して日本の四季やしきたりに触れる。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 「表千家の一年」茶道を学ぶに当たって概要を説明、自己紹介</p> <p>第2回 茶室での立ち居振る舞(座り方、立ち方、お辞儀の仕方等)</p> <p>第3回 茶室での立ち居振る舞(座り方、立ち方、お辞儀の仕方等)</p> <p>第4回 茶室での立ち居振る舞(座り方、立ち方、お辞儀の仕方等)</p> <p>第5回 席入、床の拝見の仕方</p> <p>第6回 席入、床の拝見の仕方</p> <p>第7回 席入、床の拝見の仕方</p> <p>第8回 茶室の畳の説明、席入、床の拝見</p> <p>第9回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第10回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第11回 お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方、水屋の仕事</p> <p>第12回 道具(薄茶器、茶杓)の拝見</p> <p>第13回 道具の拝見、点前にむけて割稽古(袱紗の扱い)</p> <p>第14回 点前にむけて点前を始める</p> <p>第15回 点前にむけて点前を始める</p>
成績評価	授業内容理解度 50% 授業態度 50%
教科書	「初めての茶の湯」 主婦の友社
参考書 参考資料	菅田健三著 「茶席の花十二ヶ月」 講談社
履修上の注意	装飾品(時計 指輪 プレスレット、長いネックレス) 不着用 白靴下、長髪はまとめる 本科目を履修できる者は、前年度の所定期間内に履修申請を行った者を対象とする。
予習・復習指導	初めての茶の湯の本を読んでおいてください。 1コマに対し1時間の学習をすること。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	日本文化史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 八田 誠治	KYOB I 芸術学部
	岡田 秀之	

到達目標	
履修上の注意	
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

講義名	京都学演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>京都に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、行事などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>京都には山や水などの豊かな自然に恵まれ、平安京創建以来長い歴史の中で、様々な人々の生業が営まれてきた。</p> <p>社寺建築、民家などの建造物や庭園などが造られ、路地や水路などのインフラを含む歴史的町並みが形成されると、その中で茶道や華道、香道や祭り、芸能などの文化も充実し、また、これらは時代の趨勢の中で変遷し、現在みる歴史文化都市として発展してきたのである。</p> <p>当演習では、このように重層的な構造を持つ京都をフィールドワークにより体感、取材し、ポスターを作成することにより歴史文化を内外に発信することを目論む。</p>
授業計画 授業内容	<p>フィールドワークは2週間おきに土曜日に実施する。 最終回は作品（ポスター）の講評会を行う。</p> <p>第1回 5/10(土)13時～17時50分 岡崎 第2回 5/24(土)13時～17時50分 南禅寺～哲学の道 第3回 6/7(土)13時～17時50分 京都大学 第4回 6/21(土)13時～17時50分 京都御苑 第5回 7/1～24 祇園祭 第6回 7/29(火)作品講評会</p>
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書 参考資料	特になし
履修上の注意	見学、調査を行う際は、感染症の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、十分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説および現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法を体得する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR407S

教養教育科目<学部共通> 3. コミュニケーション科目

京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

講義名	コミュニケーション論		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOB I 芸術学部

到達目標	①対人コミュニケーションの仕組みを理解し、②対人コミュニケーション力を高め、③他者との円滑な人間関係を築く力を養うことを目標とする。 本科目は、DP0-1、DP0-2に該当する
授業概要	本授業では、対人コミュニケーションに的をしぼり、社会心理学や言語学、文化人類学などの研究分野で蓄積された豊富な研究結果を理解することを通して、対人コミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。主に対人場面でのコミュニケーションに特化したテーマを取り上げながら、コミュニケーション理論とスキルの両方の理解と習得を目指す。授業前半の回では、コミュニケーションの仕組みや理論を学び、授業後半の回では実践的なコミュニケーションスキルの習得に重きをおく。スキル習得にあたっては、受講生同士のペアワークや個人発表の機会を多く取り入れる。授業内で設定された個人発表の機会では、積極的な参加を求める。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション、各回の内容説明、コミュニケーション研究の概要 第2回 対人コミュニケーションの仕組みについて学ぶ 第3回 伝達することの難しさについて、ペアワークを通して学ぶ 第4回 非言語コミュニケーションの研究分野を俯瞰する 第5回 様々な非言語コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第6回 言語コミュニケーションについて学ぶ 第7回 異文化間コミュニケーションについて学ぶ、個人の異文化体験発表を聴く 第8回 日本人のコミュニケーション特性について学ぶ 第9回 コミュニケーションスキル（基礎） ペアワークで学ぶ 第10回 コミュニケーションスキル（発展） ペアワークで学ぶ 第11回 恋愛コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第12回 伝える力とは？具体的に考えてみる 第13回 アサーティブコミュニケーションの理論について学ぶ 第14回 アサーティブコミュニケーションスキルの実践 第15回 アンガーマネージメントをワークを通して学ぶ
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、授業内容の振り返り用紙の提出を求める。また、授業中における以下の行為に関しては、平常点を認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の講義のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	「コミュニケーション学がわかるブックガイド」 東京経済大学コミュニケーション学部（監修）NTT出版
履修上の注意	例年と大きく異なり、毎回の授業ではランダムに受講生から意見を求めます。特段の理由がない限り、ワークには必ず参加してもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。

予習・復習指導	事前に配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙など、事前に連絡のあった授業の前には、指示に従い事前学習を行って下さい。その他、予習や復習としてコミュニケーションに関する本を読むなど、自主的に学習して下さい。 1コマについて2時間の予習復習を望みます。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。また、個人的に問われた質問についても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-C0101S

講義名	英語演習 I (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有（上記参照）
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Dクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Eクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習 I (Fクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英語演習Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験

教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ (TOEIC支援A)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部 幹也	KYOBI 芸術学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。 この科目は、DP0-2及びDP0-3に該当する。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とします。ビジネス分野における語彙の蓄積や、あまりなじみがないであろうビジネスに関する話題にも触れながら、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテストのスコアアップを目指します。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指します。TOEICテストのスコアアップにとどまらず、英語を使うことができる利点をどこよりもより実感しやすい京都という地の利を最大限活用しながら、英語という言葉語に向き合ってもらえたらと思います。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト/Unit 01 人物の動作と状態/表・用紙 3 単語テスト/Unit02 疑問詞を使った疑問文/広告 4 単語テスト/Unit03 日常場面での会話/品詞 5 単語テスト/Unit04 アナウンス・ツアー/動詞 6 単語テスト/Unit05 物の状態と位置/チャット 7 単語テスト/Unit06 基本構文と応答の決まり文句/手紙・Eメール 8 単語テスト/Unit07 電話での会話/代名詞・関係代名詞 9 単語テスト/Unit08 ラジオ放送・宣伝/接続詞・前置詞 10 単語テスト/Unit09 Yes/No疑問文/ダブルパッセージ 11 単語テスト/Unit10 オフィスでの会話①/Part5復習 12 単語テスト/Part11 留守番電話/トリプルパッセージ 13 単語テスト/Unit12 オフィスでの会話②/Part7復習 14 単語テスト/Unit13 Part1/2復習/時制・代名詞・語彙問題 15 単語テスト/Unit14 トーク・スピーチ・会議の一部/つなぎ言葉・文の挿入
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%） 受講態度（40%） 期末テスト（30%）
教科書	テキスト：MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] 桐原書店
参考書 参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 朝日新聞出版 ￥890円＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	予習：単語テスト用に指定された単語を口に出しながら覚えて来る。（1時間程度） 復習：授業で取り組んだ問題を解きなおし、聞き直し/読み直し/ポイントの確認を行う。（2時間程度）
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の實務経験	複数の大学と、複数の企業において文法、読解、聴解、医療関連英語や各種英語試験対策などの指導
教員の實務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ (TOEIC支援B)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。TOEIC支援として毎回模擬テストを実施する。到達目標として、学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期に身につけた英会話力をもとに、聞きとりの力を向上させる。毎回TOEIC模擬テストを実施し、文法、読み取りの力もあわせて後期の学内団体受験にむけて実力をつける。 Part 1形式の写真問題は確実に得点できるようにさまざまなシーンを英語で表現する練習をする。 Part 2形式の短答式質疑応答は、短い問いとそれに対する応答を自分でいくつも話してみることで、会話に慣れるようにする。Part 3形式の会話聞き取り、Part 4形式のナラティブ聞き取り問題は、語彙数を増やしながら繰り返し英文を聞くことで力をつける。文法と読解問題は「英語問題のための問題」ではなく、実社会で現実に使う文書を実際に読んでいくつもりで取り組んでいく。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1 第2週 TOEIC形式英語演習 2 第3週 TOEIC形式英語演習 3 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5 第6週 TOEIC形式英語演習 6 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8 第9週 TOEIC形式英語演習 9 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11 第12週 TOEIC形式英語演習 12 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 時間のある時に常にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。 語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。

予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 を使って、語彙を増やしてください。毎回の模擬テストでわからなかった箇所は必ず後でおさえるようにしてください。
関連科目	英語演習I 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（基礎）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBUI 芸術学部

到達目標	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とするクラスです。前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。大学入学レベルに達する、あるいは近づくことを目標とする。TOEIC団体受験で350点から400点をめざす。
授業概要	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とする。前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。具体的にはまずbe動詞と本動詞に注目して、英文の語順に慣れる。そのうえで未来形や過去形にその語順を適用する。助動詞を学び直し、完了形とはどのような状態の表現なのかをゆっくりと、しっかりと身につけていく。受動態は書き換え問題のような技術ではなく、どのような場面で受動態を使うのか日常会話の中で考え、実際に話してみる。仮定法は難解な文法事項ではなく、普段の会話に使用する言い回しであることに気づき、徐々に大学入学レベルの英語力に近づく。
授業計画 授業内容	第1週 基礎英語演習 1・基礎英語文法 第2週 基礎英語演習 2・基礎英語文法 第3週 基礎英語演習 3・基礎英語文法 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第5週 基礎英語演習 4・基礎英語文法 第6週 TOEIC形式英語演習 5・基礎英語文法 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第8週 基礎英語演習 6・基礎英語文法 第9週 基礎英語演習 7・基礎英語文法 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第11週 基礎英語演習 8・基礎英語文法 第12週 基礎英語演習 9・基礎英語文法 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。応用練習 第14週 基礎英語演習 10・基礎英語文法 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	特にありません。
履修上の注意	これは中学生英語からの「やり直し英語」ですので、中学卒業レベル以上の英語力のある人は履修しないでください。
予習・復習指導	授業でわからなかった箇所はメールで質問してください。
関連科目	英語演習Ⅰ 英語演習ⅢⅠ 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。

教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（建築分野）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。建築関連の英文資料を読む・聞くの力をつけるために使い、建築の知識を確認しながら、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、建築関連の資料を使用して建築知識を確認しながら英語を読む・聞く・話す力をつける。フロアプラン、デザインとスタイル、色と材料等に加え、サステナブルなデザインについても考察する。オンライン情報から建築物や建築家に関する英文資料を読み、また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。西洋建築だけではなく、地元の特性を生かして「京町家」のさまざまな特徴について本学を訪れる留学生に英語で簡単に説明できるようにしてみる。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・建築英語紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・建築英語紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・建築英語紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・建築英語紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・建築英語紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・建築英語紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・建築英語紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・建築英語紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・建築英語紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・建築英語紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。

予習・復習指導	毎回の授業でわからなかった箇所は必ず後でおさえるようにしてください。発表等の予習はそのつど教室で指示します。
関連科目	英語演習I 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英語演習Ⅱ（世界遺産）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。世界遺産の資料を読む・聞くの力をつけるために使い、地理・歴史の知識に触れながら、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、視野を世界に広げ、ユネスコの世界遺産のうちタージ・マハル（インド）マチュ・ピチュ遺跡（ペルー）アルハンブラ（スペイン）フェズ旧市街（モロッコ）モンサンジェル（フランス）など、建築・美術工芸にかかわる文化遺産を中心に学ぶ。英文資料を読み、オンライン情報から英語動画を視聴し、地理・歴史を含む世界遺産の知識とともに英語の読み・聞く力をつける。また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・世界遺産紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・世界遺産紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・世界遺産紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・世界遺産紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・世界遺産紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・世界遺産紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・世界遺産紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・世界遺産紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・世界遺産紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・世界遺産紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 時間のある時に常にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。

予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 などを使って、語彙を増やしてください。毎回の授業でわからなかった箇所は必ず後でおさえるようにしてください。
関連科目	英語演習I 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	情報基礎演習 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活において演習、実習、講義等の授業内で必要とされる基礎的なPCスキルを習得する。 ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopの基本的操作を習得する。 ・自分の意見を人に伝えるためのプレゼンテーション力や協調性を身につける。 <p>この科目は、DPO-2、DPO-3に該当する。</p>
授業概要	<p>大学での様々な講義、演習、実習等の受講時に、必要とされるPCアプリケーションの基本的操作を習得することを目的とする。</p> <p>レポート作成や、課題提出方法、プレゼンテーションの方法を学び、各授業でスムーズに対応出来るようにする。</p> <p>大学ではプレゼンテーションをする機会が多いため、PowerPoint等を使用したプレゼン資料作成をアプリケーションのスキル習得と共に学生同士のコミュニケーションを図る。</p> <p>またデザイン系ソフト (AdobeIllustrator、AdobePhotoshop) ではロゴやイラスト、広告作成、生成Aiを利用した画像編集など自由に描画、編集する為の基本操作を学ぶ。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 1回/1コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】 大学生生活において必要なPC操作 第2回 【プレゼンデータ作成】 ～わたしの好きなもの～ 第3回 【グループ内プレゼン大会】 プレゼンテーションをしてみよう 第4回 【入門】 Adobe Illustratorを使ってポスターを模写してみよう 第5回 【基礎1】 Adobe Illustratorの基本操作 (パス・パスファインダー) 第6回 【基礎2】 Adobe Illustratorの基本操作 (文字・整列) 第7回 【基礎3】 Adobe Illustratoの基本操作 (レイヤー・トリムマーク) 第8回 【基礎4】 Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集① (選択範囲) 第9回 【基礎5】 Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集② (調整レイヤー) 第10回 【基礎6】 Adobe Photoshopの基本機能 Aiを利用した画像編集③ (切り抜きマスク) 第11回 【基礎7】 Adobe Photoshopの基本機能 第12回 【基礎知識】 印刷データとしての取り扱い 第13回 【実践課題】 コンセプトに沿った作品を作ってみよう 第14回 【実践課題】 制作日 第15回 【合評】 投票しよう！優秀作品のプレゼンテーション、総評</p> <p>※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 (出席、受講態度を含む) 30% ・課題提出 (全課題の提出、クオリティ) 70% <p>以上を総合して評価する。</p>

教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	参考資料：「世界一わかりやすい Illustrator 操作とデザインの教科書」技術評論社 「世界一わかりやすい Photoshop 操作とデザインの教科書」技術評論社 ※上記資料は授業では使用しません。
履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。 設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りに取り組むこと。 ・課題ごとに試作したものは整理し、まとめておくこと。
関連科目	「コンピュータデザイン演習」 「メディアリテラシー」 「芸術導入実習」 「工芸・デザイン基礎実習I」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 Illustratorを使用したデジタル表現の作家活動でのノウハウと、DTPやレタッチの技術や知識と経験を活かし、Illustrator、Photoshopを使用した編集技術と表現方法を幅広く学び、「思いをかたちにする」ための演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	情報基礎演習 (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOBI 建築学部
	中村 卓	
教授	新海 俊一	KYOBI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンにおけるデータの入力・出力・保存・読み込み方法を習得する。 ・Google Workplaceの各種アプリ (Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライド) の基礎、及び活用方法を習得する。 ・Adobe Photoshop、Illustratorを用いて簡単な画像やロゴを作成する。 ・国土地理院のデータを活用する。 ・最終目標：大学で建築を学ぶために必要な基本的なPCスキル、能動的な課題解決能力とコミュニケーション能力を養うこと。 <p>演習の目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の通学に慣れる 2. 学友を作る 3. 授業に出席したい 4. 人前で話せる 5. 共同作業に慣れる 6. 失敗を恐れない 7. 自主的に行動できる 8. チャレンジ精神が身に付く 9. 利他的精神が身に付く 10. 時間を有効活用できる 11. 考えを速く絵に描いてみることに慣れる 12. PCを使うことに慣れる
授業概要	<p>PCの基本的な構成やOS、及び実務用ソフトGoogle Workplaceの活用方法を習得することを目的とする。</p> <p>各種アプリの使い方だけでなく、大学の授業や社会で必要とされるIT技術を習得する。データを扱い、データを守るための心得を習得する。</p> <p>例えば、建築を学ぶ上で必要な、情報を精査し課題を読み解く能力、提案し表現するコミュニケーション能力、効果的にプレゼンテーションする能力、ワークショップを行い、協働で取り組む能力を、PC作業を覚えながら習得する。なお、課題ではAdobeを用いて作成することで、基本的なグラフィックの制作方法も学ぶ。</p> <p>本演習は、本学のディプロマポリシー 2, 3に該当する。 建築学科のディプロマポリシー 1, 2, 3, 4に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回【オリエンテーション】パソコンの共通操作・共通言語の理解、図書館の利用方法 第2回【入門1】Topic 1:「建築をコピー？」～引用の方法 / Tutorial 1: Google Gmail 第3回【入門2】Topic 2:「リサイクル/アップサイクル」～ブレンストーミングをしてみる / Tutorial 2: Google Jambook 第4回【入門3】Topic 3:「災害は自然のせい？」～アンケート作成・集計 / Tutorial 3: Google Forms</p>

	<p>第5回【学期プロジェクト発表】 Adobeソフトウェアの起動、プロジェクトチーム編成 第6回【基礎1】 Topic 4:「フード・デザイン」～作り方を説明する / Tutorial 4: Google Slide 第7回【基礎2】 Topic 5:「文化を伝えていく」～ストーリーを作る / Tutorial 5: Google Slide 第8回【基礎3】 Topic 6:「街を賑わう」～データを処理する / Tutorial 6: Google Map/Earth Spreadsheet 第9回【学期プロジェクト演習】 実演と実技講習 (Adobe Photoshop/Illustrator) 第10回【応用1】 Topic 7:「リノベ/コンバする」～図を書く / Tutorial 7: スケッチ速描 第11回【応用2】 Topic 8:「ハック・ザ・商店街」～ダイアグラムを作る / Tutorial 8: スケッチ速描 第12回【応用3】 Topic 9:「コンパクト・シティ」～マッピングをする / Tutorial 9: スケッチ速描 第13回 学期プロジェクト演習:「グループ内最終作業」情報の編集 第14回 学期プロジェクト演習:「グループ内発表会」効果的なプレゼンテーションの方法 第15回 学期プロジェクト演習: 総合発表 優秀作品のプレゼンテーション</p> <p>演習日の流れ: 水曜日 3・4限</p> <p>13:00 - 13:30: キーワード講義 (30分) (全体) 13:30 - 13:45: ゲームのルール説明 (全体) 13:45 - 14:30: 前半戦: GAME 1 (45分) (組毎) 14:30 - 14:45: ハーフタイム 14:45 - 15:30: 後半戦: GAME 2 (45分) 15:30 - 16:00: 組内発表・提出・総括・フィードバック・フリートーク</p> <p>アドリブで、エクササイズ (出欠確認) が入ります</p> <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>学修状況 : 45/100点 学期プロジェクト: (グループ) = 15/100点 各組の先生が採点 (個人課題) = 40/100点 各組の先生が採点</p> <p>習得状況に応じて、点数の配分が変わることもある。</p>
教科書	阿部信行『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書』
参考書 参考資料	武田雅人『Google アプリ徹底入門の教科書2020 Google アプリの教科書シリーズ2020年版』(Kindle) 500円程度なので、できれば購入する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義 (1コマ) に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「メディアリテラシー」、「建築CAD演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計導入実習」 など
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内にフィードバックの時間を取る。 担当教員は、授業時間外でも、随時質問等に応じる。
教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導を行う。
科目ナンバリング	COM-C0104S

講義名	英語コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。大学周辺の東山エリアの紹介ができるように、地元について学びながらそれを英語で表現する。さらにエリアを広げて、京都の名所、歴史や文化を学びながらそれを英語で表現する。また、自分の専門分野における活動や制作について英文プレゼンを含め、簡単に英語で紹介する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 TOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。

履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。必要に応じて教室で指示します。
関連科目	英語演習I 英語演習II 英語演習III
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	総合コミュニケーション		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>AdobeInDesignの基本操作、活用方法を学び、冊子物作成のPCスキルを習得する。操作、活用方法を習得することにより、就活に必要なポートフォリオ作成をはじめ、研究で必要とされる学術論文、また、雑誌書籍、プレゼンテーション資料等が、WordやIllustratorなどのアプリケーションよりも作業効率をあげて作成することができるようになる。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>冊子やカタログなど印刷物の複数ページのレイアウトには欠かせないソフトAdobeInDesign。論文やポートフォリオなどを作るには他のソフトよりも断然効率よく作成することができる。授業では、まず資料を見ながらAdobeInDesignで書籍を作る練習、見開きページを作る練習をする。その後、Illustratorとの違いや、Photoshopとの連携方法などの基本的な操作方法や便利機能等を学ぶ。</p> <p>後半からレイアウトの基本、目を引くための小技、写真撮影方法などを学び、最終的にポートフォリオを作成、完成させる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/1回1コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】 InDesign概要、アプリケーションの準備 第2回 【InDesign基礎①】 InDesignで出来ること 第3回 【InDesign基礎②】 書籍の作成 第4回 【InDesign基礎③】 見開き雑誌の編集 第5回 【InDesign基礎④】 マスターページの扱い 第6回 【InDesign基礎⑤】 画像の配置 第7回 【InDesign基礎⑥】 ドキュメントの扱い 第8回 【InDesign基礎⑦】 レイアウトの仕方 第9回 【InDesign基礎⑧】 ポートフォリオの土台を作る 第10回 【InDesign応用①】 ポートフォリオ自己PR 第11回 【InDesign応用②】 ポートフォリオ画像準備 第12回 【最終課題】 制作・進捗提出 第13回 【最終課題】 制作・進捗提出 第14回 【最終課題】 制作・課題提出 第15回 合評・総評</p> <p>※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席 20% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）80% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータで資料を配布する。
参考書 参考資料	世界一わかりやすい InDesign 操作とデザインの教科書 ベクトルハウス（著） 技術評論社
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・AdobeIllustrator・Photoshopの基本操作は理解した上で履修すること。 ・各自興味のあるもの、興味のあること、制作してきた作品のデータなどは必ずまとめておくこと。 ・1年次から制作してきた作品、コンペに出品した作品、制作過程などは必ず大切に保管しておくこと。 ・また立体物の場合は構図を考えた写真の撮影をすること。 ・授業はPCで受講し、オンラインが可能なWi-Fi環境の整った場所で制作すること。

予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none">・ 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。・ 授業内で学んだ内容を使用し、常にデータをまとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにて対応する。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	教室で必要な資料を提示する

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	美術工芸英語（英語演習II） 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は課題も小テストも確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有（上記参照）
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Bクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。英会話Iは習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。

履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II (旧 美術工芸英語) 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	課題、小テスト、提出物は確認後返却します。Google Classroomをあわせて使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英会話Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	美術工芸英語（英語演習II） 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物、課題、小テストは確認の上返却します。Google Classroomもあわせて使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Dクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英会話Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II (旧 美術工芸英語) 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物、小テスト、課題等は確認後返却します。Google Classroomをあわせて使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Eクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英会話Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II (旧 美術工芸英語) 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有（上記参照）
科目ナンバリング	

講義名	英会話 I (Fクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず自分や地元といった自分が良く知っていることを英語にして話す。次に、これも自分が良く知っている、今までの経験について話す。慣れてくると、今後の予定について話す。直近の予定、少し先の予定、さらには将来の計画や抱負についても話してみる。次第に社会や環境、文化についても話してみる。英会話Iはクラスの習熟度によって進度を調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせで話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、指名された時にのみ英語で答えるのではなく、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習II (旧 美術工芸英語) 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸英語 (TOEIC支援A)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部 幹也	KYOBI 芸術学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。 この科目は、DP0-2及びDP0-3に該当する。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とします。ビジネス分野における語彙の蓄積や、あまりなじみがないであろうビジネスに関する話題にも触れながら、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテストのスコアアップを目指します。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指します。TOEICテストのスコアアップにとどまらず、英語を使うことができる利点をどこよりもより実感しやすい京都という地の利を最大限活用しながら、英語という言葉に向き合ってもらえたらと思います。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト/Unit 01 人物の動作と状態/表・用紙 3 単語テスト/Unit02 疑問詞を使った疑問文/広告 4 単語テスト/Unit03 日常場面での会話/品詞 5 単語テスト/Unit04 アナウンス・ツアー/動詞 6 単語テスト/Unit05 物の状態と位置/チャット 7 単語テスト/Unit06 基本構文と応答の決まり文句/手紙・Eメール 8 単語テスト/Unit07 電話での会話/代名詞・関係代名詞 9 単語テスト/Unit08 ラジオ放送・宣伝/接続詞・前置詞 10 単語テスト/Unit09 Yes/No疑問文/ダブルパッセージ 11 単語テスト/Unit10 オフィスでの会話①/Part5復習 12 単語テスト/Part11 留守番電話/トリプルパッセージ 13 単語テスト/Unit12 オフィスでの会話②/Part7復習 14 単語テスト/Unit13 Part1/2復習/時制・代名詞・語彙問題 15 単語テスト/Unit14 トーク・スピーチ・会議の一部/つなぎ言葉・文の挿入
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%） 受講態度（40%） 期末テスト（30%）
教科書	テキスト：MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] 桐原書店
参考書 参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 朝日新聞出版 ￥890円＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	予習：単語テスト用に指定された単語を口に出しながら覚えて来る。（1時間程度） 復習：授業で取り組んだ問題を解きなおし、聞き直し/読み直し/ポイントの確認を行う。（2時間程度）
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	複数の大学と、複数の企業において文法、読解、聴解、医療関連英語や各種英語試験対策などの指導
教員の実務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸英語 (TOEIC支援B)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。到達目標として、学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期に身につけた英会話力をもとに、聞きとりの力を向上させる。毎回TOEIC模擬テストを実施し、文法、読み取りの力もあわせて後期の学内団体受験にむけて実力をつける。 Part 1形式の写真問題は確実に得点できるようにさまざまなシーンを英語で表現する練習をする。Part 2形式の短答式質疑応答は、短い問いとそれに対する応答を自分でいくつも話してみることで、会話に慣れるようにする。Part 3形式の会話聞き取り、Part 4形式のナラティブ聞き取り問題は、語彙数を増やしながら繰り返し英文を聞くことで力をつける。文法と読解問題は「英語問題のための問題」ではなく、実社会で現実に使う文書を実際に読んでいるつもりで取り組んでいく。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1 第2週 TOEIC形式英語演習 2 第3週 TOEIC形式英語演習 3 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5 第6週 TOEIC形式英語演習 6 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8 第9週 TOEIC形式英語演習 9 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11 第12週 TOEIC形式英語演習 12 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 時間のある時に常にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 を使って、語彙を増やしてください。毎回の模擬テストでわからなかった箇所は必ずおさえるようにしてください。

関連科目	英語演習I (旧 英会話I) 英語演習II 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸英語（基礎）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とし、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。徐々に大学入学レベルの英語力に近づくことを目標とし、TOEIC団体受験で350点から400点をめざす。
授業概要	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とする。前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。具体的にはまずbe動詞と本動詞に注目して、英文の語順に慣れる。そのうえで未来形や過去形にその語順を適用する。助動詞を学び直し、完了形とはどのような状態の表現なのかをゆっくりと、しっかりと身につけていく。受動態は書き換え問題のような技術ではなく、どのような場面で受動態を使うのか日常会話の中で考え、実際に話してみる。仮定法は難解な文法事項ではなく、普段の会話に使用する言い回しであることに気づき、徐々に大学入学レベルの英語力を取得する。
授業計画 授業内容	第1週 基礎英語演習 1・基礎英語文法 第2週 基礎英語演習 2・基礎英語文法 第3週 基礎英語演習 3・基礎英語文法 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第5週 基礎英語演習 4・基礎英語文法 第6週 TOEIC形式英語演習 5・基礎英語文法 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第8週 基礎英語演習 6・基礎英語文法 第9週 基礎英語演習 7・基礎英語文法 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第11週 基礎英語演習 8・基礎英語文法 第12週 基礎英語演習 9・基礎英語文法 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。応用練習 第14週 基礎英語演習 10・基礎英語文法 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	特にありません。
履修上の注意	これは中学生英語からの「やり直し英語」ですので、中学卒業レベル以上の英語力のある人は履修しないでください。
予習・復習指導	予習復習については教室で指示します。授業でわからなかった箇所はメールで質問してください。
関連科目	英語演習I（旧 英会話I） 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有（上記参照）
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸英語（建築分野）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。建築関連の英文資料を読む・聞くの力をつけるために使い、建築の知識を確認しながら、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、建築関連の資料を使用して建築知識を確認しながら英語を読む・聞く・話す力をつける。フロアプラン、デザインとスタイル、色と材料等に加え、サステナブルなデザインについても考察する。オンライン情報から建築物や建築家に関する英文資料を読み、また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。西洋建築だけではなく、地元の特性を生かして「京町家」のさまざまな特徴について本学を訪れる留学生に英語で簡単に説明できるようにしてみる。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・建築英語紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・建築英語紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・建築英語紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・建築英語紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・建築英語紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・建築英語紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・建築英語紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・建築英語紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・建築英語紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・建築英語紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英語は言語ですので、とにかく出席して声を出すようにしてください。語学は貪欲にならないとなかなか身につけません。受け身にならず、自分から自分の力を高めるように、他の学生が指名されている時も、必ず自分でその回答を考えることで90分を最大限に有効利用してください。

予習・復習指導	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 を使って、語彙を増やしてください。毎回の授業でわからなかった箇所は必ず後からおさえるようにしてください。
関連科目	英語演習I (旧 英会話I) 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	美術工芸英語（世界遺産）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつける。世界遺産の資料を読む・聞くの力をつけるために使い、地理・歴史の知識を得たうえで、到達目標としては学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	前期の英会話体験に基づき、視野を世界に広げ、ユネスコの世界遺産のうちタージ・マハル（インド）マチュ・ピチュ遺跡（ペルー）アルハンブラ（スペイン）フェズ旧市街（モロッコ）モンサンジェル（フランス）など、建築・美術工芸にかかわる文化遺産を中心に学ぶ。英文資料を読み、オンライン情報から英語動画を視聴し、地理・歴史を含む世界遺産の知識とともに英語の読み・聞く力をつける。また、グループで気になる世界遺産の対象を選び、自分たちで資料を調べ、簡単な英語で発表することで、英文作成、英文プレゼンの練習とする。
授業計画 授業内容	第1週 TOEIC形式英語演習 1・世界遺産紹介 第2週 TOEIC形式英語演習 2・世界遺産紹介 第3週 TOEIC形式英語演習 3・世界遺産紹介 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と知識を確認する。TOEIC形式英語演習 4 第5週 TOEIC形式英語演習 5・世界遺産紹介 第6週 TOEIC形式英語演習 6・世界遺産紹介 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 7 第8週 TOEIC形式英語演習 8・世界遺産紹介 第9週 TOEIC形式英語演習 9・世界遺産紹介 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 10 第11週 TOEIC形式英語演習 11・世界遺産紹介 第12週 TOEIC形式英語演習 12・世界遺産紹介 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。TOEIC形式英語演習 13 第14週 TOEIC形式英語演習 14・世界遺産紹介 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 後期にTOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	世界遺産についての話を聞くだけの授業ではなく、TOEIC形式の練習で英語の実力を上げながら参加してもらいたい授業なので、他の学生が指名されている時も、その回答を自分で英語で考えることで、90分を最大限に利用してほしい。英語は言語なので、とにかく出席して声を出すようにしてください。

予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。それ以外に世界遺産について自分で調べて発表してもらう機会を設けます。
関連科目	英語演習I (旧 英会話I) 英語演習III 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ（Aクラス）上級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部 幹也	KYOBI 芸術学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア600点を目標とする。 この科目は、DP0-2及びDP0-3に該当する。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とします。ビジネス分野における語彙の蓄積や、あまりなじみがないであろうビジネスに関する話題にも触れながら、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテストのスコアアップを目指します。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指します。TOEICテストのスコアアップにとどまらず、英語を使うことができる利点をどこよりもより実感しやすい京都という地の利を最大限活用しながら、英語という言葉語に向き合ってもらえたらと思います。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 3 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 4 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 5 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 6 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 7 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 8 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 9 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 10 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 11 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 12 ミニテスト 13 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 14 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 15 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%） 受講態度（40%） 期末テスト（30%）
教科書	テキスト：はじめてのTOEIC L&R テスト入門模試 Jリサーチ出版
参考書 参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 朝日新聞出版
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	予習：単語テスト用に指定された単語を口に出しながら覚えて来る。（1時間程度） 復習：授業で取り組んだ問題を解きなおし、聞き直し/読み直し/ポイントの確認を行う。（2時間程度）
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	複数の大学と、複数の企業において文法、読解、聴解、医療関連英語や各種英語試験対策などの指導
教員の実務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ（Bクラス）中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部 幹也	KYOBI 芸術学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。 この科目は、DP0-2及びDP0-3に該当する。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とします。ビジネス分野における語彙の蓄積や、あまりなじみがないであろうビジネスに関する話題にも触れながら、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテストのスコアアップを目指します。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指します。TOEICテストのスコアアップにとどまらず、英語を使うことができる利点をどこよりもより実感しやすい京都という地の利を最大限活用しながら、英語という言葉語に向き合ってもらえたらと思います。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 3 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 4 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 5 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 6 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 7 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 8 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 9 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 10 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 11 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 12 ミニテスト 13 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 14 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習 15 単語テスト/音読・シャドーイング/短文穴埋め問題対策/長文読解演習
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%） 受講態度（40%） 期末テスト（30%）
教科書	テキスト：はじめてのTOEIC L&R テスト入門模試 Jリサーチ出版
参考書 参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 朝日新聞出版
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	予習：単語テスト用に指定された単語を口に出しながら覚えて来る。（1時間程度） 復習：授業で取り組んだ問題を解きなおし、聞き直し/読み直し/ポイントの確認を行う。（2時間程度）
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の實務経験	複数の大学と、複数の企業において文法、読解、聴解、医療関連英語や各種英語試験対策などの指導
教員の實務経験の有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ (Cクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず1年次で英語を使って話したように自分の良く知っている話をする。自分について、地元について、今後の予定について等。次第に個人的な話から社会、環境、歴史、文化等「大学生らしい」「大人の話」を試みる。英会話IIはクラスの習熟度によって進度やトピックを調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。

参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 TOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。
履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろうか」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習I (旧 英会話I) 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ（Dクラス）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOBI 芸術学部

到達目標	英語がコミュニケーションの手段であることを留学生との会話から理解する。そのうえで、コミュニケーションのため何が必要なのか、例えば語彙、表現、聞き取り等を身につけられるように自分で考えて学ぶ。到達目標としては前期最後に学内団体TOEIC受験で500点以上を獲得することを目指す。
授業概要	語彙と表現力を増やすことを第1にする。会話を中心とした授業で、自分の言いたいことを表現するために必要な語彙を獲得し、高校までは文法知識であった表現を実際に使えるように練習する。1クラスの人数が多く会話の成立は難しいが、教室内でできるだけ多く英語で話すようにする。まず1年次で英語を使って話したように自分の良く知っている話をする。自分について、地元について、今後の予定について等。次第に個人的な話から社会、環境、歴史、文化等「大学生らしい」「大人の話」を試みる。英会話IIはクラスの習熟度によって進度やトピックを調節する。
授業計画 授業内容	<p>第1週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来について話す。</p> <p>第2週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。現在・過去・未来・経験について話す。</p> <p>第3週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞と組み合わせて話す。</p> <p>第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と表現力を確認する。</p> <p>第5週 語彙と表現力を増やす。基本文法を使えるようにする。助動詞の現在・過去を使って話す。</p> <p>第6週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話す。語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第7週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第8週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。自分について話し、相手の話を理解する(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第9週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第10週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、それに答える(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第11週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第12週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。相手の話を聞き、自分の考えを話す(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第13週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(1) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第14週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(2) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p> <p>第15週 留学生と話し、英語によるコミュニケーションに慣れる。複数の相手と意見交換をする(3) 語彙を増やす。基本文法を使えるようにする。</p>
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	「TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ」朝日新聞出版 TOEIC受験を目指す人は、時間のある時にこの冊子で語彙数を増やしてください。

履修上の注意	英会話教室のような少人数クラスではないので、できるだけ積極的に英語を話してください。他の学生が指名されている時も、自分で英語で回答してみることで90分を最大限に有効利用してください。
予習・復習指導	英語は教室の中でだけ話すものではないので、起きてから寝るまで、目に入ったもの、気が付いたことを「これは英語で何というのだろう」と考えて、探してみるのが予習であり復習です。
関連科目	英語演習I（旧 英会話I）英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。
教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社大学・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の实務経験有無	有（上記参照）
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ（Eクラス）初級		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部 幹也	KYOB I 芸術学部

到達目標	英語への苦手意識を払拭し、英語を用いたコミュニケーションになじむことを目標とする。 この科目は、DP0-2及びDP0-3に該当する。
授業概要	授業のサブタイトルは「やり直し英語」です。中学・高校で学習した文法内容に別な角度から再度取り組み、理解を深めます。これまで英語を苦手としてきた学生たちが目の前に並んでいるという前提で授業を展開していきます。おそらくは毛嫌いしてきたであろう文法用語も、理解のための手引きとなることを実感してもらえたらと思っています。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指します。この先の人生で必然性を実感するであろう英語という言葉に、もう一度正面から真剣に向き合ってもらおう機会の提供になれたらと思っています。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/予習・復習を含めた語学習得のための学習法 2 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 3 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 4 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 5 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 6 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 7 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 8 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 9 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 10 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 11 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 12 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 13 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 14 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習 15 単語テスト/文法解説/問題演習/音読・暗唱/発話練習
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%） 受講態度（40%） 期末テスト（30%）
教科書	テキスト：Simply Grammar (Revised Edition) 南雲堂
参考書 参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ 朝日新聞出版 ￥890円＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	予習：単語テスト用に指定された単語を口に出しながら覚えて来る。（1時間程度） 復習：授業で取り組んだ問題を解きなおし、ポイントの確認を行い、英語を口に出して馴染ませる。（2時間程度）
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	複数の大学と、複数の企業において文法、読解、聴解、医療関連英語や各種英語試験対策などの指導
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

講義名	英会話Ⅱ（Fクラス）初級		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド 麻美	KYOB I 芸術学部

到達目標	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とするクラスです。前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。大学入学レベルに達する、あるいは近づくことを目標とする。TOEIC団体受験で350点から400点をめざす。
授業概要	中学レベルの英語が不確かな学生のみを対象とする。前期の英会話体験に基づき、読む・聞く・話す力をつけながら、「やりなおし英語」として中学レベルの基礎文法から復習する。具体的にはまず動詞に着目して英文の語順に慣れる。その語順を身につけて未来形や過去形にその語順を適用する。助動詞を学び直し、完了形とはどのような状態の表現なのかをしっかりと身につけていく。受動態や仮定法は難解な文法事項ではなく、普通の会話に使用する言い回しであることに気づけるように、日常会話に即して学ぶ。短いものから始めて、少しずつ文章を読む練習をする。
授業計画 授業内容	第1週 基礎英語演習 1・基礎英語文法 第2週 基礎英語演習 2・基礎英語文法 第3週 基礎英語演習 3・基礎英語文法 第4週 Review Test 1 第1週から3週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第5週 基礎英語演習 4・基礎英語文法 第6週 TOEIC形式英語演習 5・基礎英語文法 第7週 Review Test 2 第4週から6週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第8週 基礎英語演習 6・基礎英語文法 第9週 基礎英語演習 7・基礎英語文法 第10週 Review Test 3 第7週から9週までに獲得した語彙と文法を確認する。応用練習 第11週 基礎英語演習 8・基礎英語文法 第12週 基礎英語演習 9・基礎英語文法 第13週 Review Test 4 第10週から12週までに獲得した語彙と表現力を確認する。応用練習 第14週 基礎英語演習 10・基礎英語文法 第15週 第1週から第14週までの総括
成績評価	30% 平常点を含む毎回の出席と授業への参加 30% 小テストを含む提出物 40% 定期試験
教科書	必要な資料は教室で提示します。
参考書 参考資料	特にありません。
履修上の注意	これは中学生英語からの「やり直し英語」ですので、中学卒業レベル以上の英語力のある人は履修しないでください。
予習・復習指導	教室で指示します。授業でわからなかった箇所はメールで質問してください。
関連科目	英会話I 英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	提出物は確認の上返却します。教室以外での連絡はGoogle Classroomを使用します。

教員の実務経験	京都国立博物館資料調査研究室所属「国際交流美術史研究会」国際シンポジウムおよび通訳翻訳担当。同志社・立命館大学非常勤講師、放送大学客員准教授を経て現職
教員の実務経験有無	有(上記参照)
科目ナンバリング	

講義名	日本語表現法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOBI 芸術学部

到達目標	①対人コミュニケーションの仕組みを理解し、②対人コミュニケーション力を高め、 ③他者との円滑な人間関係を築く力を養うことを目標とする。 本科目は、DPO-1、DPO-2に該当する
授業概要	本授業では、対人コミュニケーションに的をしぼり、社会心理学や言語学、文化人類学などの研究分野で蓄積された豊富な研究結果を理解することを通して、対人コミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。主に対人場面でのコミュニケーションに特化したテーマを取り上げながら、コミュニケーション理論とスキルの両方の理解と習得を目指す。授業前半の回では、コミュニケーションの仕組みや理論を学び、授業後半の回では実践的なコミュニケーションスキルの習得に重きをおく。スキル習得にあたっては、受講生同士のペアワークや個人発表の機会を多く取り入れる。授業内で設定された個人発表の機会では、積極的な参加を求める。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション、各回の内容説明、コミュニケーション研究の概要 第2回 対人コミュニケーションの仕組みについて学ぶ 第3回 伝達することの難しさについて、ペアワークを通して学ぶ 第4回 非言語コミュニケーションの研究分野を俯瞰する 第5回 様々な非言語コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第6回 言語コミュニケーションについて学ぶ 第7回 異文化間コミュニケーションについて学ぶ、個人の異文化体験発表を聴く 第8回 日本人のコミュニケーション特性について学ぶ 第9回 コミュニケーションスキル（基礎） ペアワークで学ぶ 第10回 コミュニケーションスキル（発展） ペアワークで学ぶ 第11回 恋愛コミュニケーション研究にて得られた知見について学ぶ 第12回 伝える力とは？具体的に考えてみる 第13回 アサーティブコミュニケーションの理論について学ぶ 第14回 アサーティブトレーニングコミュニケーションスキルの実践 第15回 アンガーマネージメントをワークを通して学ぶ
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎講義につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の講義にて、講義内容の振り返り用紙の提出を求める。また、講義中における以下の行為に関しては、平常点を認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の講義のレポート作成、製図などの課題作成といった本講義に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく講義開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	「コミュニケーション学がわかるブックガイド」 東京経済大学コミュニケーション学部（監修）NTT出版
履修上の注意	例年と大きく異なり、毎回の講義ではランダムに受講生から意見を求めます。ワークには必ず参加してもらいます。講義内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。

予習・復習指導	事前に配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙など、事前に連絡のあった講義の前には、指示に従い事前学習を行って下さい。その他、関連するテーマについて1コマに4時間程度の復習と予習を行うことが望ましい。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	毎回の講義復習用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-C0101S

教養教育科目<学部共通> 4. キャリア形成科目

京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

講義名	しごと論 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。 <p>この科目は、DPO-1、DPO-2に該当する。</p>
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>オムニバス形式／全15回</p> <p>第1回 新谷 裕久（教授/大学企画・広報） 第2回 高田 光雄（教授/建築家） 第3回 川尻 潤（特任教授/陶芸家） 第4回 堀木 エリ子（客員教授/和紙デザイナー） 第5回 前田 尚武（京セラ美術館企画推進ディレクター） 第6回 塚本 カナエ（非常勤講師/プロダクトデザイナー） 第7回 宮本 貞治（特任教授/木工家） 第8回 旗 邦充（数寄屋大工） 第9回 コシノ・ジュンコ（客員教授/デザイナー） 第10回 阿部 祐二（客員教授/俳優/リポーター） 第11回 国広 ジョージ（客員教授/建築家） 第12回 中井川 正道（教授/環境デザイン） 第13回 大西 英玄（清水寺成就院住職） 第14回 久保田 康夫（フォトグラファー） 第15回 三木 表悦（特任准教授/漆芸家）</p> <p>新谷裕久：広報業務の実績をもとに、大学広報の仕事内容について講義する。 高田光雄：建築の研究実績をもとに、京町屋の歴史、建築家の職能について講義する。 川尻潤：陶芸作家の実績をもとに、造形論、作家等の生業について講義する。 堀木エリ子：和紙工芸作家の実績をもとに、伝統工芸の継承等について講義する。 前田尚武：キュレーション、建築家としての実績をもとに、企画立案などを講義する。 塚本カナエ：プロダクトデザイナーの実績をもとに、プロダクトデザインの歴史などを講義する。 宮本貞治：木工家の実績をもとに、木の素材や性質、加工技術等について講義する。 旗邦充：数寄屋建築の実績をもとに、木材の選定、加工等について講義する。 コシノジュンコ：ファッションデザインの実績をもとに、デザイン活動等を講義する。 阿部祐二：俳優、レポーター等の実績をもとに、目標、進路、仕事の意義等について講義する。 国広ジョージ：建築家としての実績をもとに、異文化経験、著名な建築体感等を講義する。 中井川正道：景観設計の実績をもとに、景観上の美しさについて講義する。 大西英玄：清水寺住職の経験をもとに、仕事や物事のとりえ方等解釈について講義する。 久保田康夫：写真家としての実績をもとに、被写体に対する構図等について講義する。 三木表悦：漆芸作家としての実績をもとに、造形の発想等について講義する。</p> <p>※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は今年の講師）</p>
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。

参考書 参考資料	「手仕事の日本」柳宗悦 岩波文庫 「機嫌のデザイン まわりに左右されないシンプルな考え方」秋田道夫 ダイヤモンド社 「グラフィックデザイナーの仕事」祖父江慎 グルーヴィジョンズ 「建築家になりたい君へ」隈研吾河出書房新社 「みんなの家 建築家一年生の初仕事」光嶋裕介 アルテスヴィジョンズ
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。小レポート作成において生成AIの使用を禁止する。使用が発覚した場合は相応の処分を行う。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 想定範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを15回目の授業内で行う。
教員の実務経験	授業内容に記載済 中井川正道：景観設計の実績をもとに、大きな構築物の景観への影響、景観上の美しさとは何かについて講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA101L

[ウインドウを閉じる](#)

講義名	社会活動 I		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOB I 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部
教授	井上 年和	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動 I では、「ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成」を主目的としている。社会活動 II では、ボランティア活動の発展・応用として「指導的立場としての行動力の育成」を主目的としているので、社会活動 I と II を合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント(1point)としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度 (男女関係なし) ×1日 2. 下御霊神社還幸祭行列 2point (5/18) / 20名程度 (男子のみ) ×1日 3. 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日 ×3 4. 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名 (木曜日の授業のない男子のみ: 4年生等) ×1日 5. 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日 ×4 6. 貞教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名 ×1日 7. 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名 ×1日 8. 貞教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度) ×0.5日 9. 貞教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名) ×1日 10. KYOB I 祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日 ×8 11. 東山ふれあい広場支援活動 2point (11月上旬) / 10~20名 ×1日 12. 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月: 夕方) / (10~50名) 0.5日 ×6 13. オープンキャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日 ×18

成績評価	実習態度（30%）、小レポート（70%） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。 5つの課題（5イベント）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。 2年次には引き続き「社会活動Ⅱ」を選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	実務教職員が担当 担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅰについて包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA102P

講義名	メディアリテラシー		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・情報にアクセスする際は、データ・AIの利活用などを通じて「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーを高める。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から話を聞き、発信する側の思いや取り組みを知る。 ・さらに、新聞でいえば「国際面」「社会面」「政治面」それぞれの主役である外交官、警察関係者、政治家らから直接話を聞くことで、ニュース報道からだけでは見えない側面を自ら発見する。 <p>この科目は、DP0-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>メディアリテラシーとは、新聞やテレビ、インターネットなどから発信される情報を正しく理解し、また、ときには自ら情報を適切に発信する能力のこと。AIなどの技術が急速に発達している近年のデジタル社会においては、これに加えて「デジタル時代の読み・書き・そろばん」とも言われる「数理・データサイエンス・AI」のリテラシーが求められています。</p> <p>本講座では、AI翻訳を活用して英字情報に積極的にアクセスするほか、日々のニュースの主役である外交官、政治家、警察関係者らをゲストスピーカーとして招き、メディアのフィルターを通さない1次情報に接してもらいます。さらに、第一線で活躍するメディア関係者からも話を聞き、メディアの現状と課題に対する理解を深めます。ゲストの回は質疑応答の時間を設けるので、積極的に質問を。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス：メディアリテラシーとは — メディア情報を大学生活にどう生かすか 第2回 メディアの種類と特性 — 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第3回 メディアを巡る諸問題(1) — 誤報、客観報道と情報操作 第4回 メディアを巡る諸問題(2) — 実名報道 第5回 英字メディアのリテラシー(1) 第6回 英字メディアのリテラシー(2) 第7回 テレビ局の仕事 第8回 新聞社の仕事 第9回 FMラジオ局のさまざまな取り組み — 音楽からアートまで 第10回 ソーシャルメディアの功罪 第11回 ニュースの主役(1) — 警察 第12回 ニュースの主役(2) — 外交官 第13回 ニュースの主役(3) — 政治家 第14回 動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回 情報収集・分析のプロたち — インテリジェンスとは</p> <p>※予定は目安です。変更になる場合があります。</p>
成績評価	毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。

教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書 参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会） ※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
予習・復習指導	
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	情報誌の編集、米全国紙のダイジェスト版の翻訳、新聞の取材、インタビュー、紙面連載に携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長として年間2万件を超えるビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や各国公館との国際交流に従事。新聞のインタビューでは政治家、外交官ら取材し、紙面紹介した。新聞社における自らの体験に加え、テレビ、ラジオの報道・制作現場の声を伝えるため、さらに日々のニュースの主役ともいえる警察官、外交官、政治家などの声に直接触れる機会を設けるため、メンバーをゲスト講師として招いている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA103L

講義名	社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBI 芸術学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。</p> <p>この科目は、DP0-2、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。通年制であり、社会活動の多くは土日や夏期休暇中に設定されており、数多くのイベントから5つ選択し、他の履修科目の日程を気にせず履修ができる。社会活動Ⅰでは、ボランティア活動の基本的ルールを学び地域社会におけるコミュニケーション能力の育成を主目的としている。また社会活動Ⅱでは、ボランティア活動の発展・応用として、指導的立場としての行動力の育成を主目的としている。したがって社会活動ⅠとⅡを合わせて修得することがキャリア形成において望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>下記の社会活動により延べ5イベントを選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。0.5日=1イベント(1point)としてカウントする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 鴨川トレッキング&清掃活動(新入生引率) 1point (4/19) / 250名×0.5日 新日吉神宮神幸祭支援活動 2point (5/11) / 70名程度(男女関係なし) ×1日 下御霊神社還幸祭行列 2point (5/18) / 20名程度(男子のみ) ×1日 祇園祭宵山会所当番支援活動 1point (7/21, 7/22, 7/23夕方から夜 女子のみ各2名) 0.5日×3 祇園祭巡行支援活動 2point (7/24) / 5名(木曜日の授業のない男子のみ:4年生等) ×1日 七条大橋・貞教学区清掃活動 1point (6/7, 8/7, 9/7, 12/7) / (10~50名) 0.5日×4 貞教学区夏祭り 2point (8/30夕方~夜) / 30~100名 ×1日 豊国神社森林保全活動 2point (9月上旬) / 20~30名 ×1日 貞教学区体育祭準備 1point (10/4PM) / (30名程度) ×0.5日 貞教学区体育祭 2point (10/5) / (30~100名) ×1日 KYOBI祭支援活動 1point (10/31AM-PM, 11/1AM-PM, 11/2AM-PM, 11/3AM-PM) / (30~250) 0.5日×8 東山ふれあい広場支援活動 2point (11月上旬) / 10~20名 ×1日 伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1point (6, 9, 11, 12, 1, 2月: 夕方) / (10~50名) 0.5日×6 オープンキャンパス支援活動 1point (5/25, 6/15, 7/20, 7/27, 8/3, 8/10, 8/24, 9/21, 10/19) / (10~50名) 0.5日×18

成績評価	実習態度（30%）、小レポート（70%） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。 5つの課題（5イベント）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（3密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
教員の実務経験	実務教職員が担当 担当教員は、20年以上にわたり京都の学校の事務局長として学生の地域ボランティア活動を指導しており、社会活動Ⅱについて包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA204P

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷 裕久	KYOBUI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。</p> <p>この科目は、DP0-1、PD0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>1年次の「しごと論Ⅰ」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚としごとの意義をいろいろな職業の中からオムニバス形式で幅広く学ぶ。3年次の「しごと論Ⅱ」では、芸術・建築分野の専門的な学びを習得したうえで、オムニバス形式による教員の専門的テーマから具体的なイメージを深く学ぶことにより、将来の就職への方向性を明確にする。専門分野の講師は学内のみならず、他大学（3大学教育研究連携校）の講師も担当している。しごと論ⅠとⅡは合わせて修得することがキャリア形成の育成に繋がるので望ましい。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス方式 / 全 15 回</p> <p>第 1 回（竹脇 出）建築分野の成り立ちについて 第 2 回（玉村 嘉章）木工について 第 3 回（宮内 智久）建築とキュレーションについて 第 4 回（三木 表悦）漆芸について 第 5 回（中野 仁人）京都工芸繊維大学連携授業：デザインについて＊ 第 6 回（渡邊 俊博）ウインドウディスプレイと装飾について 第 7 回（安田 光男）ミラノでの「しごと」について 第 8 回（川尻 潤）陶芸について 第 9 回（井上 年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（白鳥 洋子）建築デザインのライフ・ワークについて 第 12 回（岡 達也）文化財情報デザインについて 第 13 回（井上 晋一）集合住宅の調査と設計について 第 14 回（津村 健一）美術と造形について 第 15 回（新谷 裕久）防災・安全衛生管理について 総括</p> <p>＊ 京都工芸繊維大学連携事業に基づく授業</p>
成績評価	<p>受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。6回以上欠席の場合は不可とする。公欠等による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。</p>
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。

予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1年次開講科目である「しごと論I」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験	実務経験教員が担当 担当教員は、12年間歯科医療に携わり、さらに20年以上労働安全衛生コンサルタントとして、学校の環境安全衛生管理に携わってきた。しごと論IIについては、どんな職業についても関係のある労働安全衛生の観点から包括的に講義することができる。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-CA305L

講義名	インターンシップ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田 幸秀	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める</p> <p>この科目は、DP0-3に該当する。</p>
授業概要	<p>卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて業界研究、職業研究を行いながら就業体験を希望する企業、事業所等を見つける。原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。講義では、電話やメールのマナー、文章の書き方など、社会人として身につけておく必要のある素養を養う。</p>
授業計画 授業内容	<p>■令和5年度の予定</p> <p>①事前学習（1）ガイダンス ②事前学習（2）業界研究＜1＞ ③事前学習（3）業界研究＜2＞ ④事前学習（4）マナー教育 ⑤事前学習（5）実習計画書作成 ⑥実習 夏季休暇中、原則として5日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑦事後学習（1）報告書の書き方指導 ⑧事後学習（2）報告書評価</p> <p>* 予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること</p> <p>■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など</p> <p>* 原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する</p>
成績評価	事前・事後学習、実習先での学びや行動、実習報告書により総合的に評価する
履修上の注意	<p>・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する。</p> <p>・コロナの感染拡大以来、インターンシップを受け入れる企業や事業所が減少している。そのため、上記の日数や時間数に満たない場合でも、一定の配慮を行う。</p>
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。

教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館勤務）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務などを経験。特に新聞社でロータリークラブを担当した際は、企業経営者らのインタビューを通じ、さまざまな業界の実情や経営者の考え方に触れてきた。インターンシップが充実したものになるよう、業界や受け入れ先に関する情報収集をきめ細かくサポートする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA306P

講義名	現代社会論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福田 安佐子	KYOBU 芸術学部

到達目標	この講義の目標は、現代社会に対する理解を深めることである。様々な時代や場所において、規範や感性がいかんして形成されてきたかを学び、それが現代社会といかなる関係を保っているか、自ら考える力をつける。
授業概要	本科目では現代アートやゾンビ映画といったものを手掛かりに、身体観の変遷や、社会変化にかかわるトピック、人間の生命や感情といったものを主題とした芸術作品にはどのようなものがあるのか、そういったものをいかに読み解けばいいのか、それらの分析から明らかになる我々の生きる社会の問題にはどのようなものがあるか、といった問いを主たるテーマとする。それらの問題を紐解くことで、現代社会がいかんして形成されてきたかについてより深く理解し、また今後自らが社会やメディアに対して、主体的に問いを立てる姿勢を有することを目指す。本科目はDPO-1、DPO-2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回<オリエンテーション>現代アート、ゾンビ、身体と現代社会 第2回：<講義>ゾンビ概論：「なぜ我々はゾンビ映画を見るのか」 第3回：<講義>植民地における人間とゾンビ：映画「ホワイトゾンビ」(1931) 第4回：<講義>人種化・植民地化される身体と文明 第5回：<講義>映画における女性と黒人の身体表象：映画「私はゾンビと歩いた！」(1945) 第6回：<講義>ホラー映画におけるヒステリー・妊娠・母親 第7回：<講義>1968年の世界：映画「ナイト・オブ・ザ・リビングデッド」(1968)と<病> 第8回：<講義>アブジェクション：体液、血液、皮膚の表象 第9回：<講義>アブジェクション：内蔵、腐敗、生殖の表象 第10回：<講義>現代の黙示録：映画「28日後…」(2002)における廃墟と崇高の美学 第11回：<講義>現代における感染と新・植民地主義の表象 第12回：<講義>映画「バイオハザード」とポストヒューマニズム 第13回：<講義>ポストヒューマンの時代におけるアート 第14回：<講義>コロナ以降の世界 第15回：<講義>未来の身体：二十一世紀の身体表象
成績評価	評価ポイント：授業への参加（40%）、期末レポート試験（60%）で評価する
教科書	特になし
参考書 参考資料	福田安佐子著『ゾンビの美学：植民地主義・ジェンダー・ポストヒューマン』、人文書院、2024年
履修上の注意	ホラー映像や刺激の強い画像を見せることがあります。事前に注意喚起しますが、苦手な場合は途中退出してもコメントシートを提出すれば授業への参加度には影響しません。
予習・復習指導	1コマに対し、4.5時間の事前学習および復習をすること。 その場合、授業で指示された作品や論文などを各自で熟覧・熟読し、分からない用語や概念が出てきた場合には、質問もしくは自身で調べること。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

<芸術学部> 専門教育科目 D5. 美術工芸科目ー基本科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広く工芸全般の意味を理解する。 ・工芸に対する広い視野を身につける。 ・工芸に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、に該当する。</p>
授業概要	<p>広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。また、近代から現代に至る工芸界の新しい潮流について考察を行ってゆく。産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色について、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>オムニバス / 全 15 回</p> <p>第 1～3回 陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める。(横山直範)</p> <p>第 4～7回 物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ。(青木太一)</p> <p>第 8～10回 木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する。(玉村嘉章)</p> <p>第11～14回 伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する。(遠藤公誉)</p> <p>第 15 回 総括 (玉村嘉章)</p> <p>※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。</p>
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』(東京国立近代美術館工芸課編淡交社)
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	<p>配布資料や講義内容から、専門用語(作品・作家・技法など)について復習し、関連用語(作品・作家・技法など)についても調べるなど理解を深めておくこと。</p> <p>1コマに対し4時間の復習をすること。</p>
関連科目	「伝統工芸概論」

課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	京もの認定工芸士/家具製作一級技能士など陶芸、漆芸、木工、彫刻の各工芸に長年携わってきた講師が工芸の歴史、技法、材料、道具等について概論として分かり易く解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-BA101L

シラバス参照

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。</p> <p>伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。</p>																																													
授業概要	<p>本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。</p>																																													
授業計画 授業内容	<p>オムニバス／全15回</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> </table> <p>※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。</p>	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	必要に応じて適宜資料を配布																																													
参考書 参考資料	<p>『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社</p> <p>『明日への伝統工芸』（浅見 薫著）財京都伝統工芸産業支援センター</p> <p>その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。</p>																																													
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。 																																													

予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べる。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験	登壇講師全員、美術工芸作家としての経験あり。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	構成基礎演習（デザイン・工芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOBI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>領域・分野の枠を横断する形で、さまざまな素材と技法に接することを通じ、自身の見識を広げものづくりや発信における発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>自身の専攻では触れる機会の少ない素材を扱う中で、デザインやものづくりにおける発想力・構想力を拡張してゆくきっかけとする。主に紙などを使い張り子の仮面（またはかぶり物）を1点以上制作するが、意匠のアイデア抽出や使用する素材の選択と入手方法、原型の制作方法についても自身でまず考え、関連する情報を収集する。中空の立体物として成立可能な構造・形状・十分な強度の確保と、表面の質感・色彩など様々な仕上げ方との兼ね合いを、実際に手を動かして作品を制作する過程で体感し、自身にとっての今後のものづくりに対しての考察を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション（授業について・レクチャー）</p> <p>第2回 ラフスケッチ・試作</p> <p>第3回 ラフスケッチ・試作</p> <p>第4回 進捗確認 デザイン案決定</p> <p>第5回 制作</p> <p>第6回 制作</p> <p>第7回 制作</p> <p>第8回 進捗確認・制作</p> <p>第9回 制作</p> <p>第10回 制作</p> <p>第11回 制作</p> <p>第12回 進捗確認・制作</p> <p>第13回 制作</p> <p>第14回 制作</p> <p>第15回 作品発表・講評</p>
成績評価	評価ポイント：実習態度（30%）、成果物（50%）、制作記録ノート（20%）
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	三井秀樹 『形の美とは何か』
履修上の注意	<p>作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。</p> <p>予習・復習をすることで自身の選択した材料・技法を深く理解するように努める。</p> <p>自身の経験の振り返りのため、作業工程を記録しポートフォリオを作成する。</p>
予習・復習指導	<p>配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。</p> <p>① 1コマに対し0.5時間の事前学習をすること</p> <p>② 1コマに対し0.5時間の復習をすること</p>
関連科目	立体造形、造形基礎演習ⅠⅡ

課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験	遠藤公誉 京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 加納奈都 デジタルアート作家（裏柳翠）として活動歴6年
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA103S

シラバス参照

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「住居」は、人間が生活を送る上で欠かせない存在であるが、日本では縄文時代から現代に至るまで、竪穴式住居から宮殿、寝殿造や書院造など様々な変遷を経て発達してきたことがわかっている。また、住居の発達に伴い、まちなみや集落、都市が形成されてきた。本講義では、日本の伝統的な住居や都市について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	クラスルームに教材を添付する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	教材をプリントし毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104L

シラバス参照

講義名	色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCGS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1 コマに対して2 時間の事前学習及び2 時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の実務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

シラバス参照

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	KYOBI 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	素描		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOBI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部

到達目標	創造活動のプロセスにおいて不可欠である基礎造形デッサンを習得する。基本となる単純な構造やプロポーションを正確に把握する能力を養い、より複雑な形態へも対応出来る様、応用力をつける。想定描写など、想像力を活かしたデッサン構成などを行い想像力も同時に養って行く。デッサンはデザインの基礎であり、形の情報を表現できるようになると、そのものの存在がどのような素材でできていて、どのような構造を持っているのかを理解できるようになる。
授業概要	3クラスに分かれ、それぞれの目標達成を確認し、自分に合った内容を各自で選択する。物づくりにおいて、自身のエスキースや他者との視覚的コミュニケーションを正確かつ効率的に進める為には造形の持つ基本的な形の把握が重要になる。本科目では、視覚情報を2次元に落とし込む作業を行って行く。具体的には画用紙に鉛筆を用いたデッサンを通して、基礎造形の成り立ちや、パスといった造形の見え方を絵に表現することを学ぶ。プロポーションの把握や空間・量感の表現にも重点を置き、全体という秩序の中で部分を計画出来るバランス感覚を要請する。 芸術学部のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 準備課題 第2回 基礎造形デッサン、想定描写など 第3回 基礎造形デッサン、想定描写など 第4回 基礎造形デッサン、想定描写など 第5回 基礎造形デッサン、想定描写など 第6回 基礎造形デッサン、想定描写など 第7回 基礎造形デッサン、想定描写など 第8回 基礎造形デッサン、想定描写など 第9回 基礎造形デッサン、想定描写など 第10回 基礎造形デッサン、想定描写など 第11回 基礎造形デッサン、想定描写など 第12回 基礎造形デッサン、想定描写など 第13回 基礎造形デッサン、想定描写など 第14回 基礎造形デッサン、想定描写など 第15回 合評会 3クラスそれぞれのカリキュラム設定あり。各コースの課題設定に従って授業を行いません。
成績評価	受講態度40%、課題制作の完成度60%により評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	適宜資料を配布する。
履修上の注意	素描経験者も1から学ぶ姿勢で臨むこと。
予習・復習指導	透視図法などの遠近法を理解するため、課題モチーフと同じ形態のモチーフを用いて反復練習すること。講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。

関連科目	構成基礎演習、立体造形
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	ART-BA108S

シラバス参照

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広義のデザインについて理解する。 ・ 近代以降のデザイン動向を認識する。 ・ 今後の社会とデザインの関わりを考える。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義では、「デザイン」という言葉や概念がどのように変遷してきたのかを理解し、語義の変遷、歴史的な展開、現代社会における役割などを多角的に学ぶ。グラフィックやプロダクト、ランドスケープデザインや環境デザインを含む多様な分野を総合的に考察し、特に現代におけるデザインの役割について深く掘り下げ、技術の進歩や社会課題とデザインがどのように関連しているかを探る。デザインが単なる美的要素ではなく、社会と相互に影響し、課題と対峙する手段として活用されていることを理解する。</p>
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 デザインの意味・語源 第3回 デザインの歴史① 第4回 デザインの歴史② 第5回 デザインの歴史③ 第6回 デザインの現在 第7回 デザインと情報・メディア① 第8回 デザインと情報・メディア② 第9回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第10回 プロダクトデザイン① 第11回 プロダクトデザイン② 第12回 インテリアデザイン 第13回 シビックデザイン 第14回 ランドスケープデザイン 第15回 景観デザイン
成績評価	各回の小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 仙田佳穂『もっと知りたいバウハウス』東京美術、2020年 浦一也『旅はゲストルーム』知恵の森文庫、2004年 川島宙次『民家のデザイン』（日本編）（海外編）水曜社、2016年
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。

関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経験	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中谷 武雄	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>文化財保護法による文化財保護のシステムや方法について、文化財保護法改正の歴史をたどり、その体系、本質と特長を理解する。</p> <p>現在の日本の文化財政策は、文化政策の体系に位置づけられ、文化財の保護から活用へと大きく舵を切りつつある。公開の促進から観光資源化やまちづくり、地域経済社会への貢献を課題とし、その活用の過程に地域住民や民間（経済）団体の参加が促される。</p> <p>文化財の考察に経済（学）的な視点と考え方を導入し、文化財と文化的財の区別と関係、文化産業（財）や著作権、ユネスコの文化遺産保護政策や文化政策までも触れる。将来社会において、生活や地域における文化財の意義や役割について理解する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>文化財保護法による文化財保護のシステムや方法について、文化財保護法改正の歴史をたどり、その体系、本質と特長を理解する。</p> <p>現在の日本の文化財政策は、文化政策の体系の中に位置づけることにより、文化財の保護から活用へと大きく舵を切りつつある。公開の促進から観光資源化やまちづくり、地域経済社会への貢献を課題とし、その活用の過程に地域住民や民間（経済）団体の参加が促されている。</p> <p>文化財の考察に経済（学）的な視点と考え方を導入し、文化財と文化的財の区別と関係、文化産業（財）や著作権、ユネスコの文化遺産保護政策や文化政策までも触れる。将来社会において、生活や地域における文化財の意義や役割について理解する。</p>
授業計画 授業内容	<p>講義計画</p> <p>第I部 現代社会における文化財（1～5）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の文化財と文化（現代文化財経営論 文化財保護法改正） 2 文化財と文化的財（文化経済学からの経済と文化 文化産物） 3 文化（財）の保護と消費（文化の独占的消費から資源化・商品化・産業化・民主化） 4 著作権の経済学（知的財産（権） 創造者、創造作品の保護 創造性の経済学） 5 日本の文化政策（文化庁・文部科学省 文化財保護→文化創造支援、文化財活用） <p>第II部 文化財保護法の歴史と体系（6～10）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 文化財保護法（改正の歴史と文化・文化財の種類の拡張） 7 文化財の体系・種類(1)（有形文化財 無形文化財 民俗文化財 記念物） 8 文化財の体系・種類(2)（伝統的建造物群 重要文化的景観） 中間試験・予定 9 ユネスコの遺産保護事業（世界遺産 古都京都の文化財） 10 日本遺産事業（文化財の観光資源化） <p>第III部 文化財と文化政策（11～15）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11 文化（財）とまちづくり（文化遺産を活かした地域活性化 景観法） 12 文化交流と観光（文化観光推進法 工芸観光） 13 登録文化財（登録制の意義 文化遺産の経済学） 14 まちづくりと地域おこし（文化価値と文化資本の循環・形成・蓄積・発展） 15 文化財政策と将来世界（文化多様性 文化コモンズ ソーシャルイノベーション）
成績評価	<p>期末レポート：35% 中間テスト：20% 毎回の提出物：45%</p> <p>毎回の提出物において、設定された課題に対し、正面から応えることが大切（0～3点評価）</p>
教科書	<p>・文化庁「未来に伝えよう文化財：文化財行政のあらまし」最新版（2023年9月）</p> <p>・文部科学省「我が国の文化政策」（『文部科学白書』第7章）最新版（令和5年度版？）</p> <p>あらかじめ各自でサイトにアクセスし、両者をプリントアウトして通読しておくこと</p>
参考書 参考資料	<p>・村上隆『文化財の未来図：〈ものづくり文化〉をつなぐ』岩波新書1998、2023年12月20日、940＋税</p> <p>・ユネスコ『創造性への投資』2015 「創造性への投資」で検索 プリントアウト</p> <p>・東京大学文化資源学研究室編『文化資源学：文化の見つけかたと育てかた』新曜社、2021年10月25日、2600＋税</p>

履修上の注意	文化・文化財と経済や社会の関係を重視して、政治・産業の動きにも目を配ること
予習・復習指導	1. 準備学修<予習・復習等>（具体的な内容） シラバスの講義概要・内容にしたがって、毎回のキーワードについてあらかじめ調べておくこと 期末レポート作成（1500字程度）のため、関連文献や資料に目を通すとともに、日頃からまちあるきに親しみ、現場／現物を観察／鑑賞しておくこと 2. 準備学修<予習・復習等>（必要な時間） 講義1コマに対し、1.5時間の事前学習、および1.5時間の復習をするとともに、適宜フィールドワークに従事すること
関連科目	工芸と経済 世界文化遺産論 地域社会論
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対する事前相談と、コメントを加えて、最終提出とする
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	KYOBI 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 樋上 千寿	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古代から近代までのヨーロッパ美術の概略を理解する。 ・キリスト教の宗教絵画作品について時代毎の類型や様式を知る。 ・日本の美術とヨーロッパの美術との影響関係について知見を得る。 この科目はDP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	授業テーマ：美術—神と人との関わり 人類は古代より、美術作品の制作という営みを続けてきた。とりわけ、神と人との関係を映し出す宗教美術からは、それぞれの時代や地域の世界観や価値観が反映されている。美術の歴史は、神と人との関係の歴史であるとも言える。授業では、主にギリシャ・ローマ時代の多神教の宗教芸術と、一神教であるキリスト教美術の歴史を概観し、両者の世界観の相違と表現の相違について考察する。また西洋世界と日本との接触から生まれた近世の日本独特の宗教美術についても概観する。宗教との関係が希薄となった現代、社会の中で美術が果たしてきた役割について考察するきっかけとして欲しい。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1、講義ガイダンス～美術史とは？ 2、多神教と美術：ギリシャとローマ、ローマの神殿建築 3、ギリシャ・ローマの彫刻 4、一神教と美術 5、偶像崇拝の禁止と初期キリスト教美術 6、中世キリスト教の美術：ローマ帝国の東西分裂とキリスト教美術の発展 7、中世キリスト教の聖堂建築：ロマネスクとゴシック 8、ルネサンスの美術①ルネサンス運動の発端 9、ルネサンスの美術②レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》 10、アカデミズムの成立と新古典主義 11、新古典主義から印象主義へ 12、印象主義の克服：セザンヌとポスト印象主義 13、桃山美術と西洋文化との接触 14、日本のキリスト教美術 15、まとめ
成績評価	小テスト（4回）40%と期末レポート60%で評価。
教科書	指定しない
参考書 参考資料	『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）、『西洋美術館』（小学館）
履修上の注意	
予習・復習指導	復習を軸とした学習を進め、知識の整理に努めること。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の業務経験	
教員の業務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	伝統絵画技法 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOBI 芸術学部

到達目標	より高度な伝統絵画技法を身につける。基底材とその性質について理解する。この科目はDP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	伝統的な日本における絵画は、古くは中国絵画等の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治以降、西洋画の流入により「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とは異なる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技法を保ち続けている。本科では、古典作品の模写により伝統的な描線、彩色により基礎となる素材画材に触れ技法について学ぶ。併せて、「写意」の伝統に即して学ぶため、基本的な画材である紙面(和紙)に加え、工芸品である扇面の作成と自己作品として描写・制作を実践する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 購入画材確認、進行手順の説明、受講時の留意点、次週の準備 第2回 古典作品の模写による描法①(運筆) 第3回 古典作品の模写による描法②(運筆) 第4回 古典作品の模写による描法①(彩色) 第5回 古典作品の模写による描法②(彩色) 第6回 古典作品の模写による描法③(彩色) 第7回 古典作品の模写による描法④(彩色) 第8回 古典作品の模写による描法⑤(彩色) 第9回 課題制作① 一写生から彩色、仕上げまで 第10回 課題制作② 第11回 課題制作③ 第12回 課題制作④ 第13回 課題制作⑤ 第14回 課題制作⑥ 第15回 課題制作⑦
成績評価	課題への取り組む姿勢、完成度によって評価する。教科書必要に応じて適時資料を提示する。
教科書	必要に応じて適時資料を提示する。
参考書 参考資料	模写手本(コピー手本) 履修上の注意購入道具、一覧表の中で手持ち画材で代用できるものは使用可。授業材料については必須。
履修上の注意	購入道具、一覧表の中で手持ち画材で代用できるものは使用可。授業材料については必須。
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
関連科目	なし
課題に対するフィードバックの方法	実習、演習課題ごとに講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	公益社団法人 日展特別会員 日春会会員、京都日本画家協会会員、日本美術家連盟会員
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築構造力学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築設計における構造設計の役割および建築構造力学の基本事項について講述する。静定梁、静定ラーメンに生じる反力や断面力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）の算出方法を身に付け、断面力図（軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図）の描き方について学ぶ。具体的には、単純梁や片持梁に加えて、ゲルバー梁、3ヒンジラーメンなどの断面力の求め方と断面力図の描き方について学ぶ。自由体の考え方について学び、演習を通じてその利用方法を習得する。さらに、静定構造と不静定構造の違いについて学び、その見分け方を学ぶ。これらを通じて、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション／力の基礎(1) 力の概念・単位 第2回 力の基礎(2) 力の合成・分解・置換、モーメントの計算 第3回 力の釣合い 第4回 単純化されたモデル(1):単純梁と片持梁 第5回 単純化されたモデル(2):静定ラーメン 第6回 静定構造物の反力(1):単純梁・片持梁とゲルバー梁 第7回 静定構造物の反力(2):静定ラーメンと3ヒンジラーメン 第8回 単純梁の断面力と断面力図 第9回 片持梁の断面力と断面力図 第10回 ゲルバー梁の断面力と断面力図 第11回 静定ラーメンの断面力と断面力図(1):単純支持ラーメン 第12回 静定ラーメンの断面力と断面力図(2):一端固定支持ラーメン 第13回 3ヒンジラーメンの断面力と断面力図 第14回 梁、ラーメンの断面力と断面力図の復習 第15回 構造物の安定・不安定と静定・不静定 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出（60%）、定期試験（40%）に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」, 「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-BA217L

シラバス参照

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 浅湫 毅	KYOBUI 芸術学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されていながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せつかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。																																													
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。全15回の授業内容は次項に示した通りだが、最初に仏教の始まったインドの仏教の歴史を簡単振り返るとともに、仏像の誕生の様相を見る。そしてそれらがどのようなルートを通って日本に来たのかを探り、本編としては日本の仏像の歴史を紐解いていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。																																													
授業計画 授業内容	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>東洋の仏教美術 1</td> <td>アジアの国々とインド・東南アジアの仏像</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>東洋の仏教美術 2</td> <td>中国・朝鮮半島の仏像</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>仏像入門 1</td> <td>仏像の素材・年代の概要</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>仏像入門 2</td> <td>仏像の種類</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>日本の仏教美術 1</td> <td>飛鳥時代前期 法隆寺を中心に</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>日本の仏教美術 2</td> <td>飛鳥時代後期 白鳳美術とは</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>日本の仏教美術 3</td> <td>奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>日本の仏教美術 4</td> <td>奈良時代後期 唐招提寺・大安寺</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>日本の仏教美術 5</td> <td>平安時代前期 最澄・空海と密教の美術</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>日本の仏教美術 6</td> <td>平安時代後期 仏像の和様化と定朝</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本の仏教美術 7</td> <td>鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>日本の仏教美術 8</td> <td>鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>日本の仏教美術 9</td> <td>鎌倉時代前期 3 快慶と行快</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>日本の仏教美術 10</td> <td>鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）	第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像	第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像	第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要	第5回	仏像入門 2	仏像の種類	第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に	第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは	第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺	第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺	第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術	第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝	第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭	第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子	第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快	第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術
第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）																																												
第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像																																												
第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像																																												
第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要																																												
第5回	仏像入門 2	仏像の種類																																												
第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に																																												
第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは																																												
第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺																																												
第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺																																												
第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術																																												
第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝																																												
第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭																																												
第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子																																												
第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快																																												
第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術																																												
成績評価	受講態度75% 授業中の提出物10% 期末レポート15%																																													
教科書	特に用意しないが、適宜資料をクラスルームを通じて配布する																																													
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集 東洋編』等の美術書 美術出版『東洋美術史』『日本美術史』『日本仏像史』																																													
履修上の注意	授業ではスライドを写して講義するので、かならず前の方の席に座ること ノートにメモを取りながら受講すること																																													
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の仏像作品をしっかりとみておくこと 授業の事前に配布する資料を必ず読んで確認すること 一講義（1コマ）に対して1時間の予習と1時間の復習をすること																																													
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出した課題は、コメントを付して翌週に返却する 期末レポートはクラスルームの「質問」で課題を出すので、その回答にはコメントを付して返却する																																													
教員の実務経験	京都国立博物館・東京国立博物館に、彫刻担当学芸員として3年間勤務した																																													
教員の実務経験有無	有																																													
科目ナンバリング																																														

<芸術学部> 専門教育科目 D6. 美術工芸科目—基幹科目

京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	コンピュータデザイン演習（デ工）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>グラフィックソフトAdobe Illustrator、Adobe Photoshop、それぞれのアプリケーションの特徴やグラフィックデザインの意義の理解を深め、独自のビジョンを形にするための技術を取得すること。また、AI生成に関する知識を深め、AI生成技術を正しく利用したデータ活用方法を習得することを目的とする。</p> <p>この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>情報基礎演習で学んだIllustrator、Photoshopを活用し、色々なテーマに沿った課題をこなしながらそれぞれのソフトの特徴を深く知る。まずは、Illustratorを使っでの模写。この工程により日常目にしていくデザインについて考えると同時にIllustratorのたくさんの機能に触れることができる為、徐々に使い方と構成力がつく。Photoshopでは、画像編集に便利な機能を学び、デジタルカラーに挑戦することで、現実ではあり得ないような画像表現が出来るようになる。また、進化を続けるAI生成の特性を理解した上で、どのように利用することが有効なのかを考えながら活用方法を習得する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 1回/2コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】アプリケーションの基本操作 第2回 【生成Ai】Aiの活用について。Ai生成機能を使ったポスター制作 第3回 【Illustrator応用①】模写からデザインツールを学ぶ 第4回 【Illustrator応用②】模写からデザイン構成や要素を学ぶ 第5回 【Illustrator応用③】名前のロゴ化 第6回 【Illustrator応用④】取り扱い説明書 第7回 【Illustrator応用⑤】取り扱い説明書 第8回 【Photoshop応用①】色の調整方法 第9回 【Photoshop応用②】画像の加工方法 第10回 【Photoshop応用③】画像の編集方法 第11回 【Photoshop応用④】デジタルカラー 第12回 【最終課題】架空のクライアントを想定した○○ 第13回 最終課題 制作日 第14回 最終課題制作日、提出日 第15回 合評会</p> <p>※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% <p>以上を総合して評価する。</p>
教科書	<p>毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。</p>

参考書 参考資料	『なるほどデザイン』筒井 美希（著）エムディエヌコーポレーション 『けっきょく、よはく。』ingectar-e（著）ソシム 『ほんとに、フォント。』ingectar-e（著）ソシム ※授業では使用しない。
履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 ソフトのインストールは受講前に済ませておくこと。 設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。 ※本授業の履修条件として 「情報基礎演習」を履修済み、もしくは Illustrator、Photoshopの基本操作が出来る者とする。
予習・復習指導	PCアプリケーションの操作方法は、授業で習うことよりも、自分で作りたいものを作る最善の方法を常に考えたり調べたりする方が身に付く。触らなければ忘れてしまうので出来る限り活用すること。 ・1コマに対し、0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りやコンペなどに活用すること。 ・日頃から目に入ってきた気になる広告は写真に撮るなどし、まとめておくこと。 ・課題で作成した制作物はしっかりと整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」 「メディアリテラシー」 「芸術導入実習」 「工芸・デザイン基礎実習I」
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。
教員の実務経験	木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 Illustratorを使用したデジタル表現の作家活動でのノウハウと、DTPやレタッチの技術や知識と経験を活かし、Illustrator、Photoshopを使用した編集技術と表現方法を幅広く学び、「想いをかたちにする」ための演習を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	構法計画 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。建築物を設計し、建築し、維持していくうえで、架構についての理解はとても大切です。</p> <p>建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。</p> <p>木構造は、古くから日本の風土、生活に根ざして発展してきました。戦後復興期には新たに制定された建築基準法に適合する住宅を大量に供給する目的で、構法の合理化、生産性向上などが図られました。建築基準法の改正や新しい材料の導入などに対応し、現在も日々進化しています。さらに近年は脱炭素社会の実現に貢献するものとして木構造の価値が見直されています。</p> <p>本科目では、木構造を理解するために以下について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズム 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテール
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第 1 回 建築構法の分類</p> <p>第 2 回 木構造 (1) 木材の特徴</p> <p>第 3 回 木構造 (2) 木構造の基本構成</p> <p>第 4 回 木構造 (3) 軸組/耐力壁</p> <p>第 5 回 木構造 (4) 耐力壁量・耐力壁の配置</p> <p>第 6 回 木構造 (5) 耐力壁量・耐力壁の配置</p> <p>第 7 回 木構造 (6) 床組の構成/床組の設計</p> <p>第 8 回 木構造 (7) 床組の設計/部材の継手・仕口</p> <p>第 9 回 木構造 (8) 床組の設計</p> <p>第 10 回 木構造 (9) 小屋組の構成</p> <p>第 11 回 木構造 (10) 小屋組の設計</p> <p>第 12 回 木構造 (11) 小屋組の設計</p> <p>第 13 回 木構造 (12) 接合金物・造作・仕上げ</p> <p>第 14 回 木構造 (13) 造作・仕上げ</p> <p>第 15 回 木構造 (14) 枠組壁工法 (2 × 4 工法)</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合があります。</p>
成績評価	<p>定期試験の結果 (40%)</p> <p>授業レポート提出状況・内容 (60%)</p>
教科書	<p>『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社</p> <p>『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ</p>
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。

予習・復習指導	1 講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「建築材料」、「建築生産論」、「構法計画Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	色彩理論演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>Adobe Illustratorを用いて実践的に制作をしながら、色彩理論の基礎的な知識を理解することを目的とする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>色彩は、制作や表現において非常に重要な要素。</p> <p>この授業では、Adobe Illustratorを使用し、様々なテーマや条件が指定された課題を通して、「色の性質」や「色による効果」を理解し、その目的に応じた色彩構成技術、色彩表現技術を習得する。日常生活の中で普段目になっている街中の風景、身につけているもの、有名な絵画や本、SNSなどのインターネットなどの視覚的情報を「色」で捉え、なぜその色が使われているのかを考える。色々な課題をこなしながら自分がどういう色彩に興味があるのか、目をひく色彩とはどういうものか、色が持つ力を理解しながら多角的に色を捉えられるよう学習していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 1回/1コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】色彩について</p> <p>第2回 【演習】好きなキャラクターのカラー分析</p> <p>第3回 【実践練習1】自己色彩分析</p> <p>第4回 【実践練習2】色彩構成「静」「動」</p> <p>第5回 【実践練習3】同系色・補色を学ぶ</p> <p>第6回 【実践練習4】アクセントカラーを学ぶ</p> <p>第7回 【実践練習5】同一トーンで配色</p> <p>第8回 【実践練習6】多色で配色</p> <p>第9回 【実践練習7】グレーケールで配色</p> <p>第10回 【応用練習1】感覚と色-①</p> <p>第11回 【応用練習2】感覚と色-②</p> <p>第12回 【最終課題】条件指定のある○○</p> <p>第13回 【最終課題】制作日</p> <p>第14回 【最終課題】制作日、提出日</p> <p>第15回 【最終課題】合評会</p> <p>※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。

参考書 参考資料	<p>見て分かる、迷わず決まる配色アイデア「3色だけでセンスのいい色」Part 1 見て分かる、迷わず決まる配色アイデア「3色だけでセンスのいい色」Part 2</p> <p>※必要に応じて授業内で紹介する。</p>
履修上の注意	<p>毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 受講前に必ずAdobe Illustrator、Photoshopのインストールをしておくこと。 アプリケーション設定時に必要なID, パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。</p>
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・ 授業で学んだ操作方法を用いて作品作りやコンペなどに活用すること。 ・ 日常生活の中でのなるべく「色」に目を向け、その色を使用している意味を考えてみること。 ・ 課題で作成した制作物はしっかりと整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回授業内にて適宜対応する。 課題内容により、クラスルーム内でもコメントし対応する。</p>
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

講義名	デザイン作図演習 (Aクラス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>Autodesk社の3Dアプリケーション「Fusion360」の操作方法を習得し、デザイン、造形設計など、3Dでの表現方法を習得することを目標とする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>3次元CADソフトFusion360の活用方法、モデリング技術を学ぶ。 授業では、まず、基本的な操作方法を学ぶため、1つ1つの機能を色々な形状を作りながら学んでいく。 この工程を体験することで自分がモノを造る時の細かい注意点に気づくことができるようになる。 モデリングに慣れてきたらマテリアル素材を適用させ、よりリアルに見せる方法を知る。 最終的にプロダクトだけでなく、室内空間など含めた制作をする。 3Dプリンターへの接続方法や出力方法も学べるため、平面でも立体でも「見せる」「伝える」ための手段を増やすことが可能となる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 1回/2コマ</p> <p>第1回 【オリエンテーション】 Fusion360の特徴・インストール 第2回 【基本操作①】 画面操作・基本操作・モデリング基礎・データの管理方法 第3回 【基本操作②】 スケッチの役割 第4回 【モデリング基礎①】 形状の作り方・形状の変形 第5回 【モデリング基礎②】 滑らかな造形のモデリング 第6回 【モデリング基礎③】 レンダリング基礎 第7回 【モデリング基礎④】 拘束・勾配・ミラー機能 第8回 【モデリング基礎⑤】 形状の複製・修正・トリム 第9回 【モデリング基礎⑥】 オフセット・ロフト・ネジ 第10回 【モデリング応用】 オリジナルアレンジ 第11回 【モデリング基礎⑦】 モデリングから2D図面への変換 第12回 【アニメーション】 アセンブリーアニメーション 第13回 【最終課題】 テーマに合わせた制作 第14回 【最終課題】 制作日、提出日 第15回 【最終課題】 合評会</p> <p>※毎回練習課題を行いながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を調整、変更する場合があります。</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況（出席、受講態度を含む）30% ・課題提出（全課題の提出、クオリティ）70% 以上を総合して評価する。
教科書	毎回必要に応じてデータ、もしくは資料を配布する。
参考書 参考資料	Fusion360操作ガイド ベーシック編三谷大暁（著）、別所智広（著）、坂元浩二（著）カットシステム

履修上の注意	毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 マウスの使用は任意ですが、使用を推奨します。 アプリケーション設定時に必要なID、パスワードは必ず忘れないように保存、保管しておくこと。 データはクラウド上で作成、管理するため、Wi-Fi環境の整った場所で制作すること。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none">・ 1回に対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。・ 授業で学んだ操作方法を用いて独自の作品を作成すること。・ 課題のアレンジは進んでやること。・ 課題ごとに試作したものは必ず整理し、まとめておくこと。
関連科目	IT活用応用演習
課題に対するフィードバックの方法	毎回授業内で、適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにてコメントする。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-MA206S

シラバス参照

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

到達目標	デザインに関する著作権をはじめとした知的財産法その他の関係法令の概要及び契約をはじめとする法律関係の概要を理解し、自らのデザインを適切に保護する方法、デザインに関する仕事に携わる中で想定される法的トラブルを予防、適切に対応できる方法を学習する。 この科目は、DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	デザインを作成するにあたり関係する基本的な法律を解説する。具体的には、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法などのデザインに関する知的財産法や、その周辺法律として、民法、個人情報保護法などを解説する。 また、デザインに関する仕事に携わるなかで、自らのデザインに関する権利を適切に守ることやトラブルを予防し、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合に適切に対応する方法を学ぶため、契約の読み方などの契約に関する基本的な事項、トラブルが生じた場合の対応方法などを解説する。
授業計画 授業内容	<p>第1回 オリエンテーション：本講義及び本講義で取り扱う事項の概要</p> <p>第2回 著作権法1 基礎編：著作権法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第3回 著作権法2 応用編：著作権法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第4回 意匠法1 基礎編：意匠法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第5回 意匠法2 応用編：意匠法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第6回 商標法1 基礎編：商標法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第7回 商標法2 応用編：商標法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第8回 特許法・実用新案法1 基礎編：特許法・実用新案法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第9回 特許法・実用新案法2 応用編：特許法実用新案法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第10回 不正競争防止法 不競法の概要、成立要件、保護対象、トラブル事例の検討</p> <p>第11回 その他周辺の法律：民法、個人情報保護法など 民法、個人情報保護法の概要</p> <p>第12回 法的トラブルの概要及びその対応方法</p> <p>第13回 契約1 基礎編：契約の概要、読み方、成立要件</p> <p>第14回 契約2 応用編：具体的な契約の検討</p> <p>第15回 まとめ 講義の総復習</p>
成績評価	レポート（4回程度）：40%、受講態度：60%により評価を行う。 レポートの内容は講義中及び配布資料において説明する。
教科書	なし。
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインと知的財産法実務（民事法研究会） ・クリエイター六法（翔泳社） その他講義中に紹介する
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：配布資料を講義前に確認し概要を把握すること。 ・復習：1コマにつき、4時間の復習を行うこと ・自らがデザインを作成する場合にどのように関係してくるか考えること。
関連科目	生活と法律
課題に対するフィードバックの方法	レポートや質問に対するフィードバックを講義中に行う。
教員の実務経験	国立大学法務部門及び法律事務所において約11年知的財産に関する契約審査、契約交渉などの法律業務に従事している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	伝統絵画技法Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川 雅也	KYOBI 芸術学部

到達目標	より高度な伝統絵画技法を身につける。・基底材とその性質について理解する。この科目はDP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	「伝統絵画技法Ⅰ」と同様に伝統的な日本における絵画は、古くは中国絵画等の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治以降、西洋画の流入により「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とは異なる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技法を保持している。本科では「伝統絵画技法Ⅰ」で習得した描法をもとに、古典絵画に準ずる画材に触れ実技制作を行い伝統的絵画技法が現代においても引き継がれ息づいている事を実践し、リアルな感覚を実感し理解を深める。基本素材の紙面(和紙)に加えて異素材の木製素材をしようし経験値を増やす事を目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回日本画画材を用いた課題制作① 一写生から基本的な行程を経て仕上げへ① 第2回日本画画材を用いた課題制作② 第3回日本画画材を用いた課題制作③ 第4回日本画画材を用いた課題制作④第5回日本画画材を用いた課題制作⑤ 第6回日本画画材を用いた課題制作⑥ 第7回日本画画材を用いた課題制作⑦ 第8回日本画画材を用いた課題制作⑧ 第9回日本画画材を用いた課題制作⑨ 第10回日本画画材を用いた課題制作⑩ 第11回日本画画材を用いた課題制作⑪ 第12回異素材への制作① (木製団扇)第13回異素材への制作② 第14回異素材への制作③ 第15回異素材への制作④
成績評価	課題制作に取り込む姿勢と作品の完成度によって評価する。
教科書	なし
参考書 参考資料	必要に応じて適時資料を提示する
履修上の注意	「伝統絵画技法Ⅰ」を履修しておく事が望ましい
予習・復習指導	授業の進行によりおくれが生じた場合は、自主的に次回までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
関連科目	「伝統絵画技法Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	実習、演習課題ごとに講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	公益社団法人 日展特別会員 日春会会員、京都日本画家協会会員、日本美術家連盟
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	文献・絵画史料概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOBI 芸術学部

到達目標	私たちは遠い過去を実体験することはできません。それはもう「ない」からです。しかし史料が残っていれば、歴史像をい組み立てることはできます。この授業では史料をあつかう技法を学びます。この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	史料とは歴史資料の略語です。つまり過去の歴史像を組み立てるために、私たち歴史家が使う「昔の人」の残したものの全てです。古文書・古記録・典籍など文字史料が代表的なものになりますが、一方で絵画も重要な史料になります。絵画を窓に見立ててみましょう。その窓には複雑なブラインドが下りています。だから向こうは見えません。一つの絵画を読み解くのも同じです。どう読み解いたら向こうに何が見えるのか。そこにどんな歴史の風景が広がっているのか。この授業では絵画を史料に、読みの模索を行ってみます。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「昔の人」と五感を共有する 2 護符の絵像 姫魚とアマビエ 3 絵巻物①『春日権現験記絵』 4 絵巻物②『百鬼夜行図』 5 絵巻物③『道成寺縁起絵巻』 6 絵巻物④『粉河寺縁起絵巻』 7 絵巻物⑤『絵師草紙』 8 肖像画①神護寺蔵「伝源頼朝像」 9 肖像画②清浄光寺蔵「後醍醐天皇像」 10 地獄絵 熊野観心十界図の絵解き 11 垂迹画 北野曼荼羅図 12 参詣曼荼羅図①「清水寺参詣曼荼羅図」 13 参詣曼荼羅図②善光寺参詣曼荼羅図 14 絵馬 扁額絵馬の世界 15 絵馬を史料としてどのように読むか
成績評価	授業ごとのコメントシート (30%) レポート (70%)
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	西山克『熊野観心十界図という誘惑』(岩波書店)
履修上の注意	絵画を史料として読み込むには、読みの作業を繰り返す必要があります。
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の予習および2時間の復習をすること。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームにアップするので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとのコメントシートについて、可能なかぎり、感想や指摘をまとめて授業内あるいはクラスルームで報告します。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	I T活用応用演習 (Aクラス)		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>①Adobeのモーショングラフィックスやビジュアルエフェクトが作成できるafter effectsと動画編集に特化したPremierProの基礎的な操作方法、動画作成方法、編集方法を習得することを目標とする。</p> <p>②3DCGソフトMayaの使い方を習得し、Mayaを使って自分のイメージする形をモデリングできるようになる。さらにそれらのモデルを使ってアニメーションを作れるようになる。</p> <p>③インテリア・建築の表現方法の一つであるCADソフトの使い方を学ぶ。身近にあるインテリア作品、建築作品をCADを使いトレースすることで、基本的な操作方法の習得を目標とする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>①AfterEffectの基本的な操作方法の習得に向けて毎回簡単な練習素材を用いながら色々な機能を身につけていく。また作成した映像とPremire Proとの連携方法の習得を目指す。映像の加工やモーショングラフィックスを使用し、視覚的な要素を駆使して情報やストーリーを伝える手法を学び、映像を通じて効果的なコミュニケーションを実現していく。</p> <p>②3DCGソフトMayaの使い方を学び、3DCGのモデリングとアニメーションの技術を習得する。ポリゴンモデリング、質感設定、照明、レンダリング（最終画像生成）、アニメーションを学ぶ。3DCGの表現を学ぶことで広く造形センスの向上を目指す。3DCGの技術習得そのものを目的にしてもよいし、3DCGをツールとして使い自身の専門分野の造形表現を目指してもよい。</p> <p>③CADソフトの使い方を習得するために、身近にある家具の作図から始め、インテリア空間の作図、建築作品のトレースと少しずつスケール感を変えた作図を行っていく。手書きの図面と同じように、さまざまなスケール感を体験することでCADソフトのメリットとデメリットを把握し、操作方法の習得へと繋げる。同時に、PCを使ったデータのやり取りなど、実社会で行われているデータ管理に関する基礎知識も習得していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/1回2コマ</p> <p>※この授業は下記①②③の3つのクラスの中から1つ選択し、その選んだクラスの授業を15回受講する。 (途中からのクラス変更はナシ)</p> <p>①AfterEffectクラス 第1回 【オリエンテーション】 AfterEffectとPremire Proインストール 第2回 【AfterEffect基礎知識①】 便利ツールのインストール、名前アニメーション 第3回 【AfterEffect基礎知識②】 エフェクト使ってみよう 第4回 【AfterEffect基本操作①】 シェイプアニメーション 第5回 【AfterEffect基本操作②】 オリジナルイラストでアニメーション 第6回 【AfterEffect基本操作③】 モーショングラフィックスを学ぶ 第7回 【AfterEffect基本操作④】 3Dカメラを使ってみよう 第8回 【AfterEffect基本操作⑤】 まとめ（ここまでの復習） 第9回 【AfterEffect基本操作⑥】 Premire Proとの連携</p>

	<p>第10回 【AfterEffect基本操作⑦】 2D写真を3Dへ 第11回 【AfterEffect基本操作⑧】 最終課題テーマ発表 アイデア出し 第12回 【AfterEffect応用】 最終課題素材集め 第13回 【AfterEffect応用】 最終課題制作日 第14回 【AfterEffect応用】 最終課題制作、提出日 第15回 【合評会】</p> <p>②MAYAクラス 1. 3DCG概説、Maya基本 2. ポリゴンモデリング基本1 3. ポリゴンモデリング基本2 4. ポリゴンモデリング 実習1 コロ助を作る 5. ポリゴンモデリング 実習2 ポケモンを作る 6. ポリゴンモデリング 実習3 コーヒーカップ、部屋を作る 7. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 1 8. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 2 9. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 3 10. キャラクター（またはオブジェクト）モデリング 4 11. 質感設定、照明、レンダリング 12. アニメーション基本 13. アニメーション バウンドするボール 14. アニメーション キャラクターアニメーション1 15. アニメーション キャラクターアニメーション2</p> <p>③CADクラス # 1 : CADの概要説明、設定について、課題1「家具の作図（手書き S=1/5）」 # 2 : 課題1「家具の作図（CAD S=1/5）」* # 3 : 課題2「自分の部屋の作図（手書き+CAD S=1/30）」 # 4 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・平面図 S=1/30）」 # 5 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S=1/30）」 # 6 : 課題2「自分の部屋の作図（CAD・展開図 S=1/30）」* # 7 : 課題3「住宅作品の解説」 # 8 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」 # 9 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」 # 10 : 課題3「住宅作品の作図（CAD・平面図 S=1/100）」</p> <p>※①～③全てのクラスにおいて理解状況に応じて、適宜内容や順番を調整、変更する場合があります。</p>
<p>成績評価</p>	<p>①AfterEffectクラス：学習状況、授業態度30%（出欠を含む）、課題提出70%で成績評価を行う。 ②MAYAクラス：学習状況、授業態度30%、課題提出70%で成績評価を行う。 ③CADクラス：毎回の講義後に提出する途中経過の状況（50%）課題の提出状況（50%）</p>
<p>教科書</p>	<p>①AfterEffectクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ②MAYAクラス：毎回必要に応じて資料をデータ配布。 ③CADクラス：ベクターワークスパーフェクトバイブル2023/2022対応 ※購入は任意。必要な資料は適宜配布。</p>
<p>参考書 参考資料</p>	<p>①AfterEffectクラス：図解できちんと理解するAfter Effects モーショングラフィックスパーフェクトガイド 石坂アツシ（著）、山下大輔（著）ラトルズ ②MAYAクラス：Autodesk Maya トレーニングブック 第4版 出版社：ポーンデジタル ③CADクラス：住宅巡礼（中村好文）、住宅巡礼ふたたび（中村好文）など</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>履修上の注意 ①AfterEffectクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・わからないことはメモをとり、必ず調べておくこと。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ②MAYAクラス ・毎回パソコン（電源コード等）を使用するため、忘れないようにすること。 ・作成したデータは毎回必ずまとめておくこと。 ③CADクラス 手書き及びPCを使った実習を行います。筆記用具、スケッチブック、PCを持参すること。また、CADソフトは指定のソフトをPCにインストールしてから講義に臨むこと。</p>
<p>予習・復習指導</p>	<p>①AfterEffectクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・目に止まった映像作品などがあったら参考にし、どう作られているのかを考えてみること。 ②MAYAクラス ・1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 ・気になる映像作品やモデリングに対しよく観察することを心がけること。 ③CADクラス 1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。 事前学習：事前に指示するテキスト該当部分の操作を試し、不明点を明確にしておく。 復習：講義で行った作業を反復することで、操作方法を習得しておく。</p>

関連科目	「デザイン作図演習」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	①AfterEffectクラス：授業内で適宜対応する。また必要に応じてクラスルームにてコメントする。 ②MAYAクラス：授業内で適宜対応する。 ③CADクラス：講義ごとにまとめと質疑応答を行う。また、課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験	木村奈保：印刷会社に写真製版、レタッチャー、広告デザイナーとして6年半勤務。 加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年 その実務経験よりCADソフトによる設計図面の書き方や表現方法、MAYAによる家具や照明のモデリング、AfterEffectによる動画を用いたプレゼン方法を指導していく。実務レベルで求められる技術の基本を学ぶことで、今後の講義における表現方法の幅を広げることを目的とする。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOBI 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせられてつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて21年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 余谷 和則	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	山木 辰哉	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	寺本 健三	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	藤井 茂	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>建築の実務に携わっていくには、建築基準法をはじめとした様々な法的規制（ルール）を知ることが必要である。</p> <p>本講義では、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する基準を定めた建築基準法を中心に、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項やその背景について説明する。</p> <p>個々の建築物を地震や火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点から定めた規制、都市計画的な建築物の秩序という観点から定めた規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。</p> <p>法体系を知り、法律独特の表現方法の読み方に慣れてもらうため、適宜法令集を手にしなが、講義を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、法律の歴史及び概要、用語の定義</p> <p>第2回 建築基準法 : 制度規制（手続き等）</p> <p>第3回 建築基準法 : 単体規定①（採光、換気、シックハウス）</p> <p>第4回 建築基準法 : 単体規定②（天井の高さ、階段の寸法、建築設備）</p> <p>第5回 建築基準法 : 単体規定③（防火規定1）</p> <p>第6回 建築基準法 : 単体規定④（防火規定2）</p> <p>第7回 建築基準法 : 単体規定⑤（避難規定1）</p> <p>第8回 建築基準法 : 単体規定⑥（避難規定2）</p> <p>第9回 建築基準法 : 集団規定①（敷地と道路、用途制限）</p> <p>第10回 建築基準法 : 集団規定②（面積制限）</p> <p>第11回 建築基準法 : 集団規定③（高さ制限）</p> <p>第12回 建築基準法 : 単体規定⑦（構造強度）</p> <p>第13回 建築基準関係規定等</p> <p>第14回 景観条例等</p> <p>第15回 演習</p>
成績評価	受講態度（45%）及び期末試験（55%）により総合的に評価する。
教科書	<p>①井上建築関係法令集（井上書院）</p> <p>②図説 やさしい建築法規（学芸出版社）</p>
参考書 参考資料	講義で適宜配布する。
履修上の注意	建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。

予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4時間の復習をすること。 学んだ内容を必ず法令集で確認し法律独特の表現方法に慣れ、法令集で内容が理解できる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	建築に関する科目全般
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所 株式会社 京都確認検査機構
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	力学理論の基盤を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築構造力学Ⅰで習得した自由体の考え方を利用して、静定トラスに生じる部材力の算出方法（節点法、切断法）について学ぶ。次に、単純梁や片持梁などの曲げ部材について、断面1次モーメントや断面2次モーメントの算出法について学び、断面に生じる垂直応力（応力度）およびせん断応力（応力度）の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、梁のたわみの計算（モールの定理）、柱の座屈荷重の計算など、構造設計における必要知識を習得する。授業の特色として、微積分の考え方をいなくても、力の釣合いのみから梁のたわみやたわみ角を求める方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 トラス構造物の部材に生じる力/トラス構造物の部材力の計算(1)＜節点法1＞ 第2回 トラス構造物の部材力の計算(2)＜節点法2＞ 第3回 トラス構造物の部材力の計算(3)＜切断法1＞ 第4回 トラス構造物の部材力の計算(4)＜切断法2＞ 第5回 断面諸量(1) 断面1次モーメントと図心 第6回 断面諸量(2) 断面2次モーメントと応力（応力度） 第7回 断面力と応力/応力の計算(1) 第8回 応力の計算(2) 第9回 応力の計算(3) 第10回 応力の計算(4) 第11回 梁のたわみの計算(1) 第12回 梁のたわみの計算(2) 第13回 梁のたわみの計算(3) 第14回 梁のたわみの計算(4) 第15回 座屈現象と座屈荷重 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出（60%）、定期試験（40%）に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-MA213L

シラバス参照

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 芸術学部

到達目標	建築物の快適性、エネルギー効率、環境負荷の低減を考慮した設計・運用技術を習得し、実務に役立つ知識を身につけることをめざす。建物の空調、照明、音響、換気、温熱環境など、環境要素の調整方法を理解し、建築物が住む人々にとって快適で効率的な空間を提供できる能力を養う。また、建物の省エネルギー設計や再生可能エネルギー活用、環境負荷低減に関する最新技術を学び、持続可能な社会の実現に向けた技術的解決策を提案できる力を育む。さらに、建築環境に関連する法規制や標準、倫理的な問題についても理解を深め、現場での実践力を高めることを目指す。受講生が環境に配慮した建築技術を駆使し、社会的・経済的に優れた建築環境を提供できる能力を身につけることを目的とする。
授業概要	本科目はDP0-1、DP2-1に該当する。 建築空間における快適性と環境負荷低減の両立を目指し、建築環境工学の基礎理論と応用を学びます。人間が快適に過ごせる室内環境を実現するための温熱環境、光環境、音環境、空気環境について、物理的・工学的観点から理解を深めます。 主な内容として、以下のテーマを扱います。 温熱環境：熱移動の基礎、断熱・日射遮蔽技術、空調の基礎 空気環境：換気計画、空気質の評価と制御 光環境：自然採光と人工照明、視環境の評価手法 音環境：建築音響の基礎、防音・吸音設計 また、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの活用、環境負荷低減の手法についても学びます。
授業計画 授業内容	建築内外の快適な環境条件について理解し、計画設計に応用する能力を養うため、熱、空気、日照、音環境などについて毎回具体的な問題演習をしながら習得する。 全15回 1. 建築環境工学とは 2. 熱環境1—伝熱、熱貫流 3. 熱環境2—壁体各部の温度、断熱 4. 熱環境3—空気線図、結露、温熱感 5. 空気環境1—空気汚染物質、換気 6. 空気環境2—通風、換気的方式 7. 日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 8. 日照と日射2—日射の種類、日照調整 9. 採光、照明と色彩1—視環境、採光の方法、昼光率 10. 採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 11. 採光、照明と色彩3—色彩、色の3属性、色彩調節 12. 音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 13. 音環境2—騒音防止 14. 音環境3—遮音と吸音、室内音響 15. まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書 参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。 一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。

関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所(意匠系)21年経営、建築設計事務所(設備系)6年経営
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	近代建築史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>① 現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。</p> <p>② ①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。</p> <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。近代化過程の内容を理解するには、建築の歴史を単なる様式史として捉えずに、建築の生産の技術（計画・設計・施工等）を様々な面（思想、価値観、社会制度等）から捉えることが重要である。また、各国・地域の様々な試みを捉えることも同様に重要である。上記の視点から、代表的な建築家とその作品の紹介（図面・写真等）をふまえながら、近代の始まりから現代に至るまでの流れを解説する。講義は、大きく4つ（プレ・モダニズム、モダニズム、ポスト・モダニズム、そして日本の近現代建築）に分けて解説していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15コマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス / プレ・モダニズム（1）工業化時代の建築と技術 2. プレ・モダニズム（2）近代建築における伝統性と近代性 3. プレ・モダニズム（3）世紀末ヨーロッパの建築 4. モダニズム（1）建築のアヴァンギャルド 5. モダニズム（2）大量生産社会の建築 6. モダニズム（3）アメリカにおける近代建築 7. モダニズム（4）近代を代表する建築家1 8. モダニズム（5）近代を代表する建築家2 9. モダニズム（6）近代建築の成立と成熟 10. モダニズム（7）近代建築のひろがりと変容 11. ポスト・モダニズム（1）近代建築への懐疑と超克 12. ポスト・モダニズム（2）建築のポスト・モダン／21世紀の建築 13. 日本の近現代建築（1） 14. 日本の近現代建築（2） 15. 日本の近現代建築（3） <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	定期テスト(60%)及び小レポート(40%)により総合的に評価する。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書 参考資料	鈴木博之著『近代建築史』、中谷礼仁著『実況 近代建築史講義』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>予習：教科書の熟読。</p> <p>復習：講義内容の整理、また興味を持った内容について書籍等で理解を深めること。</p>
関連科目	「日本住居史」「日本建築史」「世界建築史」

課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。 その経験を生かし本授業では、建築設計・意匠的視点から代表的な建築作品や歴史の流れを解説する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA205L、AATDE203L

シラバス参照

講義名	文化財情報デザイン論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 前田 尚武	KYOBI 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化を伝える装置としてのミュージアムについての理解を深める。 ・建築文化の魅力を読み解き、社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養う。 ・観光における文化財の価値と保存活用の重要性と可能性に対する理解を深める。
授業概要	<p>ミュージアムは、有形・無形の文化を資料として収集・保管し、安全に守るとともに、調査・研究を通じてその価値を見出し、展示や教育の場として活用する施設である。本講義では、ミュージアムがどのような理論に基づいて建築されるのかを理解する。</p> <p>また近代以降に建てられた京都のモダン建築をフィールドワークし、建築文化の魅力を読み解くとともに、文化財建築が都市の活性化に果たす役割について考察する。さらに、文化財そのものを正しく理解し、コレクションの価値を高める方法を学ぶ。これらを系統的に展示し、情報化して発信することで、過去から現在、現在から未来へと文化を継承するための理論と方法論の重要性を探る。</p> <p>本科目は、DP1-1、1-3に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第01回 ガイダンス 講師・受講者自己紹介</p> <p>第02回 ミュージアムの舞台裏 美術館・博物館建築論1</p> <p>第03回 ミュージアムの舞台裏 美術館・博物館建築論2</p> <p>第04回 建築展の舞台裏 「モダン建築の京都展」から「京都モダン建築祭」へ：文化財建築による都市の活性化</p> <p>第05回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：京都市京セラ美術館見学</p> <p>第06回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ2：京都市京セラ美術館見学</p> <p>第07回 建築鑑賞術 モダン建築街歩きオーディオガイド「モダン建築クロニクル」課題説明・アプリダウンロード</p> <p>第08回 フィールドワーク モダン建築街歩きオーディオガイドを活用した自主見学</p> <p>第09回 フィールドワーク モダン建築街歩きオーディオガイドを活用した自主見学</p> <p>第10回 文化財の種類について 有形・無形の文化財について</p> <p>第11回 文化財そのものを護る 伝統的な文化財保存技術</p> <p>第12回 文化財の価値観を護る 保護し活用する</p> <p>第13回 フィールドワーク 平等院の見学</p> <p>第14回 フィールドワーク 平等院の見学</p> <p>第15回 総評</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な授業参加姿勢とコメントシートでの学びの振り返り：40% ・課題（見学レポート）：60%
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『モダン建築の京都100』石田潤一郎・前田尚武編著 発行：Echelle-1 2021年 ・その他 必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・内容・スケジュールは変更になることがあります。 ・ミュージアム見学は、土日休日に2回連続で振替実施することを予定しています。 ・入館料など個人負担が発生する場合があります。

予習・復習指導	事前学習) 関連する講義テーマに対して、インターネット等で資料検索し、自分なりの考え方を持って授業に臨むこと。(各回60分程度) 事後学習) 授業のコメントシート(文字数自由)を提出。(各回30分程度)
関連科目	文化財情報デザイン論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	実務経験教員が担当
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	文化財情報デザイン論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 前田 尚武	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企画力（リサーチ力、文章力、撮影力、編集力、デザイン力、プレゼンテーション力）を習得。 進行管理能力（合理性と計画性）の習得。
授業概要	<p>美術館や博物館では、多種多様な展覧会が開催されている。本講義では、展覧会を企画・開催するために必要なキュレーターの実践的スキルを学ぶ。具体的には、リサーチ力、文章力、撮影力、編集力、デザイン力、プレゼンテーション力、さらに進行管理能力について理論と手法を習得する。</p> <p>また、講師自身が手掛けた展覧会の事例として、平等院ミュージアム鳳翔館で開催された国宝・平等院鳳凰堂の修理・復元事業や、宇治地域の歴史・文化に関する特別展、地域と共働した展示などを紹介する。これらを通じて、展覧会の企画過程、その後の地域への影響、さらには社会からの評価について考察する。</p> <p>本科目は、DP1-2、1-3に該当する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第01回 ガイダンス 授業の進め方、課題説明（展覧会企画立案）</p> <p>第02回 キュレーションの手法1 展覧会の種類、テーマ、タイトル、企画書のつくりかた</p> <p>第03回 キュレーションの手法2 企画書のつくりかた、展覧会制作の業務とフロー</p> <p>第04回 キュレーションの手法3 展覧会のメインビジュアルと広報展開</p> <p>第05回 キュレーションの手法4 出版物の種類とデザイン・編集方法</p> <p>第06回 キュレーションの手法5 ラーニング・プログラムとアウトリーチ活動</p> <p>第07回 展覧会の事例1 国宝鳳凰堂の平成修理に関連する特別展</p> <p>第08回 展覧会の事例2 創建当初の鳳凰堂復元に関連した特別展</p> <p>第09回 展覧会の事例3 宇治地域の歴史・文化に関する特別展</p> <p>第10回 展覧会の事例4 地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動</p> <p>第11回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：明治村</p> <p>第12回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：明治村</p> <p>第13回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：明治村</p> <p>第14回 フィールドワーク モダン建築を観る、読み解く、楽しむ：明治村</p> <p>第15回 プレゼンテーション 発表と講評</p>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な授業参加姿勢とコメントシートでの学びの振り返り：40% 成果物（課題）のクオリティとプレゼンテーション：60%
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 内容・スケジュールは変更になることがあります。 フィールドワークは、土日休日に複数回連続で振替実施することを予定しています。 入館料など個人負担が発生する場合があります。
予習・復習指導	<p>事前学習) 関連する講義テーマに対して、インターネット等で資料検索し、自分なりの考え方を持って授業に臨むこと。（各回60分程度）</p> <p>事後学習) 講義内容やフィールドワークを振りかえり、課題作成に取り組む。（各回1時間程度）</p>

関連科目	文化財情報デザイン論 I
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（28年間）
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	インテリア設計		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBI 建築学部
	加藤 信喜	
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	主にインテリアデザインに必要な作図を修得する。 ・三面図および天井伏図、透視図等 ・創作作図による計画力およびプレゼンテーション力を身につける。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	インテリアデザインは空間の用途（ライフスタイル・目的行為等）を条件に設計を行う行為である。企画立案、設計与件設定、図面制作、透視図制作、プレゼンテーション等までの一連のデザイン行為を順番に指導する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 第2回 作画基礎（添景・1点透視図） 第3回 作画基礎（家具・2点透視図） 第4回 作画基礎（2点透視図） 第5回 作画展開（1点透視図） 第6回 インテリア課題提示、エスキスの作成 第7回 インテリア平面図の作成 第8回 インテリア平面図の作成 第9回 インテリア透視図の作成 第10回 インテリア透視図の作成 第11回 インテリアスケッチの作成 第12回 インテリア課題提示、事例調査、企画立案 第13回 コンセプト作成、図面作成 第14回 図面作成、プレゼンテーション準備作業 第15回 講評会
成績評価	授業態度（40%）課題作品、プレゼンテーション（60%）として評価する。
教科書	適宜資料配布を行う。
参考書 参考資料	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	課題作品の提出期限を厳守する。 インテリアプランナー合格者の実務試験免除科目に該当する。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	デザイン作図演習
課題に対するフィードバックの方法	授業内のチェック及び課題後の講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	国内外での商業店舗・展示空間設計の実績をもとにインテリア設計を指導する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	

講義名	都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部

到達目標	都市空間のほとんどが日本固有の風土や文化、テクノロジーや社会体制等の影響下に形成されていることを理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の生成において、特に集住のライフスタイル、争い、災害、自然環境との関係による空間形成の構造や形態、交通手段、新しいライフスタイル等の影響等、多岐にわたる都市形成の要因を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス（都市空間の意義、役割） 第2回 都市空間概念の誕生 第3回 都市空間の生成その1（地形） 第4回 都市空間の生成その2（縄文集落） 第5回 都市空間の生成その3（まちの発生） 第6回 都市空間の防御（争い） 第7回 都市空間の防御（社会形成） 第8回 都市空間の防御（水害） 第9回 都市空間の防御（地震） 第10回 ネットワークと都市空間（道路/鉄道） 第11回 ネットワークと都市空間（交通） 第12回 自然環境と都市の関係（農地、里山、自然地） 第13回 自然環境と都市の関係（公園） 第14回 自然環境と都市の関係（庭園） 第15回 総括/レポート
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

シラバス参照

講義名	伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBUI 建築学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	伝統構造とは、日本で古来から受け継がれてきた社寺や古民家などの建築構造を主に示す。しかし、近年では海外から伝わった煉瓦造や鉄筋コンクリート構造、鉄骨造なども歴史的建造物として文化財となるものが増加してきた。 本講義では、伝統的な木造建築を中心に、その他の建築種別についても、基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を全般的に理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法(1) 床組 第6回 伝統木造の工法(2) 軸組 第7回 伝統木造の工法(3) 小屋組 第8回 伝統木造の工法(4) 軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法(5) 雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	教材をクラスルームにアップする。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	構法計画Ⅰ・Ⅱ、日本住居史、日本建築史
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。

教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理 歴史的建造物の修復に携わった経験が豊富であることから、現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法に精通している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA322L

<芸術学部> 専門教育科目 D7. 美術工芸科目一展開科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	構法計画Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 展開科目、 建築学部：美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOBI 建築学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。架構についての理解は、建築物を設計し、建築し、維持していくうえでとても重要であるといえます。建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 本科目では、集合住宅で多用される鉄筋コンクリート造と商業建築の架構として一般的な鉄骨造について、その構成及び基本原理について学びます。さらに架構について理解するために鉄筋コンクリート造、鉄骨造の材料であるコンクリート、鋼材等についても学びます。また、架構以外の建築の構成要素として階段、建具、床・壁・天井等の造作や仕上げについて学びます。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴/鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習の理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合があります。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習: 0.5時間(テキストの次回講義部分を読む) 復習: 4.0時間(授業ノートの整理等)
関連科目	「建築材料」 「建築生産論」 「構法計画Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築生産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩岸 克浩	KYOBI 建築学部

到達目標	建築施工における各行程を設計と施工方法の両面から理解する。さらに建築物の企画段階から設計・施工へ至り、維持保全・解体までの一連の「建築生産」を概観することにより、理解を深めるものとする。この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・建築施工などに関わる職業を志望する学生を対象に、「建築生産」（企画・計画、設計、施工、保全、解体廃棄）を理解し、建物はどのように具現化するのかについて文字で示されイメージしにくい部分を極力ビジュアルで示し平易に解説することを旨とする。施工に至る前段階の企画・計画に始まり、契約から施工、引き渡し、運用、そして解体までの流れを踏まえつつ、特に施工については、準備、仮設工事から、本工事、竣工検査、引き渡しまで全体のプロセスを重視し各種の工法的特徴、前後工事との取り合い（関係）、注意すべき事象などに重点をおいた説明を行う。
授業計画 授業内容	全15回 × 90分 第01回 ガイダンス・建築生産とは①、小テスト 第02回 建築生産とは②、小テスト 第03回 解体工事、小テスト 第04回 準備工事（調査）、小テスト 第05回 準備工事（仮設）・山留め工事、小テスト 第06回 杭工事・土工事、小テスト 第07回 躯体工事①（コンクリート）、小テスト 第08回 躯体工事②（コンクリート）、小テスト 第09回 躯体工事③（鉄骨）、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事・竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席及び受講姿勢（30点）、各授業の最後に小テスト（70点）を実施し、総合的に評価を行う。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。要望、不安、不満などあれば授業終了後に相談してください。
予習・復習指導	1講義（1コマ）に対して、履修の定着を図るため、2時間程度の復習をすること。
関連科目	「構法計画Ⅰ・Ⅱ」 「建築材料」 「建築環境工学」 「建築設備」 「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で回答・ポイント解説を行う。

教員の実務経験	30年土木現場から建築設計・工事監理の経験をもち、CM（コンストラクションマネージメント）DM（デザインマネージメント）も行う。また、15年の高等専門学校、専門学校、資格所得に向けた講義など講師実績もあります。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	造形材料論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>素材とは何か？日常目にする造形は何でできているのか？身近なものから理解を深め、普段我々が見ている「モノ」たちを素材という観点から考察できるよう知識を深めていく。素材の扱い方、素材の魅力、素材の表現方法を成形された造形から読み取る力をつけていく。実践を通して扱ってきたデザイナーによる素材の扱い方を作品を通し、考え方と共に学んでいく。</p> <p>前半では、プロダクトにおける素材とは何か？演習も交えた内容で素材と触れ合いながら学ぶ。後半は、デジタル社会における素材とは何かを共に考え、インタラクティブの世界を見ながらデジタル素材について学んでいく。</p> <p>ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>前半1～10週目は、遠藤による素材についてのディスカッション。 後半11～15週目は、渡邊によるデジタル素材についてのディスカッション。</p> <p>前半では工芸や近現代の産業における様々なものづくりにおいて、手仕事や機械製造の現場において使用される各種素材について解説する。原料が流通・加工され材料の状態になり、更にどのような経緯を通じて我々の手に届くのか、またどのような分野での活用がなされているかを概観する。</p> <p>後半の授業では、デジタル上の素材について解説を行っていく。今やインタラクティブの世界は身近な存在になり、当たり前のように接している現状がある。またITO (Internet of things) は家電から移動手段、買い物からコミュニケーション手段まで様々な状況下において浸透している。現在の状況はどのような構造で我々の生活に入り込んでいるのかを最新の状況を踏まえて解説を行っていく。</p> <p>授業計画による昨年事例と一部異なる場合があります。 本年度授業まえの最新情報を優先していきます。</p>
授業計画 授業内容	<p>1～10週 素材論(遠藤公誉)</p> <p>1週目：手漉き和紙について 2週目：現代製紙産業による紙素材について 3週目：漆の加飾素材について①貝 4週目：漆の加飾素材について②金属箔粉 5週目：木と竹について① 6週目：木と竹について② 7週目：金属について①鉄と鋼 8週目：金属について②銅とその他のベースメタル 9週目：石油と合成樹脂について① 10週目：石油と合成樹脂について②</p> <p>11～15週 デジタル世界における材料論(渡邊俊博)</p> <p>11週目：インタラクティブの世界1 12週目：インタラクティブの世界2 13週目：インタラクティブの世界3 14週目：デジタル素材を使ったGIFアニメーション作り 15週目：GIF課題発表</p>

成績評価	トータル出席数 1~10週の総合評価（毎回課される小レポートの平均点） 14週で作ったアニメーション評価 上記の総合評価により成績を評価する。
教科書	必要に応じてクラスルーム内にてインフォメーションする。
参考書 参考資料	必要に応じて告知、配布する。
履修上の注意	授業中のゲーム、Youtube鑑賞、睡眠、会話など授業の妨げを行った場合は、単位を取消とする。 提出物の期限厳守、遅延による提出は認めない。
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 授業内容を理解し頭に入れることが重要と考える
関連科目	造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 講義の中で紹介する様々な素材や造形の知識に基づいて講義を行っている。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE307L

シラバス参照

講義名	立体造形（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	これまで学んできた基礎力を応用して独自の発想力を活かした造形表現を行う。制作物を芸術的価値・デザインの価値を有するものに作り上げる思考力や表現力を養う事を目的とする。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	この授業では、与えられたテーマをもとに、各自が適した素材や表現方法を考え、それを具体的な形として成立させる作品制作を行う。 ものづくりにおいて、頭の中のイメージを実際の形にするためには、素材の性質や構造を深く理解することが不可欠である。また、素材の選択によって作品の印象やメッセージが大きく変化するため、単なる組み合わせではなく、素材が表現に与える意味や必然性を考察しながら制作を進めることが重要である。 こうした要素を踏まえ、作品の形態や表現方法は各自が設定し、試行錯誤を重ねながら完成度を高めていく。さらに、担当講師とのディスカッションを通じてコンセプトを明確にし、より洗練された表現を目指す。また、作品の意図や魅力を的確に伝えるために、プレゼンテーション資料の作成にも取り組み、表現力と伝達力を養う。これらの過程を通じて、創造的な発想力を育み、個々のデザイン・アートの可能性を広げていくことを目指す。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 授業概要説明 第2回 造形美について 第3回 表現の研究 リサーチ 第4回 課題発見 検討 第5回 エスキースの作成 第6回 表現方法・素材の確定 第7回 作品プレゼンテーション 第8回 作品制作 実制作 1 第9回 作品制作 実制作 2 第10回 作品制作 中間チェック 第11回 作品制作 実制作 3 第12回 作品制作 実制作 4 第13回 作品制作 実制作 5 第14回 作品制作 プレゼンテーションツール制作 第15回 提出・講評会
成績評価	授業態度40%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて適宜資料を配布する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。
予習・復習指導	試作を数多く作る事。 遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 毎回の授業に対して、事前に制作の予習を行うこと。
関連科目	素描、構成基礎演習、造形基礎演習 I
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。

教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの実務も行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	立体造形（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。それらを理解した上で、芸術的価値やデザインの価値を有する造形表現を思考し実行する力、「工芸力」を身につける。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2 DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>立体物を創造する場合の考え方の一例として、線・面の構成で考えることが出来る。つまり1次元2次元の造形の良し悪しが3次元の立体の成果につながる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。</p> <p>昨今では様々な形でコンピューターを活用した造形機器が社会に浸透しており、手わざのの必要なく造形できるようになりつつあるが、根源的には自身の手や指先を含む人が作るという行為なしにはモノづくりは成立しない。</p> <p>便利な機器も、作り出すのは機械ではなく人の手が生み出してきた。素材を触る。技を学ぶ。修練する。創る。もっと良い方法がないか考える。また創る。工芸においても社会においても大切なリズムである。</p> <p>本科目では素材として「竹」などを活用して各自で調査、調達、修練を大きな要素としながら造形に取り組み、素材の違い、特徴などの理解を深め価値ある造形物への思考力表現力など工芸に必要な力を養う。また、場合によって複数メンバーで課題に取り組む場合もある。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/週1回</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業概要説明</p> <p>第2回 編み体験</p> <p>第3回 基礎素材作成（竹ひご作り体験）</p> <p>第4回 制作プラン相談1</p> <p>第5回 制作プラン相談2（確定回）</p> <p>第6回 素材調達及び作成相談</p> <p>第7回 素材調達及び作成相談2</p> <p>第8回 作品制作 実制作1</p> <p>第9回 作品制作 実制作2</p> <p>第10回 作品制作 実制作3</p> <p>第11回 作品制作 実制作4</p> <p>第12回 作品制作 実制作5</p> <p>第13回 作品制作 実制作6</p> <p>第14回 作品制作 作品撮影</p> <p>第15回 提出・講評会</p>
成績評価	<p>授業態度（レポート含む）20%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価。授業ごとのレポート提出の方法・様式は授業初日に説明する。</p>
教科書	なし

参考書 参考資料	<p>「竹のあかり 近藤昭作の仕事」里文出版 「かごと器を編む 竹細工 上達のポイント」メイツ出版 「やさしく編む 竹細工入門」出版者日貿出版社 「図説竹工入門 竹製品の見方から製作へ」共立出版 「かご編みの技法大全 編む・かがる・組む・巻く・結ぶ、編み方の技法を網羅した決定版」誠文堂新光社 「茶席の籠 「ひご」づくりからはじめよう 茶の湯手づくりbook」淡交社</p>
履修上の注意	<p>演習として必要な、材料（竹材）・道具（竹の加工用の刃物（鉦・小刀等））などの最低限の道具は各自購入等で入手、手入れしてもらいます。初回授業時に説明。</p> <p>刃物を扱う作業なので、怪我などの事故について一定の危険があるの。 授業内での注意事項やルールが守れない場合は講師の判断で履修を継続できない場合がある。</p> <p>①授業時間は作業時間ではなく課題作品の作業段階での意見交換や答え合わせの場として活用する。 材料の作成、プランの検討、図面の作成提出など期限を守り、十分な時間をかけて授業に臨む。 ②自らが取り組む技法、素材について授業前・後に参考書等から関連する知識を ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。</p> <p>竹の加工には刃物を活用するので、刃物を十分に手入れして自らの作業に支障が生まれないように準備する。</p> <p>授業内で十分な理解が出来なかったことは、必ず調べる。 必要に応じて疑問点を授業の中で共有し、解決案を探るように努める。</p>
関連科目	芸術導入実習、伝統工芸概論、造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ、造形芸術論
課題に対するフィードバックの方法	各授業ごとにレポート提出で、必要に応じて質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	<p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 漆工芸作家として様々な伝統技法や素材を活用し、工芸を志す学生に特に重要な可能性を見出し、作品制作に活用している素材の1つの竹を使用して、入手が容易であり、大規模な機器を使用することなく加工を行うことができる素材を使用して、工芸授業を行う。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE308S

シラバス参照

講義名	近代デザイン史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>近代日本における美術、工芸とデザインの動向を学び、現代に続くものとして考え、研究・制作に活用できるようになること。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義は、おもに近代における日本国内のデザインに関する動向を対象とする。こんにちの日本におけるデザインを把握するうえで必要となる、近代になって成立した「デザイン」とそれに関連する「美術」「工芸」などの概念の成立と展開について解説する。また、明治以降に開催された国内外のおもな博覧会および展覧会、美術・図案・デザインに関する団体、教育機関、作品や作家・デザイナーなどの具体的な事例を紹介する。それらを踏まえたうえで相互関係を整理し、現代まで続く美術、工芸とデザインについて理解する。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 美術・工芸概念の成立① 第3回 美術・工芸概念の成立② 第4回 美術・工芸概念の成立③ 第5回 万博と海外のデザイン 第6回 「美術」「工芸」と教育 ① 第7回 「美術」「工芸」と教育 ② 第8回 「美術」「工芸」と教育③ 第9回 図案家と図案団体 第10回 図案集というメディア 第11回 官展と工芸 第12回 都市化と工芸・デザイン 第13回 商業美術と戦前のグラフィックデザイン 第14回 デザイン以降の工芸 第15回 総括</p>
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・竹原あき子／森山明子 監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 ・森仁史『シリーズ近代美術のゆくえ 日本（工芸）の近代 シリーズ近代美術のゆくえ』吉川弘文館、2009年 ・並木誠士 編集『京都近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・1コマに対して、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・講義内で配布する資料を読み、各回のトピックについて理解すること。前後の流れを把握しておくこと。
関連科目	デザイン概論
課題に対するフィードバックの方法	出席確認時の質問に対して次回以降、講義内もしくはクラスルームで回答する。

教員の実務経験	デザイン制作会社におけるデザイナーとしての経歴、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	古文書解読演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野 拓也	KYOB I 芸術学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。 また、記載内容と記載されているモノ（古文書・税として納められた布等）の関係を考察し、奈良時代の歴史について理解を深める。この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。 また、仏像のような彫刻作品には、像の作者だけでなく発願主による願文が残されていることがある。さらに、古建築の部材には、使用場所を示す符丁だけでなく、作業の合間に書かれた落書も存在する。このような文字を読み解くためにも、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。その上で、「モノ」に携わった人々の「想い」に触れてほしい。
授業計画 授業内容	3回にわけて正倉院、および正倉院宝物の性格を講義し、奈良時代の文字史料がどのような意味を持つのか、またどのように伝来したのかを理解してもらう。 その後、実際の古文書などの写真を教材として、くずし字の解読を行う。授業の前半は史料の性格などを簡単に紹介し、みずからの力でくずし字を読んでもらう。後半は、くずし字の解読方法について解説を行う。 また、古文書のような紙に書かれたくずし字だけではなく、木・布などの様々な素材に書かれた文字の形を読み解いていく。12回の演習のうち、木に書かれた文字、布・絹に書かれた文字、金属に書かれた文字、その他を各1回以上行う。文字が書かれる素材によって、文字の表情は多様なものとなる。素材ごとの文字の解読についても学んでもらう。
成績評価	評価ポイント：受講態度（小レポート）（60%）、定期試験（40%）
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版） ※タイトルを間違えないこと
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典 普及版』と漢字辞典を持参すること。漢字辞典については、電子辞書でもよい。
予習・復習指導	読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみること。 書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮内庁正倉院事務所において、古文書・経巻の調査を行っている。古文書だけでなく、木や、布・絹でできた宝物に書かれた文字を解読し、『正倉院紀要』において報告している。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOBI 芸術学部

到達目標	私たちの知っている「歴史」は、多くは文字史料の解読によって組み立てられたものです。古文書・古記録を始めとする文字史料の解読を通して、歴史の実像に触れる技術を学びます。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。
授業概要	古文書学という学問があります。古文書の形態や様式（書式）や機能から、それらを読み解き、新しい歴史像を紡ぎだしていく、そんな学問です。この授業は「古文書解読演習」となっていますが、古文書学の全貌を紹介するには時間が不足しています。そこで文字を読み取ることに主眼を置いて、授業を組み立ててみようと思います。日本の文字にはもちろん漢字と仮名があります。漢文の古文書を読むと同時に、絵巻物の詞書や和歌（たとえば百人一首）のような仮名（変体仮名）交じり文も読んでみましょう。努力すれば、楽しみながら昔の人の書いた文字が読めるようになります。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 講師の実体験を紹介しながら、古文書とは？の疑問に答えます。 2 まずは古文書研究のイロハについて語りましょう。古文書解読辞典や関連サイトの紹介もします。 3 崩し字に慣れることを目的に、江戸時代の草双紙の文字や、同じく江戸時代の離縁状（三行半）を読んでみます。 4 鎌倉幕府の文書を時代背景も考えながらゆっくりと。あわせて絵巻物『辟邪絵』の詞書を読んでみます。 5 引き続き鎌倉幕府の文書を。百人一首の変体仮名にも慣れましょう。以下、百人一首は繰り返し使います。 6 鎌倉幕府滅亡後の文書を。絵巻物『春日権現験記絵』の詞書も。 7 これまでの解読を振り返り、小テストを。 8 室町幕府初期の文書を。仮名文字は引き続き『春日権現験記絵』の詞書を。 9 引き続き室町幕府の文書を。『法然上人絵伝』などの祖師絵伝の詞書を。 10 上意下達文書に対して上申文書を。『長谷雄草紙』の詞書を。 11 神々に誓約する起請文を。『道成寺縁起絵巻』の詞書を。 12 戦国期の武将の文書を。『道成寺縁起絵巻』の画中詞（漫画の吹き出しにあたる）を。 13 戦国大名の印章の捺された文書を。『付喪神絵詞』の詞書を。 14 中世から近世へ、時代を換えた文書を。僧侶の肖像画である頂相の賛文も読んでみましょう。 15 すでに使用した古文書などの史料を見ながら、みなさんの習熟度を確認します。
成績評価	受講態度（10%） 小テスト（20%） 試験（70%）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字解読辞典』、同『くずし字用例辞典』。ただし詳細は第一回目の授業時に。
履修上の注意	崩し字の解読は慣れることが重要です。配布資料を目の触れるところに置いてください。
予習・復習指導	1コマに対し、0.5時間の予習および0.5時間の復習をすること。授業時間だけでは必ず時間が不足します。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームで公開するので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや折々のコメントシートの総評を、可能なかぎり、まとめて授業内あるいはクラスルームで報告します。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総括的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介</p> <p>第2回 インテリア空間</p> <p>第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説</p> <p>第4回 インテリアスタイル</p> <p>第5回 家具デザイン</p> <p>第6回 ウインドトリートメント</p> <p>第7回 ライティングデザイン、</p> <p>第8回 インテリア設備</p> <p>第9回 マテリアルコーディネート</p> <p>第10回 カラーコーディネート</p> <p>第11回 エルゴノミクス（人間工学）</p> <p>第12回 室内環境</p> <p>第13回 インテリア計画と発想</p> <p>第14回 エンバールデザイン、サステイナブルデザイン</p> <p>第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。</p>
教科書	<p>図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子</p>
参考書 参考資料	<p>授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。</p>
履修上の注意	<p>室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。</p>
予習・復習指導	<p>1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。</p> <p>また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。</p>
関連科目	<p>「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。</p>

教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえ解説による講義を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE312L

シラバス参照

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>デザインを単に造形や機能性の観点から捉えるのではなく、広義にわたる意義や役割について深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など、あらゆる領域におけるデザインの影響を理解し、国内外の事例を通じてデザインがもたらす価値や問題点を検討する。さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決に導く能力を養うとともに、デザインを通じた人生観の形成を目指す。</p> <p>主な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>公共物や公共空間が果たす社会的役割および文化的価値について深く掘り下げ、そのデザインがどのように社会へ影響を与えるのかを考察する。芸術、建築や都市計画、環境デザインの中の視点を交えながら、国内外の具体的な事例を通じて学ぶ。また、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自身の視点を持って批評できるようにすることを目的とする。</p> <p>授業で行うこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前の準備：思考の深化（各週） 2. 講義：キーワードと概念の理解（各週） 3. アウトプット：アンケート方式による意見共有（各週） 4. レポート提出：学期末に1回
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 人生のデザイン 第2回 発想のデザイン 第3回 思考のデザイン 第4回 プロセスのデザイン 第5回 見せ方のデザイン 第6回 認知のデザイン 第7回 記憶のデザイン 第8回 夢のデザイン 第9回 見せ方のデザイン 第10回 体験のデザイン 第11回 公のデザイン 第12回 景観のデザイン 第13回 再生のデザイン 第14回 循環のデザイン 第15回 生き延びるためのデザイン</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>授業態度（出欠）75% → 出席課題 15回 × 5点 レポート 25%（合計1回）</p>
教科書	配布資料、映像等

<p>参考書 参考資料</p>	<p>「LIFE SHIFT100年時代の人生戦略」アンドリュー スコット、他 「カミング・バック・トゥ・ライフ」ジョアンナ・メイシー、モリー・ヤング・ブラウン 「繊細さは、これからの時代の強さです」アニータ・ムアジャーニ 「デザイン思考が世界を変える」ティム ブラウン 「実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決」ジャスパー・ウ 「突破するデザイン」ロベルト・ベルガンティ 「新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる」リチャード・フロリダ 「フリーエージェント社会の到来—「雇われない生き方」は何を変えるか」ダニエル ピンク 「幸福の「資本」論—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」」橘玲 「10年後の仕事図鑑」堀江 貴文、落合陽一 「多動力」堀江貴文 「ハウ・トゥー アート・シンキング 閉塞感を打ち破る自分起点の思考法」若宮和男 「直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN」佐宗邦威 「リサーチ・ドリブン・イノベーション 「問い」を起点にアイデアを探究する」 安齋勇樹 「ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する7つのステップ」 寛裕介 「プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる」 尾原和啓 「アフターコロナのニュービジネス大全 新しい生活様式×世界15カ国の先進事例」 原田 曜平 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「認知バイアス辞典」情報文化研究所 「サステイナブルなものづくり」W・マクダナー 「里山の環境学」武内和彦、他 「発想する会社！」トム・ケリー 「生き延びるためのデザイン」ヴィクター・パパネック 「沈黙の春」レイチェル・カーソン 「つくる公共50のコンセプト」せんだいメディアテーク 「まちづくり幻想」木下斉 「コミュニティデザイン」山崎亮 「テンポラリーアーキテクチャー」OpenA 「人生を変える最強のコミュニティづくり」美宝れいこ 「シェアをデザインする」猪熊純、他 「ブルー・ゾーン」ダン・ビュイトナー 「人口減少社会のデザイン」広井良典 「コミュニティ・オーガナイジング」鎌田華乃子 「持続可能な地域の作り方」寛裕介 「ネイバーフッドデザイン」荒昌史 他</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>講義内容はオムニバス形式である。ゲストを招いた講義も予定。</p>
<p>予習・復習指導</p>	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義前に配布される資料をよく読み込むこと。 各回講義で扱う用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。</p>
<p>関連科目</p>	<p>建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却するなど。授業時間外にも、担当教員への質問を随時受け付ける。</p>
<p>教員の実務経験</p>	<p>担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの实務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導行う。</p>
<p>教員の实務経験有無</p>	<p>有</p>
<p>科目ナンバリング</p>	<p>COM-DE313L</p>

シラバス参照

講義名	造形芸術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOBI 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>デザインと芸術の違いとは何か？芸術における造形とは何か？デザインにおける造形とは何か？造形と考え方（コンセプト）など、身近な素材との関わり方から芸術、デザインにおける造形表現を学んでいく。素材の扱い方を通し、造形になる過程を理解していく。素材との関わり方を通して自身のアイデアを形にするときの考え方の手順を身につけることができる。</p> <p>材料の扱い方、素材の違いなど、身近に接している造形に使われている素材を紐解き、知識として身につけることができる。</p> <p>デザイン・工芸の両面から扱う素材の違いや、素材の活かし方を詳細に説明し扱い方と表現について学ぶ。</p> <p>ディプロマポリシー：DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>授業は、前半と後半に分かれる。</p> <p>前半は身の回りにある芸術への手がかりを見つけるために認識や情報の伝達、造形のための道具や素材、またそれらが生み出した価値や、精神的な価値と物質的な価値の手がかりを講義を通して学生たちとともに探求していく。</p> <p>後半はデザイン的な視点の多様性を講義する。</p> <p>後半の授業は私たちの身近な趣味や、オタクの世界を掘り下げた内容を解説していく。日本には「オタク」という世界標準語になるほどの強い独自の世界観を持った深い造形の世界が展開している。このオタク産業は世界に飛び火し、世界中からオタクを求めて日本にやってくる現象が起こっている。毎週モノと人の関係、その内容の深さ、造形に携わる人と世界の関係性などを解説していく。</p>
授業計画 授業内容	<p>1～7週目 三木表悦</p> <p>1～7週目 三木表悦</p> <p>1週目：身の回りにある認識</p> <p>2週目：身の回りを知るための情報</p> <p>3週目：身の回りにある道具</p> <p>4週目：身の回りにある素材</p> <p>5週目：身の回りにある価値の変化</p> <p>6週目：身の回りにあるモノ「畏」</p> <p>7週目：芸術の可能性</p> <p>8～15週目 渡邊俊博</p> <p>8週目 DesignとART</p> <p>9週目 カスタムの世界</p> <p>10週目 カスタムの世界2</p> <p>11週目 フィギュアの世界</p> <p>12週目 ルアーの世界</p> <p>13週目 段ボールの世界</p> <p>14週目 映像の世界</p> <p>15週目 ペーパーテスト</p> <p>授業の内容は、多少変更及び前後することがあります。</p>
授業計画表	15回 三木先生1～7回、渡邊先生8～15回

成績評価	出席、授業態度、テストの総合評価を持って成績評価とする。
教科書	パワーポイントによる資料投影 なし、必要書類がある場合は随時配布
参考書 参考資料	事前にクラスルームないでアナウンスする。
履修上の注意	本講義は座学になります。授業中、ゲーム、インターネットの閲覧、睡眠その他、授業受講に際し、迷惑行為を行わないよう心がけてください。
予習・復習指導	講義終了後、使用した資料を随時クラスルームにアップする。 必要に応じて復習すること。 期末テストはアップされた資料をもとに行う。
関連科目	造形材料論
課題に対するフィードバックの方法	1～7講義のレポートの総括をする。8～15講義はクラスルーム内に講義終了後、講義データをPDFにてアップする。
教員の実務経験	渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 個展・グループ展・企業企画展へ多数出展、コンペによる受賞歴多数、さまざまな素材を熟知し素材開発、プロダクトデザイン、店舗デザインなど実績を多数有する。 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 講義の中で紹介する様々なテーマの知識は、デザインの仕事を通して関わった人物や個人の趣味・実益から得た経験値に基づいて資料を作成している。全授業の内容は表層の知識ではなく、一つ一つ深く掘り下げた「オタク」領域の内容をテーマとして講義を行う。 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE314L

シラバス参照

講義名	現代芸術論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 山本 太郎	KYOBI 芸術学部
特任教授	川尻 潤	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>「現代美術」など新しい芸術分野の発生、背景、歴史、意義、および「芸術と社会との関係性」を理解し、その知見を自分の制作や卒業後の活動などに生かすことができるようになる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>20世紀に誕生した現代美術、ポップアート、モノ派など様々な現代の芸術を、付随するサブカルチャーなども併せて考察し授業を行う。学術的な観点からだけでなく、現役のアーティストとして活動する教員ならではの視点で伝える。</p> <p>前半を山本、後半を川尻が担当し、それぞれの見地から論じる。</p> <p>前半の山本パートではワークショップ形式の授業も予定している。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス／序論に代えて 川尻・山本 第2回 言葉とアート／タイトルについての試論とワークショップ 山本 第3回 物語とアート／コンセプトについて考える 山本 第4回 言葉と物語とアート／物語を作成してみる 山本 第5回 現代とアート／なぜ分りにくいかを考える 山本 第6回 システムとアート／お金とアートについて考える 山本 第7回 システムとアート／お金とアートについてのワークショップ 山本 第8回 世の中とアート／社会の中で消費されていくアートについて考える 山本 第9回 原始美術・縄文美術 川尻 第10回 現代美術の展開 川尻 第11回 ポップアート 川尻 第12回 モノ派 川尻 第13回 マーケティング 川尻 第14回 「人種・宗教・差別」と芸術 川尻 第15回 税制とアートマーケット 川尻</p> <p>※授業計画はその年の進捗や履修学生の興味、理解度などによって変更する場合があります。</p>
成績評価	<p>授業態度40%、授業レポート60%を基本とし総合的に評価する。</p> <p>前半8回は毎授業の最後にミニレポートの提出を課します。(ミニレポートが前半の評価対象となります。)</p>
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	授業に応じて適宜紹介する。
履修上の注意	前半8回に関してはパソコン、タブレット、スマホなどWEBにつないで検索ができるデバイスを持参すること。
予習・復習指導	1コマに対して2時間程度の予習や復習をすること。 授業に関わる展覧会を視察したり、関連書籍、関連動画などを視聴することも予習、復習とする。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜対応する。

教員の実務経験	山本太郎：1999年に日本画ならぬ「ニッポン画」を提唱。国内外で展覧会を多数開催する。その作風は現代の琳派とも評される。 川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-DE315L

<芸術学部> 専門教育科目 D8. 専門実習・演習科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	芸術導入演習（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 加納 奈都	KYOBI 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOBI 芸術学部

到達目標	専門教育のための基礎として描画力を養う。 芸術的なアプローチを試み、描画表現によるメッセージの伝達スキルを学ぶ。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	ミリペン、ボールペンなどの画材を使用し、大型の細密描写を用いた作品の制作を行う。 制作を通して専門教育を受けるために基礎的な表現力・描写力・発想力を身につける。 長期の制作期間を通して作品制作への姿勢・忍耐力も併せて身につける。 制作過程で数回のブラッシュアップを行い、作品への完成度を高めていく。 課題のテーマをもとに表現イメージを想像する。 その想像を確かなものにし、表現の選択肢を増やし広げるために、既存の細密画作品や画像を集めて明確化する。 明確になったイメージを表現に写し、より具体的な形へと仕上げていく。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 テーマに関する調査 第3回 テーマに関する調査 第4回 テーマに関する調査 第5回 下描き 第6回 下描き 第7回 進捗報告会 第8回 本制作 第9回 本制作 第10回 本制作 第11回 本制作 第12回 本制作 第13回 本制作 第14回 本制作 第15回 講評会 ※課題の詳細はガイダンス時に示す
成績評価	受講態度50% 提出作品50%によって評価する
教科書	適宜資料を配布する
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	プロセス上の不明点や疑問点等は担当教員に速やかに相談する。 教員のアドバイス等を十分に理解する。 教員とのコミュニケーションをできるだけとる。 プレゼンテーションの準備をしっかりと行う、また積極的に質問を行う。
予習・復習指導	描く習慣を身につけるため、平素から身の回りの物や人、風景をスケッチする。 1コマに対して0.5時間の事前学習および0.5時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入演習」「造形基礎演習Ⅰ」

課題に対するフィードバックの方法	適宜講評・質疑応答を行う
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴7年。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP101S

シラバス参照

講義名	芸術導入演習（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>自身の専攻していない他分野の工芸技法を実際に体験することで、さまざまなものづくりに対する見識を広げる。これからの作品作りにとっての発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>自身が所属・専攻していない工芸分野の技法について体験的に学習する。陶芸専攻生は木工・彫刻と漆芸を、木工・彫刻専攻生は陶芸と漆芸を、漆芸専攻生は陶芸と木工・彫刻を、それぞれの実習室に出向き作業を行う。この過程で専攻以外の工芸について基礎的な知識と技術を学ぶ。15週を前後半に分け、7回の授業時間で一点以上、各分野の工芸技法による成果物を制作、計2分野の比較的簡単な工芸作品を完成させる。自身の専攻では触れる機会の少ない様々な素材を扱うことで、工芸についてより深く理解し、将来の作品制作における発展の素地を準備するきっかけにする。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週1日</p> <p>陶芸…陶芸の「手捻り」の技法にて茶碗と皿などを制作。成形、高台削り、さらに素焼き生地に下絵付けを施す、印判による模様付けなどの制作過程を学習する。他に、電動ロクロの体験も行う。</p> <p>木工…縷子文様の地紋彫りを通して彫刻の基本を学ぶ。彫刻刀などの使用により道具の理解を深め、古典文様を彫刻する中で、木材の性質を学び、運刀法の基本技を学ぶ。</p> <p>漆芸…漆芸の代表的な加飾技法である厚貝素材による螺鈿技法を学ぶ。漆素地の磨き仕上げ・貝部分のデザイン・切り出し・削り・磨き・貼り付けの工程を通じ、道具の扱いも含め学習、体験する。</p> <p>上記の内、専攻以外の2分野につき第1週～第7週、第8週～第14週で作業を行う。第15週は全体で総括を行う。</p>
成績評価	受講態度50%、技の習得度20%、提出作品30%等を基本に、総合的に判断する。
教科書	なし。講習に使用するP.P.のデータなどを活用する場合もある。
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	<p>作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。</p> <p>予習・復習をすることで材料・技法を深く理解するように努める。</p> <p>自身の経験の振り返りのため、できる限り作業工程を記録しポートフォリオを作成する。</p>
予習・復習指導	1コマに対して0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。自身の扱う素材についての関連情報を調べて予備知識を得ておくこと。
関連科目	「芸術導入実習」「工芸概論」「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に行う合評の中でフィードバックを行う。

教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として漆芸に必要な技術を教授する。 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 長年彫刻工芸家が立体彫刻に必要な技術を教授する。 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を活かして、陶芸に必要な技術を教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	芸術導入実習(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOBI 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>アートやデザインに関する基礎的な情報を取り入れる。表現することの楽しさや重要性についてディスカッションを通して学ぶ。アイデアやイメージを考え、見る人に伝える表現力とグループワークによる協調性を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>(※2023年度課題)</p> <p>平面系課題 課題1：キャンパスがキャンパス 大学のキャンパスをキャンパスに見立てて、空間に図形を描く。ある角度から見ると形が見えるが、別の角度から見ると全然別のものに見える制作を行う。「立体錯視」を応用する。</p> <p>課題2：カラーコンポジション いくつか(3~4色)の色を組み合わせて、特定の言葉や感情などのキーワードを表現する。</p> <p>立体空間系課題(2課題設定) ・1課題目 「〇〇分の1の世界」 ・2課題目 「文字と身体による表現」 アートとデザインの領域を立体空間表現を用いて視覚化していく。 2次元から3次元への移行など、世界観の表現を重視し課題を行っていく。</p>
授業計画 授業内容	<p>授業は平面系課題と立体空間系課題に分けて実施する。 * 課題の内容・順序は変更する可能性があります。</p> <p>●平面系課題 第1回 ガイダンス 第2回 キャンパスがキャンパス① 第3回 キャンパスがキャンパス②</p> <p>4回目以降はカラーコンポジションの課題</p> <p>第4回 お題決め 役割分担 第5回 フィールドワーク 第6回 色作り 第7回 色作り 第8回 色作り 第9回 カラーチャート並べ 第10回 カラーチャート並べ 第11回 カラーチャート並べ 第12回 カラーチャート並べ 第13回 カラーチャート並べ 第14回 カラーチャート並べ 第15回 合評</p>

	<p>●立体空間系課題</p> <p>1課題目 (1~7週目) 「〇〇分の1の世界」 ある朝起きたら自分が〇〇分の1に縮んでいました！ さーどうしましょう。 普段気にしていない小さな世界と、自分が〇〇分の1に縮んだ状態との関係性を新たな価値観・世界観として創造してください 自身のミニチュアを制作し、世界観を表現。 写真カット数10点 PDF 1枚にまとめ提出 自身の世界観の表現は、ストーリーがあっても可、単体の設定でも可。</p> <p>2課題目 (8~14週目) 「文字と身体による表現」 4コマ漫画の実写化 5人ーと組のグループになって、4コマ漫画を実写化してみよう！ ストーリーを考え、人物によるポーズ、吹き出しはカットティングシートで実物大を作り壁や窓、床に貼る。 2次元の世界を3次元で表現し、世界観の逆転を創造してください。 4コマ漫画ストーリーを考える グループワーク 5人1組 一人一人意見を出し合い、ディスカッションを重ねたのち、4コマの吹き出しとポーズ絡みなどを実写化する 吹き出しと文字はカットティングシートを使って、壁や窓、床に貼る。</p> <p>15週目 2課題プレゼンテーション 個人とチーム代表</p>
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。 課題を通して学ことは2つ。「視点の持ち方」「言葉の視覚化」を題材に実技作業を行う授業である。デザインの仕事とは情報操作の表現であること。情報操作を行うためにはどのようなモノの捉え方が必要なのか、長年デザインに携わった実績の中から一部分の切り取りを題材として実演表現を行なっていく。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

シラバス参照

講義名	芸術導入実習(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>工芸技法を習得するためには経験の集積による理解・認識が大変重要になる。作業に応じた素材の特性や扱い方、道具類の適切な加工・調整方法と使用方法を学ぶ中で、知識として知っているだけではなく、体験を通じて理解してゆくことを目標とする。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>始めに漆芸技法の基本となる髹漆技法(きゅうしつぎほう：漆による下地・塗りの技法)に欠かせない道具作りの方法を体験、習得する。切出小刀と呼ばれる刃物の研ぎ・ヒノキ材を加工してのヘラの制作・漆芸専用の漆刷毛の布着せと漆塗り、刷毛先の削り出しと叩き・ほぐしを行う。自身の刃物を研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には漆で布を貼り、漆を塗り込み補強し使用に耐える強度を確保する。これらの道具づくりを通じて、自分自身が使いやすい道具の調整方法を身につける。また並行して練習用手板の制作も行う。板状の素地に漆塗りを複数回施し、ヘラ・刷毛と漆の扱いを習得する。この手板は後期の線描き蒔絵の実習に使用する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 道具作り1：ヘラ木切り出し、鉋がけ 第2週 道具作り2：ヘラ木切り出し、鉋がけ、油引き 第3週 道具作り3：切り出し小刀研ぎ 第4週 道具作り4：切り出し小刀研ぎ、ヘラ削り 第5週 道具作り5：漆刷毛木地固め、木地固め研ぎ、布着せ 第6週 道具作り6：漆刷毛布目揃え、目摺り錆 第7週 道具作り7：漆刷毛布目摺り錆研ぎ、固め 第8週 道具作り8：色漆練り、漆刷毛色漆塗り 第9週 道具作り9：漆刷毛切り出し、ほぐし、糊洗い 第10週 道具作り10：手板木地固め 目摺り錆 第11週 道具作り11：漆漉し、下塗り表裏 第12週 道具作り12：研ぎ、塗り重ね 第13週 道具作り13：研ぎ、塗り重ね 第14週 道具作り14：研ぎ、上塗り 第15週 道具作り15：作業完成確認、総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	<p>なし。必要に応じて適宜資料を配布する。</p>
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。 また、配布する資料、参考書等文献から関連する予備知識を得ておくこと。</p>
予習・復習指導	<p>自身の経験の振り返りのため、必要に応じ作業工程を記録しポートフォリオを作成する。 実習後に作業した内容の確認と次回への準備を確実にを行う。 実習1コマに対し0.5時間の事前学習、0.5時間の復習を行う。使用する素材や道具について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>

関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	芸術導入実習(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統的な灰釉を用いた染付陶器について、その歴史的な変遷と製作工程を理解し体得する。 「手びねり」の技法を体験、初歩的技法を習得する。 伝統的な下絵付けである染付を体験し、その加飾効果を理解し体得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である土や釉薬の種類を学ぶ素材実習。基礎的なタタラ成型による四方皿の制作実習。電気窯の原理、操作方法、窯詰め操作を学ぶ焼成実習。土を成型に適した状態に調整する「菊練り」の習得。 最も基礎的な成型方法でありながら多様な形状を成型することが可能な「手びねり」技法の歴史的作例を学び、茶碗、小壺、フィギュアの制作を試みる。 伝統的な下絵付け(染付)技法の加飾実習を行う。紙面に練習後、器物に伝統的植物をモチーフを彩色。
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分</p> <p>第1週 課題説明・四方皿道具作成 第2週 四方皿成型 第3週 四方皿成型 第4週 四方皿仕上げ 第5週 四方皿仕上げ 第6週 四方皿素焼焼成実習(OF) 第7週 撥水剤塗 第8週 土もみ(荒もみ)実習 第9週 土もみ(菊もみ)実習 第10週 土もみ(菊もみ)実習</p> <p>川尻担当分</p> <p>第1週 「土による造形」についての座学 第2週 「陶芸という表現」についての座学 第3週～6週 作品テーマの取材及びマケット制作 第7週～10週 本制作</p> <p>小野担当分</p> <p>第11週 四君子(蘭・竹)紙面上練習 第12週 四君子(菊・梅)紙面上練習 第13週 染付:四方皿に四君子(蘭・竹)清書 第14週 染付:四方皿に四君子(菊・梅)清書 施釉 本焼実習(RF) 第15週 講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	やきものの教科書 - 陶工房編集部 - (陶工房BOOKS)

履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前事後学修を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実にを行う。
関連科目	伝統工芸概論
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	芸術導入実習(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOB I 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOB I 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各道具の扱い方と手入れの仕方を習得する。 ・基本的な加工方法を習得する。 ・刃物研ぎの基本を習得し、上達させる。 ・基礎的な木彫刻の運刀法技法の習得を目標にする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>道具の扱い方、材料及び基本的な加工方法について学ぶ。まず、諸道具の中でも基本的な平鉋、平鑿、彫刻刀などの仕立て方や、刃の研ぎ方を練習する。鉋刃の裏出し、裏押し、鉋台の表馴染み、押え溝の調整、鉋台下端の数種類の調整方法について学ぶ。刃物の研ぎについては砥ぎ台の制作法、金盤と金剛砂の使用法、荒砥石、中砥石、仕上げ砥石の使用法について学ぶ。加工については、古典文様の綸子文様・櫻花菱文様の作図・彫りを木彫刻の運刀法を理解し習得する。平板の制作により鋸や鉋の扱い方を習得。あられ組、蟻組の組手の加工において、鑿の扱い方を学ぶとともに、スコヤや差金を用いて精度の高い加工を覚える。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週 研ぎ練習①(砥石の説明・使用法・砥石台の制作)</p> <p>第2週 研ぎ練習②(彫刻刀の砥ぎ) 地紋彫り綸子文様の作図</p> <p>第3週 綸子文様の地紋彫り①</p> <p>第4週 綸子文様の地紋彫り②</p> <p>第5週 櫻花菱文様の作図・櫻花菱文様の地紋彫り①</p> <p>第6週 櫻花菱文様の地紋彫り②</p> <p>第7週 研ぎ練習③(寸8鉋の砥ぎ・鉋の裏押し)</p> <p>第8週 研ぎ練習④(鉋の裏出し・表馴染み調整・下端調整・押さえ金調整) 平板制作①</p> <p>第9週 研ぎ練習⑤(鑿のかつら仕込み・鑿の裏押し・鑿の砥ぎ) 平板制作②</p> <p>第10週 あられ組①(製材・木取り・墨付け)</p> <p>第11週 あられ組②(仕口加工)</p> <p>第12週 あられ組③(仮組み・仕上げ)</p> <p>第13週 蟻組①(製材・木取り・墨付け)</p> <p>第14週 蟻組②(仕口加工・仮組み)</p> <p>第15週 蟻組③(調整・仕上げ) まとめ・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度(30%)、技術習得度(30%)、作品完成度(40%)
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書 参考資料	<p>木工大図鑑(講談社 2008)</p> <p>近藤豊著『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』(光村推古書院 1972)</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。</p>

予習・復習指導	<p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。</p> <p>古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。</p> <p>木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「芸術導入演習（工芸）」「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	<p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士</p> <p>長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が地紋彫りの制作方法、小刀の研磨方法、指物によるあられ組、蟻組の制作方法を指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP002P

シラバス参照

講義名	造形基礎演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	美術、デザイン等、芸術分野の制作を行う上で基本となる感覚を、立体の制作を通じて身に着ける。点・線・面、比率、量、空間の理解と、構想力・制作力および表現力の習得を目標とする。この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	身近な素材であるケント紙などの「紙」を使用し、立体構成を通じてデザインやアートの基礎的な表現を学ぶ。本課題では、紙が持つ二次元的な「面」としての特性を理解し、基本的な造形制作の工程を習得することを目的とする。紙を折る、切る、曲げる、接合するといった操作を通じて、素材の可能性を探求しながら、立体的な造形表現の方法を学ぶ。さらに、アイデアを具体的な形として表現する技術や、ものづくりにおける発想力、美的バランス感覚を養うことを重視する。また、制作した作品を効果的に伝えるためのプレゼンテーション資料（シート）の作成も行い、表現力や伝達力の向上を図る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 平面構成：比率・形態について 第3回 平面構成：エスキース 第4回 平面構成：制作 第5回 平面構成：制作 第6回 立体構成：制作 第7回 立体構成：プレゼンシート制作 第8回 立体構成：合評会 第9回 立体構成：構造とフォルムについて 第10回 立体構成：エスキース 第11回 空間構成：制作 第12回 空間構成：制作 第13回 空間構成：制作 第14回 空間構成：プレゼンシート制作 第15回 空間構成：合評会
成績評価	授業態度40%、2課題の完成度60%（各20%）により評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。
予習・復習指導	試作を数多く作る事。 遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習を行う。
関連科目	構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの実務も行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンパリング	

シラバス参照

講義名	造形基礎演習Ⅰ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	小林 泰弘	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、芸術における縦・横・奥行で表現する立体の造形を一つの作品としてまとめて全体的な構想・表現力および塑像造形技法の習得を目標とする。 ・細部にとらわれず骨格の形成、全体的なバランスを重点的に考えて制作する事を目標とする。 ・形の中に動きのある表現を造形に表せるよう目指す この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・制作する自由課題を図鑑や画像資料を調べ基本の造形を決め図面及びデッサンを制作 ・それを基に木材で作品造形の骨組みを考慮して組み固める、そして針金などで細部骨格を造形 ・油土が馴染んで付くようにシュロ縄を全体にしっかり巻き付ける ・骨組みに油土を付けて行く、その際には空洞ができないように隙間なく定着して行く ・粘土ペラを使い全体の形を造形する上で細部や模様は後にして全体の造形を進める ・画像資料や図面を参考に作品を離れて、多方向の角度から見ると気付く点が出てくるので再確認をして造形を進める
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 課題・授業概要説明 第2回 自由課題の選択確定・作図 第3回 自由課題の習作・デッサン・作図 第4回 自由課題の習作・デッサン・作図 第5回 自由課題の習作・デッサン・作図 第6回 骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第7回 骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第8回 課題制作 ① 第9回 課題制作 ② 第10回 課題制作 ③ 第11回 課題制作 ④ 第12回 課題制作 ⑤ 第13回 課題制作 ⑥ 第14回 仕上げ工程から完成チェック 第15回 仕上げ工程から完成へ・講評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	自由課題を確定する上で作図・デッサンにとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 1コマに対して1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。

教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 京佛師としての立体彫刻実務経験を活かし、自由芸術作品において決めたコンセプトを調査・研究する指導を行い、デッサン・作図を決め、骨格造形を進め立体を把握し油土で造形するプロセスを取得するように指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP103S

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 秀和	KYOB I 芸術学部
講師	加納 奈都	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>平面系課題 ビジュアルデザインおよびグラフィックデザインに関する基礎的な知識、技術を身につける。設定に沿ったコンセプトの立案とそれをデザインによって視覚化することができるようになる。</p> <p>立体系課題 素材の持つ特性を理解し、扱い方を習得する。アイデアを形に変える方法を学び、実際に使うことのできる造形物を完成させる。基本的な造形の構造を習得する。カッターの使い方など実制作の基礎を学ぶ。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>平面系課題・立体系課題を曜日ごとに履修する。</p> <p>(2023年度課題)</p> <p>●平面系課題：シンボルマーク、ロゴタイプ、タイポグラフィ、ブックカバーデザイン 任意の博物館施設を設定し、コンセプト、立地、博物館としての分類を踏まえて、それらを象徴するシンボルマークおよびロゴタイプをデザインする。また、博物館で使用することを想定したタイポグラフィ（文字のデザイン）と出版物を想定したブックカバーをデザインする。</p> <p>●立体系課題：座る形 段ボールを使用し、座る形（椅子の制作ではない）の言葉を理解し、言葉を造形に置き換えた時にどのようなアイデアが生まれてくるのか？アイデア、1/5模型、実制作造形の順で実際に座ることのできる造形制作を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日</p> <p>●平面系課題</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 課題1 制作・進捗チェック 第3週 課題1 制作・進捗チェック 第4週 課題1 制作・進捗チェック 第5週 合評（課題1）／課題説明（課題2） 第6週 課題2 制作・進捗チェック 第7週 課題2 制作・進捗チェック 第8週 課題2 制作・進捗チェック 第9週 課題2 制作・進捗チェック 第10週 合評（課題2）／課題説明（課題3） 第11週 課題3 制作・進捗チェック 第12週 課題3 制作・進捗チェック 第13週 課題3 制作・進捗チェック 第14週 課題3 制作・進捗チェック 第15週 合評（課題3）</p>

	<p>●立体系課題</p> <p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 スケッチ・進捗チェック</p> <p>第3週 スケッチ・進捗チェック</p> <p>第4週 スケッチ・進捗チェック</p> <p>第5週 模型制作・進捗チェック</p> <p>第6週 模型制作・進捗チェック</p> <p>第7週 模型制作・進捗チェック</p> <p>第8週 模型制作・進捗チェック</p> <p>第9週 制作・進捗チェック</p> <p>第10週 制作・進捗チェック</p> <p>第11週 制作・進捗チェック</p> <p>第12週 制作・進捗チェック</p> <p>第13週 制作・進捗チェック</p> <p>第14週 制作・進捗チェック</p> <p>第15週 合評</p>
成績評価	出席状況、授業態度、制作物によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	授業内で参考資料、参考作品などを適宜紹介する。
履修上の注意	制作に必要な材料、道具などの管理を各自ですること。 部屋、機器などを正しく利用すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習および0.5時間の復習をすること。 普段から身の回りにあるロゴデザイン、タイポグラフィ、ものの形態などに目を向けるようにすること。
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	加納奈都：主にデジタル表現の作家（裏柳翠）として活動歴6年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表 デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>基礎的な加飾技法について、技法の習得並びに知識のみならず理解と認識を得ることを目標とする。様々な蒔絵技法や加飾素材を使用した技法の基礎を学び、併せて蒔絵筆などの道具類と素材の適切な調整方法や使用方法を習得する。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>漆芸技法の内、線描き蒔絵及び金属粉や貝、卵殻、金貝といった様々な材料を活用する、伝統技法に基づく基礎的な加飾技法を学ぶ。線描き蒔絵では直線構成の「麻の葉」模様と、曲線構成の「観世水」の2種類を、銀粉を用いて制作する。貝・卵殻などの素材については、同一パターン上に蒔きつけ漆での塗り込み、研ぎ出しで仕上げ、素材による効果の違いを確認する。これらの作業を通じて素材と技法の関係を理解し、基礎的な加飾技術を身につける。同時に、漆の材料としての特性、即ち塗り、硬化、研ぎ、磨き、あるいは混入物による粘性の変化などについても、実習を通じて理解を深め、2年次以降のより高いレベルでの課題制作に取り組む基礎を固める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 準備作業1：本科目の概要説明、手板研ぎ 第2週 準備作業2：手板研ぎ・胴摺り 第3週 準備作業3：手板上摺り・呂色磨き 置き目作成 第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し 第5週 準備作業5：置き目留め・押し 卵殻 螺鈿（微塵貝粒置き）仕掛け 第6週 加飾作業1：図案①線描き、粉入れ 青貝（割貝）・平文仕掛け 第7週 加飾作業2：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 絞漆仕掛け 第8週 加飾作業3：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み① 第9週 加飾作業4：図案①木砥掃除、粉固め、胴摺り 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し① 図案②線描き、粉入れ 仕掛け手板塗り込み② 第10週 加飾作業5：図案①摺り漆、磨き 仕掛け手板塗り込み研ぎ出し② 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 仕掛け手板胴摺り 第11週 加飾作業6：図案①摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第12週 加飾作業7：図案②木砥掃除、粉固め、胴摺り 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み 第13週 加飾作業8：図案②摺り漆、磨き 錫梨子地粉蒔きぼかし塗り込み、研ぎ同摺り 第14週 加飾作業9：図案②摺り漆、磨き 仕掛け手板上摺り・呂色磨き 第15週 加飾作業10：各種仕掛け手板上摺り・呂色磨き② 総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	<p>なし。必要に応じて適宜資料を配布する。</p>
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』 至文堂 『漆塗りの技法書』 誠文堂新光社</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料や参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。</p>

予習・復習指導	<p>予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必要に応じ作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p> <p>伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習 I (陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ろくろの制作過程を理解し、小品を挽くことができる技術を習得する。また基礎的な釉薬の組成を理解する。 ・「手びねり」の技法の初歩的技法を習得する。 ・伝統的な下絵付けである染付の文様の加飾効果を理解し体得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 江戸時代に確立された日本の伝統的な染付陶器について、素材である土や釉薬の種類を学ぶ素材実習。ろくろの初歩技法として、煎茶碗の水挽き及び削り実習。陶土のみならず磁土の成型実習。 2 「手びねり」のやや発展的な課題として大型の壺、フィギュアを制作する。現代陶芸におけるフィギュア陶芸の歴史的作品を学び、模倣表現を試みる。 3 伝統的な下絵付け（染付）技法の加飾実習。紙面にて練習後、茶碗や湯飲みに伝統文様をモチーフとして彩色する。
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・小煎茶碗道具作成 第2週 テストピース作り 第3週 荒もみ・菊もみ ロクロ実習（土殺し・土取り・盃引き）・テストピース素焼焼成実習(OF) 第4週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（信楽30個）（カンナ等道具作り） 第5週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器30個） 第6週 ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）（磁器30個） 第7週 ロクロ成形（小煎茶碗削り）（磁器20個） 第8週 長石を用いた灰釉・土石釉の調合・施釉 色釉の調合・施釉 素地実験施釉 第9週 小煎茶碗素焼焼成実習(OF) テストピースの本焼焼成実習(OF・RF) 第10週 灰釉・土石釉・色釉・素地実験のピース貼り付け・レポート</p> <p>川尻担当分 第1週 「手びねり」という表現についての座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケット制作 第7週～10週 本制作</p> <p>小野担当分 第11週 染付：小煎茶碗（ろくろ線）練習 第12週 染付：小煎茶碗（割付け・小紋）練習 第13週 染付：小煎茶碗（小紋）清書 第14週 染付：小煎茶碗（山水）練習 第15週 染付：小煎茶碗（山水）清書 施釉 本焼焼成実習(RF)</p> <p>成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30％・技術習得30％・レポートと作品完成度40％により総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。

参考書 参考資料	『日本陶磁大系』（平凡社） 『やきものと釉薬—基本的な考え方』（理工学社） その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「芸術導入実習(陶芸)」「日本美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOBUI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種道具(印刀・丸刀)の使用法、研ぎ方を習得することを目標とする。 ・平安時代に制作された京都平等院鳳凰堂の天蓋「宝相華唐草文様」の透かし彫り部分を資料をもとに基礎的な立体造形表現と技法の習得を目標とする。 ・割物の基本的な技法を習得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸術導入実習(木工・彫刻)」で学んだ木彫刻技法の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫り抜きを経て完成させる。 次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)での課題のデッサン、作図、彫刻の見本となるモデリングを油土で製作。 ・割物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、型紙を用いた墨付け法について学ぶ。また、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。内丸のみの仕込み方法、研磨方法を学び荒彫りを行う。 豆平匏と四方反豆匏の制作法を学び楕円木皿の仕上げ削り法を学ぶ。 また基本的な塗装の方法についても学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(課題説明、各種道具の使用法についての理解) ・割物作品考案、図案作成</p> <p>第2週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作①匏台墨付練習</p> <p>第3週・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆匏制作②椀匏台豆平</p> <p>第4週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・豆匏制作③椀匏台四方反り</p> <p>第5週・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・荒彫り①木取、図面転写、型紙作成</p> <p>第6週・糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り②丸のみ研ぎ、仕立て</p> <p>第7週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り③</p> <p>第8週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ①(内側 四方反り)</p> <p>第9週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ②(外側 豆平)</p> <p>第10週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ③</p> <p>第11週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・仕上げ①ペーパー当て木製作</p> <p>第12週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り、両面の仕上げ彫りから完成へ ・仕上げ②</p> <p>第13週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用法についての理解) ・仕上げ③塗装講座</p> <p>第14週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・仕上げ④オイル塗装等</p> <p>第15週・まとめ・合評</p>

成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	西川新次著 『平等院大観 第2巻 彫刻』（岩波書店 1987） 『盆百選』（平安堂書店 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺・社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習（木工・彫刻）」 「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が透かし彫りの技法、割物による木皿の制作法、豆匏の制作方法等の指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP104P

シラバス参照

講義名	造形基礎演習Ⅱ（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	制作物に芸術的・デザイン的な価値をもたせるためには、まず様々な思考のもとに生み出されるアイデアが重要である。アイデアを生むための多様な思考の必要性を理解することを目指す。この科目は芸術学部のディプロマポリシーDP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	本課題では、「紙」を基本的な素材として「あかり」をテーマに立体制作を行う。私たちの暮らしにおいて「あかり」の存在は不可欠であり、単なる光源としての役割を超えて、空間の雰囲気を演出し、視覚的な美しさを生み出すなど、多様な効果をもたらしている。そのデザインやアートの表現方法も進出し、照明としての機能を超えた創造的なアプローチが求められている。本課題では、「あかり」という機能を必然とするデザイン・アートの制作を通じて、紙の素材特性を活かした立体構成の可能性を探る。折る・切る・透かすなどの技法を用い、光と影の関係を考えながら、空間を豊かにする表現方法を模索する。さらに、制作した作品をプレゼンテーションするための資料作成にも取り組み、作品の意図や魅力を的確に伝える力を養うことを目指す。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション、課題説明・アイデアの探し方 第2回 アイデアと素材（素材に触れる） 第3回 アイデアと素材（素材の観察） 第4回 アイデアと素材（立体構成） 第5回 アイデアと材料（エスキースと立体模型1） 第6回 アイデアと素材（エスキースと立体造形2） 第7回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第8回 中間プレゼンテーション（アイデア発表） 第9回 実物の検証（大きさと明るさの検証） 第10回 実物の検証（光と色を考える） 第11回 実制作・紙立体照明の組み合わせ1 第12回 実制作・紙立体照明の組み合わせ2 第13回 実制作・紙立体照明の組み合わせ4 第14回 実制作・紙立体照明の組み合わせ5 第15回 プレゼンテーション・講評会
成績評価	授業態度20% 課題制作の完成度60%、プレゼンテーション20%によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて適宜資料を配布する。
履修上の注意	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。
予習・復習指導	試作を数多く作る事。 遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進めておく。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習を行う。
関連科目	素描、構成基礎演習、造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	エトリケンジ：現代美術アーティストとして長期にわたって活動。国内外で作品を多数発表。デザインの実務も行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	造形基礎演習Ⅱ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>作品制作に必要な道具等の制作法の習得を通して、道具の中に隠されたものづくりの知恵を学ぶ。また、作品制作に有用となる機械類の使用法を学び、今後の作品制作の効率化や質の向上を目指す。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>工芸作品の制作を行うにあたっては、素材の選定や道具の制作・手入れ、治具・補助具の制作等様々な準備、知識、技術が必要となる。作品を制作する際には様々な道具や技法を駆使し造形していく必要があり、その際に必要となる道具や補助具の制作法を学ぶ。一つの素材についても多様な造形方法があり、その際に使用する様々な道具や治具の使用法についても学ぶ。作品を完成させる為には様々な表面処理方法がある事も学ぶ。本演習では作品制作に必要な道具の制作法を学び、本演習で得られた知識と技術が実習における作品制作の質向上に寄与し、より深く工芸を理解する事を目的とする。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1週 ガイダンス（コース別）</p> <p>・</p> <p>第15週 講評（コース別）</p> <p>*コースごとの課題はガイダンス時に提示する。</p> <p>漆芸…漆工芸において制作道具は作者の手の延長であり、道具を自分で作ることから学びの第一歩が始まる。また市販品を活用する場合も、作って個々によってカスタマイズすることが作り手の基本である。</p> <p>本演習では紛筒、筆洗い棒や針木砥など蒔絵の用品から、髹漆に使用する道具を自作することで、基礎技術の向上と同時に伝統技法への理解を深める。</p> <p>陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器（織部・唐津など）を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。</p> <p>木工・彫刻…木工作品の仕上げに用いられる拭漆技法について学ぶ。拭漆技法の演習を行う為の木地としてお箸等の制作を行う。使用者を想定した長さや太さ、形を検討したお箸の木地を制作し、拭漆を施して実際に使用する事で、人が使う道具の制作時に必要となる様々な要素について実感するとともに、拭漆仕上げの手触りや口触りを体験し、より深く拭漆の特徴を知ることを目的とする。</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、課題完成度（40%）
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書 参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	演習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。 1コマに対し4時間の復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。

教員の実務経験	玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年美術工芸に携わってきた講師が工芸作品の造形時に必要となる道具、治具、補助具の制作方法や拭き漆等の塗装について指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP205S

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部
教授	宮内 智久	KYOB I 建築学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部
特任講師	宮内 芳代子	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>課題を通して、各専攻ごとに必須となるデザインの発想力、表現力、造形力、プレゼンテーション力などを身につける。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア・空間デザイン、ビジュアルデザイン、Cultureデザイン、文化財情報デザインからそれぞれ課題を課し、そのうち2課題を選択する。2年生後期からのコース選択けに向けて、各課題を通してデザインにおける視野を広げるとともに、専門性を学ぶための導入とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・空間デザイン系課題は、インテリアデザインとプロトタイピングの2つを学ぶ。プロトタイピングでは3Dプリンターなどを用い、様々な素材を利用した立体造形技術を習得する。インテリアデザインではホテルの客室のデザインを通し、実空間のスケール感や素材感などを習得する。 ・ビジュアルデザイン系課題は「音の視覚化」と「地域プロモーション」の2題を課す。視覚デザインの古典的なメディアである印刷物（ポスター）と近年広告などでも多用される映像メディアを横断し、不可視のイメージ、価値を視覚的にデザインする。 ・Cultureデザイン系課題（陶器）では、身の回りの生活を変えるデザインを考える。陶器を制作するデザイン作業は私たちの食卓に並ぶ食器を中心に身の回りの造形について考えていく。Cultureデザイン系課題（金属）では、アウトドア小物・インテリア小物を金属を素材としてテーマに実際に使用できる1/1制作する。3Dプリンターで模型を作り、3Dデータをもとに小林製作所（産学連携授業協賛企業）に制作を依頼する。商品化を念頭にデザインを考える。 ・文化財情報デザイン系課題は、文化財の保護と活用において重要な役割を果たすデジタル復元技術について学ぶ。特に実際の文化財を3Dスキャンなども併用して調査・記録・解析のプロセスに焦点を当て、理論と実践を通じて文化財の保存と活用を考える。
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日 選択課題とし、初回ガイダンス時に複数課題から2課題を選択する。</p> <p>2025年度選択課題（予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インテリア・空間デザイン系課題 ・プロトタイピング ・インテリアデザイン

	<ul style="list-style-type: none"> ●ビジュアルデザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・音の視覚化（グラフィック・映像） ・地域プロモーション（映像） ●Cultureデザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザイン（陶器） ・プロダクトデザイン（金属） ●文化財情報デザイン系課題 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財のデジタル化と復元（3Dスキャン） <p>*実施する曜日によって選択できる課題に制限があります。 *実施スケジュールは選択する課題によって異なります。 *課題は変更する可能性があります。</p>
成績評価	授業態度、制作物によって総合的に評価する。ただし、評価方法は課題によって異なる。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	課題によって異なる。
履修上の注意	選択する課題の担当教員の指示に従うこと。
予習・復習指導	予習・復習指導 実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。 身の回りにあるものをデザインの視点で観察し、情報を収集すること。 過去の作品を参照し、分析すること。
関連科目	工芸デザイン基礎実習 I
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>宮内智久： 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年。</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年。</p> <p>田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（28年間）</p> <p>杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。</p> <p>宮内芳代子： 田中秀和：</p> <p>デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーなどの活動経験活かし、デザイナーに必要な知識、技術について教育する。</p>
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>基礎的な下地と塗り技法である髹漆技法について技能の習得を目指す。知識のみでなく経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。作業の内容や目的に応じた道具類と素材の適切な調整方法と使用方法を身につけ、髹漆技法の理解・認識を深める。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-3に該当する</p>
授業概要	<p>漆芸技法の内、基礎となる髹漆技法(きゅうしつぎほう：器物制作における下地・塗りの技法)の習得と理解を目指す。手板木地を素地に用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて器物の胎を形成する布乾漆の技法を学ぶ。手板は3枚、乾漆は小皿状のものを1点設定している。これらの制作を通じ下地・塗りの作業を反復して行うことで、髹漆の技術を身につける。同時に作業に必要な木へらなどの道具の調整の方法や、下地材である砥の粉と漆の調合・調整法など、工程に応じて学習する。ここで習得する髹漆の技法は今後の漆芸作品の制作を考えた場合、重要で展開性のある技法になるため、十分に経験を積み習熟度を高め理解を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 下地作業1：木地固め 乾漆作業1：原型吸い込み止め 第2週 下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ 乾漆作業2：布貼り 第3週 下地作業3：布目揃え、目摺り錆 乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週 下地作業4：地付け、地研ぎ 乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週 下地作業5：地付け、地研ぎ 乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週 下地作業6：地研ぎ、地固め 乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週 下地作業7：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週 下地作業8：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業8：原型除去、切断部整形 第9週 下地作業9：錆付け、錆研ぎ、繕い錆付け 乾漆作業9：内側布貼り 第10週 下地作業10：繕い錆研ぎ、面取り、中塗り 乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週 塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り 乾漆作業11：中塗り 第12週 塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り 乾漆作業12：中塗り 第13週 塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺 乾漆作業13：上塗り 第14週 塗り作業14：呂色磨き、上摺 乾漆作業14：上塗り 第15週 塗り作業15：呂色仕上げ磨き 乾漆作業15：研ぎ、仕上げ磨き</p> <p>髹漆作業完成確認、総括</p>
成績評価	<p>技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。</p>
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『漆塗りの技法書』誠文堂新光社</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する小刀・へら木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。制作する手板は後期の加飾の素地となるため、後期開始時まで完成させる。</p>

予習・復習指導	<p>予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	<p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事</p> <p>京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。</p>
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>1 江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である磁器坏土及び白土坏土によるろくろ成型と和絵具・赤絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を習得を目標とする。</p> <p>2 オブジェ制作という概念を理解し、作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 明治時代に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法を習得する。また、磁器坏土・白土坏土を用いたろくろ成型で飯碗・抹茶碗を製作する。</p> <p>2 動植物をモチーフとしてオブジェを制作する。オブジェの概念や歴史的背景を資料や実物により学ぶ。取材をし、テーマ、コンセプトを設定、検討会にてブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすすめ、完成したオブジェを再び皆で検討する。</p> <p>3 伝統的な和・赤絵具を用いた色絵陶器技法について学び、加飾実習を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当</p> <p>第1週 課題説明(資料説明) テストピース作り(土石釉・色釉実験用)</p> <p>第2週 ロクロ成形(磁器飯碗：道具作り) テストピース素焼焼成</p> <p>第3週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き)</p> <p>第4週 ロクロ成形(磁器飯碗：水挽き)・土石釉・色釉調合</p> <p>第5週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り)</p> <p>第6週 ロクロ成形(磁器飯碗：削り)・土石釉・色釉施釉</p> <p>第7週 課題説明・ロクロ成形(仁清茶碗：道具作り) テストピース・飯碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF)</p> <p>第8週 ロクロ成形(仁清茶碗：水挽き)</p> <p>第9週 ロクロ成形(仁清茶碗：削り)</p> <p>第10週 テストピース整理 茶碗：施釉・本焼焼成実習(OF・RF)</p> <p>川尻担当</p> <p>第1週 オブジェ表現のための技法について座学</p> <p>第2週 作品テーマの取材</p> <p>第3週～6週 マケットの制作</p> <p>第4週～10週 本制作</p> <p>小野担当</p> <p>第11週 赤絵(磁器飯碗)練習</p> <p>第12週 赤絵(磁器飯碗)清書 上絵付焼成実習(OF)</p> <p>第13週 色絵(仁清茶碗)練習</p> <p>第14週 色絵(仁清茶碗)清書</p> <p>第15週 色絵(仁清茶碗)清書 上絵付焼成実習(OF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。

参考書 参考資料	『日本陶磁大系』（平凡社） 『やきものと釉薬—基本的な考え方』（理工学社） その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容) 実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間) 実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習 I (陶芸)」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村 嘉章	KYOBUI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種道具(印刀・丸刀)の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻彫を通して、美術表現力および彫刻造形技法を習得する。 ・隠蟻組の技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・木彫刻の基礎で古典彫刻をモデルとして佛手の木彫刻を伝統彫刻技法を駆使しながら完成させる。モデルとして佛手の作図、木彫り制作のための立体デッサンとして油土で製作しそれを元に鑿で荒取り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 ・基礎実習Ⅰで制作した複数の仕口加工の発展として隠蟻組の練習を実施する。反復練習を通して加工精度を上げる。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(課題説明、各種道具の使用方法についての理解) ・隠蟻組練習①(木取り)</p> <p>第2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習②(墨付)</p> <p>第3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習③(仕口加工)</p> <p>第4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の見本となるモデリングを油土で製作・材への作図の転写 ・隠蟻組練習④(仕口加工)</p> <p>第5週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・隠蟻組練習⑤(留加工)</p> <p>第6週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑥(留加工)</p> <p>第7週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑦(仕上)</p> <p>第8週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・隠蟻組練習⑧(仕上)</p> <p>第9週・木彫刻の中取り工程 ・小箱製作①(木取り)</p> <p>第10週・木彫刻の小造り工程 ・小箱製作②(木取り)</p> <p>第11週・木彫刻の小造り工程、仕上げ彫り工程 ・小箱製作③(墨付)</p> <p>第12週・木彫刻の仕上げ彫り工程 ・小箱製作③(墨付)</p> <p>第13週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解) ・小箱製作④(仕口加工)</p> <p>第14週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱製作⑤(仕口加工)</p> <p>第15週・まとめ・合評</p>

成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 『ろくろ』（法政大学出版局 1979）、『漆椀百選』（光琳社出版 1975）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が油土による立体デッサンの方法、隠し蟻組の墨付けと仕口加工のついでの指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP206P

シラバス参照

講義名	専門実習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「インテリア・空間デザインコース」「ビジュアルデザインコース」「Cultureデザインコース」「文化財情報デザインコース」の各コースに所属し、デザインの専門性を身につける。コンセプトワーク、発想力、表現力、造形力、プレゼンテーションスキルなど、デザイナーにとって必須となる知識、技術を習得する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・空間デザインコース インテリアエレメントの機能や構造を学び、新たなデザインをおこなう。 ・ビジュアルデザインコース ビジュアルデザインに必要な諸要素としての写真やイラストレーションなどを用いて情報を編集し、コンセプトを可視化する方法を学ぶ。 ・Cultureデザインコース 人・もの・ことを考え、造形デザインを中心としたデザインワークを行なってゆく。生活環境・趣味・特技など人が中心となって生活してゆく環境を観察し、商品計画やモノと人が関わるインタラクティブ、あったらいいなを考えてゆく。 ・文化財情報デザインコース 文化財の性質や構造を正しく理解し、その文化財を活用した展示構成や発信方法を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回／週 2 日</p> <p>課題は各コースによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インテリア・空間デザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・住空間のデザイン ●ビジュアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザイン ・エディトリアルデザイン

	<ul style="list-style-type: none"> ●Cultureデザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・人・もの・ことのデザイン ・商品開発 ・アート造形 ●文化財情報デザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・工芸館を使用した展示 <p>* 選択したコースによりスケジュールが異なります。</p>
成績評価	<p>授業態度、作品、プレゼンテーション内容によって総合的に評価する。</p> <p>* 評価方法はコースによって異なります。</p>
参考書 参考資料	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	道具・材料の取り扱い、整理整頓、後片づけに留意すること。
予習・復習指導	<p>実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。</p> <p>平素から街中や身の回りにある「デザイン」を意識し、情報を収集すること。</p>
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年</p> <p>田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（28年間）</p> <p>杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。</p> <p>田中秀和：</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習 I (漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
特任教授	三木 表悦	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>より専門的な加飾技法である蒔絵3技法及び螺鈿（青貝）について、経験に基づいた深い理解と技術の獲得を目標とする。前期よりも難易度の高い蒔絵・螺鈿技法であるが、作業を通じより高度な加飾技法の習得を目指す。</p> <p>この科目はDP0-1、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>1年次後期「工芸・デザイン基礎実習 I」において学んだ線描き蒔絵よりも、より高度である蒔絵の代表的な3技法（平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵）及び螺鈿技法（薄貝の加工）を習得する。蒔絵では丸粉1号から10号程度や、梨子地粉など様々な粒度・形状の金銀粉を用いる。金属粉の違いによる作業工程や仕上げ方の違いを学ぶ。また、図案（神坂雪佳の狗子図をもとにしたもの）はあえて同一のものに設定しているが、素材による仕上げの違いがどのように変化として表れるかを確認する。螺鈿では厚さ0.1mm程のアワビ貝を用いる。図案は課題として亀甲模様・七宝繋ぎ模様を設定する。その他自身で考案した図案も使用する。また、並行して作業に必要な道具の調整の方法も工程に応じて学習する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日（遠藤：2日／週）</p> <p>第1週 準備作業1：本科目の概要説明 各技法置目作成 第2週 蒔絵作業1：平蒔絵粉入れ 青貝作業1：薄貝切り出し 第3週 蒔絵作業2：平蒔絵固め、胴摺り、線描き粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け 第4週 蒔絵作業3：平蒔絵固め、胴摺り 高蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け 第5週 蒔絵作業4：平蒔絵上摺り、仕上げ磨き 研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵炭粉上げ 青貝作業4：括り 第6週 蒔絵作業5：研ぎ出し蒔絵固め 蒔絵炭粉上げ研ぎ 青貝作業5：中塗り 第7週 蒔絵作業6：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み 青貝作業6：中塗り研ぎ 第8週 蒔絵作業7：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、再塗り込み 青貝作業7：中塗り 第9週 蒔絵作業8：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り 高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、胴摺り 青貝作業8：中塗り研ぎ 第10週 蒔絵作業9：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業9：上塗り 第11週 蒔絵作業10：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ 青貝作業10：上塗り炭研ぎ 第12週 蒔絵作業11：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵固め 青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り 第13週 蒔絵作業12：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵固め研ぎ、胴摺り 青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目 第14週 蒔絵作業13：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち粉入れ 青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目 第15週 蒔絵作業14：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち固め、仕上げ磨き 青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目</p> <p style="text-align: right;">蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括</p>

成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。場合により、小テストを実施する事がある。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』 I～IV 社団法人 日本漆工協会編 『漆芸品の鑑賞基礎知識』 至文堂 『漆塗りの技法書』 誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。蒔絵筆の状態確認、研ぎ炭・砥石の準備など。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。 必用に応じて作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。使用する加飾素材について自身で調べ、予備知識を得ておくこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
教員の実務経験	遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に漆芸技法を教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習 I (陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>1 明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坏土を用いた、ろくろ成形技法の習得と、土石釉薬を用いた陶磁器製造技法、いっちゃん技法を用いた高火度交趾焼技法・色絵金彩金襴手技法の習得を目標とする。</p> <p>2 オブジェ制作においてやや発展的な造形物を制作する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻、小野がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 土石合わせ釉薬を用いた高火度陶磁器技術について実習する。磁器坏土を用いた『五寸皿』ろくろ基礎成形技法・白土坏土を用いた『一輪挿し』ろくろ基礎成形技法を学ぶ。</p> <p>2 各自で独自のテーマを決めオブジェを制作する。多くの資料を集め取材、構想を練り、テーマを決定する。検討会にて発表、意見交換しブラッシュアップする。その後、試作、本制作へとすすめ、完成したオブジェを皆で再び検討する。</p> <p>3 いっちゃん・高火度交趾の加飾技法及び、色絵金彩金襴手技法を習得する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明・ロクロ成形(磁器五寸皿：道具作り／水挽き) 第2週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き 第3週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：水挽き 第4週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り 第5週 成形実習(ロクロ成形[磁器五寸皿])：削り 素焼焼成実習 第6週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：道具作成／水挽き 第7週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き 第8週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：水挽き 第9週 成形実習(ロクロ成形磁器一輪挿し)：削り 第10週 成形実習(ロクロ成形[磁器一輪挿し])：削り 素焼・施釉・本焼焼成実習(OF)</p> <p>川尻担当分 第1週 オブジェ表現について座学 第2週 作品テーマの取材 第3週～6週 マケットの制作 第4週～10週 本制作</p> <p>小野担当分 第11週 加飾実習(五寸皿)いっちゃん技法 素焼焼成(OF) 第12週 加飾実習(五寸皿)高火度(交趾)彩色技法 本焼焼成(OF) 第13週 加飾実習(一輪挿し)：骨書・赤巻 上絵焼成実習(OF) 第14週 加飾実習(一輪挿し)：色絵金彩・金襴手技法 上絵焼成実習(OF) 第15週 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『日本陶磁大系』(平凡社) 『やきものと釉薬—基本的な考え方』(理工学社) その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する

履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習 I (木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各種道具(印刀・丸刀・鑿)の使用法、研ぎ方の習得を深める。 挽物の基本的な技法を習得する。 小箱制作の手法を習得する。 工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 本格的な立体彫刻制作に取り組む。伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる古典をモデルとした課題をデッサン、作図、彫刻見本となるモデリングを油土で製作しそれを元にして鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 反復練習を通して、隠蟻組の加工精度を上げた後に小箱の制作を行う。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。挽物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。またこれらに使用する道具と機械の仕組みを理解し道具の製作や機械の保守も合わせて学ぶ。これらの工程を学びながら常に工芸の本道を見失わない心を育てていく。本授業では挽物の基本的な技法を習得する事を目標とする。また器物の制作を通じて指物との共通点や相違点を考察し、器物と人との関わり合いの認識を深める事を目的とする。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週・オリエンテーション(彫刻課題説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 拭漆についての説明 <p>第2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作</p> <ul style="list-style-type: none"> 拭漆練習 <p>第3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作①(仕口加工) <p>第4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作②(仕口加工) <p>第5週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作③(仕口加工) <p>第6週・木彫刻の木取り、荒取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作④(仕口加工) <p>第7週・木彫刻の荒取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑤(仕口加工) <p>第8週・木彫刻の荒取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑥(仮組) <p>第9週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑦(底板加工) <p>第10週・木彫刻の中取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑧(蓋加工) <p>第11週・木彫刻の中取り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑨(組立) <p>第12週・木彫刻の中取り工程、小造り工程</p> <ul style="list-style-type: none"> 小箱制作⑩(仕上) <p>第13週・木彫刻の中取り工程、小造り行程</p> <ul style="list-style-type: none"> 挽物①

	第14週・木彫刻の小造り行程、仕上げ彫り工程 ・挽物② 第15週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ、講評・総括
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ、切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 長年彫刻、木工に携わってきた美術工芸家が立体彫刻、指物による小箱制作のために必要な技術の指導を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP207P

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅱ(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOB I 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>4コースにそれぞれにおける課題において、企画・立案する力を身につける。実践的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。</p> <p>この科目は、DP1-1~4に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業は、4コース別に課題を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルデザインコース（グラフィックデザイン/ブランディングデザイン） 架空の複合的なサービスを提供する施設（飲食店、ホテルなど）を想定し、広告、グラフィックルールなどのディレクションおよびデザインをおこなう。また視覚的な要素を通して対象とする施設におけるサービス全体のデザインを総合的にデザインする。 ・インテリア・空間デザインコース（店舗デザイン/インテリアデザイン） インテリア空間デザインコースでは、各自が架空の複合的なサービスを提供するブランドを一つ選び、そのブランディングから店舗設計までを通して行うことで、実社会における空間デザインの流れを体験することを目的とする。 <p>cultureデザイン（プロモーション1.2） 文化財情報デザイン（文化財の調査） 3回前半では各コースに分かれて専門的な内容を指導してゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Culture デザインコースでは課題設定をセレクト方式にし、6~7課題の中から最低2課題を実制作する。それぞれの実力に合わせて15週の時間枠の中で多くの課題をこなすことも可能とし、就職活動に向けたポートフォリオ作りに必要な課題を一つでも多く制作できるように設定してゆく。 ・文化財情報デザイン（文化財調査）では寺院内の蔵の調査を実施する。調書の書き方から目録化までを一連に学ぶことで保存調査の手法を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週 2 日</p> <p>*4コースによって課題が異なります。 各コースの授業計画に従って受講してください。</p>
成績評価	<p>授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。</p>

教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習 I (デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の实務経験（28年間）</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

シラバス参照

講義名	専門実習 I (デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOB I 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOB I 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOB I 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOB I 芸術学部
講師	木村 奈保	KYOB I 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOB I 芸術学部
講師	田中 秀和	KYOB I 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>「インテリア・空間デザインコース」「ビジュアルデザインコース」「Cultureデザインコース」「文化財情報デザインコース」の各コースに所属し、デザインの専門性を身につける。コンセプトワーク、発想力、表現力、造形力、プレゼンテーションスキルなど、デザイナーにとって必須となる知識、技術を習得する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリア・空間デザインコース インテリアエレメントの機能や構造を学び、新たなデザインをおこなう。 ・ビジュアルデザインコース ビジュアルデザインに必要な諸要素としての写真やイラストレーションなどを用いて情報を編集し、コンセプトを可視化する方法を学ぶ。 ・Cultureデザインコース 人・もの・ことを考え、造形デザインを中心としたデザインワークを行なってゆく。生活環境・趣味・特技など人が中心となって生活してゆく環境を観察し、商品計画やモノと人が関わるインタラクティブ、あったらいいなを考えてゆく。 ・文化財情報デザインコース 文化財の性質や構造を正しく理解し、その文化財を活用した展示構成や発信方法を学ぶ。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回／週 2 日</p> <p>課題は各コースによる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●インテリア・空間デザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・住空間のデザイン ●ビジュアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・サービスデザイン ・エディトリアルデザイン

	<ul style="list-style-type: none"> ●Cultureデザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・人・もの・ことのデザイン ・商品開発 ・アート造形 ●文化財情報デザインコース <ul style="list-style-type: none"> ・工芸館を使用した展示 <p>* 選択したコースによりスケジュールが異なります。</p>
成績評価	<p>授業態度、作品、プレゼンテーション内容によって総合的に評価する。</p> <p>* 評価方法はコースによって異なります。</p>
参考書 参考資料	授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	道具・材料の取り扱い、整理整頓、後片づけに留意すること。
予習・復習指導	<p>実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。</p> <p>平素から街中や身の回りにある「デザイン」を意識し、情報を収集すること。</p>
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等をおこなう。
教員の実務経験	<p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年</p> <p>田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（28年間）</p> <p>杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。</p> <p>田中秀和：</p>
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBUI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	小野 多美枝	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>1 中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術について、技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術習得を目標とする。</p> <p>2 独自の技法や表現を考案し、オブジェ作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 伝統釉(灰釉と土石釉)・新種釉を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。耐火粘土坯土を用いた土鍋のろくる技術及び、市販無鉛フリットを用いた中火度陶器技術、印花を用いた加飾技術の実習を行う。</p> <p>2 独自の発想による新しい技法や表現を考案し、そのよう要素を用いたオブジェ作品を制作する。素地、釉薬、顔料、用途、コンセプト、など作品構成要素の中で興味のある分野について新しいアイデアを考案する。実験、試作を繰り返し、最終的に作品にフィードバックさせ作品を完成させる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分 第1週 課題説明：テストピースの作成 第2週 テストピースの作成 第3週 伝統釉・新種釉の調合 第4週 伝統釉・新種釉の調合 第5週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第6週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第7週 伝統釉・新種釉の調合・施釉 第8週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(OF) 第9週 伝統釉・新種釉の施釉 本焼焼成実習(RF) 第10週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：道具作り 印花作り 第11週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き 練習 第12週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き 本番 第13週 成形実習(ロクロ成形[土鍋])：削り 仕上げ(取手付け・印花装飾) 第14週 土鍋の素焼・施釉・本焼(中火度焼成実習(OF)) テストピース整理 第15週 土鍋 伝統釉・新種釉テストピースの講評</p> <p>川尻担当分 第1週 制作についてのミーティング 第2週～第5週 実験、試作 第6週～第14週 本制作 第15週 講評</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。

教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「専門実習 I (陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作(中国、ロシア、台湾等)国内展覧会出品多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数 小野多美枝：1990年より京薩摩作家として活動する。空女工房主宰
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚制作の全体過程を習得する。 ・ より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・ 木の特性について理解を深める。 ・ 専門実習Ⅰ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して、構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 ・ 本格的な彫刻制作に取り組む。古典彫刻をモデルとして木彫刻作品を完成させる。伝統彫刻技法を駆使しながら仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を制作する上で、どの木材が制作する作品に適切か研究し決める。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第 1週・オリエンテーション(課題説明) ・ 小棚作品考案・図面作成</p> <p>第 2週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 割り付け</p> <p>第 3週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・ 木取り</p> <p>第 4週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・ 木作り①(鉋掛け)</p> <p>第 5週・木彫刻の荒取り工程 ・ 木作り②(寸法切り)</p> <p>第 6週・木彫刻の荒取り工程 ・ 仕口加工①</p> <p>第 7週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・ 仕口加工②</p> <p>第 8週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工③</p> <p>第 9週・木彫刻の中取り工程 ・ 仕口加工④</p> <p>第10週・木彫刻の中取り工程、小造り工程 ・ 仮組・部材調整 成形①</p>

	<p>第11週・木彫刻の小造り行程 ・仮組・部材調整 成形②</p> <p>第12週・木彫刻の小造り行程 ・本組</p> <p>第13週・木彫刻の小造り行程, 仕上げ彫り工程 ・面取り</p> <p>第14週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ ・仕上げ</p> <p>第15週・組上げ 合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	『図解木工の継手と仕口』（理工学社 1987） 丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	<p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。</p> <p>古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。</p> <p>木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「専門実習Ⅰ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	<p>宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員</p> <p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士</p> <p>美術工芸家としての実務経験を活かし、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP308P

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅲ(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊 俊博	KYOBI 芸術学部
教授	中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部
准教授	田中 正流	KYOBI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>4コースにそれぞれにおける課題において、以下の内容を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・企画・立案する力を身につける。 ・デザイン開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>本授業は、4コース別に課題を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジュアルデザインコース（ビジュアルデザイン/表現のベクトル展） 「表現のベクトル展」に出展する作品制作およびプロジェクトの実施をおこなう。各自でベクトル展のテーマに沿った課題の発見もしくは設定をし、展示を前提とした作品形態を考慮して制作を進める。 ・インテリア・空間デザインコース（空間デザイン/表現のベクトル展） 表現のベクトル展への出展を目標に、3年前期までに培った表現力をさらに伸ばす作品づくりを行う。また、個々で課題を見つけ解決する力を養うための制作指導をしている。 <p>Cultureデザイン（プロダクト/表現のベクトル展） 文化財情報デザイン（文化財情報/表現のベクトル展） *表現のベクトル展はブレ卒業制作と位置づけ展示発表機会を設ける。 課題は各コース共通課題を設定し、それぞれのコースの指導教員のもとコースの特色が出るよう指導を行なっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・cultureデザインでは立体造形を中心に、3回生前半までに学んできた造形の考え方を踏襲していく。コース独自のセンスを磨き上げることを目標とする。本授業でデザインされた内容を基礎基盤とし、4回生で行う卒業制作ではさらに本授業の内容をブラッシュアップし、より深い研究内容を表現できるよう課題制作を行なってゆく。

授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週 2 日</p> <p>* 4コース共通課題。 ベクトル展（卒業制作と開催同時期）に向けた作品を共通の課題を通して制作する。 各コースの考え方を共通課題に反映させ、課題に取り組む。</p> <p>成果物は各コースで選抜し、選ばれた学生の作品をベクトル展へ出展する。</p> <p>週2日、計15回授業×2、30回の時間を使って制作を行う。</p>
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年 古閑謙太郎：文化財修理技術者として主に仏像の修理や調査に従事。大阪府来迎寺の毘沙門天立像など多数。 杉山英知：設計事務所勤務6年、設計事務所主宰13年。建築設計、インテリア設計などの職務経験あり。 田中正流：行政・大学・寺院など多岐にわたる博物館にて学芸員の実務経験（28年間）</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅲ(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOB I 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>専門実習Ⅱを引継ぎ、作品の完成を目指す。その過程で、自らの創作の方向性を見極めるとともに社会のニーズを意識し、より高いクオリティの習得とその表現を目指す。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2、DPO-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>専門実習Ⅱに続き「用が生み出す美」と「かならずしも用を必要としない美」の2作品をテーマとして制作をする。</p> <p>専門実習Ⅱで取り組んだ課題と別の視点から取り組む</p> <p>素材・造形技法・表現技法ともに基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。(伝統的加飾技法 蒔絵・漆絵・蒟醬・沈金・彫漆・螺鈿など)</p> <p>また、個々の課題以外にもメンバーでの共同制作にも取り組むことでPDCA および 5W3Hを認識し、ものづくりを如何にマネジメントするか身に着ける。</p> <p>その一環として素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても積極的に行い毎週、実習時間内にミーティングを行い情報交換をする。</p> <p>必要に応じて適宜小テストを実施する。</p> <p>授業計画記載の制作物以外にも、進度に応じて授業内容に必要なと思われる作品制作を指示する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週2日</p> <p>第1週 本科目の概要説明 作品制作進行進捗プレゼンテーション 専門実習Ⅱ(漆芸)のプランを継承しつつ改善案の検討</p> <p>第2週 塗装・加飾計画の検討及び情報共有：素地過程の継続 1</p> <p>第3週 手板による仕上げの試作実験1：素地過程の継続 2</p> <p>第4週 手板による仕上げの試作実験2：素地過程の継続 3</p> <p>第5週 手板による仕上げの試作実験3：素地過程の継続 4</p> <p>第6週 手板による仕上げの試作実験4：素地過程の継続 5</p> <p>第7週 手板による仕上げの試作実験5：素地過程の継続 6</p> <p>第8週 加飾(仕上げ)計画最終決定・展覧会出品計画等の検討</p> <p>第9週 加飾 1</p> <p>第10週 加飾 2</p> <p>第11週 加飾 3</p> <p>第12週 加飾 4</p> <p>第13週 加飾 5</p> <p>第14週 加飾 6</p> <p>第15週 合評 総括</p>
成績評価	<p>アイデア抽出・デザイン力30%、制作物(技術の習得度・材料の理解度)40%、授業態度(協働性、学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを含む)30%</p> <p>場合により、展覧会への出品を課題の一環とする</p>
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。

参考書 参考資料	『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆 その科学と実技』理工出版社
履修上の注意	<p>製作に必要な素材、道具などは必要に応じて各自調達とします。</p> <p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>予習：道具の手直し。次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作など授業時間を無駄にしないための準備を行う</p> <p>復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用し作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。</p> <p>また素材の特性上、乾燥硬化の時間を考え、授業時間外に必要なに応じて作業を行い計画に遅れが出ないように取り組むこと。</p> <p>1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「造形基礎演習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」「立体造形（工芸）」「造形芸術論」「造形材料論」「京都学演習Ⅰ（工芸）」
課題に対するフィードバックの方法	実習・演習課題ごとに授業時間内に講評、質疑応答を行い情報の共有を行う
教員の実務経験	<p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に基本的には伝統的な技法を基礎として、必要に応じてその他素材や技法について教授する。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅲ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBUI 芸術学部
特任講師	守崎 正洋	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<p>1 陶磁器の特質を理解していくとともに、石膏型成形技法を習得する事。また、中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術の習得を目的とする。</p> <p>2 作品における「社会との関係性」について考察し、その意義を有する作品を完成させる。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。</p>
授業概要	<p>守崎、川尻がそれぞれ並行して別のカリキュラムによる授業を実施する。</p> <p>1 陶磁器坯土を用いた高火度陶磁器の製造技術として、複雑な形状の石膏型成形技法（押し型・鑄込み型）の実習を行う。また、高度なろくろ技術を習得するために急須の製作を行う。</p> <p>2 芸術作品は今日、社会とのかかわりを持つことが強く求められている。社会的メッセージを持つ作品の制作を試み、検証する。各自テーマを設定し、検討会を繰り返し、社会の諸問題と美術作品との関わりについて皆で話し合う。それをもとにテーマを決定、作品プランを練り、試作、本制作とすすめてゆく。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週 守崎担当分</p> <p>第1週 成形実習(押し型成形[蓋物])：図面作成・石膏型作成 第2週 成形実習(押し型成形[蓋物])：石膏型作成 第3週 成形実習(押し型成形[蓋物])：押し型成型 第4週 成形実習(押し型成形[蓋物])：削り仕上げ 素焼焼成実習(0F) 第5週 成形実習(押し型成形[蓋物])：施釉・本焼焼成実習(0F) 第6週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：図面作成・石膏型作成 第7週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：石膏型作成 第8週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：鑄込み成型 第9週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：削り仕上げ 素焼焼成実習(0F) 第10週 成形実習(鑄込み成形[透光性花器])：施釉・本焼焼成実習(0F) 第11週 成形実習(ろくろ成形[急須])：道具作り 第12週 成形実習(ろくろ成形[急須])：水挽き 第13週 成形実習(ろくろ成形[急須])：削り 仕上げ(注ぎ口・取手・蓋) 素焼焼成実習(0F) 第14週 成形実習(ろくろ成形[急須])：施釉・本焼焼成実習(0F) 第15週 蓋物・透光性花器・急須の講評</p> <p>川尻担当分</p> <p>第1週 メッセージを持つ作品についての考察 第2週～3週 各自で取材 テーマ決定 第3週～14週 本制作 検討会 第15週 講評 意見交換会</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(釉薬実験資料を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	『釉調合の基本(改訂版)』(加藤悦三著)窯技社 必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。

履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容) 実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 予習・復習指導 関連科目 (時間) 実習1コマに対して1時間の事前事後学修をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会多数 守崎正洋：2003年より陶芸家として作品を制作する。国内展覧会出品多数
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	専門実習Ⅲ(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOBUI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBUI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOBUI 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を習得する。 ・塗装技法をより向上させる。 ・専門実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ彫刻技法に基づく木彫刻造形美術表現及び彫刻技法の習得を目標とする。 ・自由課題を通して、木彫刻造形を一つの作品としてまとめる、全体的な構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1/5 サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通しより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。 ・木彫刻造形である仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を作図する。見本となるモデリングを木彫りのための立体デッサンとして油土で制作し、どの木材が適切かを選択し造形のプランを完成させ木彫作品を制作する。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第 1週・オリエンテーション(課題説明)自由課題の作図 ・椅子作品考案・図面作成</p> <p>第 2週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・割り付け・木取り・小割・木作り(鉋がけ等) 木作り①(鉋がけ・寸法切り)</p> <p>第 3週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・木作り②(鉋がけ・寸法切り) 木作り③(鉋がけ・寸法切り)</p> <p>第 4週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工①</p> <p>第 5週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工②</p> <p>第 6週・自由課題の作品制作・材への作図の転写木取り、木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工③</p> <p>第 7週・木彫刻の荒取り工程 ・仮組・部材調整</p> <p>第 8週・木彫刻の荒取り工程 ・成形、仕上げ①</p> <p>第 9週・木彫刻の荒取り工程、中取り工程 ・成形、仕上げ②</p> <p>第 10週・木彫刻の中取り工程 ・成形、仕上げ③</p>

	<p>第11週・木彫刻の小造り行程 ・成形、仕上げ④</p> <p>第12週・木彫刻の小造り行程 ・組上げ、調整接着①</p> <p>第13週・木彫刻の小造り行程, 仕上げ彫り工程 ・組上げ、調整接着②</p> <p>第14週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・塗装</p> <p>第15週・最終調整・合評</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>『椅子と日本人のからだ』（矢田部英正 晶文社 2003）、『1000chairs』（Taschen America2000）</p> <p>『日本の木の椅子』（商店建築社 1996）</p> <p>丸尾 彰三郎 水野敬三郎著 『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）</p> <p>近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）</p>
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	<p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。</p> <p>古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。</p> <p>木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「専門実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	<p>宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員</p> <p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士</p> <p>美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP309P

シラバス参照

講義名	プロジェクト演習 I		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP1-2、DP1-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫) 「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所(金属加工会社)さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。

	<p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。</p> <p>山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。</p> <p>岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、コンセプトの立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。</p> <p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。</p>
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し1時間の事前学習をすること
関連科目	「専門実習Ⅰ(デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年</p> <p>山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。</p> <p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士</p> <p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP310S

シラバス参照

講義名	プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週 オリエンテーション 第 3 週～第 6 週 アイデアの具現化 第 7 週 中間発表 第 8 週 アイデア修正 第 9 週～第 14 週 実制作 第 15 週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。(連携先：京都市交通局) 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。(主催：京都中央信用金庫) 「金属素材を使ったインテリア造形プロジェクト」 小林製作所(金属加工会社)さんとの産学連携授業。1/1の椅子やチェスト、オブジェの制作を行う。大きさ制限あり。

	<p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計与件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。</p> <p>山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要なスキルを指導する。</p> <p>岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。</p> <p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。</p> <p>塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。</p> <p>餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。</p>
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。 1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ（デザイン）」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年</p> <p>山本太郎：画家（ニッポン画家）</p> <p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員</p> <p>玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士</p> <p>塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年</p> <p>餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP311S

シラバス参照

講義名	プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
講師	玉村 嘉章	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	賀来 寿史	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	塚本 カナエ	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	エトリ ケンジ	KYOBI 芸術学部

到達目標	・チームワークで課題解決するためのコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4に該当する。
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第1週 プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第2週 オリエンテーション 第3週～第6週 アイデアの具現化 第7週 中間発表 第8週 アイデア修正 第9週～第14週 実制作 第15週 最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。 (連携先：株式会社灰孝本店) 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的としたコンペティション。(連携先：京都産業会館) 「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道(円山公園南)の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 (連携先：京都東山花灯路実行委員会) 「七条通スタンプラリー&アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 (連携先：七条通商店街振興組合)

	<p>「金属素材を用いた商品開発」 金属素材：鉄、銅、ステンレス、アルミを使用した商品開発を行う。実制作としては図面、模型を作成し プレゼンテーションを行い、本製作をタイアップ企業にて実制作を行なってもらう。 （連携先：有限会社小林製作所）</p> <p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、店舗における設計と件の整理、コンセプトの立案、インテリアデザイン・グラフィックデザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 山本太郎：画家（ニッポン画家）の実績をもとに、作品の構想力、実施展開、制作、展示等に必要スキルを指導する。 岡達也：デザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、ブランディング、グラフィックデザインにおける与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等実践的なスキルを指導する。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員の実績をもとに、漆の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士の実績をもとに、木材の加工方法、技術等について実践的なスキルを指導する。 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、個人デザイン事務所代表24年の実績をもとに、プロダクトデザインにおける企画立案力、エスキス、試作、プレゼンテーション等のスキルを指導する。 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表等の実績をもとに、作品の発想力、展示空間との関係性の考え方、作品の制作手法や技術についてのスキルを指導する。</p>
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	1コマに対し2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロジェクトごとに講評および質疑応答を行う。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済 中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年 山本太郎：画家（ニッポン画家） 岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 玉村嘉章：京もの認定工芸士/家具製作一級技能士 塚本カナエ：デザイン事務所勤務歴3年、自営デザイン事務所代表24年 餌取健司：現代アーティスト（エトリケンジ）活動歴33年 国内、中国、フランス等で作品を多数発表。</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP312S

シラバス参照

講義名	卒業制作研究(デザイン)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBUI 芸術学部
教授	津村 健一	KYOBUI 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOBUI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBUI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBUI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBUI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作に向けて制作根拠となりうる研究を行う。 ・研究仮説を明確化し調査対象を定め計画を立てる。 ・資料や対象物の調査を行い分析し整理する。 ・整理をもとに卒業制作の課題の意義やテーマを構築する。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	本授業は後期の「卒業制作」のための研究と位置づけ、各自で設定したテーマをどのように論拠することができるかを研究、検討する。これまでに学んできた演習や実習内容ををさらに発展させ、市場やユーザー調査を実施して制作視点および根拠をしっかりと組み立てる。
授業計画 授業内容	全 15 回（以下一般的なプロセスを示す。） 第 1週 オリエンテーション 第 2週 研究仮説の検討 第 3週 研究計画の策定 第 4週 調査 第 5週 調査 第 6週 調査 第 7週 進捗発表 第 8週 分析 第 9週 分析 第 10週 分析 第 11週 研究のまとめ 第 12週 研究のまとめ 第 13週 試作、表現 第 14週 試作、表現 第 15週 研究発表 * 進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2023年度 卒業制作スケジュールに従う。 * 令和5年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2023年度 卒業制作要領に従う。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、研究指導を行う。特にデザインサーベイを中心に得られる問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等からビジュアルデザインへアウトプットするプロセスを指導する。 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表した実績をもとに、研究指導を行う。個人の志向を活かした作品をアートへ昇華するための研究や実験的作業について指導する。 渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年の実績

	<p>をもとに研究指導を行う。主に個人の内面から発する自由な着眼点、発想の導き方等について指導する。</p> <p>岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに研究指導する。</p> <p>東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年（日本・スペイン）、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年（メキシコ）の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の研究指導を行う。主にインテリア空間における問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等から空間デザインへアウトプットするプロセスを指導する。</p> <p>杉山英知：建築事務所勤務歴6年 一級建築士事務所 主宰12年、資格学校講師歴12年の実績をもとに、研究指導を行う。主に都市空間や建築空間における問題の発見、仮説の立案、リサーチ、分析等から空間デザインへアウトプットするプロセスを指導する。</p>
成績評価	調査、分析 70%、まとめ、発表内容 30%（作品および試作を含む）を総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書 参考資料	授業を通して適宜紹介する。 他大学および本大学過年度卒業制作作品集
履修上の注意	仮説、調査、分析、まとめ、試作、作品等の作業に取り組むこと。
予習・復習指導	他大の卒業制作展の視察を十分に行っておくこと。 1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること
関連科目	専門実習Ⅲ（デザイン）
課題に対するフィードバックの方法	プロセスおよび報告時に適宜評価内容を伝達する。 研究成果を公開する。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年</p> <p>津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年</p> <p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年</p> <p>杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

シラバス参照

講義名	卒業制作研究(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>各自が独自にテーマを定め、調査、分析、研究に基づき構想し漆もしくは漆工技術を活用して作品製作や、価値観の創造に取り組むことを通じて、幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2、DPO-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>漆は日本の伝統工芸の中で、世界から特に注目を浴びてきた素材である。また環境負荷が少ない素材として現在も新たな視点で注目を集めている。本講義では伝統と可能性を兼ね備えた漆を、学生自身の感性と社会との接点を探る大切な機会である。前期研究期間に、卒業制作をしっかりと見据え学生各自がそれぞれの視点でテーマを見出し調査研究する。テーマの選定にあたっては、さまざまな視点から候補を挙げ、その制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練に取り組む。また国際的な発信と同時に学生自身の持つ個性と日本文化をはぐくむ地域性をしっかりと理解する重要な講義となる。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週2日</p> <p>第1週 卒制について：概要説明、研究の方向性の選択、テーマ（仮）の発表 第2週 研究計画発表・検討 第3週 研究プラン試案決定 第4週 卒業制作研究1 第5週 卒業制作研究2 第6週 卒業制作研究3 第7週 卒業制作研究4 第8週 卒業制作研究5 第9週 卒業制作研究6 第10週 卒業制作研究7 第11週 卒業制作研究8 第12週 卒業制作研究9 第13週 卒業制作研究10 第14週 卒業制作研究11 第15週 卒業制作研究12：研究発表：総括</p>
成績評価	<p>調査成果40%、制作物（試作/技術習得度含）40%、授業態度（授業内での学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッション、指導陣との積極的情報共有などを含む）20%</p>
教科書	<p>特に指定しない、適宜資料を配付する。</p>
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはなし』Ⅰ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂/『漆塗りの技法書』誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』光芸出版/『漆その科学と実技』理工出版社</p>
履修上の注意	<p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する</p>

	<p>⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む課題内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p> <p>工芸美術に関する情報を各自が収集し感性の錬磨に努める。研究の中で技術もしくは材料の知識などの不足が見受けられる場合は、必ず習熟、復習し理解を深める。特に実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がける。</p>
関連科目	伝統工芸概論、工芸概論、専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・造形芸術論、立体造形（工芸） 造形材料論 京大学演習Ⅰ（工芸）
課題に対するフィードバックの方法	各学生定めた研究課題を常に担当教員と意見交換をする。 定められた授業時間にディスカッション、実演、示唆などを行う。
教員の実務経験	<p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生にその制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練を教授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

シラバス参照

講義名	卒業制作研究(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>現在、「陶」を主な素材とした芸術的表現は「工芸」としてのみならず、オブジェなどのアート表現、さらには現代美術として、多様に展開されている。</p> <p>自身がどのようなスタンスで作品を創造するかという命題を深く考察し、制作テーマを設定する。テーマをもとに、広く取材をし、資料を集め、制作意義を確認する。</p> <p>試作を繰り返し、卒業制作における技術的な問題を解決する。</p> <p>この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>各自の卒業制作テーマのもと、研究を行い、マケットを制作、完成させる。</p> <p>1年という期間をかけて制作する作品であることを理解し、まずは広くテーマを模索する。メディア、展覧会、書籍など多くの取材をし、過去の自身の作品や指向も顧み、卒業制作のテーマを決定する。数回にわたる検討会を通して、自身のテーマをブラッシュアップし、必要があれば修正する。マケットの制作を反復し、技術的、造形的な問題点、あるいは新たに検討すべき点などを洗いだし、解決してゆく。反復制作によりイメージを確かなものに仕上げる。最終週にマケットの検討会を開催する。</p>
授業計画 授業内容	<p>授業計画 授業内容 全15週</p> <p>第1週 制作テーマの設定・ミーティング（担当職員と随時）</p> <p>第2週 制作テーマ検討（考察・取材・実験）</p> <p>第3週 制作テーマ検討（考察・取材・実験）</p> <p>第4週 制作テーマ検討（考察・取材・実験）</p> <p>第5週 制作テーマ検討（考察・取材・実験）</p> <p>第6週 制作テーマ検討（考察・取材・実験）</p> <p>第7週 マケット制作</p> <p>第8週 マケット制作</p> <p>第9週 マケット制作</p> <p>第10週 マケット制作</p> <p>第11週 マケット制作</p> <p>第12週 マケット制作 プレゼンテーション 検討会</p> <p>第13週 マケット制作</p> <p>第14週 マケット制作</p> <p>第15週 マケット作品講評・レポート提出（担当教員による評価）</p> <p>※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度40%・レポート完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	既存の工芸作品にとどまらず、音楽、舞台芸術、文学など広く取材を行うこと。

予習・復習指導	1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」 「専門実習Ⅲ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内展覧会出品多数 陶芸家・美術家として学生に技法を伝授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

シラバス参照

講義名	卒業制作研究(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木 太一	KYOBI 芸術学部
特任教授	宮本 貞治	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。 ・自由藝術作品制作による木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・作品制作の構想（デッサン、作図、エスキース）を基に木材料の準備をする。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4 に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目指す。 ・また同時に卒業作品の設計と使用する材料の乾燥養生を並行して行う。 ・これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻の造形技法の集大成として木彫刻を制作する。木彫刻造形を自分の思う形に表現出来るよに研究を進めコンセプトを考え制作する。後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを確立させる。
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第 1 週・図面作成①（彫刻・指物・割物・挽物いずれも可） ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作</p> <p>第 2 週・板材への墨付け・木割作業 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作</p> <p>第 3 週・部材加工：鋸による粗取り ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第 4 週・部材加工：各部材の飽がけ① ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第 5 週・部材加工：各部材の飽がけ② ・荒取り工程</p> <p>第 6 週・部材加工：仕口加工① ・荒取り工程、中取り工程</p> <p>第 7 週・部材加工：仕口加工② ・中取り工程</p> <p>第 8 週・部材加工：仕口加工③ ・中取り工程</p> <p>第 9 週・卒業制作プレゼンテーション① ・中取り工程、小造り工程</p> <p>第10週・部材組立 ・小造り工程</p> <p>第11週・拭漆作業 ・小造り工程</p>

	<p>第12週・卒業制作設計図作成 ・小造り工程、仕上げ工程</p> <p>第13週・卒業制作プレゼンテーション② ・仕上げ工程</p> <p>第14週・拭漆作業 ・仕上げ工程</p> <p>第15週・全体講評 ・講評、卒業制作構想発表</p>
成績評価	評価ポイント：履修態度（30%）、技術習得度（30%）、作品完成度（40%）
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書 参考資料	<p>木工大図鑑（講談社 2008）</p> <p>太田古朴著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965）</p> <p>近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』（光村推古書院 1972）</p>
履修上の注意	<p>作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。</p> <p>古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。</p> <p>授業で木彫刻作品の作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p> <p>実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ、切れ味の良い状態で課題に入れるように準備しておく。</p> <p>1コマに対し1時間の復習をすること。</p>
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	<p>青木太一：京都佛像彫刻家協会会員</p> <p>宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員</p> <p>美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP413P

シラバス参照

講義名	卒業制作・論文(デザイン)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBI 芸術学部
教授	津村 健一	KYOBI 芸術学部
教授	渡邊 俊博	KYOBI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBI 芸術学部
准教授	東 俊一郎	KYOBI 芸術学部
講師	杉山 英知	KYOBI 芸術学部
特任教授	山本 太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	4年間の総括として自身が定めたテーマに対し調査・研究を重ね、導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現（作品 論文）として発表する。 この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	コミュニケーション力、発想力、表現力、フィニッシュワーク力という4年間の学びにより修得したデザイン力を駆使して独自の視点により問題提起し、オリジナルの手法による解決案を具現化して提示する。
授業計画 授業内容	<p>全 15 回/週2日</p> <p>第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 卒業制作研究からのフィードバック考察 第 3 週 テーマ・コンセプト修正 第 4 週 設計 第 5 週 試作 第 6 週 試作 第 7 週 中間チェック 第 8 週 実制作 第 9 週 実制作 第 10 週 実制作 第 11 週 実制作 第 12 週 実制作 第 13 週 コンセプトパネルの制作 第 14 週 コンセプトパネルの制作 第 15 週 講評会 / 総括</p> <p>* 進捗報告、発表等、デザイン・工芸学科 2024年度 卒業制作スケジュールに従う。 * 令和6年度 京都美術工芸大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 2024年度 卒業制作要領に従う。</p> <p>中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績を活かした制作・論文の指導を行う。デザイン与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。 津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表。実績を活かした制作・論文の指導を行う。造形与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。</p>

	<p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年の実績を活かした研究指導を行う。実務経験を活かした制作・論文の指導を行う。制作与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。</p> <p>岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績、加えてデザイン制作会社勤務経験およびフリーランスデザイナーとしての活動経験を活かし、制作・論文の指導を行う。</p> <p>東俊一郎：建築・インテリア設計事務所等における実務歴8年（日本・スペイン）、海外大学でのインテリアデザイン指導歴10年（メキシコ）の教育経験をもとに、色彩を活用したインテリア空間の制作・論文指導を行う。設計与件の整理、立案、デザイン案の制作、プレゼンテーションに加えて作品の完成度を上げる指導を行う。</p> <p>杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰12年、資格学校講師歴12年。実績を活かした制作・論文の指導を行う。設計与件の整理、立案、デザイン案の作成、プレゼンテーション等、デザインプロセスの習得に加えて、作品の完成度を上げる指導を行う。</p>
成績評価	プロセスと最終成果物の完成度によって総合的に評価する。
教科書	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事。
予習・復習指導	1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすうこと
関連科目	卒業制作研究
課題に対するフィードバックの方法	各所属ゼミおよびコース内での講評・質疑応答。 卒業制作中間審査会、卒業制作コース事前審査、卒業制作審査会等における講評による。
教員の実務経験	<p>詳細は授業内容に記載済</p> <p>中井川正道：建築、デザイン設計事務所勤務歴20年、フリーランスデザイナー・デザイン事務所主宰10年</p> <p>津村健一：現代アーティスト 活動歴32年 東京都美術館、国立新美術館、京セラ美術館、ルーヴル美術館（フランス）等で作品を多数発表。</p> <p>渡邊俊博：建設会社・素材メーカー勤務歴16年 フリーデザイナー・デザイン事務所主宰5年</p> <p>岡達也：デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。</p> <p>東俊一郎：建築設計事務所勤務歴4年（スペイン、国内） 大学施設技術職員歴4年</p> <p>杉山英知：建築事務所勤務歴6年 自営一級建築士事務所 主宰11年、資格学校講師歴12年</p>
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

シラバス参照

講義名	卒業制作・論文(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 三木 表悦	KYOBI 芸術学部
准教授	遠藤 公誉	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>各自が設定したテーマに沿って独自の調査、分析、研究に基づき構想し漆を活用して作品制作に取り組むことを通じてつねに幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。</p> <p>この科目は DPO-1、DPO-2、DPO-3 DP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>学生各自が設定したテーマを、担当教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、事前に十分な討議を担当教員及び学生間でおこない、4年間で習得した工芸に関する知識や技術に基づき、作品制作とその発表に取り組む。</p> <p>漆という素材、漆芸技法、社会性、国際性、伝統、未来、環境、さまざまな視点が存在するなか、本卒業制作の作品は新たな社会と漆とののかかわりを生み出す可能性を秘めている。</p> <p>工芸とは何か？芸術は何か？文化とは何か？普段の学びの中で繰り返し自問してきた答えを、作品制作という形で結集する重要機会でありこれまでに調査研究した内容と、これまでのカリキュラムや個々の学びの中で得た見識、取得した技の集大成である。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週3日</p> <p>第1週 オリエンテーション・卒業制作研究からのフィードバック考察</p> <p>第2週 テーマ・コンセプト修正/実制作</p> <p>第3週 実制作</p> <p>第4週 実制作</p> <p>第5週 実制作</p> <p>第6週 実制作・中間発表</p> <p>第7週 実制作</p> <p>第8週 実制作</p> <p>第9週 実制作</p> <p>第10週 実制作</p> <p>第11週 実制作</p> <p>第12週 発表資料準備・実制作</p> <p>第13週 発表資料準備・実制作</p> <p>第14週 発表資料準備・実制作</p> <p>第15週 合評会・総括</p>
成績評価	<p>本学での学びの集大成として、「素材」「技術」「社会性」「独自性」「伝統」「現代性」など様々な点から、テーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができてきているかを評価する。同時に、指導者及び学生同士での情報交換、意見交換等ディスカッションを実践し、自己の主張と同時に他者との相互理解に寄与しているかも評価材料として重視する。</p>
教科書	なし
参考書 参考資料	<p>『やさしく身につく漆のはな』 I～IV社団法人日本漆工協会/『漆芸品の鑑賞基礎知識』 至文堂/『漆塗りの技法書』 誠文堂新光社/『うるし工芸辞典』 光芸出版/『漆 その科学と実技』 理工出版社</p>

履修上の注意	<p>①自らが取り組む制作技法について調査研究を行う ②事前に参考書等から関連する予備知識を得ておく ③作業の進行状況をノートし写真を撮り、まとめポートフォリオを制作する ④素材及び工具の取り扱いには十分に注意し手入れを日常的に行う ⑤共有の工具・道具については共有の財産であることを認識し、使い終わった時点で必ず原状復帰し返却する ⑥作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する ⑦作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う ⑧円滑で節度あるコミュニケーションを守る ⑨共同で取り組む内容については特に情報共有を意識し、それぞれの役割を理解し全員の責任で取り組む ⑩自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に計画を管理、適宜見直し報告連絡相談する</p> <p>その他大学の学生便覧及び履修の手引きを改めて熟読し、履修に取り組む</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し、1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。</p> <p>工芸美術に関する情報を各自が収集し、技術や感性の錬磨に努めること。 実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がけること。</p>
関連科目	卒業制作研究（漆芸）
課題に対するフィードバックの方法	毎週授業時間内に提出物や作業計画などの情報共有を行い適宜講評を行う。
教員の実務経験	<p>三木表悦：漆工芸作家、表悦工房・啓樂工房主宰 個展・グループ展等多数開催 京都漆器工芸協同組合・日本煎茶工芸協会理事 遠藤公誉：京漆器伝統工芸士/京もの認定工芸士/日本工芸会近畿支部漆芸部会研究会員 京漆器伝統工芸士、漆工芸作家として、学生に工芸に関する知識や技術を教授する。</p>
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

シラバス参照

講義名	卒業制作・論文(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻 潤	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>前期の卒業制作研究(陶芸)をふまえ、卒業作品を完成させることを目標とする。</p> <p>この科目はDP1-1、DP1-2、DP1-3、DP1-4に該当する。</p>
授業概要	<p>前期卒業制作研究で行った研究を基に、卒業制作を完成させる。</p> <p>前期で制作したマケットをもとに、本制作を行う。技術的、造形的な問題点、あるいは検討すべき点などが新たに存在する場合は、実験や試行を繰り返し解決に導く。本制作においても複数の制作を行うことが望ましい。検討会においては、客観的な視点による指摘や意見をもとに、より作品の完成度を高めてゆく。また展示空間や展示方法においても多くの考察や検討が必要であり、そのため多くの展示会に出かけ展示の取材を行うと共に、展示方法のための検討会を開催し、意見を交換する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週 卒業制作研究で決定したテーマに基づき実施計画の発表および制作</p> <p>第2週 卒業作品制作</p> <p>第3週 卒業作品制作</p> <p>第4週 卒業作品制作</p> <p>第5週 卒業作品制作</p> <p>第6週 卒業作品制作</p> <p>第7週 卒業作品制作 途中検討会(複数回開催)</p> <p>第8週 卒業作品制作</p> <p>第9週 卒業作品制作</p> <p>第10週 卒業作品制作</p> <p>第11週 卒業作品制作</p> <p>第12週 卒業作品制作 プレゼンテーション</p> <p>第13週 卒業作品制作</p> <p>第14週 卒業作品制作</p> <p>第15週 卒業作品提出(担当教員による評価)</p> <p>※卒業制作到達目標の状況に応じて、適宜内容および卒業制作手順を調整する場合がある。</p>
成績評価	授業態度40%・作品完成度60%を基本とし総合的に評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	<p>試作品の製作や検討のための実験をせずにいきなり本制作を行うことは、完成度が著しく低い作品になるため、認めません。</p> <p>作品完成に向けて時間の配分を十分に考慮すること。</p>
予習・復習指導	実習1コマに対して2時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。

教員の実務経験	川尻潤：1995年より陶芸家・美術家として作品を制作する。国外アーティストレジデンス滞在制作（中国、ロシア、台湾等）国内外展覧会出品多数 陶芸家・美術家としての経験を学生に伝え、技法を伝授する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ADC-SP414P

シラバス参照

講義名	卒業制作・論文(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本 貞治	KYOBI 芸術学部
特任講師	青木 太一	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	中岡 功	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	松原 輝	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4年間の総括として各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計制作する。自身が導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現として発表する。幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 ・これまでの実習で積み重ねて修得した彫刻技術、自由芸術作品を完成させる。木彫刻が古来引き継がれてきた造形技法を元に自らが持つ感性や表現力で作品にどのように活かせるか目指しながら学び制作し仕上げる。 <p>この科目は、DP1-1～4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学生各自がテーマを設定し、教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教員及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した木工・彫刻に関する知識や技術に基づき、木工・彫刻分野の卒業制作に相応しい課題を選定する。卒業制作研究で得られた経験を活かし、指物、割物、挽物、彫刻等の基本的な木工技法のみならず、象嵌、木画、曲木等様々な技法を駆使し、新たな木工、彫刻作品の制作を目指す。 ・卒業制作研究(木工・彫刻)で材料の選択及び彫刻技法を習得し卒業作品制作のプロセスを研究して確立させ作品を制作をする。
授業計画 授業内容	<p>全15回/週2日</p> <p>第 1 週 ・オリエンテーション ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作</p> <p>第 2 週 ・卒業制作研究からのフィードバック考察 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作</p> <p>第 3 週 ・テーマ・コンセプト修正 ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第 4 週 ・設計 ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程</p> <p>第 5 週 ・試作 ・荒取り工程</p> <p>第 6 週 ・試作 ・荒取り工程、中取り工程</p> <p>第 7 週 ・中間発表 ・中取り工程</p> <p>第 8 週 ・実制作 ・中取り工程</p> <p>第 9 週 ・実制作 ・中取り工程、小造り工程</p>

	<p>第10週 ・実制作 ・小造り工程</p> <p>第11週 ・実制作 ・小造り工程</p> <p>第12週 ・実制作 ・小造り工程、仕上げ工程</p> <p>第13週 ・実制作 ・仕上げ工程</p> <p>第14週 ・コンセプトパネルの制作 ・仕上げ工程</p> <p>第15週 ・合評会 / 総括</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度20%、技術習得20%、卒業作品の完成度60%により総合的に評価する。 4年間の学びの集大成として、卒業制作（論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」が出来ているかを評価する。</p>
教科書	<p>授業を通して適宜紹介する。</p>
参考書 参考資料	<p>太田古朴著 『仏像彫刻技法』（綜芸舎 1965） 近藤豊著 『古建築装飾文様集成 草木編・鳥獸編・風月編』（光村推古書院 1972） 『日本彫刻史基礎資料集成』 平安時代 造像銘記篇 8巻、平安時代 重要作品編 5巻、鎌倉時代 造像銘記篇 16巻（中央公論美術出版 1966）</p>
履修上の注意	<p>4年間の学びの集大成として卒業制作研究（木工・彫刻）で確立した素材・成形・加飾・焼成の技術の成果を基に卒業作品を完成させる。</p>
予習・復習指導	<p>1コマに対し2時間の復習をすること。</p>
関連科目	<p>「卒業制作研究（木工・彫刻）」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。</p>
教員の実務経験	<p>宮本貞治：重要無形文化財（木工芸）保持者/日本工芸会正会員 青木太一：京都佛像彫刻家協会会員 美術工芸家としての実務経験を活かし、学生が美術工芸に関する研究テーマを設定し、調査・研究する際の指導を行う。また、作品制作に用いる素材・技法と芸術表現について指導し、将来的に美術工芸に携わる者として必要なスキルを指導する。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	<p>ADC-SP414P</p>

<建築学部> 専門教育科目 K5. 美術工芸科目ー基本科目

京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 高田 光雄	KYOBUI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBUI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBUI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBUI 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBUI 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOBUI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。</p> <p>この科目は、DP2-1～2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。具体的には、専門分野の異なる複数の教員が、それぞれの分野における自らに対する問いにどのように答えようとしてきたかを具体的に語ることを通じて、建築学の広がりや研究の醍醐味をわかりやすく伝え、受講生が、建築学の概要を理解した上で、自ら問いを発し、自ら答えるという研究の基礎を体験的に習得することを目指す。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回 14の建築への問い</p> <p>第1回 講義概要・建築とは何かという問い（高田光雄） 第2回 建築を京都で学ぶ意味は何か（高田光雄） 第3回 建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは何か（井上年和） 第4回 修復の世界とは何か（井上年和） 第5回 路地から見る京都とは何か（森重幸子） 第6回 環境共生住宅とは何か（森重幸子） 第7回 建築企画とは何か（生川慶一郎） 第8回 まちづくりとは何か（生川慶一郎） 第9回 建築を作り作法とは何か（齊藤啓輔） 第10回 アップサイクルとは何か（齊藤啓輔） 第11回 建築の文化的価値とは何か（砂川晴彦） 第12回 アジアの伝統住居とは何か（砂川晴彦） 第13回 伝統建築はいかにして設計されたのか（大上直樹） 第14回 建築の寸法はどのように決めるのか（大上直樹） 第15回 講義まとめ（高田光雄）</p>
成績評価	「小レポート(小テスト)+期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。

教科書	なし
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 1コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として33年間の経験を有する教員が建築学の深い成り立ちと多様な広がりや「建築とは何か」という問いを教授する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-BA111L

シラバス参照

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中谷 武雄	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>文化財保護法による文化財保護のシステムや方法について、文化財保護法改正の歴史をたどり、その体系、本質と特長を理解する。</p> <p>現在の日本の文化財政策は、文化政策の体系に位置づけられ、文化財の保護から活用へと大きく舵を切りつつある。公開の促進から観光資源化やまちづくり、地域経済社会への貢献を課題とし、その活用の過程に地域住民や民間（経済）団体の参加が促される。</p> <p>文化財の考察に経済（学）的な視点と考え方を導入し、文化財と文化的財の区別と関係、文化産業（財）や著作権、ユネスコの文化遺産保護政策や文化政策までも触れる。将来社会において、生活や地域における文化財の意義や役割について理解する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>文化財保護法による文化財保護のシステムや方法について、文化財保護法改正の歴史をたどり、その体系、本質と特長を理解する。</p> <p>現在の日本の文化財政策は、文化政策の体系の中に位置づけることにより、文化財の保護から活用へと大きく舵を切りつつある。公開の促進から観光資源化やまちづくり、地域経済社会への貢献を課題とし、その活用の過程に地域住民や民間（経済）団体の参加が促されている。</p> <p>文化財の考察に経済（学）的な視点と考え方を導入し、文化財と文化的財の区別と関係、文化産業（財）や著作権、ユネスコの文化遺産保護政策や文化政策までも触れる。将来社会において、生活や地域における文化財の意義や役割について理解する。</p>
授業計画 授業内容	<p>講義計画</p> <p>第I部 現代社会における文化財（1～5）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の文化財と文化（現代文化財経営論 文化財保護法改正） 2 文化財と文化的財（文化経済学からの経済と文化 文化産物） 3 文化（財）の保護と消費（文化の独占的消費から資源化・商品化・産業化・民主化） 4 著作権の経済学（知的財産（権） 創造者、創造作品の保護 創造性の経済学） 5 日本の文化政策（文化庁・文部科学省 文化財保護→文化創造支援、文化財活用） <p>第II部 文化財保護法の歴史と体系（6～10）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6 文化財保護法（改正の歴史と文化・文化財の種類の拡張） 7 文化財の体系・種類(1)（有形文化財 無形文化財 民俗文化財 記念物） 8 文化財の体系・種類(2)（伝統的建造物群 重要文化的景観） 中間試験・予定 9 ユネスコの遺産保護事業（世界遺産 古都京都の文化財） 10 日本遺産事業（文化財の観光資源化） <p>第III部 文化財と文化政策（11～15）</p> <ol style="list-style-type: none"> 11 文化（財）とまちづくり（文化遺産を活かした地域活性化 景観法） 12 文化交流と観光（文化観光推進法 工芸観光） 13 登録文化財（登録制の意義 文化遺産の経済学） 14 まちづくりと地域おこし（文化価値と文化資本の循環・形成・蓄積・発展） 15 文化財政策と将来世界（文化多様性 文化コモンズ ソーシャルイノベーション）
成績評価	<p>期末レポート：35% 中間テスト：20% 毎回の提出物：45%</p> <p>毎回の提出物において、設定された課題に対し、正面から応えることが大切（0～3点評価）</p>
教科書	<p>・文化庁「未来に伝えよう文化財：文化財行政のあらまし」最新版（2023年9月）</p> <p>・文部科学省「我が国の文化政策」（『文部科学白書』第7章）最新版（令和5年度版？）</p> <p>あらかじめ各自でサイトにアクセスし、両者をプリントアウトして通読しておくこと</p>
参考書 参考資料	<p>・村上隆『文化財の未来図：〈ものづくり文化〉をつなぐ』岩波新書1998、2023年12月20日、940＋税</p> <p>・ユネスコ『創造性への投資』2015 「創造性への投資」で検索 プリントアウト</p> <p>・東京大学文化資源学研究室編『文化資源学：文化の見つけかたと育てかた』新曜社、2021年10月25日、2600＋税</p>

履修上の注意	文化・文化財と経済や社会の関係を重視して、政治・産業の動きにも目を配ること
予習・復習指導	1. 準備学修<予習・復習等>（具体的な内容） シラバスの講義概要・内容にしたがって、毎回のキーワードについてあらかじめ調べておくこと 期末レポート作成（1500字程度）のため、関連文献や資料に目を通すとともに、日頃からまちあるきに親しみ、現場／現物を観察／鑑賞しておくこと 2. 準備学修<予習・復習等>（必要な時間） 講義1コマに対し、1.5時間の事前学習、および1.5時間の復習をするとともに、適宜フィールドワークに従事すること
関連科目	工芸と経済 世界文化遺産論 地域社会論
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対する事前相談と、コメントを加えて、最終提出とする
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 古閑 謙太郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	<p>京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。</p> <p>伝統工芸のあらましを理解するとともに、今日の伝統工芸の立ち位置を把握・理解する。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。</p>																																													
授業概要	<p>本講義では、伝統工芸業界の幅広い分野に触れ、各分野の基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>日本の伝統工芸は、長い歴史の中で培われた技術や美意識を継承しながらも、時代とともに変化・発展した。そしてその中で様々な課題に直面している。こうした現状を踏まえ、本講義では、伝統工芸の実務経験を豊富に持つ現役の作家や職人による講義を通じて、技法や素材の特性、制作プロセスのみならず、現代の工芸が直面する社会的・経済的な諸問題について学ぶ。また毎回の小レポートによって、主体的に考察する力を養う。</p>																																													
授業計画 授業内容	<p>オムニバス／全15回</p> <table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>古閑 謙太郎</td><td>概論</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>須藤 拓</td><td>截金</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>八田 誠二</td><td>友禅・西陣</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>渡邊 晶</td><td>刃物</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>大菅 直</td><td>文化財修理</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>龍村 周</td><td>錦織作家</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>猪飼 祐一</td><td>京焼</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>藤井 収</td><td>漆芸</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>小島 秀介</td><td>桐箱</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>井上 楊彩</td><td>人形</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>石田 正一</td><td>竹工芸</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>中村 佳之</td><td>京こま</td></tr> </table> <p>※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。詳細については第1回目の概論において説明します。</p>	第1回	古閑 謙太郎	概論	第2回	須藤 拓	截金	第3回	須藤 拓	截金	第4回	八田 誠二	友禅・西陣	第5回	渡邊 晶	刃物	第6回	大菅 直	文化財修理	第7回	大菅 直	文化財修理	第8回	龍村 周	錦織作家	第9回	猪飼 祐一	京焼	第10回	藤井 収	漆芸	第11回	中村 佳之	京こま	第12回	小島 秀介	桐箱	第13回	井上 楊彩	人形	第14回	石田 正一	竹工芸	第15回	中村 佳之	京こま
第1回	古閑 謙太郎	概論																																												
第2回	須藤 拓	截金																																												
第3回	須藤 拓	截金																																												
第4回	八田 誠二	友禅・西陣																																												
第5回	渡邊 晶	刃物																																												
第6回	大菅 直	文化財修理																																												
第7回	大菅 直	文化財修理																																												
第8回	龍村 周	錦織作家																																												
第9回	猪飼 祐一	京焼																																												
第10回	藤井 収	漆芸																																												
第11回	中村 佳之	京こま																																												
第12回	小島 秀介	桐箱																																												
第13回	井上 楊彩	人形																																												
第14回	石田 正一	竹工芸																																												
第15回	中村 佳之	京こま																																												
成績評価	成績評価 毎回実施する小レポートにより評価する。																																													
教科書	必要に応じて適宜資料を配布																																													
参考書 参考資料	<p>『工芸の見かた・感じかた』（東京国立近代美術館工芸課：編）淡交社</p> <p>『明日への伝統工芸』（浅見 薫著）財京都伝統工芸産業支援センター</p> <p>その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する。</p>																																													
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・内容、スケジュールは変更になることがあります。 ・レポート内容と講義内容に齟齬がみられる場合は、提出されていても欠席の扱いとなります。 																																													

予習・復習指導	各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と覚えることについて調べる。1コマに対し1時間の事前学習及び1時間の復習をすること。
関連科目	「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験	登壇講師全員、美術工芸作家としての経験あり。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	構成基礎演習（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOB I 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOB I 建築学部
助教	藪下 和真	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造形物を形態として認識し、形態の持つ様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・手を動かしながら造形物を構想するプロセスを通じて、造形の方法と楽しさを体感する。 ・造形物の構成を言語化し、他者に伝える能力を習得する。 <p>この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>本科目では、造形の基礎的な演習として、形を生み出す上で最も重要な方法の一つである「構成」という手法について学ぶ。いくつかの要素を組み合わせることによって全体を作る、という課題の実践を通して「構成」の手法を体得し、かつ、描き出したまたは作り出したもののもつ造形的な特徴を発見的に考察していく。</p> <p>まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、さらに平面から立体的な構成へと展開する。最後は総合課題として、身体・素材・空間などの観点を踏まえながら、家具等の立体造形を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション：授業の目標や留意点の説明、準備</p> <p>第2回 平面構成課題：課題説明、解説</p> <p>第3回 平面構成課題：課題作業</p> <p>第4回 平面構成課題：課題作業、発表、講評</p> <p>第5回 立体構成課題1：課題説明、解説</p> <p>第6回 立体構成課題1：課題作業</p> <p>第7回 立体構成課題1：課題作業、発表、講評</p> <p>第8回 立体構成課題2：課題説明、解説</p> <p>第9回 立体構成課題2：課題作業</p> <p>第10回 立体構成課題2：課題作業、発表、講評</p> <p>第11回 総合課題：課題説明、解説</p> <p>第12～14回 総合課題：課題作業、エスキス</p> <p>第15回 総合課題：発表、講評、総括</p>
成績評価	受講態度（20％）、各課題提出物の評価（80％）
教科書	特になし
参考書 参考資料	<p>必要に応じて参考資料を配布する。</p> <p>そのほかの参考書として、</p> <p>小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』</p> <p>小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』</p> <p>上田篤著『図形ドリル 平面・立体表現の基礎を学ぶ』</p>
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。身構えず考え過ぎずに手を動かすこと。

予習・復習指導	各回1時間の予習復習をすること。 自身が行った作業について振り返って評価を行うこと。 授業外においても、日常で出会う様々な立体物を形態として認識しその構成を把握することにより平面・立体構成の感覚を養うこと。
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ⅰ」「デザイン作図演習（Bクラス）」
課題に対するフィードバックの方法	各課題ごとに提出物の講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築設計の実務経験を有する教員が担当する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要な基本的な知識を習得する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「住居」は、人間が生活を送る上で欠かせない存在であるが、日本では縄文時代から現代に至るまで、竪穴式住居から宮殿、寝殿造や書院造など様々な変遷を経て発達してきたことがわかっている。また、住居の発達に伴い、まちなみや集落、都市が形成されてきた。本講義では、日本の伝統的な住居や都市について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 史跡と古墳 第2回 原始的な住居と集落 第3回 都城と宮殿 第4回 寝殿造 第5回 書院造 第6回 城郭 第7回 武家屋敷 第8回 都市と村落 第9回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	クラスルームに教材を添付する。
参考書 参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	教材をプリントし毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理 古民家、町家、城郭、茶室、数寄屋、史跡遺構など数多くの文化財修復に携わった経験を活かし、各住居系の建物やまちなみ、都市・村落について文化的・歴史的・学術的価値や伝統技法、変遷などの解説を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104L

シラバス参照

講義名	色彩学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 東 俊一郎	KYOB I 芸術学部

到達目標	色彩の基礎知識を基に、体系的かつ理論的に捉えることができる。 色彩の活用方法を理解し、色彩計画を立案・説明できる。 この科目は、DP1-1、DP1-2に該当する。
授業概要	本講義では、色彩に関する基礎的知識の習得に加え、建築、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、工芸など多様な分野における色彩活用の事例を通じて、色彩デザインの手法を体系的に学びます。 色彩は極めて広範な主題であり、一授業内でその全容を網羅することは困難です。そこで本講義では、色彩に関する知識の習得にとどまらず、観察によって知覚される色の変化に着目し、物理的・心理的側面を含めた色彩を多面的に捉える力を育成します。加えて、実制作の現場で色彩を扱う専門家による講演を通じて、創作活動における実践的な色彩の捉え方や、色彩デザインの新たな可能性についての理解を深めます。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 色彩の基礎-1 (色の表示、混合) 第 3 回 色彩の基礎-2 (色の混合、心理的効果) 第 4 回 色彩の基礎-3 (配色) 第 5 回 色彩の基礎-4 (演習) 第 6 回 色彩演習-1 第 7 回 色彩演習-2 第 8 回 色彩演習-3 第 9 回 色彩の実践事例 (都市) 第 10 回 色彩の実践事例 (建築) 第 11 回 色彩の実践事例 (プロダクトデザイン) 第 12 回 色彩の実践事例 (工芸) 第 13 回 色彩の実践事例 (アート) 第 14 回 色彩検定 第 15 回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度 (20%)、授業毎のレポート (40%)、演習課題の評価 (40%)
教科書	『カラーコーディネーターのための色彩心理入門』(日本色研事業株式会社) 『PCGS カラートーンサークル』(日本色研事業株式会社)
参考書 参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	
予習・復習指導	1 コマに対して2 時間の事前学習及び2 時間の復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
教員の実務経験	街並み景観や建築・インテリアにおける色彩研究を行う。色彩を活用した空間設計の実績をもとに、色彩理論の習得および実践を指導する。
教員の实務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-BA105L

シラバス参照

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	KYOBI 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOBUI 芸術学部
准教授	岡 達也	KYOBUI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広義のデザインについて理解する。 ・ 近代以降のデザイン動向を認識する。 ・ 今後の社会とデザインの関わりを考える。 <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>本講義では、「デザイン」という言葉や概念がどのように変遷してきたのかを理解し、語義の変遷、歴史的な展開、現代社会における役割などを多角的に学ぶ。グラフィックやプロダクト、ランドスケープデザインや環境デザインを含む多様な分野を総合的に考察し、特に現代におけるデザインの役割について深く掘り下げ、技術の進歩や社会課題とデザインがどのように関連しているかを探る。デザインが単なる美的要素ではなく、社会と相互に影響し、課題と対峙する手段として活用されていることを理解する。</p>
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 デザインの意味・語源 第3回 デザインの歴史① 第4回 デザインの歴史② 第5回 デザインの歴史③ 第6回 デザインの現在 第7回 デザインと情報・メディア① 第8回 デザインと情報・メディア② 第9回 プロダクト・インテリア・空間デザインの世界 第10回 プロダクトデザイン① 第11回 プロダクトデザイン② 第12回 インテリアデザイン 第13回 シビックデザイン 第14回 ランドスケープデザイン 第15回 景観デザイン
成績評価	各回の小レポート（50%）と期末レポート（50%）を数値化し、総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	『カラー版世界デザイン史』美術出版社、1995年 柏木博『20世紀はどのようにデザインされたか』晶文社、2002年 仙田佳穂『もっと知りたいバウハウス』東京美術、2020年 浦一也『旅はゲストルーム』知恵の森文庫、2004年 川島宙次『民家のデザイン』（日本編）（海外編）水曜社、2016年
履修上の注意	毎回講義内容の感想を提出して、理解度を確認する。
予習・復習指導	1コマに対して2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 講義内容に関連するデザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、理解を深めておくこと。

関連科目	近代デザイン史
課題に対するフィードバックの方法	授業冒頭に前回の感想と質問に回答する。
教員の実務経験	岡達也：京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。 中井川正道：デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、プロダクト、インテリア、ランドスケープ、シビックデザインの歴史、デザインのスタイル、考え方、方法論、社会的役割等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築計画 I		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見 将敏	KYOBI 建築学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。 この科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科である。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 大きく全・後半に分かれ、前半においては、計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態などについて解説する。後半においては、設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。 建築設計関連の演習と関連した授業計画としている。また他授業との関連も各項目ごとに述べることで、建築の総合的な理解につながるような授業としている。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第2回 人間の知覚と行動1：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第3回 人間の知覚と行動2：（人間の行動と形態） 第4回 寸法と規模の計画1：（寸法の計画） 第5回 寸法と規模の計画2：（単位空間の寸法） 第6回 空間の性能1：（空間の機能、安全性） 第7回 空間の性能2：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第9回 計画の技法1：（設計プロセス） 第10回 計画の技法2：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画1：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画2：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート(小テスト)+期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学 新訂 建築計画1」 岡田光正著他 鹿島出版会
参考書 参考資料	第4版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会 丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとする。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。

関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。本授業ではその経験を生かし、内容を補足する具体例として、担当教員がこれまでに携わった建築物やその際の業務内容、またその他の建築作品例等を提示する。建築計画における基礎知識と実例とを関連付けて学ぶことで、具体的かつ体系的に本授業を理解する一助になると考えている。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	ARC-BA112L

シラバス参照

講義名	構法計画 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 基幹科目、 建築学部：美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。建築物を設計し、建築し、維持していくうえで、架構についての理解はとても大切です。</p> <p>建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。</p> <p>木構造は、古くから日本の風土、生活に根ざして発展してきました。戦後復興期には新たに制定された建築基準法に適合する住宅を大量に供給する目的で、構法の合理化、生産性向上などが図られました。建築基準法の改正や新しい材料の導入などに対応し、現在も日々進化しています。さらに近年は脱炭素社会の実現に貢献するものとして木構造の価値が見直されています。</p> <p>本科目では、木構造を理解するために以下について学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理 2. 「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズム 3. 部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディテール
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第 1 回 建築構法の分類</p> <p>第 2 回 木構造 (1) 木材の特徴</p> <p>第 3 回 木構造 (2) 木構造の基本構成</p> <p>第 4 回 木構造 (3) 軸組／耐力壁</p> <p>第 5 回 木構造 (4) 耐力壁量・耐力壁の配置</p> <p>第 6 回 木構造 (5) 耐力壁量・耐力壁の配置</p> <p>第 7 回 木構造 (6) 床組の構成／床組の設計</p> <p>第 8 回 木構造 (7) 床組の設計／部材の継手・仕口</p> <p>第 9 回 木構造 (8) 床組の設計</p> <p>第 10 回 木構造 (9) 小屋組の構成</p> <p>第 11 回 木構造 (10) 小屋組の設計</p> <p>第 12 回 木構造 (11) 小屋組の設計</p> <p>第 13 回 木構造 (12) 接合金物・造作・仕上げ</p> <p>第 14 回 木構造 (13) 造作・仕上げ</p> <p>第 15 回 木構造 (14) 枠組壁工法 (2 × 4 工法)</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>定期試験の結果 (40%)</p> <p>授業レポート提出状況・内容 (60%)</p>
教科書	<p>『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社</p> <p>『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 木造住宅』 大野隆司著 エクスナレッジ</p>
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	<p>1 講義 (1 コマ) に対して 4.5 時間の予習復習をすること。</p> <p>予習 : 0.5 時間 (テキストの次回講義部分を読む)</p> <p>復習 : 4.0 時間 (授業ノートの整理等)</p>

関連科目	「建築材料」、「建築生産論」、「構法計画Ⅱ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築CAD演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe PhotoshopおよびIllustratorの基礎的な操作法を習得する。 2次元CAD (Computer Aided Design) の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。 この科目はDP2-1、2、4に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を題材に、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe Photoshop、Illustratorを使用した図形描画や画像処理の基礎を習得する。 次に、建築系の実務で広く活用されているCAD (Computer Aided Design) のうち、2次元CADの意義を理解しながら、Autodesk AutoCADを使用して2次元CADの基礎的な操作法と活用法を習得する。 最後に、これらのソフトウェアを駆使して、建築設計図面や写真、パースなどを用いた総合的なプレゼンテーション技術の向上を目指す。
授業計画 授業内容	<p>全15回、週1回・2コマ</p> <p>第1回 ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第2回 Illustrator① (基本操作、デザイン作品のトレース) 【デザイン課題】 第3回 Illustrator② (レイアウトの基礎、デザインコンセプト) 第4回 Illustrator③ (ロゴマークのデザイン) 第5回 Illustrator④ (課題2の成果品の講評) 第6回 Photoshop① (基本操作、写真の加工・合成) 第7回 Photoshop② (デザイン課題のプレゼンテーション・講評) 第8回 AutoCAD① (基本図形の描画) 第9回 AutoCAD② (建築図面の描画) 第10回 AutoCAD③ (モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷) 第11回 AutoCAD④ (異尺度図面の印刷) 第12回 総合課題① 【総合演習課題】 第13回 総合課題② 第14回 総合課題③ 第15回 総合課題④ (総合演習課題の講評)</p> <p>※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>以下を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習状況 (30% 受講姿勢を含む) 課題成果 (70% 全課題の成果品の提出を必須とする)

教科書	<p>【指定教科書】（履修者は必ず購入すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書 [改訂新版]」阿部信行著、技術評論社、2024 ・その他、適宜オンライン資料または印刷資料を配付する。
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社、2019 ・「Autodesk AutoCAD 2025公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP、2024
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者は覚えるべきことが多いため、必ずノートやメモ帳を持参してメモ取る。 ・演習授業はWindows版のソフトウェアIllustrator、Photoshop、AutoCAD) を用いて進める。 ・Mac版のソフトウェア（特にMac版のAutoCAD) のインストールや使用方法についてのサポートは行わない。 ・演習での配布物や各自で収集した参考資料等は整理・ファイリングして毎回持参する。 ・課題に対する成果物の提出期限を厳守する。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得する。 ・演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行う。 ・各週の授業について、4時間の予習・復習が必要である。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年前期の「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を2年前期の「建築CAD演習Ⅱ」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	ICT技術を活用した建築設計、インテリアデザイン、都市デザイン等に関して10年以上に渡る実務経験を有する教員が演習指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA113S

シラバス参照

講義名	建築構造力学 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築設計における構造設計の役割および建築構造力学の基本事項について講述する。静定梁、静定ラーメンに生じる反力や断面力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）の算出方法を身に付け、断面力図（軸方向力図、せん断力図、曲げモーメント図）の描き方について学ぶ。具体的には、単純梁や片持梁に加えて、ゲルバー梁、3ヒンジラーメンなどの断面力の求め方と断面力図の描き方について学ぶ。自由体の考え方について学び、演習を通じてその利用方法を習得する。さらに、静定構造と不静定構造の違いについて学び、その見分け方を学ぶ。これらを通じて、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション／力の基礎(1) 力の概念・単位 第2回 力の基礎(2) 力の合成・分解・置換、モーメントの計算 第3回 力の釣合い 第4回 単純化されたモデル(1):単純梁と片持梁 第5回 単純化されたモデル(2):静定ラーメン 第6回 静定構造物の反力(1):単純梁・片持梁とゲルバー梁 第7回 静定構造物の反力(2):静定ラーメンと3ヒンジラーメン 第8回 単純梁の断面力と断面力図 第9回 片持梁の断面力と断面力図 第10回 ゲルバー梁の断面力と断面力図 第11回 静定ラーメンの断面力と断面力図(1):単純支持ラーメン 第12回 静定ラーメンの断面力と断面力図(2):一端固定支持ラーメン 第13回 3ヒンジラーメンの断面力と断面力図 第14回 梁、ラーメンの断面力と断面力図の復習 第15回 構造物の安定・不安定と静定・不静定 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出(60%)、定期試験(40%)に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」, 「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	COM-BA217L

シラバス参照

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	芸術学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中 水萌	KYOB I 芸術学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。 この科目は、DP1-1、DP1-2およびDP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品、とくに絵画や仏像彫刻を中心に取り上げ、古代から近世にかけての日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・文化的な繋がりや社会的側面などに着目し、日本美術史の基礎知識を身に付けたうえで、作品の成立背景や展開についても触れつつ、作品についての理解を深めることを目標とする。 具体的に、授業内ではスライドの映写を通して作品の鑑賞を行い、作品を読み解くこと、鑑賞することの楽しさに重点を置く。また授業外でも作品に触れる機会が増えるよう、美術館や博物館における展示、書籍やホームページ等を適宜紹介する。
授業計画 授業内容	1ガイダンス 2日本美術史のはじまり 3奈良時代の美術① 4奈良時代の美術② 5平安時代の美術① 6平安時代の美術② 7平安時代の美術③ 8鎌倉時代の美術① 9鎌倉時代の美術② 10鎌倉時代の美術③ 11室町時代の美術① 12室町時代の美術② 13江戸時代の美術① 14江戸時代の美術② 15総括
成績評価	毎回の授業後に感想を提出（60%）、期末レポート（40%）
教科書	特になし
参考書 参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編 日本美術史』 美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房、2019年 ほか講義中に指示する
予習・復習指導	配布資料を活用し、専門用語について読みや意味を調べてること。講義内容の復習の際、疑問点についても調べる。1コマに対し、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	質問への回答及び小レポートのフィードバックは次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	学芸員
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 樋上 千寿	KYOBI 芸術学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・古代から近代までのヨーロッパ美術の概略を理解する。 ・キリスト教の宗教絵画作品について時代毎の種類や様式を知る。 ・日本の美術とヨーロッパの美術との影響関係について知見を得る。 この科目はDP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	授業テーマ：美術—神と人との関わり 人類は古代より、美術作品の制作という営みを続けてきた。とりわけ、神と人との関係を映し出す宗教美術からは、それぞれの時代や地域の世界観や価値観が反映されている。美術の歴史は、神と人との関係の歴史であるとも言える。授業では、主にギリシャ・ローマ時代の多神教の宗教芸術と、一神教であるキリスト教美術の歴史を概観し、両者の世界観の相違と表現の相違について考察する。また西洋世界と日本との接触から生まれた近世の日本独特の宗教美術についても概観する。宗教との関係が希薄となった現代、社会の中で美術が果たしてきた役割について考察するきっかけとして欲しい。
授業計画 授業内容	1、講義ガイダンス～美術史とは？ 2、多神教と美術：ギリシャとローマ、ローマの神殿建築 3、ギリシャ・ローマの彫刻 4、一神教と美術 5、偶像崇拝の禁止と初期キリスト教美術 6、中世キリスト教の美術：ローマ帝国の東西分裂とキリスト教美術の発展 7、中世キリスト教の聖堂建築：ロマネスクとゴシック 8、ルネサンスの美術①ルネサンス運動の発端 9、ルネサンスの美術②レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晩餐》 10、アカデミズムの成立と新古典主義 11、新古典主義から印象主義へ 12、印象主義の克服：セザンヌとポスト印象主義 13、桃山美術と西洋文化との接触 14、日本のキリスト教美術 15、まとめ
成績評価	小テスト（4回）40%と期末レポート60%で評価。
教科書	指定しない
参考書 参考資料	『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）、『西洋美術館』（小学館）
履修上の注意	
予習・復習指導	復習を軸とした学習を進め、知識の整理に努めること。
関連科目	
課題に対するフィードバックの方法	
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 浅湫 毅	KYOBUI 芸術学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されているながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せつかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。																																													
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。全15回の授業内容は次項に示した通りだが、最初に仏教の始まったインドの仏教の歴史を簡単振り返るとともに、仏像の誕生の様相を見る。そしてそれらがどのようなルートを通って日本に来たのかを探り、本編としては日本の仏像の歴史を紐解いていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。																																													
授業計画 授業内容	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>東洋の仏教美術 1</td> <td>アジアの国々とインド・東南アジアの仏像</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>東洋の仏教美術 2</td> <td>中国・朝鮮半島の仏像</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>仏像入門 1</td> <td>仏像の素材・年代の概要</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>仏像入門 2</td> <td>仏像の種類</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>日本の仏教美術 1</td> <td>飛鳥時代前期 法隆寺を中心に</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>日本の仏教美術 2</td> <td>飛鳥時代後期 白鳳美術とは</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>日本の仏教美術 3</td> <td>奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>日本の仏教美術 4</td> <td>奈良時代後期 唐招提寺・大安寺</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>日本の仏教美術 5</td> <td>平安時代前期 最澄・空海と密教の美術</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>日本の仏教美術 6</td> <td>平安時代後期 仏像の和様化と定朝</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>日本の仏教美術 7</td> <td>鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>日本の仏教美術 8</td> <td>鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>日本の仏教美術 9</td> <td>鎌倉時代前期 3 快慶と行快</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>日本の仏教美術 10</td> <td>鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術</td> </tr> </table>	第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）	第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像	第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像	第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要	第5回	仏像入門 2	仏像の種類	第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に	第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは	第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺	第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺	第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術	第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝	第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭	第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子	第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快	第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術
第1回	ガイダンス	授業の概要と自己紹介（京都国立博物館の概要をかねて）																																												
第2回	東洋の仏教美術 1	アジアの国々とインド・東南アジアの仏像																																												
第3回	東洋の仏教美術 2	中国・朝鮮半島の仏像																																												
第4回	仏像入門 1	仏像の素材・年代の概要																																												
第5回	仏像入門 2	仏像の種類																																												
第6回	日本の仏教美術 1	飛鳥時代前期 法隆寺を中心に																																												
第7回	日本の仏教美術 2	飛鳥時代後期 白鳳美術とは																																												
第8回	日本の仏教美術 3	奈良時代前期 薬師寺・興福寺・東大寺																																												
第9回	日本の仏教美術 4	奈良時代後期 唐招提寺・大安寺																																												
第10回	日本の仏教美術 5	平安時代前期 最澄・空海と密教の美術																																												
第11回	日本の仏教美術 6	平安時代後期 仏像の和様化と定朝																																												
第12回	日本の仏教美術 7	鎌倉時代前期 1 奈良仏師の台頭																																												
第13回	日本の仏教美術 8	鎌倉時代前期 2 運慶と6人の息子																																												
第14回	日本の仏教美術 9	鎌倉時代前期 3 快慶と行快																																												
第15回	日本の仏教美術 10	鎌倉時代後期～室町次代 禅宗の美術																																												
成績評価	受講態度75% 授業中の提出物10% 期末レポート15%																																													
教科書	特に用意しないが、適宜資料をクラスルームを通じて配布する																																													
参考書 参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集 東洋編』等の美術書 美術出版『東洋美術史』『日本美術史』『日本仏像史』																																													
履修上の注意	授業ではスライドを写して講義するので、かならず前の方の席に座ること ノートにメモを取りながら受講すること																																													
予習・復習指導	適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の仏像作品をしっかりとみておくこと 授業の事前に配布する資料を必ず読んで確認すること 一講義（1コマ）に対して1時間の予習と1時間の復習をすること																																													
課題に対するフィードバックの方法	授業中に提出した課題は、コメントを付して翌週に返却する 期末レポートはクラスルームの「質問」で課題を出すので、その回答にはコメントを付して返却する																																													
教員の実務経験	京都国立博物館・東京国立博物館に、彫刻担当学芸員として3年間勤務した																																													
教員の実務経験有無	有																																													
科目ナンバリング																																														

<建築学部> 専門教育科目 K6. 美術工芸科目—基幹科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	構法計画Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	芸術学部：美術工芸科目 展開科目、 建築学部：美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸高 太郎	KYOBI 建築学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する
授業概要	空間の構成を考え、建築物として実現させるためには、建築の構造である「架構」が必要です。建築物の架構は重力や、地震、風等の自然の力に対して建築の空間を支持するための仕組みです。架構についての理解は、建築物を設計し、建築し、維持していくうえでとても重要であるといえます。建築物の架構には、主体構造の材料により木構造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造などがあり、さらにそれぞれ架構の構成方法により沢山の架構形式に分かれます。 本科目では、集合住宅で多用される鉄筋コンクリート造と商業建築の架構として一般的な鉄骨造について、その構成及び基本原理について学びます。さらに架構について理解するために鉄筋コンクリート造、鉄骨造の材料であるコンクリート、鋼材等についても学びます。また、架構以外の建築の構成要素として階段、建具、床・壁・天井等の造作や仕上げについて学びます。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回 鉄筋コンクリート構造 (1) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 2 回 鉄筋コンクリート構造 (2) 鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第 3 回 鉄筋コンクリート構造 (3) 鋼材及びコンクリートの特徴 第 4 回 鉄筋コンクリート構造 (4) 配筋原理 第 5 回 鉄筋コンクリート構造 (5) 部材の設計 第 6 回 鉄筋コンクリート構造 (6) 部材の設計 第 7 回 鉄筋コンクリート構造 (7) 陸屋根の防水 第 8 回 鉄筋コンクリート構造 (8) 仕上げ等 第 9 回 鋼構造 (1) 鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 10 回 鋼構造 (2) ボルト接合部の設計 第 11 回 鋼構造 (3) 溶接接合部の設計 第 12 回 鋼構造 (4) 床スラブ・壁 第 13 回 壁式構造 補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 14 回 各部構法 開口部、階段 第 15 回 造作と納まり 和室の造作 ※学習の理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果 (40%) 授業レポートの提出状況・内容 (60%)
教科書	『建築構法』第五版 内田祥哉著 市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑 RC造・鉄骨造』 大野隆司著 エクスナレッジ
参考書 参考資料	必要に応じて資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	1 講義 (1 コマ) に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間 (テキストの次回講義部分を読む) 復習：4.0時間 (授業ノートの整理等)

関連科目	「建築材料」 「建築生産論」 「構法計画Ⅰ」 「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	デザイン作図演習 (B75)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
非常勤講師	藤巻 佐有梨	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。</p> <p>この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 透視図法の基礎的原理を学習し、3次元の空間を2次元の平面上に表現する手法を理解する。 線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観に加え、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 都市や建築や室内、エレメントまでを対象として、様々な表現への理解と手法について演習を行う。 建築物を対象とし、プロポーシオン、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 手描きによるスケッチを素材としてデータ加工する手法の演習を行い活用できるようにする。 これまでの作品のポートフォリオや名刺を制作し実際の就職活動にも利用できるスキルを習得する。
授業計画 授業内容	<p>全15回／1回2コマ</p> <p>第1回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第2回：透視図法の基礎（1）：一点透視図法、スケッチ演習 第3回：透視図法の基礎（2）：二点透視図法、スケッチ演習 第4回：表現手法演習（1）：線による描写演習、外観スケッチ 第5回：表現手法演習（2）：線による描写演習、外観スケッチ、ディテール 第6回：表現手法演習（3）：線による描写演習、インテリア透視図基礎1 第7回：表現手法演習（4）：線による描写演習、インテリア透視図基礎2、外観スケッチ 第8回：空間表現演習（1）：ディテールスケッチ 様々な表現 第9回：空間表現演習（2）：外観スケッチ 町家外観・内観 第10回：空間表現演習（3）：町並みスケッチ 第11回：複合表現演習：都市景観、世界遺産 第12回：プレゼンテーション（1）：ためになる画像データ表現1 第13回：プレゼンテーション（2）：ためになる画像データ表現2 第14回：プレゼンテーション（3）：ポートフォリオ作成 第15回：プレゼンテーション（4）：ポートフォリオ発表、名刺デザイン 総括</p>
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 川北英 初学者の建築講座『建築家が使うスケッチ手法』—自己表現・実現のためのスケッチ戦略— 市ヶ谷出版 フランシスD.K. チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書 参考資料	授業開始時に掲示または配付される資料（クラスルームまたは紙）を参考にする。

履修上の注意	鉛筆（2B）、消しゴム、練消し、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。 PCを持参（クラスルームに課題掲示）すること。
予習・復習指導	1回の演習（1コマ）に対して2時間の予習復習をすること。 任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。 教科書『建築ドローイングの技法』の第1～3章を読んでおくこと。また、『建築家が使うスケッチ手法』Chapter 1～2を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。
関連科目	建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ・ⅡA・ⅡB、建築デザイン演習Ⅲ、卒業制作
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとにその日書いたスケッチ・作図（学生・教員）を見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務及び設計教育の経験豊富かつドローイング能力を有する教員による演習指導を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA206S

シラバス参照

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

到達目標	デザインに関する著作権をはじめとした知的財産法その他の関係法令の概要及び契約をはじめとする法律関係の概要を理解し、自らのデザインを適切に保護する方法、デザインに関する仕事に携わる中で想定される法的トラブルを予防、適切に対応できる方法を学習する。 この科目は、DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP2-2に該当する。
授業概要	デザインを作成するにあたり関係する基本的な法律を解説する。具体的には、著作権法、意匠法、商標法、不正競争防止法、特許法、実用新案法などのデザインに関する知的財産法や、その周辺法律として、民法、個人情報保護法などを解説する。 また、デザインに関する仕事に携わるなかで、自らのデザインに関する権利を適切に守ることやトラブルを予防し、万が一トラブルに巻き込まれてしまった場合に適切に対応する方法を学ぶため、契約の読み方などの契約に関する基本的な事項、トラブルが生じた場合の対応方法などを解説する。
授業計画 授業内容	<p>第1回 オリエンテーション：本講義及び本講義で取り扱う事項の概要</p> <p>第2回 著作権法1 基礎編：著作権法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第3回 著作権法2 応用編：著作権法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第4回 意匠法1 基礎編：意匠法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第5回 意匠法2 応用編：意匠法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第6回 商標法1 基礎編：商標法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第7回 商標法2 応用編：商標法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第8回 特許法・実用新案法1 基礎編：特許法・実用新案法の概要、成立要件、保護対象</p> <p>第9回 特許法・実用新案法2 応用編：特許法実用新案法に関するトラブル事例の検討</p> <p>第10回 不正競争防止法 不競法の概要、成立要件、保護対象、トラブル事例の検討</p> <p>第11回 その他周辺の法律：民法、個人情報保護法など 民法、個人情報保護法の概要</p> <p>第12回 法的トラブルの概要及びその対応方法</p> <p>第13回 契約1 基礎編：契約の概要、読み方、成立要件</p> <p>第14回 契約2 応用編：具体的な契約の検討</p> <p>第15回 まとめ 講義の総復習</p>
成績評価	レポート（4回程度）：40%、受講態度：60%により評価を行う。 レポートの内容は講義中及び配布資料において説明する。
教科書	なし。
参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインと知的財産法実務（民事法研究会） ・クリエイター六法（翔泳社） その他講義中に紹介する
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：配布資料を講義前に確認し概要を把握すること。 ・復習：1コマにつき、4時間の復習を行うこと ・自らがデザインを作成する場合にどのように関係してくるか考えること。
関連科目	生活と法律
課題に対するフィードバックの方法	レポートや質問に対するフィードバックを講義中に行う。
教員の実務経験	国立大学法務部門及び法律事務所において約11年知的財産に関する契約審査、契約交渉などの法律業務に従事している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	文献・絵画史料概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOBI 芸術学部

到達目標	私たちは遠い過去を実体験することはできません。それはもう「ない」からです。しかし史料が残っていれば、歴史像をい組み立てることはできます。この授業では史料をあつかう技法を学びます。この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	史料とは歴史資料の略語です。つまり過去の歴史像を組み立てるために、私たち歴史家が使う「昔の人」の残したものの全てです。古文書・古記録・典籍など文字史料が代表的なものになりますが、一方で絵画も重要な史料になります。絵画を窓に見立ててみましょう。その窓には複雑なブラインドが下りています。だから向こうは見えません。一つの絵画を読み解くのも同じです。どう読み解いたら向こうに何が見えるのか。そこにどんな歴史の風景が広がっているのか。この授業では絵画を史料に、読みの模索を行ってみます。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 「昔の人」と五感を共有する 2 護符の絵像 姫魚とアマビエ 3 絵巻物①『春日権現験記絵』 4 絵巻物②『百鬼夜行図』 5 絵巻物③『道成寺縁起絵巻』 6 絵巻物④『粉河寺縁起絵巻』 7 絵巻物⑤『絵師草紙』 8 肖像画①神護寺蔵「伝源頼朝像」 9 肖像画②清浄光寺蔵「後醍醐天皇像」 10 地獄絵 熊野観心十界図の絵解き 11 垂迹画 北野曼荼羅図 12 参詣曼荼羅図①「清水寺参詣曼荼羅図」 13 参詣曼荼羅図②善光寺参詣曼荼羅図 14 絵馬 扁額絵馬の世界 15 絵馬を史料としてどのように読むか
成績評価	授業ごとのコメントシート (30%) レポート (70%)
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	西山克『熊野観心十界図という誘惑』（岩波書店）
履修上の注意	絵画を史料として読み込むには、読みの作業を繰り返す必要があります。
予習・復習指導	1コマに対し、2時間の予習および2時間の復習をすること。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームにアップするので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	授業ごとのコメントシートについて、可能なかぎり、感想や指摘をまとめて授業内あるいはクラスルームで報告します。
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築CAD演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOB I 建築学部
教授	井上 晋一	KYOB I 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOB I 建築学部
講師	中西 大輔	KYOB I 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時にCAD演習を受講していない学生にも積極的な受講を求め、初心者向け2D、3D、BIMなどの理解を深めることを目標とする。 ・2次元CADの意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCAD、adobe photoshop、Illustratorの操作法を習得する。 ・BIM (Building Information Modeling) の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの操作法を習得する。 ・建築設計作品のプレゼンテーションにおけるCGと動画の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの操作法を習得する。その他のソフトも参照する。 <p>この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD (Computer Aided Design) は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、特に本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM (Building Information Modeling) の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェアの基礎的および応用的な操作法を習得する。尚、初回の数回は1年時のソフト習得状況に合わせて分かれて作業を行い、その後合流する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回、週1回・2コマ</p> <p>第1回 ガイダンス、AutoCAD① (基本) 第2回 AutoCAD② (基本と応用) 第3回 AutoCAD③ (応用) 第4回 Archicad① (基本：サンプルのモデリング) 第5回 Archicad② (同上) 第6回 Archicad③ (同上) 第7回 Archicad④ (応用：自身の設計作品のモデリング) 第8回 Archicad⑤ (同上) 第9回 Archicad⑥ (同上) 第10回 Twinmotion① (インストールとBIMモデルのインポート) 第11回 Twinmotion② (レンダリング応用) 第12回 Twinmotion③ (同上) 第13回 Twinmotion④ (動画制作) 第14回 Twinmotion⑤ (同上) 第15回 Twinmotion⑥ (成果品のプレゼンテーション、講評)</p> <p>※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>下記に基づき総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 (45%、演習の円滑な進行への貢献を含む) ・課題に対する成果品 (55%、全課題に対する成果品の提出を必須とする)

参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・「CADの基礎と演習 -AutoCAD2011を用いた2次元基本製図-」赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	<p>VDT (Visual Display Terminals=PCなどの情報端末) 作業が中心となるため、作業環境維持(各種IDとパスワードの管理など)、作業データ管理(こまめなバックアップなど)、健康管理(特に眼精疲労)に注意を払うこと。</p> <p>演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p> <p>課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。</p>
予習・復習指導	<p>コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまづきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。</p> <p>演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。</p>
関連科目	「情報基礎演習」「建築CAD演習Ⅰ」。
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。</p> <p>演習中に随時フィードバックを行う。</p> <p>授業時間外でも、担当教員は質疑応答を行う。</p>
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かしPCを用いた設計手法の演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA218S

シラバス参照

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOBI 建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。 この科目は、DP2-1～3 に該当する。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。現代では住宅の外の「施設」で行われる出産・育児・食事・教育・労働・婚礼・葬祭といった多くの行為が、かつては住居の中で行われてきた。住居は建築計画の原点でもあり、住居に再び注目することで、建築計画に関して総合的・横断的な視点を取り戻すことができるのではないかと考える。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画を考えるとともに、それを実現するための設計に関する基本的な知識を学ぶ。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回 ライフスタイルと社会の変化について 第3回 住空間の計画プロセス1 第4回 住空間の計画プロセス2 第5回 住宅の単位空間 第6回 住空間の機能と組織 第7回 住環境としつらえ 第8回 住居計画（屋根と階段、開口部と水回り） 第9回 住居計画（外構・植栽、住宅の構成） 第10回 住居計画（住戸の定型とバリエーション） 第11回 集合住宅の系譜 第12回 集合住宅の種類と規模 第13回 現代における集合住宅 第14回 優秀レポート発表 第15回 総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（30%）及び期末試験（40%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」 佐々木誠著他 彰国社
参考書 参考資料	「住宅の計画学入門」 岡田光正著他 鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている事例の建築物について調べておくこと。 1コマに対し4時間の事前学習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築設計基礎演習II」「建築設計演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。

教員の実務経験	担当教員は住宅設計及び集合住宅設計において実務経験を有しており、住空間に関するより実務的な内容について講義を行うことができる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-MA219L

シラバス参照

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 根来 宏典	KYOBI 建築学部

到達目標	建築物の設計に必要なとなる材料選定の基本を理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	古来、素材を活かした建築手法が伝統的に継承されてきた。それら技術の発達によって新しい建築表現へと繋がっている。建築は言うまでもなく素材や材料を組み合わせられてつくられる。設計図を描くうえで、材料のことを知らずして、リアリティのある設計は行えない。デザイン、構造、施工、環境といった建築のすべての分野と強く関連しているのが建築材料である。材料の歴史、特徴、性質、種類、使い方への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学んでいく。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。
授業計画 授業内容	第1回 建築材料概論 第2回 木材についての講義① 第3回 木材についての講義② 第4回 木質材料についての講義 第5回 植物材料についての講義 第6回 金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第7回 非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第8回 コンクリートについての講義 第9回 セメント・コンクリートについての講義 第10回 石についての講義 第11回 土・漆喰・石膏についての講義 第12回 焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第13回 ガラス、プラスチックについての講義 第14回 レポート発表会 その1 第15回 レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料 新テキスト」彰国社
参考書 参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験	建築家としてアトリエ系設計事務所を構えて21年の教員が担当する。素材の探求を通じて、職人文化と現代の暮らしを紡ぐ建築のあり方を追求しており、その実務経験を活かしたリアリティのある教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

シラバス参照

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 余谷 和則	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	山木 辰哉	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	寺本 健三	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	藤井 茂	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。</p> <p>この科目は、DP1-1、DP1-2、及びDP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>建築の実務に携わっていくには、建築基準法をはじめとした様々な法的規制（ルール）を知ることが必要である。</p> <p>本講義では、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する基準を定めた建築基準法を中心に、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項やその背景について説明する。</p> <p>個々の建築物を地震や火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点から定めた規制、都市計画的な建築物の秩序という観点から定めた規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。</p> <p>法体系を知り、法律独特の表現方法の読み方に慣れてもらうため、適宜法令集を手にしなが、講義を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、法律の歴史及び概要、用語の定義</p> <p>第2回 建築基準法 : 制度規制（手続き等）</p> <p>第3回 建築基準法 : 単体規定①（採光、換気、シックハウス）</p> <p>第4回 建築基準法 : 単体規定②（天井の高さ、階段の寸法、建築設備）</p> <p>第5回 建築基準法 : 単体規定③（防火規定1）</p> <p>第6回 建築基準法 : 単体規定④（防火規定2）</p> <p>第7回 建築基準法 : 単体規定⑤（避難規定1）</p> <p>第8回 建築基準法 : 単体規定⑥（避難規定2）</p> <p>第9回 建築基準法 : 集団規定①（敷地と道路、用途制限）</p> <p>第10回 建築基準法 : 集団規定②（面積制限）</p> <p>第11回 建築基準法 : 集団規定③（高さ制限）</p> <p>第12回 建築基準法 : 単体規定⑦（構造強度）</p> <p>第13回 建築基準関係規定等</p> <p>第14回 景観条例等</p> <p>第15回 演習</p>
成績評価	受講態度（45%）及び期末試験（55%）により総合的に評価する。
教科書	<p>①井上建築関係法令集（井上書院）</p> <p>②図説 やさしい建築法規（学芸出版社）</p>
参考書 参考資料	講義で適宜配布する。
履修上の注意	建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。

予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4時間の復習をすること。 学んだ内容を必ず法令集で確認し法律独特の表現方法に慣れ、法令集で内容が理解できる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	建築に関する科目全般
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所 株式会社 京都確認検査機構
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講・演
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 竹脇 出	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	力学理論の基盤を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	建築構造力学Ⅰで習得した自由体の考え方を利用して、静定トラスに生じる部材力の算出方法（節点法、切断法）について学ぶ。次に、単純梁や片持梁などの曲げ部材について、断面1次モーメントや断面2次モーメントの算出法について学び、断面に生じる垂直応力（応力度）およびせん断応力（応力度）の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、梁のたわみの計算（モールの定理）、柱の座屈荷重の計算など、構造設計における必要知識を習得する。授業の特色として、微積分の考え方をいなくても、力の釣合いのみから梁のたわみやたわみ角を求める方法を習得する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 トラス構造物の部材に生じる力/トラス構造物の部材力の計算(1)〈節点法1〉 第2回 トラス構造物の部材力の計算(2)〈節点法2〉 第3回 トラス構造物の部材力の計算(3)〈切断法1〉 第4回 トラス構造物の部材力の計算(4)〈切断法2〉 第5回 断面諸量(1) 断面1次モーメントと図心 第6回 断面諸量(2) 断面2次モーメントと応力(応力度) 第7回 断面力と応力/応力の計算(1) 第8回 応力の計算(2) 第9回 応力の計算(3) 第10回 応力の計算(4) 第11回 梁のたわみの計算(1) 第12回 梁のたわみの計算(2) 第13回 梁のたわみの計算(3) 第14回 梁のたわみの計算(4) 第15回 座屈現象と座屈荷重 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出(60%)、定期試験(40%)に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」、「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	COM-MA213L

シラバス参照

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本 頼幸	KYOB I 芸術学部

到達目標	建築物の快適性、エネルギー効率、環境負荷の低減を考慮した設計・運用技術を習得し、実務に役立つ知識を身につけることをめざす。建物の空調、照明、音響、換気、温熱環境など、環境要素の調整方法を理解し、建築物が住む人々にとって快適で効率的な空間を提供できる能力を養う。また、建物の省エネルギー設計や再生可能エネルギー活用、環境負荷低減に関する最新技術を学び、持続可能な社会の実現に向けた技術的解決策を提案できる力を育む。さらに、建築環境に関連する法規制や標準、倫理的な問題についても理解を深め、現場での実践力を高めることを目指す。受講生が環境に配慮した建築技術を駆使し、社会的・経済的に優れた建築環境を提供できる能力を身につけることを目的とする。
授業概要	本科目はDP0-1、DP2-1に該当する。 建築空間における快適性と環境負荷低減の両立を目指し、建築環境工学の基礎理論と応用を学びます。人間が快適に過ごせる室内環境を実現するための温熱環境、光環境、音環境、空気環境について、物理的・工学的観点から理解を深めます。 主な内容として、以下のテーマを扱います。 温熱環境：熱移動の基礎、断熱・日射遮蔽技術、空調の基礎 空気環境：換気計画、空気質の評価と制御 光環境：自然採光と人工照明、視環境の評価手法 音環境：建築音響の基礎、防音・吸音設計 また、省エネルギー技術や再生可能エネルギーの活用、環境負荷低減の手法についても学びます。
授業計画 授業内容	建築内外の快適な環境条件について理解し、計画設計に応用する能力を養うため、熱、空気、日照、音環境などについて毎回具体的な問題演習をしながら習得する。 全15回 1. 建築環境工学とは 2. 熱環境1—伝熱、熱貫流 3. 熱環境2—壁体各部の温度、断熱 4. 熱環境3—空気線図、結露、温熱感 5. 空気環境1—空気汚染物質、換気 6. 空気環境2—通風、換気的方式 7. 日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 8. 日照と日射2—日射の種類、日照調整 9. 採光、照明と色彩1—視環境、採光の方法、昼光率 10. 採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 11. 採光、照明と色彩3—色彩、色の3属性、色彩調節 12. 音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 13. 音環境2—騒音防止 14. 音環境3—遮音と吸音、室内音響 15. まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書 参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。 一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。

関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築設計事務所(意匠系)21年経営、建築設計事務所(設備系)6年経営
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	世界建築史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	建築科目 美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 白鳥 洋子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>西洋、エジプト、イスラム、東洋の主要な歴史的建築について概要を把握し、基礎的な知識を身につける。時代や地域による建築の固有性と時代を超えた普遍性を理解し、変遷を掴み、建築について論じる力を養う。</p> <p>本科目は、DP0-1、DP1-1、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。</p>
授業概要	<p>西洋ではエジプト、ギリシア、ローマの古代の建築をはじめとし、中世ではロマネスク、ゴシック、さらにルネサンス、バロック、19世紀の建築と各時代の主要な建築について概説を行う。さらに、東洋では、イスラム、インド、アジアの主要な歴史的建築を概観し、大きな建築の潮流を捉えて行く。世界の観点から各時代の歴史的建築について基礎的な認識を深め、同時に主要な建築の特徴や価値を理解する。時代や社会の背景と建築の関連性を捉えることや、意匠と建造の関連性を理解することも必要である。これらを通じて、時代や地域、文化によって異なる建築の固有性と、時代を超えて表出する建築の普遍性を捉えて行きたい。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回：ガイダンス エジプト・メソポタミアの建築 第2回：ギリシア建築 第3回：ギリシア建築・ローマ建築 第4回：ローマ建築 第5回：初期キリスト教建築 ビザンチン建築 第6回：イスラム建築 プレ・ロマネスク 第7回：ロマネスク建築 第8回：ゴシック建築 第9回：ルネサンス建築1 第10回：ルネサンス建築2 第11回：バロック建築 第12回：新古典主義、革命期の建築 第13回：19世紀の建築 第14回：西アジア、南アジアの建築 第15回：東アジア、東南アジアの建築 * 授業の進行状況により、日程の調整を行うことがある。</p>
成績評価	評価ポイント：期末試験（50%）、提出物（50%）
教科書	『西洋建築史図集』、三訂版、日本建築学会編、彰国社。
参考書 参考資料	『東洋建築史図集』、第1版、日本建築学会編、彰国社。桐敷真次郎、『西洋建築史』、共立出版、2001、2003。西田雅嗣、『西洋建築の歴史』、学芸出版社、2022。その他は、適宜、講義中に提示する。
履修上の注意	西洋においても東洋においても優れた建築には新鮮な創造性、変遷や成熟、世界観があり、それらは現代の建築に置き換えて考えることができる。先人たちの遺産に学び、自身の制作や研究を深める契機にしてほしい。
予習・復習指導	<p>講義（1コマ）に対して2時間の事前学習、2.5時間の復習を行うこと。</p> <p>事前学習：次回講義の該当箇所について教科書、参考書を読み、概要を把握しておくこと。</p> <p>復習：講義を振り返り、教科書、参考書を参照しながら、ノートを整理すること。</p>

関連科目	近代建築史、日本建築史、現代の建築、芸術、哲学に関する科目。
課題に対するフィードバックの方法	授業内に提出物を提示し、適宜、コメントする。 期末試験終了後にクラスルームにて解説を行う。
教員の実務経験	フランスの大学の学位を持ち、長年に亘りヨーロッパで研究活動を行っている。フランスの二つの大学の学位と同分野の博士の学位、フランス政府公認建築家資格と日本の一級建築士の資格を持ち、海外での研究経験を持つ教員による実践的で専門的な歴史意匠の教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA220L

講義名	都市空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川 正道	KYOB I 芸術学部

到達目標	都市空間のほとんどが日本固有の風土や文化、テクノロジーや社会体制等の影響下に形成されていることを理解する。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	日本における都市空間の生成において、特に集住のライフスタイル、争い、災害、自然環境との関係による空間形成の構造や形態、交通手段、新しいライフスタイル等の影響等、多岐にわたる都市形成の要因を理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス（都市空間の意義、役割） 第2回 都市空間概念の誕生 第3回 都市空間の生成その1（地形） 第4回 都市空間の生成その2（縄文集落） 第5回 都市空間の生成その3（まちの発生） 第6回 都市空間の防御（争い） 第7回 都市空間の防御（社会形成） 第8回 都市空間の防御（水害） 第9回 都市空間の防御（地震） 第10回 ネットワークと都市空間（道路/鉄道） 第11回 ネットワークと都市空間（交通） 第12回 自然環境と都市の関係（農地、里山、自然地） 第13回 自然環境と都市の関係（公園） 第14回 自然環境と都市の関係（庭園） 第15回 総括/レポート
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書 参考資料	『風土』和辻哲郎 『作庭記』 田村剛 『日本建築史図録』
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	「建築概論」「社寺建築論」「景観デザイン論」など
関連科目	「日本住居史」「社寺建築論」など
課題に対するフィードバックの方法	最終レポートのフィードバックによる。
教員の実務経験	デザイン設計事務所勤務歴20年、個人デザイン事務所主宰10年 の実績をもとに、集落から都市までの空間形成の変遷、空間認識と空間設計の関係等について講義を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA321L

シラバス参照

講義名	景観デザイン論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOBUI 建築学部

到達目標	<p>私たちの暮す住環境は、人(社会環境)と物(人工環境)と自然(自然環境)の三者が関係して調和する、歴史的に形成した総体としての空間である。建築を人々の生活や活動を支える空間の側から考える時、人・物・自然、個々の課題や技術とは違った、その要因や意味合いが意識されてくる。それは単に物の持つ物理的な強度の他に、人の経験や心に受ける強度としてそのあるべき姿・形が問われる側面である。そうした空間の有り様を念頭に据えて景観デザインの持つ創作的な視界について思考を深めることを到達目標とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>建築空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知ると共に、古代から現代まで地域・都市の形成過程に着目しながら歴史を振り返り、時代と社会が求めてきた環境はどのようなものを解説する。特に、人(社会環境)の作る物(人工環境)が自然(自然環境)に影響を受けた状態に地域・都市の特徴すなわち景観は現れるのではないかと、という仮説に基づいて講義は展開する。そして、地域再生や歴史的景観を活かした街づくり等の事例を紹介する。講義はスライドを使用し行い、グーグルクラスルームも利用して配布資料や各種案内など受講生とのやり取りを行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 町家 第3回 民家 第4回 民家 第5回 格子 第6回 格子 第7回 庭園 第8回 庭園 第9回 起源 第10回 住居 第11回 環境 第12回 内外 第13回 田園 第14回 東西 第15回 南北</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	評価ポイント：授業態度（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	資料配布。
参考書 参考資料	「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善㈱ この他に授業で紹介。

履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	講義をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成する。その中で特に興味を持った事柄について深く調べることを心掛ける。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、コメント等を記載して返却。
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かし景観デザインについて論じる。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA323L

シラバス参照

講義名	伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	伝統構造とは、日本で古来から受け継がれてきた社寺や古民家などの建築構造を主に示す。しかし、近年では海外から伝わった煉瓦造や鉄筋コンクリート構造、鉄骨造なども歴史的建造物として文化財となるものが増加してきた。 本講義では、伝統的な木造建築を中心に、その他の建築種別についても、基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を全般的に理解する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 歴史的建造物の地震被害 第2回 耐震対策の歴史 第3回 伝統工法と在来工法 第4回 基礎の工法 第5回 伝統木造の工法(1) 床組 第6回 伝統木造の工法(2) 軸組 第7回 伝統木造の工法(3) 小屋組 第8回 伝統木造の工法(4) 軒廻り、妻飾り 第9回 伝統木造の工法(5) 雑作 第10回 屋根の工法 第11回 壁の工法 第12回 木造以外の歴史的建造物 第13回 伝統工法の耐震技術 第14回 伝統工法の構造設計 第15回 在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	教材をクラスルームにアップする。
参考書 参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	構法計画Ⅰ・Ⅱ、日本住居史、日本建築史
課題に対するフィードバックの方法	毎回のレポートに対し次回の講義で講評を行う。

教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理 歴史的建造物の修復に携わった経験が豊富であることから、現地調査を踏まえて伝統建築の構法・技法に精通している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA322L

講義名	コンピュータデザイン演習（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOBI 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe PhotoshopおよびIllustratorの基礎的な操作法を習得する。 ・2次元CAD (Computer Aided Design) の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。 ・この科目はDP2-1、2、4に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を題材に、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe Photoshop、Illustratorを使用した図形描画や画像処理の基礎を習得する。 ・次に、建築系の実務で広く活用されているCAD (Computer Aided Design) のうち、2次元CADの意義を理解しながら、Autodesk AutoCADを使用して2次元CADの基礎的な操作法と活用法を習得する。 ・最後に、これらのソフトウェアを駆使して、建築設計図面や写真、パースなどを用いた総合的なプレゼンテーション技術の向上を目指す。
授業計画 授業内容	<p>全15回、週1回・2コマ</p> <p>第1回 ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第2回 Illustrator①（基本操作、デザイン作品のトレース）【デザイン課題】 第3回 Illustrator②（レイアウトの基礎、デザインコンセプト） 第4回 Illustrator③（ロゴマークのデザイン） 第5回 Illustrator④（課題2の成果品の講評） 第6回 Photoshop①（基本操作、写真の加工・合成） 第7回 Photoshop②（デザイン課題のプレゼンテーション・講評） 第8回 AutoCAD①（基本図形の描画） 第9回 AutoCAD②（建築図面の描画） 第10回 AutoCAD③（モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷） 第11回 AutoCAD④（異尺度図面の印刷） 第12回 総合課題① 【総合演習課題】 第13回 総合課題② 第14回 総合課題③ 第15回 総合課題④（総合演習課題の講評）</p> <p>※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合があります。</p>
成績評価	<p>以下を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況（30% 受講姿勢を含む） ・課題成果（70% 全課題の成果品の提出を必須とする）
教科書	<p>【指定教科書】（履修者は必ず購入すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書 [改訂新版]」阿部信行著、技術評論社、2024 ・その他、適宜オンライン資料または印刷資料を配付する。

参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」稲葉幸行著、技術評論社、2019 ・「Autodesk AutoCAD 2025公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP、2024
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・初学者は覚えるべきことが多いため、必ずノートやメモ帳を持参してメモ取る。 ・演習授業はWindows版のソフトウェア(illustrator、Photoshop、AutoCAD)を用いて進める。 ・Mac版のソフトウェア(特にMac版のAutoCAD)のインストールや使用方法についてのサポートは行わない。 ・演習での配布物や各自で収集した参考資料等は整理・ファイリングして毎回持参する。 ・課題に対する成果物の提出期限を厳守する。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得する。 ・演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行う。 ・各週の授業について、4時間の予習・復習が必要である。
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・1年前期の「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を2年前期の「IT活用応用演習」の履修条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	ICT技術を活用した建築設計、インテリアデザイン、都市デザイン等に関して10年以上に渡る実務経験を有する教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ART-MA101S

シラバス参照

講義名	I T活用応用演習 (Bカス)		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内 貴博	KYOBI 建築学部
教授	井上 晋一	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時にCAD演習を受講していない学生にも積極的な受講を求め、初心者向け2D、3D、BIMなどの理解を深めることを目標とする。 ・2次元CADの意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCAD、adobe photoshop、Illustratorの操作法を習得する。 ・BIM (Building Information Modeling) の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの操作法を習得する。 ・建築設計作品のプレゼンテーションにおけるCGと動画の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの操作法を習得する。その他のソフトも参照する。 <p>この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD (Computer Aided Design) は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、特に本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM (Building Information Modeling) の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェアの基礎的および応用的な操作法を習得する。尚、初回の数回は1年時のソフト習得状況に合わせて分かれて作業を行い、その後合流する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回、週1回・2コマ</p> <p>第1回 ガイダンス、AutoCAD① (基本) 第2回 AutoCAD② (基本と応用) 第3回 AutoCAD③ (応用) 第4回 Archicad① (基本：サンプルのモデリング) 第5回 Archicad② (同上) 第6回 Archicad③ (同上) 第7回 Archicad④ (応用：自身の設計作品のモデリング) 第8回 Archicad⑤ (同上) 第9回 Archicad⑥ (同上) 第10回 Twinmotion① (インストールとBIMモデルのインポート) 第11回 Twinmotion② (レンダリング応用) 第12回 Twinmotion③ (同上) 第13回 Twinmotion④ (動画制作) 第14回 Twinmotion⑤ (同上) 第15回 Twinmotion⑥ (成果品のプレゼンテーション、講評)</p> <p>※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>下記に基づき総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況 (45%、演習の円滑な進行への貢献を含む) ・課題に対する成果品 (55%、全課題に対する成果品の提出を必須とする)

参考書 参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員作成資料 ・ 「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 [AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版]」 稲葉幸行著、技術評論社 ・ 「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」 井上竜夫著、日経BP ・ 「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ ・ 「CADの基礎と演習 -AutoCAD2011を用いた2次元基本製図-」 赤木徹也他著、共立出版
履修上の注意	<p>VDT (Visual Display Terminals=PCなどの情報端末) 作業が中心となるため、作業環境維持 (各種IDとパスワードの管理など)、作業データ管理 (こまめなバックアップなど)、健康管理 (特に眼精疲労) に注意を払うこと。</p> <p>演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p> <p>課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。</p>
予習・復習指導	<p>コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。</p> <p>演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。</p>
関連科目	「情報基礎演習」「建築CAD演習 I」。
課題に対するフィードバックの方法	<p>課題ごとに全体講評・質疑応答等を行う。</p> <p>演習中に随時フィードバックを行う。</p> <p>授業時間外でも、担当教員は質疑応答を行う。</p>
教員の実務経験	建築と都市、ランドスケープデザインの実務経験を活かしPCを用いた設計手法の演習を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-MA218S

<建築学部> 専門教育科目 K7. 美術工芸科目一展開科目

京都美術工芸大学シラバス [202 年度版]

シラバス参照

講義名	近代デザイン史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	近代日本における美術、工芸とデザインの動向を学び、現代に続くものとして考え、研究・制作に活用できるようになること。 この科目は、DP1-1、DP1-3に該当する。
授業概要	本講義は、おもに近代における日本国内のデザインに関する動向を対象とする。こんにちの日本におけるデザインを把握するうえで必要となる、近代になって成立した「デザイン」とそれに関連する「美術」「工芸」などの概念の成立と展開について解説する。また、明治以降に開催された国内外のおもな博覧会および展覧会、美術・図案・デザインに関する団体、教育機関、作品や作家・デザイナーなどの具体的な事例を紹介する。それらを踏まえたうえで相互関係を整理し、現代まで続く美術、工芸とデザインについて理解する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 美術・工芸概念の成立① 第3回 美術・工芸概念の成立② 第4回 美術・工芸概念の成立③ 第5回 万博と海外のデザイン 第6回 「美術」「工芸」と教育 ① 第7回 「美術」「工芸」と教育 ② 第8回 「美術」「工芸」と教育③ 第9回 図案家と図案団体 第10回 図案集というメディア 第11回 官展と工芸 第12回 都市化と工芸・デザイン 第13回 商業美術と戦前のグラフィックデザイン 第14回 デザイン以降の工芸 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	・竹原あき子／森山明子 監修『カラー版 日本デザイン史』美術出版社、2003年 ・森仁史『シリーズ近代美術のゆくえ 日本（工芸）の近代 シリーズ近代美術のゆくえ』吉川弘文館、2009年 ・並木誠士 編集『京都近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年
履修上の注意	参考文献等で展覧会、作品、作家などの相互関係を理解しておくこと。
予習・復習指導	・1コマに対して、2時間の事前学習及び2時間の復習をすること。 ・講義内で配布する資料を読み、各回のトピックについて理解すること。前後の流れを把握しておくこと。
関連科目	デザイン概論
課題に対するフィードバックの方法	出席確認時の質問に対して次回以降、講義内もしくはクラスルームで回答する。

教員の実務経験	デザイン制作会社におけるデザイナーとしての経歴、京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）およびデザイン史研究の実績をもとに講義する。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、実例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。</p> <p>この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>美術館、劇場、学校といった各種建築物の計画において、踏まえておくべき建築計画上のポイントなどの一般的な理論と、各ビルディングタイプに関連する情報について講義を行う。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。</p> <p>各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 ガイダンス、概論</p> <p>第2回 文化施設:美術館・博物館・劇場(1)</p> <p>第3回 文化施設:美術館・博物館・劇場(2)</p> <p>第4回 文化施設:美術館・博物館・劇場(3)</p> <p>第5回 教育施設:小学校、中学校(1)</p> <p>第6回 教育施設:小学校、中学校(2)</p> <p>第7回 教育施設:幼稚園、保育園</p> <p>第8回 文化施設:図書館</p> <p>第9回 事例分析、レポート発表</p> <p>第10回 居住施設:集合住宅(1)</p> <p>第11回 居住施設:集合住宅(2)</p> <p>第12回 福祉施設:高齢者入居施設</p> <p>第13回 福祉施設:病院</p> <p>第14回 業務施設:オフィスビル</p> <p>第15回 公共空間:外部空間</p>
成績評価	<p>期末テスト(60%)と、途中で提出および発表を行うレポート及び学習状況(40%)により評価する。</p>
教科書	<p>川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社</p>
参考書 参考資料	<p>『第3版コンパクト建築設計資料集成』(丸善)</p>
履修上の注意	<p>建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。</p>
予習・復習指導	<p>一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。</p> <p>建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。</p>
関連科目	<p>「建築設計基礎演習Ⅱ」「建築設計演習I」「建築計画I、II」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。</p> <p>小テストの解答・解説を授業時間内に行う。</p>
教員の実務経験	<p>担当教員は10年以上の建築設計の実務経験を持ち、各種建築物の計画について実践的な観点も加えた解説を行う。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>

シラバス参照

講義名	都市計画		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOBI 建築学部

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に至る都市の変遷と都市計画の歴史を学ぶ。 ・快適な都市環境の計画方法と、ルールについて学ぶ。 ・都市をどのようにつくり、どのように使うかについて学ぶ。 ・この科目はDP2-1、2に該当する。
授業概要	<p>本科目は都市計画の初学者を対象に、都市とその計画に関する基本知識を学ぶための入門科目である。</p> <p>現代都市の生成過程および都市計画の歴史を辿るとともに、現代の都市計画や都市デザインの実践事例を通して、都市の仕組みや都市計画法の役割、条例等の目的について講義する。講義は指定教科書の内容に沿って進めるが、適宜最新事例の画像や映像を織り交ぜ、追加資料も配付して説明する。本科目を通じて、これまで、都市がいかに計画されてきたか、また、これから快適な都市をいかにして創り出すか、そのためにどのようなルールを用いるべきかについての知見を得るとともに、建築設計に活かせる都市的視点を獲得することが目標である。</p>
授業計画 授業内容	<p>講義は下記のスケジュールで進める予定である。</p> <p>週1コマ・15週（合計15回）</p> <p>第01回 ガイダンス、都市計画とまちづくり 第02回 都市史 第03回 都市計画マスタープラン 第04回 土地利用計画 第05回 建築物の規制と誘導 第06回 市街地再開発と都市再生 第07回 住環境計画 第08回 公園・緑地計画 第09回 都市の景観 第10回 都市の交通計画 第11回 公共空間とまちづくり 第12回 都市の防災計画 第13回 都市と農村 第14回 都市の持続可能性 第15回 都市論、総括</p> <p>※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>受講姿勢（出席状況、小テストなどを含め40%）、記述・論述式の期末試験の成績（60%）を総合して評価する。単に出席するだけでなく、講義内容の理解に基づく期末試験の成績が単位取得の重要な要件となる。</p>
教科書	<p>【指定教科書】（履修者は必ず購入すること）</p> <p>1) 澤木昌典・嘉名光市 編著、武田裕之 他著：「図説都市計画」学芸出版社，2022</p>
参考書 参考資料	<p>1) 饗庭伸・鈴木伸治 編著，阿部伸太 他著：「初めて学ぶ都市計画 第二版」市ヶ谷出版，2018 2) 前田英寿 他著：「アーバンデザイン講座」彰国社，2018 3) 都市計画教育研究会 編：「都市計画教科書第三版」彰国社，2001 4) その他、適宜資料を配布する。</p>

履修上の注意	各回の授業では毎回指定教科書の該当ページを参照するので、各自が必ず教科書を購入し、毎回持参する。
予習・復習指導	1回（1コマ）の講義について、4時間の予習・復習をする。予習復習時間には、まち歩きや都市開発事例の調査・視察などに要する時間も含む。
関連科目	建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、建築設計演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	適宜ミニレポート（小テスト等）を行い、授業内容の理解度を確認するとともに、次回以降の授業内でフィードバックを行う予定である。
教員の実務経験	都市計画行政および建築設計、環境保全計画、環境デザイン、まちづくり等に関する実務経験を有する教員が実務経験を活かし説明を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE205L

シラバス参照

講義名	建築生産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩岸 克浩	KYOBI 建築学部

到達目標	建築施工における各行程を設計と施工方法の両面から理解する。さらに建築物の企画段階から設計・施工へ至り、維持保全・解体までの一連の「建築生産」を概観することにより、理解を深めるものとする。この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・建築施工などに関わる職業を志望する学生を対象に、「建築生産」（企画・計画、設計、施工、保全、解体廃棄）を理解し、建物はどのように具現化するのかについて文字で示されイメージしにくい部分を極力ビジュアルで示し平易に解説することを旨とする。施工に至る前段階の企画・計画に始まり、契約から施工、引き渡し、運用、そして解体までの流れを踏まえつつ、特に施工については、準備、仮設工事から、本工事、竣工検査、引き渡しまで全体のプロセスを重視し各種の工法的特徴、前後工事との取り合い（関係）、注意すべき事象などに重点をおいた説明を行う。
授業計画 授業内容	全15回 × 90分 第01回 ガイダンス・建築生産とは①、小テスト 第02回 建築生産とは②、小テスト 第03回 解体工事、小テスト 第04回 準備工事（調査）、小テスト 第05回 準備工事（仮設）・山留め工事、小テスト 第06回 杭工事・土工事、小テスト 第07回 躯体工事①（コンクリート）、小テスト 第08回 躯体工事②（コンクリート）、小テスト 第09回 躯体工事③（鉄骨）、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事・竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席及び受講姿勢（30点）、各授業の最後に小テスト（70点）を実施し、総合的に評価を行う。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。要望、不安、不満などあれば授業終了後に相談してください。
予習・復習指導	1講義（1コマ）に対して、履修の定着を図るため、2時間程度の復習をすること。
関連科目	「構法計画Ⅰ・Ⅱ」 「建築材料」 「建築環境工学」 「建築設備」 「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で回答・ポイント解説を行う。

教員の実務経験	30年土木現場から建築設計・工事監理の経験をもち、CM（コンストラクションマネージメント）DM（デザインマネージメント）も行う。また、15年の高等専門学校、専門学校、資格所得に向けた講義など講師実績もあります。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山 克	KYOBI 芸術学部

到達目標	私たちの知っている「歴史」は、多くは文字史料の解読によって組み立てられたものです。古文書・古記録を始めとする文字史料の解読を通して、歴史の実像に触れる技術を学びます。 この科目はDP1-1、DP1-2、DP2-1、DP2-2、DP2-3に該当する。
授業概要	古文書学という学問があります。古文書の形態や様式（書式）や機能から、それらを読み解き、新しい歴史像を紡ぎだしていく、そんな学問です。この授業は「古文書解読演習」となっていますが、古文書学の全貌を紹介するには時間が不足しています。そこで文字を読み取ることに主眼を置いて、授業を組み立ててみようと思います。日本の文字にはもちろん漢字と仮名があります。漢文の古文書を読むと同時に、絵巻物の詞書や和歌（たとえば百人一首）のような仮名（変体仮名）交じり文も読んでみましょう。努力すれば、楽しみながら昔の人の書いた文字が読めるようになります。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 講師の実体験を紹介しながら、古文書とは？の疑問に答えます。 2 まずは古文書研究のイロハについて語りましょう。古文書解読辞典や関連サイトの紹介もします。 3 崩し字に慣れることを目的に、江戸時代の草双紙の文字や、同じく江戸時代の離縁状（三行半）を読んでみます。 4 鎌倉幕府の文書を時代背景も考えながらゆっくりと。あわせて絵巻物『辟邪絵』の詞書を読んでみます。 5 引き続き鎌倉幕府の文書を。百人一首の変体仮名にも慣れましょう。以下、百人一首は繰り返し使います。 6 鎌倉幕府滅亡後の文書を。絵巻物『春日権現験記絵』の詞書も。 7 これまでの解読を振り返り、小テストを。 8 室町幕府初期の文書を。仮名文字は引き続き『春日権現験記絵』の詞書を。 9 引き続き室町幕府の文書を。『法然上人絵伝』などの祖師絵伝の詞書を。 10 上意下達文書に対して上申文書を。『長谷雄草紙』の詞書を。 11 神々に誓約する起請文を。『道成寺縁起絵巻』の詞書を。 12 戦国期の武将の文書を。『道成寺縁起絵巻』の画中詞（漫画の吹き出しにあたる）を。 13 戦国大名の印章の捺された文書を。『付喪神絵詞』の詞書を。 14 中世から近世へ、時代を換えた文書を。僧侶の肖像画である頂相の賛文も読んでみましょう。 15 すでに使用した古文書などの史料を見ながら、みなさんの習熟度を確認します。
成績評価	受講態度（10%） 小テスト（20%） 試験（70%）
教科書	指定しません。
参考書 参考資料	児玉幸多編『くずし字解読辞典』、同『くずし字用例辞典』。ただし詳細は第一回目の授業時に。
履修上の注意	崩し字の解読は慣れることが重要です。配布資料を目の触れるところに置いてください。
予習・復習指導	1コマに対し、0.5時間の予習および0.5時間の復習をすること。授業時間だけでは必ず時間が不足します。授業ごとに使用したデータの主要部分をクラスルームで公開するので、予習・復習に活用してください。
課題に対するフィードバックの方法	小テストや折々のコメントシートの総評を、可能なかぎり、まとめて授業内あるいはクラスルームで報告します。
教員の業務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	古文書解読演習 I		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野 拓也	KYOB I 芸術学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。 また、記載内容と記載されているモノ（古文書・税として納められた布等）の関係を考察し、奈良時代の歴史について理解を深める。この科目は、DP1-1、DP1-2、DP1-3に該当する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。 また、仏像のような彫刻作品には、像の作者だけでなく発願主による願文が残されていることがある。さらに、古建築の部材には、使用場所を示す符丁だけでなく、作業の合間に書かれた落書も存在する。このような文字を読み解くためにも、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。その上で、「モノ」に携わった人々の「想い」に触れてほしい。
授業計画 授業内容	3回にわけて正倉院、および正倉院宝物の性格を講義し、奈良時代の文字史料がどのような意味を持つのか、またどのように伝来したのかを理解してもらう。 その後、実際の古文書などの写真を教材として、くずし字の解読を行う。授業の前半は史料の性格などを簡単に紹介し、みずからの力でくずし字を読んでもらう。後半は、くずし字の解読方法について解説を行う。 また、古文書のような紙に書かれたくずし字だけではなく、木・布などの様々な素材に書かれた文字の形を読み解いていく。12回の演習のうち、木に書かれた文字、布・絹に書かれた文字、金属に書かれた文字、その他を各1回以上行う。文字が書かれる素材によって、文字の表情は多様なものとなる。素材ごとの文字の解読についても学んでもらう。
成績評価	評価ポイント：受講態度（小レポート）（60%）、定期試験（40%）
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版） ※タイトルを間違えないこと
参考書 参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典 普及版』と漢字辞典を持参すること。漢字辞典については、電子辞書でもよい。
予習・復習指導	読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみること。 書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。 1コマに対し1時間の復習をすること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
教員の実務経験	宮内庁正倉院事務所において、古文書・経巻の調査を行っている。古文書だけでなく、木や、布・絹でできた宝物に書かれた文字を解読し、『正倉院紀要』において報告している。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	伝統建築図		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOBUI 建築学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。本科目は、DP2-1～3に該当する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。 授業は基礎的な作図法（√、黄金比等の作図法）に始まり、建具（部戸）の納まりと格子の割付け法を学び、六枝掛三斗組の作図法、墓股、木鼻（大仏様、禪宗様、近世の獅子頭）等のフリーハンドの作図法、そして軒の断面図、破風の作図法そして彩色法を経験する。最後に断面詳細矩計図の作図をおこなう。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第2回 伝統建築図面の基礎/√2～√4の作図 格子戸の割付け 第3回 伝統建築図面の細部意匠(1)/組物 中世和様 第4回 伝統建築図面の細部意匠(2)/墓股 古代本墓股 中世本墓股 第5回 伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻 中世大仏様 中世禪宗様 第6回 伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻 近世大工文書から 第7回 伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板 近世神社本殿 第8回 伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法 近世神社本殿 第9回 伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法 近世神社本殿 第10回 伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法 近世神社本殿 第11回 伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り 中世和様 第12回 伝統建築図面の納まり(2)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回 伝統建築図面の納まり(3)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回 伝統建築図面の納まり(4)/詳細図 中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回 図面の提出 講評 また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具（烏口、面相筆、撓い定規等）の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。 また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう

教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面(文化庁に提出する永久保存図)も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。したがって授業内容は、実際の社寺建築の納まりや伝統技法である規矩術までを演習としておこなっている。
科目ナンバリング	AAT-DE321S

シラバス参照

講義名	京町家再生論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
教授	高田 光雄	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関する学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。</p> <p>【参考】 京町家の保全・継承の意義は、京町家が連担し、自然と調和し、洗練され落ち着いた統一的な「町並み景観」、また伝統的な住まいやまちでの職住共存の暮らし方の中で積み重ねられてきた工夫や知恵の「生活文化」、それらを基盤とする京町家の現代的価値を問い直すことにある。（引用：京都市京町家保全・継承推進計画 平成31年2月策定） 本科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-4に該当する。</p>
授業概要	<p>京町家を建物単体で取り扱うのではなく、それらが連担することや、集合体として形成している路地も含めて、それら関係性にも着目しながら、京都におけるまちの保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全 15 回</p> <p>第1回 講義概要・履修指導 第2回 京町家の保全・継承（総論）①※高田先生 第3回 京町家の保全・継承（総論）② 第4回 町家見学・フィールドワーク 第5回 京町家における生活文化①※杉本先生 第6回 京町家における生活文化② 第7回 町家見学・フィールドワーク 第8回 京町家の改修・技術①※北岡先生 第9回 京町家の改修・技術② 第10回 町家見学・フィールドワーク 第11回 細街路の再生①※森重先生 第12回 細街路の再生② 第13回 フィールドワーク講評 第14回 京町家の再生まちづくり①※生川 第15回 京町家の再生まちづくり②</p> <p>※学習への理解、到達状況に加えて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	「小レポート＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。

教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書 参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	京都学演習 建築計画IV
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う
教員の実務経験	（公財）京都市景観・まちづくりセンターおよび京安心すまいセンター在籍時に京町家の保全・再生に係る業務を担当していた経験から、京町家の保全・再生に関する課題全般に精通していることに加え、自邸で自ら改修設計した京町家（京環境配慮建築物として京都市から2014年度優秀賞を受賞）を受講学生の見学対象として提供している。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE322L

シラバス参照

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。</p>
授業概要	<p>インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から総括的にインテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等について解説する。また現代の話題による日常生活とインテリアデザインとの関連性や考察を通じ、実践的でわかりやすい制作活動のヒントとなるトピックを提供する。また豊富な経験を通じたインテリアデザインの仕事や作家についてなど、インテリアデザインの最前線を紹介する。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介</p> <p>第2回 インテリア空間</p> <p>第3回 インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説</p> <p>第4回 インテリアスタイル</p> <p>第5回 家具デザイン</p> <p>第6回 ウインドトリートメント</p> <p>第7回 ライティングデザイン、</p> <p>第8回 インテリア設備</p> <p>第9回 マテリアルコーディネート</p> <p>第10回 カラーコーディネート</p> <p>第11回 エルゴノミクス（人間工学）</p> <p>第12回 室内環境</p> <p>第13回 インテリア計画と発想</p> <p>第14回 エンバールデザイン、サステイナブルデザイン</p> <p>第15回 インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート</p>
成績評価	<p>評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（30%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（30%）によって評価する。</p>
教科書	<p>図解テキスト「インテリアデザイン」 /井上書院 /小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子</p>
参考書 参考資料	<p>授業中に適宜紹介し、配付または掲示（クラスルーム）を行う。</p>
履修上の注意	<p>室内意匠・生活文化・環境技術・人間工学などデザインと技術の両側面から、日常での幅広い興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。</p>
予習・復習指導	<p>1回の講義（1コマ）に対して4時間の予習復習をすること。教科書の該当する章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。</p>
関連科目	<p>「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「造形材料論」「建築材料」「デザイン作図演習」「インテリア設計」</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>毎回のミニレポート課題、クラスルーム、メールにより質疑応答を行う。</p>

教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、建築設計・インテリアデザインの実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による、実践を踏まえ解説による講義を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE312L

シラバス参照

講義名	建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 杉本 直子	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部

到達目標	建築保存計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、建築空間の現代的再編・再生を目的とした、建築計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術の習得に加え、ストック時代に求められる建築マネジメントやコミュニティの再生など、地域まちづくりにつながる建築企画についても学ぶ。(建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得および新しい社会ニーズに対応する建築企画力の育成) 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	現代の成熟社会における日常生活の豊かな場、建築とはどのようなものなのか。本講義では建築保存計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、近代建築等の保存、修復、再生の計画・設計整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に解説し、保存改修について理解を深めるための演習課題として、近代建築のサーベイを行い、報告書を作成してもらう。 また、フローからストックへ建築業界の大きな枠組みの変化が求められる中で、マネジメントやコミュニティといった新たな視点からみた建築のあり方を問う建築企画にも視野を拡げ、地域まちづくりの課題について理解を深めるための演習課題として大学周辺のフィールドワークを行い、その調査結果を報告書として取りまとめる。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築保存計画学とは何か 第3回 建築の保存とは何か_その1 第4回 建築の保存とは何か_その2 第5回 近代建築の保存改修のサーベイ 第6回 現代における文化財について 第7回 近代建築の背景にあるもの 第8回 近代建築の保存改修の調査報告会と講評 第9回 マネジメント時代における建築企画とは何か 第10回 空き家の再生まちづくり 第11回 地域住宅まちづくり 第12回 大学周辺地域におけるフィールドワーク 第13回 団地マネジメント・団地再生 第14回 市民による建築文化まちづくり 第15回 フィールドワーク報告会と講評
成績評価	近代建築の保存改修のサーベイ報告書(50点満点)と地域まちづくりに関する調査報告書(50点満点)の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし(配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用)
参考書 参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して、4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画I、建築計画II、建築計画III
課題に対するフィードバックの方法	授業毎に小レポートを提出し、質疑応答があれば、次回授業でフィードバックを行う。

教員の実務経験	一級建築士の資格を活かし、新築、リノベーション、コンバージョンに関わる20年以上の設計実務経験を持つ。本授業では、各種建築物の保存と再生について、基礎知識と実例と関連付けて解説を行う。さらに、保存再生建築物や地域まちづくりに関するサーベイを行ってもらうことで、実践的な観点からより深い理解が得られると考えている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	ARC-DE318L

シラバス参照

講義名	建築構造力学Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 新谷 謙一郎	KYOBUI 建築学部

到達目標	構造設計における構造力学の理解を深める。 この科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築構造力学Ⅰ、Ⅱでは静定骨組を取り扱い、力のつりあい式から断面力を学んだ。しかし、不静定構造物では力のつりあい式のみでは断面力が求められない。本講座では、応力法などの新しい解法を身につける。 ・ 不静定構造物である建物は、部材が損傷しても全体が崩壊するとは限らない。巨大地震により建物が崩壊しないためには、どの程度の荷重に耐えるかを求める必要がある。本講座では、全塑性モーメントや崩壊荷重等の基礎的な知識を身につける。 ・ 構造物の耐震設計のためには、地震に対する構造物の動的な挙動について理解する必要がある。本講座では、応答スペクトル等の基礎的な知識を身につける。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション 第2回 静定と不静定について 第3回 不静定梁(1) 第4回 不静定梁(2) 第5回 不静定梁(3) 第6回 不静定骨組(1) 第7回 不静定骨組(2) 第8回 不静定骨組(3) 第9回 塑性崩壊荷重(1) 第10回 塑性崩壊荷重(2) 第11回 塑性崩壊荷重(3) 第12回 鉄筋コンクリート構造の設計(1) 第13回 鉄筋コンクリート構造の設計(2) 第14回 動力学(1) 第15回 動力学(2) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	出席および演習物の提出(50%)、定期試験(50%)に基づき行う。
教科書	スタンダード 建築構造力学 学芸出版社 ISBN 978-4-7615-2841-6
参考書 参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をすること。 (授業ノートの整理、前回演習課題の復習等)
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」 「建築構造力学Ⅱ」 「構法計画Ⅰ」 「構法計画Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	建築生産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩岸 克浩	KYOBI 建築学部

到達目標	建築施工における各行程を設計と施工方法の両面から理解する。さらに建築物の企画段階から設計・施工へ至り、維持保全・解体までの一連の「建築生産」を概観することにより、理解を深めるものとする。この科目は、DP2-1、DP2-2 に該当する。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・建築施工などに関わる職業を志望する学生を対象に、「建築生産」（企画・計画、設計、施工、保全、解体廃棄）を理解し、建物はどのように具現化するのかについて文字で示されイメージしにくい部分を極力ビジュアルで示し平易に解説することを旨とする。施工に至る前段階の企画・計画に始まり、契約から施工、引き渡し、運用、そして解体までの流れを踏まえつつ、特に施工については、準備、仮設工事から、本工事、竣工検査、引き渡しまで全体のプロセスを重視し各種の工法的特徴、前後工事との取り合い（関係）、注意すべき事象などに重点をおいた説明を行う。
授業計画 授業内容	全15回 × 90分 第01回 ガイダンス・建築生産とは①、小テスト 第02回 建築生産とは②、小テスト 第03回 解体工事、小テスト 第04回 準備工事（調査）、小テスト 第05回 準備工事（仮設）・山留め工事、小テスト 第06回 杭工事・土工事、小テスト 第07回 躯体工事①（コンクリート）、小テスト 第08回 躯体工事②（コンクリート）、小テスト 第09回 躯体工事③（鉄骨）、小テスト 第10回 外装工事、小テスト 第11回 内装工事、小テスト 第12回 設備工事、小テスト 第13回 外構・その他工事・竣工、小テスト 第14回 維持・保全・改修、小テスト 第15回 建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席及び受講姿勢（30点）、各授業の最後に小テスト（70点）を実施し、総合的に評価を行う。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設連合会編 彰国社
参考書 参考資料	授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。要望、不安、不満などあれば授業終了後に相談してください。
予習・復習指導	1講義（1コマ）に対して、履修の定着を図るため、2時間程度の復習をすること。
関連科目	「構法計画Ⅰ・Ⅱ」 「建築材料」 「建築環境工学」 「建築設備」 「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で回答・ポイント解説を行う。

教員の実務経験	30年土木現場から建築設計・工事監理の経験をもち、CM（コンストラクションマネージメント）DM（デザインマネージメント）も行う。また、15年の高等専門学校、専門学校、資格所得に向けた講義など講師実績もあります。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 宮内 智久	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>デザインを単に造形や機能性の観点から捉えるのではなく、広義にわたる意義や役割について深く考察する。公共物に限らず、芸術作品、自然環境、社会、都市空間など、あらゆる領域におけるデザインの影響を理解し、国内外の事例を通じてデザインがもたらす価値や問題点を検討する。さらに、デザイナー・芸術家・建築家として、自ら問題意識を持ち、課題を設定し、解決に導く能力を養うとともに、デザインを通じた人生観の形成を目指す。</p> <p>主な目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワードを理解する 2. キーワードについて自ら考察する 3. 自分のキャリアや人生に反映する <p>本科目は、DP2-1～3に該当する。</p>
授業概要	<p>公共物や公共空間が果たす社会的役割および文化的価値について深く掘り下げ、そのデザインがどのように社会へ影響を与えるのかを考察する。芸術、建築や都市計画、環境デザインの中の視点を交えながら、国内外の具体的な事例を通じて学ぶ。また、デザインが歴史的・社会的文脈の中でどのように形成され、変容してきたのかを分析し、受講生が自身の視点を持って批評できるようにすることを目的とする。</p> <p>授業で行うこと：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前の準備：思考の深化（各週） 2. 講義：キーワードと概念の理解（各週） 3. アウトプット：アンケート方式による意見共有（各週） 4. レポート提出：学期末に1回
授業計画 授業内容	<p>全15回</p> <p>第1回 人生のデザイン 第2回 発想のデザイン 第3回 思考のデザイン 第4回 プロセスのデザイン 第5回 見せ方のデザイン 第6回 認知のデザイン 第7回 記憶のデザイン 第8回 夢のデザイン 第9回 見せ方のデザイン 第10回 体験のデザイン 第11回 公のデザイン 第12回 景観のデザイン 第13回 再生のデザイン 第14回 循環のデザイン 第15回 生き延びるためのデザイン</p> <p>※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。</p>
成績評価	<p>授業態度（出欠）75% → 出席課題 15回 × 5点 レポート 25%（合計1回）</p>
教科書	配布資料、映像等

<p>参考書 参考資料</p>	<p>「LIFE SHIFT100年時代の人生戦略」アンドリュー スコット、他 「カミング・バック・トゥ・ライフ」ジョアンナ・メイシー、モリー・ヤング・ブラウン 「繊細さは、これからの時代の強さです」アニータ・ムアジャーニ 「デザイン思考が世界を変える」ティム ブラウン 「実践 スタンフォード式 デザイン思考 世界一クリエイティブな問題解決」ジャスパー・ウ 「突破するデザイン」ロベルト・ベルガンティ 「新 クリエイティブ資本論—才能が経済と都市の主役となる」リチャード・フロリダ 「フリーエージェント社会の到来—「雇われない生き方」は何を変えるか」ダニエル ピンク 「幸福の「資本」論—あなたの未来を決める「3つの資本」と「8つの人生パターン」」橘玲 「10年後の仕事図鑑」堀江 貴文、落合陽一 「多動力」堀江貴文 「ハウ・トゥー アート・シンキング 閉塞感を打ち破る自分起点の思考法」若宮和男 「直感と論理をつなぐ思考法 VISION DRIVEN」佐宗邦威 「リサーチ・ドリブン・イノベーション 「問い」を起点にアイデアを探究する」 安齋勇樹 「ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する7つのステップ」 寛裕介 「プロセスエコノミー あなたの物語が価値になる」 尾原和啓 「アフターコロナのニュービジネス大全 新しい生活様式×世界15カ国の先進事例」 原田 曜平 「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社 「認知バイアス辞典」情報文化研究所 「サステイナブルなものづくり」W・マクダナー 「里山の環境学」武内和彦、他 「発想する会社！」トム・ケリー 「生き延びるためのデザイン」ヴィクター・パパネック 「沈黙の春」レイチェル・カーソン 「つくる公共50のコンセプト」せんだいメディアテーク 「まちづくり幻想」木下斉 「コミュニティデザイン」山崎亮 「テンポラリーアーキテクチャー」OpenA 「人生を変える最強のコミュニティづくり」美宝れいこ 「シェアをデザインする」猪熊純、他 「ブルー・ゾーン」ダン・ビュイトナー 「人口減少社会のデザイン」広井良典 「コミュニティ・オーガナイズ」鎌田華乃子 「持続可能な地域の作り方」寛裕介 「ネイバーフッドデザイン」荒昌史 他</p>
履修上の注意	講義内容はオムニバス形式である。ゲストを招いた講義も予定。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 講義前に配布される資料をよく読み込むこと。 各回講義で扱う用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ 建築計画Ⅳ 京町家再生論 デザイン概論 色彩理論演習 等
課題に対するフィードバックの方法	レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却するなど。授業時間外にも、担当教員への質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	担当教員は6年以上の建築設計・及びグラフィックデザインの実務経験を持ち、ADOBEソフトウェアを利用した実践的な指導行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE313L

シラバス参照

講義名	社寺建築論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目 展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上 直樹	KYOBI 建築学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。 本科目は、DP2-1、DP2-2に該当する。
授業概要	「日本建築史」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 特に前半は各時代の様式論を改めて確認し代表的な遺構の解説をおこなう。 後半は、各細部意匠について基礎から軸部、組物、軒、小屋、屋根葺き材料の順に開設をおこなう。 また、授業の進捗状況を鑑みて見学会も実施する予定である。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 授業ガイダンス 社寺建築を理解するための基礎知識 第2回 古代の寺院建築 第3回 時代の神社建築 第4回 中世の寺院建築 第5回 中世の神社建築 第6回 桃山時代江戸時代の社寺建築 第7回 古建築の見学会 第8回 基礎廻りの構造と様式的変遷 第9回 軸部の構造と様式的変遷 第10回 組物の構造と様式的変遷 第11回 軒の構造と様式的変遷 第12回 小屋組みの構造と様式的変遷 第13回 屋根葺きの構造と様式的変遷 第14回 天井の構造と様式的変遷 第15回 授業のまとめ
成績評価	レポートで評価をおこなう
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書 参考資料	滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「日本建築史」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「日本建築史」「伝統建築図」
課題に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、とくに伝統建築のうちでも社寺建築について十分な経験がある。授業では社寺建築の様式的知識の伝達だけでなく、材料の見方、仕様や破損の捉え方、継ぎ手仕口など実際の工事実施に必要な基礎知識の講義をおこなう。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-DE324L

<建築学部> 専門教育科目 K8. 専門実習・演習科目
京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	建築設計導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海 俊一	KYOB I 建築学部
教授	山内 貴博	KYOB I 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOB I 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOB I 建築学部
助教	薮下 和真	KYOB I 建築学部

到達目標	<p>①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。 ④この科目はDP2-1、4に該当する。</p>
授業概要	<p>本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。</p> <p>1) 線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 2) 配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 3) 模型制作を行うことで立体の表現技法を習得する。 4) 世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解するなど、建築学科の学生として身につけておくべき力を育む。</p> <p>各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。</p>
授業計画 授業内容	<p>週1回・3コマ（全15週）</p> <p>第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習 第3週：建具表 第4週：建築図面の描き方（1） 配置図・平面図1 第5週：建築図面の描き方（2） 配置図・平面図2 第6週：建築図面の描き方（3） 平面図3 第7週：建築図面の描き方（4） 立面図・断面図1 第8週：建築図面の描き方（5） 断面図2 第9週：建築の図法 建築の図法（軸測投影図法、中心投影図法） 第10週：建築模型の制作（1）（模型箱制作・型紙制作・ボードへの貼り付け） 第11週：建築模型の制作（2）（部材の切り出し・仮組） 第12週：建築模型の制作（3）（組み立て・完成） 第13週：建築空間の読み取り（1） 事例収集・ダイアグラムの作成 第14週：建築空間の読み取り（2） 作品紹介シートの作成 第15週：最終講評会（建築模型・作品紹介シート）、まとめ</p> <p>※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。</p>
成績評価	<p>受講態度（20%）、提出物（課題作品）や小テストなどの完成度（80%）によって総合的に評価する。</p>

教科書	【指定教科書】（履修者は必ず購入すること） 安藤直見・柴田晃宏・比護結子 著：「建築のしくみ 住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家」丸善株式会社，2008
参考書 参考資料	1) 日本建築学会 編：「第4版コンパクト建築設計資料集成」丸善株式会社，2024 2) 垣田博之 著：「名建築のデザインに学ぶ製図の基礎」学芸出版，2021
履修上の注意	1) 各課題の条件および提出期限は厳守する。 2) 指定教科書「建築のしくみ」は随時ページを参照するので、開講までに必ず購入し、毎回持参する。 3) 特に指示しない限り、製図板など指定したものを除く製図用具一式は毎回持参する。 4) 授業にはノートやメモ等を毎回持参し、受けた説明をメモする。（随時ノートチェックを行う。） 5) 模型制作等で使用する道具に関する安全対策指導には必ずしたがう。
予習・復習指導	1) 実習課題はその都度出題するが、提出期限は厳守する。 2) 各週の授業について、2時間の事前学習、2時間の復習が必要である。 3) 事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 4) 復習としては、各課題の振り返りと、製図練習の繰り返しを行う。
関連科目	構成基礎演習、建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築、インテリア、都市計画、景観設計、環境デザイン、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP001P

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	建築設計基礎演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOBI 建築学部
教授	山内 貴博	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	新海 俊一	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBI 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部
助教	藪下 和真	KYOBI 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOBI 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。 この科目は、DP2-1、DP2-2、DP2-3、DP2-4、に該当する。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第2課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを習得する。また、設計演習では制作スケジュール管理が重要であり、課題発表から課題提出までの流れを経験することで、制作スケジュールにおける時間管理を身につける。
授業計画 授業内容	全15週/週1日・3コマ 第1週 ガイダンス、課題A：＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第2週 課題A：コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第3週 課題A：図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第4週 課題A：中間提出・作品修正 第5週 課題A：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第6週 課題A：最終提出・優秀作品発表 第7週 課題B：＜茶室のトレース＞：課題説明・建物解説・現地見学 第8週 課題B：起こし絵図作成と建築図面の表現と理解（1） 第9週 課題B：建築図面の表現と理解（2）/断面図・最終提出 第10週 課題C：＜小規模ギャラリー＞：課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11週 課題C：コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12週 課題C：図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13週 課題C：中間提出・作品修正 第14週 課題C：エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15週 課題C：最終提出・優秀作品発表

成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する事例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「建築CAD演習Ⅰ」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の实務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP102S

シラバス参照

講義名	建築設計基礎演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	宮内 智久	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBI 建築学部
助教	藪下 和真	KYOBI 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOBI 建築学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOBI 芸術学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。</p> <p>この科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>初年度の建築設計基礎演習Ⅰに続く演習として、建築物の設計課題に取り組む。具体的な敷地を設定し、小規模かつ比較的シンプルな用途の建築物の設計を行う。第一課題としては、小規模なカフェ・店舗空間の設計を通して、建築や空間のプロポーショナル、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。第二課題として、相互の関係を考慮する戸建て住宅群を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスをを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週</p> <p>第1週 ガイダンス、課題A[観光地に建つブックカフェ]：課題説明、敷地調査 第2週 ブックカフェ②：事例分析、コンセプト立案 第3週 ブックカフェ③：コンセプト・基本構想報告 第4週 ブックカフェ④：平面・断面・エスキス模型報告 第5週 ブックカフェ⑤：中間発表 第6週 ブックカフェ⑥：案の再検討、成果品作成作業 第7週 ブックカフェ⑦：成果品作成作業 第8週 ブックカフェ⑧：作品発表、講評</p> <p>課題B[相互の関係を考慮する戸建て住宅群]：課題説明 第9週 戸建て住宅②：事例分析、コンセプト立案 第10週 戸建て住宅③：コンセプト・基本構想報告 第11週 戸建て住宅④：平面・断面・エスキス模型報告 第12週 戸建て住宅⑤：中間発表 第13週 戸建て住宅⑥：案の再検討、成果品作成作業 第14週 戸建て住宅⑦：成果品作成作業 第15週 戸建て住宅⑧：作品発表、講評</p>
成績評価	設計プロセス・中間時の発表も含めた受講態度、および成果品の内容により、総合的に評価を行う。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集」日本建築学会編 丸善

参考書 参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」および「建築設計基礎演習Ⅰ」に続いてさらに発展した内容を扱う。 同時期に開講する「建築CAD演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	担当する教員は、一級建築士の資格を持ち、建築設計・監理の実務経験を有している。設計教育の経験も豊富であり、実務経験を生かした実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有

シラバス参照

講義名	建築設計演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田 光男	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOBI 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOBI 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOBI 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>(建築デザイン)</p> <p>①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 この科目は、DP2-1~4 に該当する。</p> <p>(伝統建築)</p> <p>製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。 この科目は、DP2-1~4 に該当する。</p>
授業概要	<p>第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。</p> <p>(建築デザイン)</p> <p>小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、最適解とするための指導を行う。</p> <p>(伝統建築)</p> <p>伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図(縮尺=1/40 ~ 1/50 程度)を作図する。</p>

授業計画 授業内容	<p>全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回</p> <p>共通課題（第1課題） 第1週 ガイダンス、課題 A「集合住宅」：課題説明・課題分析作業 第2週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週 基本構想発表<グループ別・全体> 第5週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週 プレゼンテーション作成・面積表 第7週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価></p> <p>建築デザイン課題（第2課題選択制） 第8週 課題 B「保育園」：課題説明・課題分析作業 第9週 課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週 平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週 基本構想発表<グループ別・全体> 第12週 平面・断面・エスキスチェック 第13週 構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週 プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週 作品提出・作品発表<全員公聴・評価></p> <p>伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週 課題説明・図面作成 第9週 見学会 第10週 模型作成 第11週 模型作成 第12週 模型作成 第13週 模型作成 第14週 模型作成 第15週 模型作成・図面提出</p>
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「集合住宅（建築設計テキスト）」建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設（建築設計テキスト）」、山田あすか・藤田大輔、彰国社（第2課題で保育園を選択するもののみ）
参考書 参考資料	<p>演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87 低層集合住宅2」建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社 『「新」建築設計資料〈04〉地域シェア型保育施設—地域子育て支援・児童発達支援・学童保育・幼老等併設—』建築思潮研究社</p>
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	1 コマに対し2時間の事前学習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習Ⅰ」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」、「建築設計演習ⅡA」、「建築設計演習ⅡB」
課題に対するフィードバックの方法	<p>建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度（第2課題は10名程度）の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。</p> <p>伝統建築（第2課題） 最終回にて成果品に対し総評を行う。</p>
教員の実務経験	担当教員は集合住宅及び保育所の設計、伝統建築の修復・新築設計において実務経験を有しており、設計演習においてより実務的な内容について講義及び設計指導を行うことができる。
教員の实務経験有無	
科目ナンバリング	AAT-SP204S

シラバス参照

講義名	建築設計演習ⅡA		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小椋 吉隆	KYOBU 建築学部
教授	安田 光男	KYOBU 建築学部
教授	井上 晋一	KYOBU 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBU 建築学部
教授	竹脇 出	KYOBU 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBU 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBU 建築学部
講師	齊藤 啓輔	KYOBU 建築学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOBU 芸術学部
非常勤講師	山田 滋也	KYOBU 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBU 建築学部

到達目標	<p>オフィスデザインと構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。</p> <p>この科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>10週までオフィスデザイン課題、残り5週は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビル設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を身に付ける。計画段階の企画から外観デザインさらにはインテリアデザインに進化するプロセスを経験する。また、建築構造課題では各種構造形式を習得するための作図を実践することで建築構造の理解を深める。</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週/週1日・2コマ</p> <p>第1週 ガイダンス・「オフィス課題」課題説明、リサーチ、コンセプト</p> <p>第2週 エスキース1：コンセプト、ボリューム、ゾーニング</p> <p>第3週 エスキース2：プランニング、インテリア計画</p> <p>第4週 課題提出・班別講評会</p> <p>第5週 エスキース3：再提出、ワークスペース事例</p> <p>第6週 エスキース4：インテリア企画・計画</p> <p>第7週 エスキース5：インテリア設計</p> <p>第8週 エスキース6：全体調整</p> <p>第9週 課題提出・班別講評会</p> <p>第10週 課題修正確認・全体講評会</p> <p>第11週 建築構造課題説明、RC造（1）</p> <p>第12週 建築構造課題説明、RC造（2）</p> <p>第13週 建築構造課題説明、RC造（3）</p> <p>第14週 建築構造課題説明、S造（1）</p> <p>第15週 建築構造課題説明、S造（2）</p> <p>※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。</p>

成績評価	授業態度（20%）、前10週および後5週の「成果品」（80%）から総合評価を行う。
教科書	「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善 「事務所建築(建築設計テキスト)」 建築設計テキスト編集委員会編、彰国社
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の予習復習をすること。各週の課題や教員からのコメントを次週までに必ず修正するなど確実に履修を進めること。
関連科目	建築設計実習導入、建築設計基礎演習Ⅰ、建築設計基礎演習Ⅱ、建築設計演習Ⅰ、建築計画Ⅱ、建築計画Ⅲ、卒業設計
課題に対するフィードバックの方法	グループ単位で教員が巡回する。各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。中間と最終の作品発表時は各班での講評と全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士・インテリアプランナーの資格を持ち、設計に関する実務経験、及び設計教育の経験豊富な教員による演習指導を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP305S

シラバス参照

講義名	建築設計演習ⅡB		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
教授	安田 光男	KYOBI 建築学部
教授	井上 晋一	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	新海 俊一	KYOBI 建築学部
教授	宮内 智久	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBI 建築学部
講師	北岡 慎也	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
講師	中西 大輔	KYOBI 建築学部
助教	藪下 和真	KYOBI 建築学部
非常勤講師	種村 俊昭	KYOBI 建築学部
非常勤講師	大田 精一	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	山口 尚之	KYOBI 芸術学部
非常勤講師	大庭 徹	KYOBI 芸術学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	【建築デザイン・融合領域】 メディアテーク、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設に加え、市街地住宅団地の再生など地域まちづくりの視座に立った設計を行う。そのことを通じてRC造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。（課題A、B共に小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制とする） 【伝統建築領域】 神社建築に対して現地調査を行い、調査報告書、実測図面を作成して報告を行う。

<p>授業計画 授業内容</p>	<p>【建築デザイン・融合領域】 第1週 ガイダンス、課題A(1)＜メディアテーク（建築デザイン・融合領域共通）＞課題説明・班分け・作業 第2週 課題A(2)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地調査分析、事例研究） 第3週 課題A(3)：基本構想発表・提出（ブロックプラン、ゾーニング、コンセプト） 第4週 課題A(4)：スタディ模型等エスキス（平面構成、断面構成） 第5週 課題A(5)：中間発表 第6週 課題A(6)：エスキス（構造、空間構成、造形デザイン） 第7週 課題A(7)：作図（仕上げ）、提出模型制作 第8週 課題A(8)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆（指摘作品） 第9週 課題B(1)：＜選択制①駅前広場と付帯施設（建築デザイン領域）、②堀川団地のまちづくりによる再生（融合領域）の内いずれか1つ＞課題説明・班分け・作業 第10週 課題B(2)：現地視察、課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第12週 課題B(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第13週 課題B(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第14週 課題B(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第15週 課題B(7)：制作発表・講評会・指摘内容の修正加筆 ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。</p> <p>【伝統建築領域】全15週／週1日・3コマ 現地調査を行い、その情報を基に実測図、調査報告書を作成する。 第1週 ガイダンス、現地見学 第2週 現地調査、実測図作成（1） 第3週 現地調査、実測図作成（2） 第4週 現地調査、実測図作成（3） 第5週 現地調査、実測図作成（4） 第6週 現地調査、実測図作成（5） 第7週 現地調査、実測図作成（6） 第8週 現地調査、実測図作成（7） 第9週 現地調査、実測図作成（8） 第10週 現地調査、実測図作成（9） 第11週 報告書作成（1） 第12週 報告書作成（2） 第13週 報告書作成（3） 第14週 報告書作成（4） 第15週 報告書作成（5）</p>
成績評価	授業態度（20%）、課題A・課題B・調査報告書「成果品」（80%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第3版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する事例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計実習導入」、「建築設計基礎演習Ⅰ」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、研究実績、及び、設計教育の経験豊富な教師陣を中心に、実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP306S

シラバス参照

講義名	建築設計演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目 建築デザイン系		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOBI 建築学部
教授	安田 光男	KYOBI 建築学部
教授	高田 光雄	KYOBI 建築学部
教授	山内 貴博	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	新海 俊一	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
教授	宮内 智久	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOBI 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOBI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	<p>「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザイン力・スケジュール管理能力を身につける。</p> <p>本科目は、DP2-1～4に該当する。</p>
授業概要	<p>ゼミ制として各指導教官の研究室に配属し、卒業制作へと繋げることを念頭に置き、建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。各自の進捗状況を把握するために中間報告会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、後期の卒業研究に向けての準備を行う。</p> <p>[建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等]</p>
授業計画 授業内容	<p>全15週／週2日</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 ゼミ・チェック（制作方針について）1 第3週 ゼミ・チェック（制作方針について）2 第4週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）1 第5週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査）2</p>

	第 6 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 1 第 7 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 2 第 8 週 ゼミ・チェック（中間報告草案） 第 9 週 中間報告（全体） 第10週 ゼミ・チェック（図面・模型） 1 第11週 ゼミ・チェック（図面・模型） 2 第12週 ゼミ・チェック（図面・模型） 3 第13週 ゼミ・チェック（図面・模型） 4 第14週 ゼミ・チェック（図面・模型） 5 第15週 最終プレゼンテーション・講評
成績評価	授業態度（出席等30%）、中間・最終「成果品」（評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第4版 コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編 丸善株
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。V D T 作業（C A D等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する事例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な設計教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP414S

シラバス参照

講義名	卒業研究		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上 晋一	KYOBI 建築学部
教授	安田 光男	KYOBI 建築学部
教授	高田 光雄	KYOBI 建築学部
教授	山内 貴博	KYOBI 建築学部
教授	森重 幸子	KYOBI 建築学部
教授	新海 俊一	KYOBI 建築学部
教授	生川 慶一郎	KYOBI 建築学部
教授	宮内 智久	KYOBI 建築学部
准教授	人見 将敏	KYOBI 建築学部
准教授	根来 宏典	KYOBI 建築学部
准教授	白鳥 洋子	KYOBI 建築学部
講師	新谷 謙一郎	KYOBI 建築学部
講師	砂川 晴彦	KYOBI 建築学部
特任教授	小梶 吉隆	KYOBI 建築学部
特任教授	大上 直樹	KYOBI 建築学部
教授	井上 年和	KYOBI 建築学部
特任准教授	杉本 直子	KYOBI 建築学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 本科目は、DP2-1～4に該当する。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業研究を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。各自の進捗状況を把握するために中間発表会を行い、教員及び学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展が出来るよう卒業制作の完成を目指す。
授業計画 授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 卒業制作ガイダンス 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 卒業研究中間発表 ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 ゼミ・チェック（設計／論文草案）2

	<p>9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 作品展示、提出 15. 講評会</p>
成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業研究（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができていくかを評価する。
教科書	自作プリント、「第4版コンパクト設計資料集成」日本建築学会編 丸善
参考書 参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」「日本建築学会梗概集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	<p>成果物の提出締め切り日に必ず提出のこと。 「卒業研究中間発表会」・「講評会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 V D T作業（C A D等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。</p>
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「建築設計演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業研究中間発表会」及び「講評会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験	一級建築士の資格を持ち、建築設計の実務経験、及び、設計教育の経験豊富な教員による実践的な教育を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAR-SP418P

博物館学芸員養成科目

京都美術工芸大学シラバス [2025 年度版]

シラバス参照

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 吉富 千恵	KYOBI 芸術学部

到達目標	①人間の発達段階ごとに必要な学習の役割を理解する ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ 本科目は、DP0-1、DP0-2、DP0-3に該当する
授業概要	生涯学習とは、単なる知識の習得ではなく、各ライフステージにおける発達課題を乗り越えるための重要な手段である。発達心理学の観点からも、学習は人間の成長と密接に関係し、個人のアイデンティティ形成、キャリアの維持、健康寿命の延伸に影響を与えている。よって、本授業では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習についての理解を深めることを目的とする。各年代で多くの人が悩むテーマについて、映像教材を用いながら考えていく。また何回かの講義では、心理テストを用いて自己分析を行い、個人発表の機会を設ける。受講生には、毎回の振り返り用紙の提出と、授業内での積極的な発言を求める。
授業計画 授業内容	第1回 生涯学習論とは？この講義における定義と講義の進め方の説明 第2回 深刻な不妊問題について 第3回 生命誕生に関する教育について 第4回 赤ちゃんのパワーについて 第5回 赤ちゃんの心身の発達について 第6回 幼稚園児の社会性の発達について 第7回 幼児期の心身の発達について 第8回 小学生の様子 第9回 小学生の心身の発達について 第10回 思春期 反抗期について 第11回 青年期の心身の発達について 第12回 アイデンティティに関する自己分析、自己の価値観について 第13回 中年期の心身の発達について 第14回 高齢期の心身の発達について 第15回 生涯学習を支える制度、施設について
成績評価	期末テスト70%（ペーパーテスト形式）、平常点30%で評価する。平常点は、毎授業につき2点とし、授業時間内に着席し、授業を聴き、教員の指示に従って心理テストやワークに取り組んでいる学生に対して与える。この旨、公平に判断するために毎回の授業にて、講義内容の振り返り用紙の提出を求める。また、講義中における以下の行為に関しては、出席と認めない。①初めから教室に存在せず出席の送信のみを行う。②他の授業のレポート作成、製図などの課題作成といった本授業に関係のないことをしている。③インターネットの閲覧。④正当な理由なく授業開始15分以内に教室を退出する。
教科書	特に指定しない
参考書 参考資料	『現代の生涯学習』 岩永雅也 放送大学
履修上の注意	例年と大きく異なり、毎回の授業にてランダムに受講生から意見を求めます。ワークには必ず参加してもらいます。授業内容と成績評価項目を熟読し、納得の上、履修して下さい。
予習・復習指導	事前に指示があった場合には、前もって配布するレジュメ、心理テスト、ワーク用紙などを利用し、事前学習を行って下さい。その他、予習や復習として、授業で扱ったテーマについて自主的な学びを求めます。1コマにつき4時間の予習復習時間の確保が望ましい。
関連科目	博物館学芸員養成科目

課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の振り返り用紙から得た受講生の質問や感想は、次の授業の冒頭にて全体にフィードバックします。 個人的に受けた質問やコメントについても、必要に応じて全体に伝えます。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-GE105L

シラバス参照

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>博物館活動の概要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>博物館は、自然、歴史、美術などさまざまな「もの」（博物館資料）を調査・研究し、さらに展示・活用することで、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。</p> <p>本講義では、歴史、制度、社会、技術などさまざまな観点から俯瞰することで、体系的に博物館を取り巻く状況について学ぶ。また、博物館法や文化財保護法など、関連する法令に関する知識を深めることで博物館に関する理解を深める。</p> <p>さらに、多岐にわたる学芸員の具体的な業務や展覧会企画などの具体例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義について理解することを目指す。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事① 第4回 学芸員の仕事② 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史① 第7回 博物館の歴史② 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示① 第11回 博物館と展示② 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括</p>
成績評価	授業時のレポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書 参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1 博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	<p>一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。</p> <p>予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。</p> <p>復習：講義内容を整理しておくこと。適宜博物館などを見学すること。</p>
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
教員の実務経験	京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験（展覧会企画、収蔵資料研究などを担当）を活かし、博物館活動の実際について概説する。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田 均	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>①博物館に係る基礎的な経営理論や実践事例を学び理解する。 ②博物館の使命を理解し、博物館学芸員の資格取得を目指す。 ③身近な博物館の経営改善や、理想とするあるべき博物館を構想する力量を養う。</p> <p>この科目は、DP0-1、DP0-2に該当する。</p>
授業概要	<p>博物館には、国・地域・企業などの歴史を物語る貴重な文化的・自然的資料を収集・保存・展示することを通じて、共有すべき良き文化を継承しながら創造・普及する、という極めて重要な役割がある。そして博物館は非営利組織であり、館を持続するには卓越した経営的な能力や感性をも併せ持つ学芸員が必要とされる時代となった。</p> <p>そこでこの科目では、博物館学芸員として博物館経営を担う場合の要諦を解説することを通じて、一般企業や公務労働でも、また起業の際にも役立つ組織運営の基礎を学ぶことができる「経営学入門」的な要素も加味した講義内容とした。</p>
授業計画 授業内容	<p>第1回 講義ガイダンス 第2回 博物館と法律：博物館法の理解 第3回 博物館の使命：使命の重要性 第4回 博物館の経営戦略：使命と経営戦略、ビジョン 第5回 博物館のマーケティング：顧客と価値の定義 第6回 文化の継承：文化と経済、文化継承の意味、学芸員の仕事 第7回 博物館の管理：公共経営論、指定管理者制度 第8回 マネジメント入門：組織の基本原則、起業入門 第9回 非営利組織論：営利と非営利、博物館の非営利性、学芸員の職業倫理 第10回 資金マネジメント：慢性的資金不足、ファンドレイジング、文博の事例 第11回 博物館の評価制度：自己評価と第三者評価、成果指標、評価し改善する 第12回 博物館の連携：協議会の設置、市民参加、企業との連携、友の会 第13回 博物館のリスク管理：予防策と事後策、BCP、天災と人災、現代的リスク 第14回 博物館と観光：観光の本質、保存と活用、文化観光の推進 第15回 総括と到達度テスト</p>
成績評価	<p>毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。</p>
教科書	<p>毎回の講義用資料を事前にネット配信する。</p>
参考書 参考資料	<p>月刊『博物館研究』日本博物館協会</p>
履修上の注意	
予習・復習指導	<p>講義前日に講義資料をクラスルームに投稿するので、予習して講義に臨むこと。 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立てるように。 1コマに対し、1時間の事前学習及び3時間の復習を目安とする。</p>
関連科目	<p>地域社会論、工芸と経済 *学芸員資格科目</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポート内容や質問などについて、必要に応じて次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。</p>
教員の実務経験	<p>京都府立中小企業指導所経営課で7年間、企業の経営支援に関する実務を経験している。</p>
教員の実務経験有無	<p>有</p>
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 積希	KYOBI 芸術学部

到達目標	博物館資料の分類とその方法に関する知識と、取り扱いの基礎的能力を養う。 この科目は本学のDPO-1、DPO-2に該当する。
授業概要	博物館のコレクションを構築する博物館資料について、その概念と意義を考察し多様性を理解するとともに、取り扱いや調査研究、情報化、保管管理等についての基礎知識を体系的に学び、高度に洗練された多様な文化の遺産を守り伝える博物館学芸員の素養を身につける。そのうえで、担当教員がこれまでの博物館資料の調査・研究、保管管理、展示の過程で実践した手法や直面した課題、解決方法、成果とその後の展開について学び、博物館資料が「収集」「研究」「保存」に活用され、「展示」により一般に公開されていくプロセスを理解する。
授業計画 授業内容	第1回 博物館資料とは—博物館資料の概念 第2回 博物館資料の分類 第3回 博物館資料の収集 第4回 博物館資料の保護と文化財 第5回 博物館資料の取り扱い 第6回 博物館資料の情報化と公開 第7回 博物館資料の実例—ポスター資料 第8回 博物館資料の実例—デザイン資料 第9回 資料の調査の実例—染織品 第10回 資料の調査の実例—美術工芸品 第11回 資料の保管管理の実例—図書館資料 第12回 資料の保管管理の実例—ガラススライド 第13回 資料の展示の実例—ラジオコレクション 第14回 資料の展示の実例—染織品 第15回 総括
成績評価	評価ポイント：毎授業時のコメント（30%）、期末レポート（70%）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	加藤有次他編『博物館学講座5 博物館資料論』雄山閣出版、1999 今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践 1：博物館という問い』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学会、2018
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	予習：毎回、事前に配信される資料等を参考に、授業に関連するキーワードについて調べておく。 復習：毎回、授業で言及された用語についてまとめ、理解を深める。また、必要に応じて、関連する展覧会等を見学し、実物に接する機会を増やす。 1コマに対し1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問へのフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう。
教員の実務経験	博物館において学芸員として資料の調査や保存・管理の経験をもつ教員が博物館における資料の取り扱い等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森 道彦	KYOB I 芸術学部

到達目標	ミュージアムにおける収蔵品の保存管理において、注意すべき要点とその理由をきちんと理解し学習する。適切な管理方法が、モノを形作る材料や制作技法、モノをとりまく環境といった内外の要素に応じて常に変わることを知り、時と場に応じたよりよい対策について自発的に考えていく。
授業概要	この授業では、博物館や美術館といったミュージアムの仕事において欠かせない、モノの保存や管理についての基礎的な考え方や、必要な知識を学ぶ。収蔵するべきモノの選別、モノの状態悪化のプロセスと、それを軽減するための保管庫や展示室の適切な環境整備、確実な出納管理システムや防犯・防災システムの構築、展示や輸送時の注意点、修理にあたっての心構えと方法論といった、モノを取り扱う業務として気を配るべき要素の一通りを紹介する。またそれぞれのトピックにおいて、現代社会の中で生じている新たな課題と、学芸員としてのその向き合い方についても考えていく。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス -ミュージアムと資料の保存 第2回 収蔵にかかわる諸問題 第3回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害 1 第4回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害 2 第5回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害 3 第6回 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害 4 第7回 災害と資料保存 第8回 展示と輸送 第9回 伝統的な保存管理の知恵 第10回 修理 1 第11回 修理 2 第12回 修理 3 第13回 資料をとりまく社会環境 1 第14回 資料をとりまく社会環境 2 第15回 まとめ この科目はDP0-1、DP0-2に該当する。
成績評価	受講態度・授業理解度ほか60% 中間レポート20% 期末レポート20%
教科書	特になし 授業内で配布するプリントを使用
参考書 参考資料	東京文化財研究所 編『文化財の保存環境』 石崎武志『博物館資料保存論』講談社、2012年 稲村哲也・本田光子『博物館資料保存論』放送大学、2019年
履修上の注意	理解には一定の科学的知識が必要であり、内容も多岐にわたるため、復習を行って定着を図ること。内容の理解度や課題の出来とあわせて、授業の出席状況や受講態度は重要な評価基準の一つになる。私語や遅刻、昼寝、途中退室などは減点対象となり、一定程度を超えた者は単位を得られない。良識をよくわきまえて授業に臨むこと。
予習・復習指導	シラバスや授業内で掲げた参考書やウェブサイト等を適宜参照する。予習はできる限り課題意識をもって取り組むこと。復習に際して疑問が生じた場合は、次回授業などにおいて適宜質問すること。
関連科目	日本美術史、歴史学
課題に対するフィードバックの方法	各回授業の冒頭に前回授業についての簡単なまとめを行うほか、小レポートなどの提出物について後日解題や講評を行い、理解の促進や知識の定着をはかる。

教員の実務経験	博物館学芸員として10年以上勤務してきた経験をもとに、資料保存に関する一般的な知識、およびミュージアム施設における展示と保存の両立における判断のあり方を具体的にフィードバックする
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田 積希	KYOBI 芸術学部

到達目標	博物館における展示の理念や歴史、展示の諸形態、展示方法における基礎的な知識を習得するとともに、実際に展覧会を企画することで、その面白さや意義を実感し、学芸員の仕事を理解する。 この科目は本学のDP0-1、DP0-2に該当する。
授業概要	博物館における展示は、ただ作品を並べるということではない。展覧会は、調査・研究の過程で得られた情報の発信の場であるとともに、作品、企画者である学芸員、観覧者とをつなぐコミュニケーションの場でもある。本講義では、過去から現代へとつづく作品の展示方法や展示室を構成する什器等の特性、展示空間のデザイン、解説のあり方など博物館展示の基礎知識を具体的な事例に基づいて身につける。そのうえで、あるコレクションにもとづく簡単な展覧会企画に取り組み、プレゼンをおこなうことで、テーマの設定や作品研究、展示構成の組み立て方などについて実践的な力を養う。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス—展示とはなにか 第2回 博物館展示の歴史と意義—欧米 第3回 博物館展示の歴史と意義—日本 第4回 展示のデザイン 第5回 展示の補足 第6回 展示の工夫と環境 第7回 展示の仕方 第8回 フィールドワーク 第9回 展覧会の作り方① 企画の流れと展示図面 第10回 展覧会の作り方② 借用と展示作業、図録の作成 第11回 展覧会の企画① 事前準備 第12回 展覧会の企画② 企画 第13回 展示の可能性 第14回 展覧会の企画③ 発表 第15回 総括—展示の評価
成績評価	評価ポイント：毎授業時のコメント（30%）、展覧会企画（40%）、期末レポート（30%）
教科書	指定しない。
参考書 参考資料	今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践3：挑戦する博物館』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 芸術学舎、2018年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	予習：毎回、事前に配信される資料等を参考に、授業に関連するキーワードについて調べておく。 復習：毎回、授業で言及された用語についてまとめ、理解を深める。また、できるだけ博物館に足を運んで、実際に触れ、展示上の優れた点や不都合な点を考察する。 1コマに対し1時間の事前学習及び3時間の復習をすること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問へのフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう。
教員の実務経験	博物館において学芸員として資料の調査や保存・管理の経験をもつ教員が博物館における資料の取り扱い等について講義する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 六車 美保	KYOBI 芸術学部

到達目標	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題などについて理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。
授業概要	博物館においては、資料の調査・研究、展示、教育を含めた様々な情報を取り扱う。博物館学芸員はそれらの情報を管理するとともに、様々なメディアを用いたデジタル技術を活用し、情報発信することが近年盛んになっている。本講義では、博物館と取り巻く環境や学芸員が取り扱う多岐にわたる情報について具体的な事例を紹介しながら、基礎的知識を学ぶ。また、博物館における情報やメディアの特徴を知り、博物館に関連する著作権等の知的財産権にも触れ、情報を適切に管理、発信する方法について理解を深める。 本科目は学部共通DPO-1、DPO-2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 第2回 博物館における情報・メディアとは 第3回 ICT社会と博物館情報1 第4回 ICT社会と博物館情報2 第5回 博物館活動の情報化1 第6回 博物館活動の情報化2 第7回 博物館における情報発信 第8回 デジタルアーカイブについて 第9回 デジタルアーカイブの実例と課題 第10回 博物館と知的財産1 第11回 博物館と知的財産2 第12回 博物館のネットワーク 第13回 プレゼンテーション1 第14回 プレゼンテーション2 第15回 総括
成績評価	授業態度(小テストを含む・20%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(50%)により、総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書 参考資料	①今村信隆編 『博物館の歴史・理論・実践2 博物館を動かす』 京都造形芸術大学 東北芸術工科大学出版局 芸術学舎 2017年 ②『博物館情報学シリーズ』 樹村房
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	1コマに対し、 ・1時間の予習(知らない用語や語句の意味を各自調べておく) ・3時間の復習(配布した資料を元に、新たに学んだ用語や語句を確認し、関連するサイトや参考資料等を読む) をすること ・博物館・美術館などの展覧会に出かけてください(関連して開かれるワークショップや講演会などにも積極的に参加してください)
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメントや質問、小テスト、プレゼンテーションのフィードバックは、次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 奥井 素子	KYOB I 芸術学部

到達目標	博物館の教育活動について、具体例を通して実践的に学ぶことを目的としている。各館の様々な取り組みを理解し、これからの博物館教育についても考えていきたい。 この科目は、DP0-1 DP0-2に該当する。
授業概要	社会教育機関としての博物館の役割と取り組みを知り、博物館における教育のあり方を学び、またその可能性を考える。授業ではまず博物館における教育の意味や意義、学芸員の教育的役割を中心に博物館教育の基礎的理論を解説し、次に博物館教育の具体的事例を紹介し、実践に関する知識を学び、将来博物館の仕事に関わる場合に備え、学芸員に求められる博物館教育の具体像を学ぶ。また、各自体験した学校教育について発表することで、より深く博物館教育について考える機会としたい。その上で、これからどのように社会のニーズに応えることができるかその可能性を考えたい。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館教育の種類と内容 第3回 連続講座、市民講座、講演会、シンポジウム 第4回 図録 第5回 図書室、デジタルアーカイブ 第6回 ギャラリートーク、映像教材 第7回 デジタルコンテンツの活用について 教育の視点から考える 第8回 こども向けワークシート、多言語対応 第9回 学校教育との関わり① 第10回 学校教育との関わり②（発表） 第11回 学校教育との関わり③（発表） 第12回 博学連携事業・地域社会との関わり 第13回 特徴ある館の取り組み 第14回 対話型鑑賞法、ワークショップ 第15回 総括
成績評価	小課題（30%）、提出物等（20%）、学期末レポート（50%）
教科書	使用しない。
参考書 参考資料	倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版（1997）、寺島洋子・大高幸編『博物館教育論』放送大学教育振興会（2012）など。
履修上の注意	各自で博物館・美術館を積極的に訪れ、どのような教育をしているかをみること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、0.5時間の事前学習及び1時間の復習をすること （具体的な内容） 講義で取り扱う内容を自ら主体的に調べ、新しく学んだことについては復習すること。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	①小課題のフィードバックを次回以降の授業内もしくはクラスルームで行う。②発表では、講評・質疑応答等を行う。③その他
教員の実務経験	
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	

シラバス参照

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡 達也	KYOBI 芸術学部
助教	古閑 謙太郎	KYOBI 芸術学部

到達目標	<p>各種の美術工芸品、資料を対象にして、その取り扱いに関する知識や技術を習得することで、博物館資料の展示、保存、活用などの重要性を理解する。</p> <p>この科目は、DPO-1、DPO-2、DPO-3に該当する。</p>
授業概要	<p>博物館では、資料の調査・研究、保存、展覧会の企画・運営、情報発信、教育普及活動など多岐にわたる活動をおこなっている。本授業では、その主要となる博物館資料の取扱い、保存やその活用などに関して、実際に作品等に触れることで博物館の活動に必要な知識と技術を指導する。また、鴨川七条ギャラリーで開催する展覧会を実際に企画する。展覧会を開催するために必要となる作品・資料の調査・研究、展示計画、展示作業を体験し、さらに広報ギャラリートークなど、展覧会の運営に必要な要素を実習をとおして体験することで、学芸員に必要な素養を身につける。</p>
授業計画 授業内容	<p>(2024年度実施内容)</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 見学(京都工芸繊維大学美術工芸資料館) 第3回 梱包実習 第4回 仏像の取り扱い/見学(京都国立博物館) 第5回 表具について/見学 第6回 講義:キュレーションについて 第7回 見学(京都市京セラ美術館) 第8回 展覧会企画① 第9回 展覧会企画② 第10回 展覧会企画③ 第11回 展示計画① 第12回 展示計画② 第13回 展覧会実施(展示作業) 第14回 展覧会実施(展示作業) 第15回 展覧会実施(展示作業)</p>
成績評価	授業態度、各回のレポートと学外実習を含めて総合的に評価する。
参考書 参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」を履修しておくこと。
予習・復習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学外実習を視野に入れて予習復習をすること。 ・博物館資料の取り扱い、保存方法、データ収集の方法などを整理しておくこと。 1コマに対し2時間の事前学習と2時間の復習をすること。
関連科目	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で適宜対応する。
教員の実務経験	岡達也: デザイン制作会社におけるデザイナーとして勤務。博物館におけるデザイン史研究、展覧会企画多数。 京都工芸繊維大学美術工芸資料館の勤務経験(展覧会企画、収蔵資料研究などを担当)を活かし、学芸員に必要な知識等について実習を通して教育する。
教員の実務経験有無	
科目ナンバリング	